

カリフォルニア州法 試験過去問

意志と成功

2002年から2022年まで

https://lawyer.sakura.ne.jp/inhouse/post_lp/calbar

遺言・承継

2001年7月カリフォルニア州司法試験エッセイ問題および選択された回答

本書は、2001年7月のカリフォルニア州司法試験で出題された6つのエッセイ問題と、各問題に対する選択解答2つを収録しています。

答案は、合格した応募者が書いたもので、良い成績を収めました。答案は著者が作成し、読みやすくするためにスペルや句読点を若干修正した以外は、提出されたものをそのまま転記した。ここに掲載するのは、著者の承諾を得たものである。

質問番号

目次

- | | |
|----|----------|
| 1. | 民事訴訟法 |
| 2. | リアルプロパティ |
| 3. | エビデンス |
| 4. | けんぼう |
| 5. | トーツ |
| 6. | 遺言書/信託書 |

QUESTION 6

寡婦であったテッドには、デブという子供がいた。エイブ、ボブ、カールの3人の兄弟がいた。

1998年、エイブは子供のアンに先立たれ、亡くなった。そんなテッドのもとに、かつて交際していた女性から手紙が届いた。その手紙には、1997年に彼女が産んだ子供、サムがテッドの息子であると書かれていた。それまでサムの存在を知らなかったテッドは、1998年、自分がサムの父親かどうか疑わしいと返事を書いた。

1999年、テッドは遺言を実行した。遺言は、下部にある証人の署名を除き、すべてテッドの自筆で、テッドが署名したものであった。遺言は、テッドの財産の半分を10年間トラスティ社に信託し、収入は毎年「兄弟に」支払われ、10年後の元金は「私の子供、デブに」渡されることを定めた。残りの半分の遺産は、そのままデブに渡ることになった。テッドが遺言に署名した1ヵ月後、テッドの2番目の兄ボブが、子供のベスに先立たれて亡くなった。

2000年、テッドは亡くなった。テッドの死後、DNA検査でテッドがサムの父親であることが確認された。

デブ、サム、アン、ベス、カールは、テッドの遺産および/または信託に対して、どのような利害関係を有しているか。議論してください。カリフォルニア州法に従って答えなさい。

ろんりよく

In re: エステート・オブ・テッド (T)

まず、遺言の有効性について述べ、次に、信託を含む遺言の条件について述べます。そして、その条件に従って遺産をどのように分配すべきか、そしてその分配がサムの請求によってどのように変化するかについて説明します。

I. 遺言の有効性

カリフォルニア州の法律では、有効な遺言は、遺言者が署名し、遺言の項目を知っている2人の証人の前で同時に署名または証明し、その後遺言に署名する必要があります。さらに、遺言者は、この文書を自分の遺言とする意思を有していなければなりません。

この遺言はTによって署名されたが、適切な立会いがなされていない。つまり、1人の証人しか署名していないように見えるが、法律では2人の署名が必要である。したがって、この遺言は遺言の形式を遵守していない。

しかし、この遺言はホログラフィック・ウィルとして有効です。ホログラフィック・ウィルはカリフォルニア州で有効です。ホログラフィック・ウィルとは、遺言の重要な条項（遺言の意図、分配される財産、意図する受益者）がすべて遺言者の筆跡で書かれているものです（意図は、市販の遺言フォームとして見つけることもできますが、ここでは該当しません）。次に、ホログラフィック・ウィルには、遺言者の署名が必要です。

ここでは、それらの要件が満たされている。遺言書全体はTが書いたもの（証人の署名の下）なので、重要な部分はTの筆跡（意思表示、財産の処分、受益者の指定）であり、Tは遺言書に署名しています。

II. 遺言の条件

遺産の半分はデブ (D) に行く。残りの半分は、信託に行く。

信託とは、受益者が持つ衡平法上の所有権と受託者が持つ法的所有権を分離した財産の処分のことです。受託者は、受益者の利益のために信託を管理しなければなりません。

A. 信託の有効性

信託が有効であるためには、次のことが必要である。1) 受託者、2) 信託の資金調達、3) 確実な受益者、4) 公序良俗に反しないこと。

ここでは、受託者である株式会社トラスティが指定されています。たとえTrustee, Inc. が実際にはまだ存在していなくても、信託は破綻することはない。信託は受託者がいないからといって破綻することはない、裁判所は受託者を指名するだけです。

次に、信託は受益者を確認できるものである。受託者は、受益者を特定することができなければなりません。

信託の受益者である。ここで、Debは、受益者の氏名が記載されていないため、受益者を把握できないと主張するかもしれない。しかし、ここでは、クラスギフトが存在する。Tは10年間の信託の収益を "彼の兄弟に "と残している。受託者はその兄弟を特定することができる。

Dは、このクラスギフトが「永続性禁止規則」に違反すると主張するかもしれない。この規則では、持分は、執行時の生前21年で、少しでも確定しなければならないとされています。ここで、Dは、Tにはまだ多くの兄弟がいる可能性があるとして主張するでしょう。しかし、Tの死後、便宜上、このクラスは閉鎖されるので、持分は帰属することになる。

次に、信託の原資は、死亡時に遺言から信託に移されることである。これは遺言信託と呼ばれ、有効です。

最後に、この信託には不適切な目的はありません。したがって、この信託は有効である。

III. 流通

ここでは、サムスの請求が却下された場合の分配を説明します。サムスの請求がこの分配に与える影響については、後ほど説明します。

A. 遺言でDebの遺産の1/2

Debがこの持ち分をそのまま取得する。

B. 信託の分配。

上述したように、信託の収益はTの兄弟に10年間分配されます。問題は、このクラス贈与をどの兄弟またはその号が分担するかである。

Tが死んだとき、カールはまだ生きていて、エイブとボブはすでに死んでいた。カールは、このクラスの生存者は自分だけなので、1/2の持分をそのまま取得すると主張するだろう。彼は、エイブとボブの持分は失効しているため、失敗したと主張するだろう。

しかし、カリフォルニア州には失効防止法があります。この法律では、次のような場合
1)死亡した受益者が遺言者と関係があった場合、
2)死亡した受益者に問題があった場合、
3)反対の意図がない場合、死亡した受益者の問題が受益者を代表し、その取り分を取得します。カリフォルニア州では、クラス贈与の場合、そのクラスのメンバーが実行前に死亡し、遺言者がそれを知っていた場合を除き、アンチラプスも適用される。

ここで、BobはTが遺言を執行した1ヶ月後に死亡しているため、法令上、失効防止の適用を受ける資格がある。また、Bobは、T（兄）と血縁関係にあり、issue（Beth）が生

存しており、遺言に遺族条項のような反対の意図がないことから、法令を満たしている。従って、BethはCarlと一緒にクラスに加わる。

しかし、阿部は遺言の執行前に死亡しており、Tがこのことを知っていれば（通常、人は兄弟がいつ死亡するかを知っているので、おそらく知っていた）、阿部は類型贈与の要件を満たさないため、法令による保護を受けることはできません。したがって、たとえ阿部

は、法令を充足しているため、Annは法令を援用できず、クラスには参加しない。

したがって、カールとベスは10年間、信託からの収入を得る権利があります。10年が過ぎると、デブが元本を取得し、したがって遺産全体を取得する。

IV. サムの主張

サムは、自分がTの息子であることを証明できれば、いくつかの主張をすることができる。

まず、サムは自分がTの息子であることを証明しなければならない。生前、サムはTを認めるか、Tを父親とする出生証明書に記載されるか、母親とTの結婚によって生まれることで父性を証明できたが、ここではTの生前、父性は確立されていなかった。Tはサムの母親に「自分がサムの父親かどうか疑わしい」と返事を出し、Tはサムの存在を知らなかったため、二人の関係は保たれなかった。

死後、父子関係を証明することは可能ですが、それは明確で説得力のある存在によるものでなければなりません。ここでは、DNAによりTがSの父親であることが確認されており、これは説得力のある明確な証拠であるため、サムは以下の主張を行うことができます。

1. 早産児

法令上、遺言執行後に生まれた子供でも、遺言で世話にならなかった場合、遺言外で、反対利益がなく、親が遺産のほとんどを遺族に残していない場合は、遺留分をとることができます。

ここで、Sは1997年に生まれました。Tは1998年にそのことを知った。Tが遺言を実行したのは1999年である。したがって、Tが遺言を執行したのはSが生まれた後であるから、Sはこの法令を援用することはできない。

2. 未知の子供

法令により、遺言執行前に生まれた子供で、遺言や遺言外の他の文書で規定されていない場合、遺言者が子供の存在を知らず、そのために子供が死んでいるか生まれていないと誤解して規定しなかった場合は、遺留分を得ることができる。

デボは、Tが遺言を実行したときにサムの存在を知っていたと主張する。Tは1998年に自分がサムの父親であることを伝える手紙を受け取っている。したがって、サムは法令に基づく資格を得ることはできない。

サムは、Tはサムの存在は知っていたが、サムが自分の子供であることは知らなかったと主張するだろう。この証拠は、Tが死んだ後、DNA検査で初めて明らかになった。サムは、TがSが自分の子供だと知っていれば、TはSを省くことはなかったと主張するで

しょう。

しかし、その信念は不作為の原因でなければならない。ここでは、Tはサムに興味がなかったようで、父子関係を確定することも、サムとの関係を確立することも試みなかったため、サムはこの法律の下で資格を得ることはできない。

そうすれば、全財産を配分してもらえることになる。

ロジック

遺言の有効性カリフォルニア州は、カリフォルニア州法または遺言が執行された他州の法律に基づいて有効な遺言の有効性を認めます。ここでは、テッドが死亡し、カリフォルニア州で遺言を実行したと仮定する。

CA州では、認証された遺言、法定遺言、ホログラフィック遺言を認めています。ホログラフィック遺言は、遺言者が署名し、重要な条項が遺言者の筆跡であることが必要である。ここでは、テッドが遺言書に署名し、重要な条項を含むであろう遺言書全体が彼の筆跡であった。したがって、この遺言は有効である。

信託の有効性遺言は信託を作成することができる。テッドの遺言は信託を作成した。信託は以下の条件を備えていなければならない。(1) 能力のある設定者。テッドは設定者であり、能力を有している。(2) 設定する現在の意思。テッドは、自分の遺言で信託を設定することを意図していた。(3) 信託財産が存在し、確認されていること。テッドの財産はこの要件を満たしている。(4) 永続性のルール¹の範囲内で存在する受益者。テッドのすべての規定は、受益者が10年以内²に取ることを要求している。したがって、すべての受益者が永続性の規則の範囲内で存在することになる。(5) 有効な目的：親族のための信託は、有効な目的である。さらに、Tedにはすでに受託者がいる。信託は有効である。

アン、ベス、カール

カール：カールは、指名されたクラス³の生き残りメンバーなので、間違いなく信託収入の分け前を取ります。「テッドの兄弟」である。しかし、彼の取り分は、他の皆の主張次第である。

ベス：ベスが持つあらゆる権利は、彼女の父、ボブに由来するものです。ボブはテッドに先立たれた。従って、Bobとその子供は、この証書では権利を得られない。しかし、ベスはCAアンチラプスに従うことができる。アンチラプスは、受益者が遺言者に先立たれた場合（注：アンチラプスは信託を含む全ての遺言書に適用される）、反対の意図がない限りその人の子が自分の取り分を取るというものである。クラスギフトはAnti-lapseに含まれます。従って、Bethは父Bobの持ち分を取得することになります。(Anti-lapseについてはAnnを参照)

Ann：Abeの娘をBethとする以外は、Anti-lapseまで同じ分析。クラスギフトが行われ、その際にクラスメンバーの一人が死亡していた場合、遺言者がその人が死亡していることを知っていたら、その人には消滅防止が適用されないという例外もある。

ここで、テッドは1999年に遺言を作成する際、弟のエイブが死んでいること（エイブは1998年に死亡）を知っていた可能性が高い。さらに、エイブはクラスギフトのメンバー

である。したがって、テッドがエイブの死を知らなかった場合を除き、アンは取得せず、アンチラプスの取り分を取得する。

デブ：信託と遺言が有効であるため、デブは証書に記載された株式を取得する。しかし、サムスの請求により、彼女の取り分が変更される可能性がある。

Sam：Samは楽器で取ることはない。SamはCAのOmitted Childの下に引き取ることができる。

規定があります。テッドは2000年に死亡したため、省略された子供の規定はすべての遺言文書に適用されます。

省略された子とは、文書の執行後に生まれた子、死んだと思われる子、または遺言者が生まれたことを知らない子をいいます。

ここで、テッドはサムのことには知っていたが、サムが自分の子供であることは知らなかった。しかし、証書執行後、実際にはテッドの死後、DNAによりサムがテッドの子供であることが証明された。したがって、サムは、執行後に生まれたと仮定して、あるいは生まれたことを知らなかったと仮定して、その資格を得ることができる。テッドにとってサムは生まれたことを知らなかったのだから、これらの議論のいずれかが成立するはずである。

従って、TedがSamを証書外で規定し、除外することを意図し、またはほとんどの財産を生存している親に与えた場合を除き、Omitted Childの規定が適用されるべきです。

デボは、テッドがサムのことを知っていて、サムが父親であることを疑っていたから、テッドはサムを除外するつもりだったのだと主張するだろう。テッドはサムが自分の子供であることを知らなかったし、他の例外も該当しないので、デボの主張はおそらく失敗するだろう。

したがって、サムは、遺留分である省略された子供の取り分を取る可能性が非常に高いです。

サムの遺留分。テッドには生存配偶者がいなかったため、テッドの扶養家族が彼の遺留分継承者となる。テッドにはデブとサムの2人の嗣子がいた。遺留分はそれぞれテッドの財産の1/2である。ただし、デブは遺言により相続するため、遺留分にはならない。

サムの取り分。信託に入る前の遺産の1/2、または、彼が省略された子供である場合はDebに。そうでない場合、彼は何も得られない。

概要

1. ベスとカールは、テッドがエイブの死を知らなかった場合を除き、10年間の信託収入を分割する可能性が高い。その場合、アン、ベス、カールが収入を分け合うことになります。
2. Debは10年後に信託の元本を取得し、Samの利益を条件として遺産の1/2をそのまま取得する。

3. サムは、他の処分が行われる前に、遺産の $1/2$ を取得する可能性が高い。あるいは、何も取らない。

2002年7月カリフォルニア州司法試験エッセイ問題

と選択解答

本書は、2002年7月のカリフォルニア州司法試験で出題された6つのエッセイ問題と、各問題に対する選択解答2つを収録しています。

答えは、合格した応募者が書いたもので、良い成績を収めました。解答は著者が作成し、読みやすくするためにスペルや句読点を若干修正した以外は、提出されたものをそのまま転記した。解答は著者の同意を得てここに転載するものであり、転載を禁ずる。

<u>質問番号</u>	<u>目次</u>	<u>ページ</u>
1.	ウィルズ	1
2.	リアルプロパティ	10
3.	プロフェッショナルの責任	20
4.	契約書	32
5.	トーツ	41
6.	コミュニティ・プロパティ	53

QUESTION 1

テレサとヘンリーは結婚し、クレイグという1人の子供をもうけた。1990年、テレサは、お気に入りの絵を除くすべての財産をヘンリーに残し、妹のシスに託すという有効な遺言を実行した。テレサは、その絵の価値は、妹のシスに譲るよりも低いと考えていた。
\$500.

1992年2月14日、テレサは、姉の代わりにヘンリーが絵をもらうという内容のメモをタイプし、日付を入れ、署名した。テレサはそのメモを誰にも見せなかった。

1994年、テレサは遺言書に手書きで次のような共証文を書きました。この遺言は、適切に署名され、証人となっています。

1995年、テレサとヘンリーの間には第2子モリーが誕生した。その後、ヘンリーは父親としての自覚が持てなくなり、家を出て近くのコミュニティに参加した。ヘンリーとテレサは離婚していない。

1999年、テレサはラリーと恋に落ち、別財産で自分の生命に20万ドルの定期生命保険を購入し、ラリーを唯一の受取人に指定した。

2000年、テレサが亡くなりました。ヘンリー、クレイグ、モリー、シス、ラリーが遺された。

テレサが亡くなった時、共同財産の半分の価値は5万ドルで、絵画は彼女の個別財産だった。鑑定したところ、その絵は100万ドルの価値があることが判明した。

ヘンリー、クレイグ、モリー、シス、ラリーに権利があるとすれば、どのような権利なのか。

1. 共同財産のうちテレサの半分を？議論してください。
2. 生命保険金ですか？議論してください。

3. 絵は？議論してください。

カリフォルニア州法に則って回答する。

だいいちのえき

共同財産のうちテレサの半額

テレサ (T) の2分の1の共有財産 (CP) に対する当事者の権利は、テレサの遺言の有効性とCPの法理に依存する。

カリフォルニア州はCP州です。婚姻中に取得した財産は全てCPと推定されます。結婚前に取得した全ての財産は、分離財産 (SP) と推定されます。また、永久的な物理的分離の後に取得した財産はSPと推定される。さらに、贈与、devise、またはdescentによっていつでも取得された財産は、SPと推定される。

資産を特徴づけるために、裁判所は、資産を取得するために使用された資金のソースにトレースすることを許可しています。一般的に、単に形を変えただけでは、資産の特徴を変えることはできません。

遺言者は死亡時に、自分のCPの2分の1およびSPのすべてを処分する遺言権を持つ。

ここでは、TはCPの1/2を処分する権限を有していた。Tの

1990年遺言の有効性

1990年、Tは有効な遺言を執行した。したがって、この遺言は、適切に署名され、2人の証人によって証明されたものと推定される。

Tは絵画を除く「全財産」をハリー (H) に遺した。したがって、HはTのCPの1/2の受益者である。

遺言は、副次的な明示の書面遺言や矛盾によって撤回されることがある。ここで、Tは1992年にメモを書き、1994年に手書きのコーディシルを書いている。これらの文書はいずれも絵画に関するものであり、TのCPに関するものではない。

いずれの文書も、1990年の遺言を明示的に取り消したとは思われない。また、1990年の遺言が物理的な行為によって撤回されたことを示す事実もない。

その結果、Hは1990年の遺言を検認に付し、50,000ドルと評価されるTのCPの1/2のすべてを取得する権利があると主張することになる。

早世した相続人としてのモリーの権利

モリーは、自分がまだ生まれていないため、Tの遺言から省かれたと主張することができる。したがって、モリーはTのCPの分配を受ける権利があると主張することができる。

遺留分とは、遺言が執行された後に生まれたり、養子となったりした子のことです。遺棄された子供は、遺棄が故意であった場合、子供が遺言の外で養育されていた場合、または遺言執行時に他の子供が生きていたのに財産が親に残された場合を除き、遺留分を得る権利があります。

ここで、モリーは1995年に生まれており、1990年の遺言が執行された後である。さらに、もう一人の子供であるCraigは、1990年の遺言が執行されたときに生きていた。そのため、Mollyはこの例外により回復することができない。

また、モリーには州内シェアしか権利がありません。カリフォルニア州法では、人が遺言なしに死亡した場合、そのCPは生存している配偶者に行くことができます。この場合、Tが有効な遺言なしに死亡しても、遺留分法によりHがすべての財産を取得することになります。モリーはTのSPの一部しか受け取る権利がない。

したがって、モリーにはTのCPに

対する権利がない。TのCPに対す

るCraigの権利

クレイグは1990年の遺言が執行された時点で生存していたため、早産児ではない。また、モリー同様、クレイグは遺留分法上、TのCPに対する権利を有しないことになる。

姉とラリーの権利からTのCPへ

姉はTの妹である。遺留分法は、遺言者のCPの権利を持つ遺族が生きている場合、兄弟がそのCPを取得することを認めない。Tは、姉にCPを一切贈与していない。従って、姉はTのCPに対して何の権利も持たない。

ラリーは、Hが去った後、Tが恋した相手だったようです。Tは自分のCPをLarryに譲渡したことはない。LarryはTのCPに対して何の権利も持っていない。

Hは50,000ドル相当のTのCPを取得

する。Tの生命保険金

通常CPの原則では、終身保険の収入は婚姻中に取得した範囲内でCPとなる。CPの持分を決定するために時間ルールが適用されます。定期保険からの収入は、一般に、最後に支払った保険料の種類となる。

Hは、Tが生命保険に加入した1999年当時はまだ結婚していたので、\$200,000はCPであると主張するかもしれない。もしそうなら、Tは自分の1/2持分を処分する権限を持っているので、受取人であるLarryは\$100,000を受け取る権利しかないだろう。

LarryはTとHの婚姻は終了したと主張する。共同体は、再開しない意思を持った物理的な別離で終了する。ラリーは、Hが家を出てコミュニンに参加したと主張するでしょう。ラリーは、これがHの婚姻を終了させる意思を示すと主張するだろう。

Larryも主張し、生命保険金の出所をたどることでCPの推定が反故にされる。Tは自分のSPで生命保険に加入した。したがって、ラリーは、Tがまだ結婚しておらず、経済的な共同生活が終わっていなかったとしても、Tは自分のSPを使って保険を取得したと主張することに成功する。

TはSPを使って保険を購入したので、20万円の保険金もSPとなる。形が変わっただけで、財産の性格が変わるわけではありません。したがって、ラリーは、Tが自分のSPをすべて処分する権限を持っている以上、唯一の受取人として、すべての収益を受け取るべきだと主張するだろう。

生命保険金に対するCraigとMollyの権利

子供たちは、20万ドルの一部を受け取る権利があると主張することができる。Tがこの「遺言」を作成したとき、二人は生きていたのですから。

代用品」であり、Tは、収益をすべてラリーに与え、自分たちには一切与えないという権限を有していた。

お姉ちゃんも売上金には何の請求権もない。

したがって、ラリーは200,000ドルと評価される生命保険金の全額を受け取る権利があります。絵画の件

T's1990ウィル

Tは、1990年の遺言で、5万円の価値があると思われる絵画を姉に遺贈した。したがって、1990年の遺言により、姉はその絵画を受け取る権利がある。

1992年版ノートの効果

遺言執行後に作成される、財産を処分するための証書がコーディシルです。遺言書と同じように、遺言書を作成する必要があります。

正式な認証付き遺言書

タイプライターのコーディシルが効力を発揮するためには、遺言者の署名が必要です。また、遺言者は、2人の証人の前で、署名または遺言の内容を確認する必要があります。この2人の証人は、それが遺言書であることを理解した上で署名しなければなりません。

ここで、Tは1992年にメモを打ち、日付とサインをした。このメモは、1990年の遺言を変更し、姉ではなくHが絵画を取得するようにすることを意図している。

しかし、Tはそのメモを誰にも見せていない。ということは、彼女は2人の証人にサインをさせたことがないことになる。また、彼女は2人の証人に自分の署名や意志を認めたこともない。したがって、正しく認証されていないこととなります。その結果、この遺言書は効力を持ちません。

ホログラフィック・コーディル

ホログラフィックコーディシルは、すべての重要な条項が遺言者の自筆であり

、遺言者が署名した場合に有効である。

ここでは、メモはタイプされたものなので、手書きではありません。よって、効力を持たせない。

エクスプレス・サブsequent Codicilによる取り消し

遺言は、遺言公正証書によって取り消すことができます。ただし、遺言の撤回として効力を発揮するためには、その遺言書が有効であり、遺言の形式を満たしている必要があります。

ここで、上記のように、このコーディシルは適切な手続きによって実行されたものではありません。したがって、1990年の遺言を取り消すものではありません。

それ自体では、1992年のメモは1990年の遺言に何の影響も及ぼさない。したがって、Sisは依然として受益者である。

1994年版コーディルの効果

1994年に書かれたコディシルは、手書きでした。また、きちんと署名と立会いがなされていた。Tは、"92年2月14日にタイプしたメモを、私の遺言の一部とする"と記載することで、1992年ではないことを証明しようとしていたようです。

参照による組み込み

文書は参照により組み込むことができます。それは、遺言執行時に存在し、遺言に十分に記載され、遺言が参照した文書であることが合理的であることが必要です。

ここで、メモが存在したのは、コーディシルが書かれた時点である。1992年のメモを取り込もうとして1994年に書かれたのが、この遺言書である。この遺言書には、"The note I typed, dated and signed on 2/14/92" と記載され、メモを十分に説明しています。この記述は、メモが作成された日付を正確に示しています。

Hはノートを提示し、それが十分に説明されていると主張するだろう。また、Hは、その手形が、遺言書が言及していた文書であることを主張するでしょう。

このように、裁判所は、以前の欠陥のあるメモが、手書きで署名されたこの

1994年のコーディキルによって、再出版され、再執行されたと認めることができるのです。ホログラフィックコーディシルには証人が必要ないとはいえ、それが適切に目撃されたという事実は、裁判所がそれを有効なホログラフィックコーディシルと認めることを妨げるものではありません。

したがって、Hが勝り、Sisよりも絵画を手にする可能性が非常に高い。クレ

イグとモリーの絵画に対する権利について

子供たちは、Tが絵画の価値を著しく誤解していたのだから、姉とHのどちらかへの贈与は無効だと主張するかもしれない。

子供たちは、もしTがこのペンキが100万ドルの価値があると知っていたなら、姉に渡さなかつたらろうと主張するでしょう。そうではなく、二人に託したはずだ。

裁判所は、この議論に同意しない可能性が高いです。現存する錯誤の証拠は、遺言と合理的な影響を受けやすいものであれば、一般的に認められます。

ここで、TがCraigとMollyに渡したと考えるのは妥当ではない。成年後見制度がないように、Hに残したかもしれない。

従って、子供たちには絵画に対する権利がない可能性が高い

です。彼らは、Hの権利が法律の運用によって取り消された

ことを主張するかもしれません。配偶者への贈与は、離婚に

よって取り消される。

ここで、TとHは離婚していない。そのため、法律上の別居だけではレボカシオンが発動しない可能性があるため、Hが絵を描くことになったようです。

B 解答

1. テレサ (T's) の共有財産の半額

カリフォルニア州は共有財産の州である。カリフォルニア州の法律では、配偶者は遺言によって共有財産の2分の1を処分することができます。Tの遺言の規定は、法的推定によって遺言の適用が妨げられたり変更されたりしない限り、\$50,000 (共有財産の半分) を管理することになる。

1990年 ウィル

1990年の遺言は「有効に執行された」(遺言は、その文書が遺言であることを知っている2人の証人の前で、遺言者が遺言の意図をもって署名した場合に有効に執行される)。したがって、ヘンリー (H) への5万ドルの贈与とシス (S) への絵画の贈与は、後の遺言や法的推定によって修正されない限り、有効である。

1992 Noteは単独では無効だが、1995年のCodicilの後では有効である。

1992年のノートは、書かれた時点で有効な修正ではありませんでした。メモはタイプされたもので、目撃されていない(誰にも見せたことがない)。遺言書の共変は、元の遺言書と同じ執行の形式を満たす必要があります。遺言書が遺言であることを知る2人の証人の前で遺言の意思をもって作成された場合、その遺言書は有効である。ここでは、Tはメモを誰にも見せていないので、証人がいないことになる。

ホログラフィック・ウィル(遺言者が作成した無証言の遺言)は、署名があり、重要な条項が遺言者の筆跡で書かれている場合のみ有効である。ここでは、コーディシルはタイプされたものであるため、重要な条項は手書きではなく、有効なホログラフィック・コーディシルとは言えません。

1994年修正条項が1992年ノートを有効に取り込む 参考までに

1994年のCodicilは、手書きで署名され、適切に目撃され、1992年のノートの処分に肯定的であった。参照による取り込みの原則に基づき、有効な遺言は、他の文書が(1)文書の文言から明確に特定でき、(2)参照する文書の作

成時に存在している限り、他の文書の処分を取り込むことができる。ここで、**1992**年のメモは、日付と文字（タイプされたもの、署名されたもの）によって明確に識別され、**1994**年のコーディシルが実行されたときに存在していたものである。

事実関係を見ると、1994年のメモにはきちんと立会いがあり、形式的に証明された遺言の要件を満たしていることがわかります。仮にそうでなかったとしても、手書きで署名されているので、有効なホログラフィック・ウィルであると言えるでしょう。タイプされた文書は、参照によりホログラフィック・ウィルに組み込むことができる。

遺言では、Tの共有財産である\$50,000の取り分をHに残すことは明らかであり、Hは何らかの法的推定によってそれができない場合を除き、これを取得することになる。

別居はHの奪取の妨げにならない

モリーが最後の遺言書を作成した後、Hはモリーのもとを去り、コミュニケーションに参加した。カリフォルニア州法では、遺言執行後に夫婦が離婚した場合、遺言が再公表されるか、行為によって贈与が再確認されない限り、どちらも離婚前に執行された相手の遺言に基づく（それぞれの配偶者の遺言は、他方が死亡したものとして読まれる）。

しかし、ここでは、TとHは離婚しておらず、別居しているに過ぎない。TとHが法的拘束力のある財産分与に合意しない限り、離婚推定は適用されない。もしそうであれば、遺言によりHは相続せず、共同財産は遺留分法によって相続人に渡されます。彼女の子供であるモリー（M）とクレイグ（C）はそれぞれ25,000ドルを取得します。和解が成立しなかった場合、Hは50,000ドルすべてを取得することになります。

早産児

Mは、Tがすべての遺言を執行した後に生まれた。カリフォルニア州の法律では、早産児（すべての遺言の執行後に生まれ、クラスギフトによって遺言に規定されていない者）は、両親の財産の遺留分を取ることができる。

この場合、Tの遺族が1人、遺児が2人なので、Mollyの遺留分は遺産（絵画を含む）のaとなる。クレイグは、遺言執行前に生まれたので、遺留分はない。遺留分は意図的なものと推定される。

遺言者が、生前贈与など別の方法で子供のために資金を配分した証拠がある場合、または、年長の非先天性子供がいて、その子供の親に資金の大部分を

残して省略された場合、先天性子供の推定は適用されない。今回のケースは後者で、クレイグを遺言から外し、財産の大半をHに残すことで、TはHが子供たちを養うことを意図していることがわかる。二人の別居

は、この推定に影響しません。早産児ルールは適用されず、Hは\$50,000全額を取得することになります。

2. Hは、1994年のコディシルに基づくペインティングを行う。

上述したように、1994年のコディシルは有効であり、1992年のノートを参照により有効に組み込んでいる。遺言の成式は、可能な限り遺言と整合するように読まれる。矛盾している場合は、後の文書が支配する。

ここで、1994年の遺言書では、絵画をSではなくHに贈るというメモが組み込まれており、Sへの先行贈与と矛盾しているため、Hへの先行贈与が支配的であることがわかります。この場合も（上記参照）、HとTが有効な財産分与契約を結ばない限り、夫婦の別居にもかかわらずHが絵画を取得することになり、その場合は離婚（上記参照）の推定が適用され、Hは遺言により何も取得せず、絵画はMとCに遺留分として渡されます。

3. 生命保険

生命保険は、指定された受取人がいる場合、遺言書とともに検認を通過することはありません。保険証券が完全に別個の財産である限り、指定された受取人は受け取ることができます。

カリフォルニアは共同財産制の州です。婚姻中の収入は共同財産（CP）と推定され、婚姻外の収入、贈与、装置、相続は分離財産（SP）と推定される。あらゆる資産の性格は、法的な推定や行為によって性格が変更されない限り、それを購入するために使用された資金を追跡することによって決定することができます。

婚姻共同体は、永続的な意思（再会しない意思）をもって別居した時点で終了する。TとHは1995年に別居し、Hはコミュニオンに住むようになった。裁判所は、これを婚姻共同体を解消する永久的な別居の意思と見なすだろう。

定期保険は、1年間という期間、指定された保障を購入するものです。したがって、定期保険は、直近の支払いまでたどって、CPまたはSPと指定される。Tは共同体が解散した後の1999年に保険に加入している。共同体解散後の収入や他のSPを保険料に充てたと仮定すると、SPとなり、ラリーに完全に渡ることになる。

2003年2月カリフォルニア州司法試験エッセイ問題と選

択された答え

本書は、2003年2月のカリフォルニア州司法試験で出題された6つのエッセイ問題と、各問題に対する選択解答2つを収録しています。

答えは、合格した応募者が書いたもので、良い成績を収めました。解答は著者が作成し、読みやすくするためにスペルや句読点を若干修正した以外は、提出されたものをそのまま転記したものです。解答は著者の承諾を得てここに掲載し、転載することを禁じます。

<u>質問番号</u>	<u>目次</u>	<u>ペー ジ</u>
1.	民事訴訟法	
2.	遺言・不動産	
3.	刑事法・訴訟法／エビデンス	
4.	プロフェッショナルの責任	
5.	けんぼう	
6.	コミュニティ・プロパティ	

クエスチョン2

未亡人のオルガは、湖畔の土地とコテージ「ブラックエーカー」を所有していた。70歳の誕生日、彼女は姪のナンと楽しい再会を果たし、ブラックエーカーをナンに譲ることを決意した。オルガは、「私の死後、私が所有するすべての財産を3人の子供たちに等しく分け与える」という有効な遺言書を残していた。彼女は、自分が生きている間にナンへの贈与を子供たちに知られたくなかったし、自分の意志を変えたくもなかった。オルガは、友人のブルースに助けを求めた。

ブルースはオルガに、その条項により現物譲渡を実現する証書の書式を提供した。オルガは、自分を付与者、ナンを被付与者とし、譲渡物件としてブラックエーカーを指定し、ブラックエーカーの正確な説明を含む書式に記入した。オルガは証書に署名し、公証人であるブルースは彼女の署名を認めた。オルガは証書をブルースに渡し、「ナンが私を生かすなら、この証書を保管し、記録しておいて」と告げた。ナンはこの取引について何も知らなかった。

時が経つにつれ、オルガはナンの姿をほとんど見なくなり、彼女への関心も薄れていった。ある日、彼女はブルースを電話で呼び、証書を破棄するように言った。しかし、ブルースは証書を破棄しなかった。1週間後、オルガは亡くなった。

ナンは、ブルースが記録した証書を送ってきたときに、この取引を知った。ナンはこの贈り物に喜び、ブラックエーカーへの移住を計画している。

オルガは遺言を変更することなく、死の当日も効力を発揮していた。

Blackacreは誰のものですか？議論してください。

質問2に対する回答A

OlgaはBlackacreを所有しており、3人の子供たちに "死亡時に私が所有するすべての財産を均等に分配する "という有効な遺言があった。OlgaがBlackacreを所有している間に遺言の内容が効力を発揮すれば、彼女の3人の子供たちはBlackacreを等しく共有することになる。しかし、彼女は姪のナンと再会し、ブラックエーカーの現物譲渡を行うことを決意していた。彼女は友人のブルースの助けを借りて証書を作成し、ブルースに渡し、ナンの知らないところで、ブルースに "ナンが私を生かすなら記録する "と指示した。その後、オルガは証書を破棄してナンへの贈与を取り消そうとしたが、ブルースは証書を破棄しなかった。オルガが亡くなると、ブルースは証書をナンに譲渡した。ブラックエーカーの所有者を決定するためには、オルガがナンに対して有効な譲渡を行ったかどうか、答えの中心となる問題である。第二の問題は、オルガがナンへの譲渡を適切に取り消したかどうかである。OlgaがBlackacreをNanに適切に譲渡したと判断された場合、3人の子供たちは遺言の条項に基づいてBlackacreのいかなる共有も得られないこととなります。一方、OlgaがBlackacreをNanに適切に譲渡しなかった場合、3人の子供たちはBlackacreを等分を取得し、Nanは何も得られないこととなります。最後に、NanがBlackacreを取得できるようなNanの側の信頼があったかどうかを検討する。

オルガはナンに対してブラックエーカーの有効な譲渡を行ったか？

OlgaがBlackacreをNanに証書で有効に譲渡したと認定するためには、3つの要素が必要である。第1に、付与者であるOlgaがBlackacreを付与者であるNanに譲渡するという意図がなければならない。第2に、Nanへの証書の有効な交付がなければならない。そして第三に、Nanが証書とOlgaの譲渡を有効に受け入れなければならない。

オルガはブラックエースをナンに譲渡する意図があったのか？

有効な意思を有するためには、Olga が引渡しを行った時点で、Blackacre を Nan に譲渡する意思があったことが必要である。引き渡しが行われる何年も前に、OlgaがBlackacreをNanに伝えるという必要な意思を有しているだけでは不十分である。その意思は、引渡しの瞬間に一致しなければならない。

ここで、事実は、Olgaが「現在の譲渡を実現する」ことを意図していたことを示している。この文言は、彼女の意図が、その瞬間にブラックエーカーを譲渡することであったことを意味する。そこで、オルガはブルースに、不動産の説明、関係者の名前、オルガが署名するという証書の形式を遵守した証書を作成させた。そして、

オルガはその証書をブルースに手渡し、"ナンが私より先に生きていたら、この証書を持って記録しておいてね"と述べた。オルガがブルースに証書を手渡したとき、彼女はその瞬間にブラックエーカーをナンに譲渡するつもりだったというのが事実である。しかし、彼女の行為は、「現在」の文言と一致しない。

"譲渡"である。その代わりに、オルガはブルースに "この証書を保管し、ナンが私を生き延びたら記録してほしい"と頼んだ。この言葉は、オルガがブラックエーカーを正確に現在に伝えることを望んでいなかったことを示している。その代わりに、オルガは、ナンがオルガから生き延びるという条件が発生したときに、ナンに **Blackacre**を受け取ってもらいたかったのである。オルガは、ナンがオルガから生き延びられない場合には、ナンはブラックエーカーを受け取れないという意思表示をしたのである。**Olga**は、その時点で**Nan**が**Blackacre**の偶発的遺留分を受け取ることを意図しており、現在の譲渡を意図したものではありませんでした。その代わりに、**Olga**は**Blackacre**の証書の所有者であり続け、自分の子供たちが自分の意志で取得するかどうかは未決定にしておくつもりだった。

この偶発的遺留分は、フィー・シンプル・デターミネーションと区別する必要がある。**fee-simple**の**determinable**は、土地の権利を譲渡するものであるが、ある条件が発生した場合、土地は返還の可能性により付与者に戻ることになる。この場合、裁判所は、**Olga**が**defeasible fee**のようなものを伝えるつもりはなく、代わりに偶発的遺留分を伝えようとしたのだと判断する可能性が高い。

ナンは、オルガが偶発的遺留分の譲渡を意図していたという特徴に反対するだろう。その代わりに、ナンは、オルガがブルースに証書を手渡したとき、ブラックエーカーの現在の所有権をナンに譲渡するつもりだったと主張するだろう。しかし、証書が記録される前に条件があることを示すオルガが使った言葉は、証書がナンの所有権になる前にも条件があったことを示すものである。この点については、後述するように、ブルースがナンの代理人であるか、オルガの代理人であるかによっても変わってくる。

オルガの子供たちは、意図が引き渡しと全く一致しない、オルガの意図はブラックエーカーの現在の所有権移転であり、彼女の行動は一致しない、したがって取引全体が無効であるべきだと代替案を主張するだろう。しかし、裁判所は、単に技術的な問題で取引が無効とすることには消極的である。その代わりに、裁判所は、取引を有効にする際の譲渡人の意図を見ようとし、それを参考にしながらも、法的原則、正義、公平性に依拠して判断を下そうとします。したがって、ほとんどの場合、裁判所は、**Olga**が**Blackacre**を**Nan**に譲渡しようとした際に、彼女の言葉と行動が一致していないという理由だけで無効とすることはないでしょう。その代わりに、裁判所は彼女の意図を合理的に解釈することになるでしょう。

オルガはナンに対して有効な証書の交付を行ったか？

証書の譲渡には、付与者から譲受人への証書の有効な引渡しが必要である。このような譲渡は、付与者から譲受人への証書の正確な手渡しである必要はない。その代わりに、建設的な伝達も可能である。付与者が証書を第三者に渡し、その第三者が付与者のために証書を保管することも可能である。このような状況で有効な引渡しがあったかどうかの判断は、どの当事者によって行われたかによって決まります。

第三者が代理人となる

今回のケースでは、OlgaはBruceに証書を手渡し、NanがOlgaから生き延びた場合に証書を記録するようにという正確な指示を出している。OlgaからBruceへの有効な引渡しがあったことは明らかである。しかし、問題は、ブルースがナンの代理人なのか、オルガの代理人なのか、ということである。

事実は、ブルースがオルガの代理人であるという結論を支持するものである。事実は、ブルースがオルガの「友人」であり、オルガが証書の起草に助けを求めることができる人物であると記述しています。さらに、ブルースはオルガが書式のある証書を作成するのを手伝っており、どう考えてもオルガ側の人間であるように思える。また、事実は、ブルースがオルガに代わって行動することを示すものである。ブルースは、NanがOlgaから生き延びた場合、その証書をNanに伝え、証書を記録することになっていた。オルガに代わっての行動やオルガへのその他の援助は、代理店関係を示している。裁判所は、ブルースがオルガの代理人であると判断する可能性が高い。

事実は、ブルースがナンの代理人であることを認める根拠にはならない。事実は、Nanがブルースを知っていたことを示すものではなく、どう考えても、ブルースが証書を送ってきたときに初めてブルースから連絡を受けたと思われる。ブルースはナンの代理人ではなく、オルガの代理人として行動しているため、裁判所はブルースがナンの代理人ではなく、オルガの代理人であると判断する可能性が高いと思われる。

この種の認定は重要である。ブルースがオルガの代理人であるならば、オルガがブルースに証書を渡した時点では、まだ引渡しは行われていない。引渡しは、指定された条件が発生した時点で行われ、ブルースは、オルガがブルースに付与したオルガに代わって行動する権限を用いて、証書をNanに譲渡することになる。一方、ブルースがナンの代理人である場合、オルガがブルースに引き渡した時点で引渡しは完了する。あとは証書が受理されるだけである。

裁判所は、ブルースがオルガの代理人であると判断する可能性が高いため、オルガがブルースに証書を渡した瞬間にNanへの有効な引渡しが行われたとは判断しない可能性が高いと思われます。その代わりに、裁判所は、オルガがブルースに自分の利益のために行動する権限を与えたため、ブルースがオルガの代理人として行為し、証書をNanに譲渡したときに、有効な引渡しが行われたと判断する可能性があります。

ナンによる有効な承諾があったのでしょうか？

有効な証書の伝達が行われるためには、付与者による伝達の意図、付与者による被付与者への有効な伝達に加えて、被付与者による有効な受諾が必要である。上記のように、ブルースはオルガの代理人であると判断される可能性が高いです。したがって、ブルースはナンの代理人として承諾することはできない。もしブルースがナンの代理人であったなら、ブルースはナンに代わって証書を受領することができます。しかし、この事実は、ナンがこの取引について何も知らなかったことを示している。BruceがNanに手紙を送るまで、Nanは受け入れることができなかった。

ブルースがナンに手紙を送ったとき、ナンは転居を受け入れた。これは、ナンが「喜んで」ブラックエーカーに引っ越すつもりであったことを示すものである。したがって、ブルースがナンへ権利書を譲渡する権限を取り消す効果がなかったのであれば、権利書はナンに有利に働くはずである。

オリガの失効の意義

これらの発見は、**Olga**が行った取消しのために重要である。取消は、受諾の瞬間までいつでも有効である。今回のケースでは、**Olga**が**Bruce**に証書を渡した時点では、有効な引渡しはおろか、有効な受理すらなかった。裁判所は、ブルースが証書をナンに譲渡した時点で有効な引渡しと承諾があったと判断してもよいが、それはブルースが証書をナンに譲渡する権限を有していた場合に限られる。ナンは、ブルースが贈与を取り消すために、贈与を行ったときと実質的に同じ手段や道具を使っていないため、ブルースには証書を譲渡する権限が残っていると主張するでしょう。一般に、このような譲渡は、合理的な手段で終了させることができる。オルガの子供たちは、たとえ有効な引渡しや承諾がなかったとしても、取り消しは電話の時点で有効だった、つまり、オルガとブルースは友人であったため、書面ではなく電話で申し出を取り消すことは合理的だったと主張するだろう。

裁判所はおそらく、取り消しの効力はなかったと判断することでしょう。これは土地の譲渡のシナリオなので詐欺罪の適用を受けるが、気まぐれな電話だけで譲渡の取り消しや復活ができると認定すると、詐欺が多発する危険性をはらんでいる。もしオルガが電話によって事実上譲渡を終了させることができるのであれば、同様に簡単に譲渡を復活させることができるのである。土地の譲渡のような実質的なものの譲渡において、このような安易さは、乱用や詐欺の危険性を招きすぎるでしょう。したがって、裁判所はおそらく、オルガの取り消しは無効であると判断することでしょう。

結論

裁判所は、**Olga**には**Nan**に土地を引き渡す意図があったと判断する可能性が高いでしょう。彼女の意図と行動が正確に一致しない場合もありますが、裁判所は合理的な引渡しの意図を解釈します。オルガは、ブルースに代理人として不動産を譲渡し、ブルースはナンに対して証書を交付する権限を与えられていた。**Olga**の取り消しは詐欺の法令に準拠していないため、無効であった。したがって、ナンが証書を受け取ったとき、裁判所はおそらく有効な譲渡を認めるだろう。

裁判所が、効果的な移転が認められない場合、ナンは、信頼性の理論を追求することもできる。しかし、**Nan** は実質的な行動を起こさず、**Blackacre** への移転を「計画」していたため、事実関係はあまり信頼性の認定を支持しない。計画

は、信頼を認めるには十分ではありません。
明が必要です。

また、所持する意思の顕著な表

質問2の回答B

問題は、証書の形式がNanに所有権を渡してBlackacreの所有者とするのに十分であったか、あるいは証書が無効であったため、Olgaが死亡するとBlackacreの所有者となり、彼女の遺言により3人の子供に等分に所有権が渡ることになるかどうかです。

1. ディード

証書が有効に成立するためには、(1)詐欺罪を満たす書面、(2)引渡し、(3)受諾が必要であります。

A. 詐術の定め

土地の権利を譲渡する場合、その譲渡は詐欺の法令を満たす書面に記載されていなければなりません。証書は、(1)譲渡の当事者を特定し、(2)譲渡される不動産を十分に説明し、(3)譲渡者が署名していれば、詐欺の法令を満たすのに十分である。この場合、Blackacreは湖畔の土地とコテージからなる不動産であり、譲渡に強制力を持たせるためには十分な書面が存在する必要があります。

ここで、証書の形式は、譲渡の当事者を特定する覚書である。証書は、彼女自身を付与者、ナンを被付与者として名乗っている。証書はまた、譲渡される財産を十分に特定している。証書は、Blackacreが譲渡される不動産であることを指定し、証書にはBlackacreの「正確な説明」が含まれています。また、Olgaは付与者として、証書に署名している。一般的に、証書の署名は公証する必要はありませんが、この場合、オルガが署名を認めた後、ブルースによって証書が公証されたこととなります。したがって、証書の書式は、土地の権利を伝達するための詐欺罪の要件を満たすのに十分な覚書であったと思われる。

B. 配送について

不動産の譲渡に影響を与えるように、付与者が証書を十分に引き渡したかどうかを判断するために、質問の焦点は付与者の意図に向けられる。付与者が不動産に対する現在の権益を渡すつもりであれば、引渡しは完了したことになる。権利者が必要な意図を持っている限り、証書の実際の物理的な引渡しは必要なく、また、譲受人がその引渡しを知っている必要もない。

ここで、ナンは、オルガが証書フォームを実行した時点では、オルガには

ブラックエーカーを彼女に譲るつもりであった。オルガとナンは家族ぐるみで付き合い、オルガが70歳の誕生日に「楽しい再会」をしたところだった。また、オルガはナンが活着ている間に、自分がブラックエーカーを残していることを子供たちに知られたくないと考っていた。したがって、このことは、オルガが活着ている間にナンに所有権を渡すという現在の意図を有していることを示すものである。さらに、この証書の形式は、その条項により、不動産の現在の譲渡を実現するものである。一方、オルガの子供たちは、ブルースがオルガに証書の書式を提供しただけで、オルガはそれが現在の譲渡につながるとは知らなかったと主張するかもしれない。たとえ条件が十分であったとしても、オルガの子供たちは、オルガが証書をブルースに渡し、証書を保管し、ナンが自分のもとを去った場合にのみ記録するように言ったことからわかるように、オルガには必要な現在の意思がなかったと主張するでしょう。オルガの子供たちは、このことは、オルガが証書の形式を現在の所有権に移行することを意図していなかったことを示しており、したがってオルガがナンに「証書を引き渡した」ことはないと主張するだろう。また、オルガの子供たちは、オルガの現在の所有権をナンに渡さないという意図は、オルガがブルースにかけた電話で、ブルースに「証書を破棄する」よう指示したことからわかると指摘する。

バランスとしては、譲渡時にOlgaは所有権移転に十分な証書を実行し、その時点で、子供には知られたくないが、Nanに不動産を贈与したいと考えたため、裁判所は、Olgaが実行した時点で、証書はNanに所有権移転に十分だったと判断すると思われる。オルガは、証書がある出来事の発生時にのみ有効にすることを意図しているとは述べておらず、むしろオルガは、ナンが自分に生存している場合にブルースが証書を記録することを望んでいると述べたに過ぎない。証書を有効にするためには、記録する必要はない。したがって、オルガは証書を交付したのであろう。

C. 受入

譲受人は、譲渡証書を受諾しなければならない。一般に、譲受人が譲渡を受け入れないという意思を明確に示していない限り、受諾が推定される。むしろ、Olgaが証書を「交付」したときに、Nanが譲渡について知っていたかどうかは重要ではない。したがって、ナンが知らなかったからといって、彼女が証書を「受諾」したと認定することができないわけではない。実際、彼女が受け入れたことのさらなる証拠として、ナンは贈与を「喜んで」おり、ブラックエーカーに引っ越すことを計画していた。したがって、十分な受諾があったといえる。

その結果、fraudsの時効を満たすのに十分な書面があり、Olgaが証書を実行したときにBlackacreの現在の譲渡を意図し、Nanの承諾が推定されるため、NanはBlackacre

を所有しています。この不動産は、オルガの死亡時にはもう所有していないため、オルガの遺産には含まれないので、オルガの3人の子供は、オルガの遺言に従って、ブラックエーカーを「均等配分」で受け取ることはない。A

遺言者は、死亡時に所有していない財産を贈与することはできない。

しかし、裁判所が、オルハがナンに対してブラックエーカーを引き渡すという必要な意図を有していなかったと判断した場合、ナンは、オルハの証書フォームが遺言による有効な処分であると主張し、その結果、自分は財産を取得することができるという主張ができます。

2. WILL - Deed Formは有効な遺言書なのか？

一般に遺言は、遺言者が18歳以上で健全な精神状態にあり、必要な遺言の意思を持ち、その文書が遺言者の意思であることを理解し、遺言書に署名する2人の証人の共同意識下で署名すれば有効である、とされています。一部の司法管轄区では、ホログラフィック・ウィルの有効性を認めています。ホログラフィック遺言が有効であるためには、遺言者が署名し、遺言者が遺言の意思を持ち、ホログラフィック遺言の重要な条項が遺言者の筆跡である必要があります。遺言の重要な規定は、受益者と贈与される財産を特定することからなる。

この場合、OlgaはBruceというたった一人の証人の立会いのもとで文書を執行したため、この証書は有効な正式な遺言とは言えません。このように、Olgaが18歳以上で「健全な精神」を持っていると思われ、証書に署名したとしても、その証書は有効な正式な遺言書として認められません。

ナンは、この証書フォームが有効なホログラフィック・ウィルにあたりと主張することができる。証書用紙にはオルガが署名しており、「オルガは、自分を付与者、ナンを被付与者として指名し、譲渡される財産であるブラックエーカーを含め、財産を正確に記述して、用紙に記入」したと思われる。したがって、遺言書の【重要な条項】は、オルガの筆跡であると思われる。重要な条項がオルガの筆跡である限り、その文書が「形式」であるかどうかは問題ではない。したがって、裁判所は、当時オルガが必要な遺言の意思を有していたと結論づければ、オルガが有効なホログラフィック遺言を執行したと結論づけることができる。

ナンは、オルガがブルースに対して、「ナンが私を生存させる」場合に証書を保管し記録するよう指示したことは、オルガが死亡した場合にのみナンが不動産を取得するという証言意図を示すものであると主張するでしょう。したがって、ナンはオルガが死ぬまで不動産に対する権利を持たないことになり、これは遺言によって自

分の財産を処分することと一致する。裁判所は、この証書が有効なホログラフィック・ウィルであると判断する可能性が高い。

3. ホログラフィック・ウィルの取り消し

一般に、遺言は遺言者の生存中に自由に取り消すことができます。遺言は、物理的な行為によって、または後続の文書の実行によって取り消すことができます。

物理的行為によって遺言を撤回するためには、遺言者が（1）撤回する意思を持ち、（2）遺言の文言に触れるような抹消、破壊、抹消などの物理的行為をする必要があります。遺言者は、遺言書の破棄を他人に指示することができますが、破棄は遺言者の指示により、遺言者の立会いの下で行わなければなりません。

ここで、オルガの子供たちは、ホログラフィック・ウィルを構成する証書フォームが、オルガによって生前に撤回されたと主張できる。オルガは、ブルースに電話をかけて「証書を破棄しろ」と言った時点で、遺言を撤回するつもりだったのです。オルガの子供たちは、ブルースが実際に証書を破棄していなくても、裁判所はオルガが取り消しの意思を有していたと認定すべきだと主張するかもしれません。しかし、ブルースはオルガと同席しておらず、ホログラフィック・ウィルの文言に何もしていないことから、オルガは生前にホログラフィック・ウィルを十分に撤回しなかった可能性が高いと考えられます。

4. 以前の遺言の取り消し

もし裁判所がOlgaがホログラフィック遺言を撤回しなかったと判断した場合、ホログラフィック遺言がOlgaの全財産を3人の子供に平等に残すという先の有効な遺言を撤回するのに十分かどうか問題となる。遺言者は、後続の書面を作成することにより、前の遺言を取り消すことができます。一般に、遺言書として適格な後続の書面は、可能な限り、先行する書面と一致するように解釈されなければならない。しかし、後続の文書が前の意志と矛盾する範囲では、前の意志は取り消される。

ここで、ホログラフィック・ウィルでは、Olgaの「財産」の一部であったBlackacreをNanに残しています。Olgaの当初の遺言は、「私の死後、私が所有するすべての財産」を3人の子供たちに残すものであった。裁判所が、Olgaが必要な意図を欠いていたため、証書フォームがNanに生前所有権を渡すのに不十分であると判断した場合、Olgaは死後にBlackacreを「所有」することになる。この証書が有効なホログラフィック・ウィルである場合、ブラックエーカーは処分される。したがって、この処分は、矛盾する限りにおいて、元の遺言の取り消しにつながる。したがって、ホログラフ・ウィルではナンがブラックエーカーを取得し、オルガの子供たちがオルガの残りの財産を取得することになり、遺言の本来の条件と矛盾しないこととなります。

オルガの子供たちは、オルガはホログラフィック・ウィルには日付を入れなかったと主張するかもしれません。したがって、遺言者が正式な遺言と日付の入っていないホログラフィック・ウィルを有していることが判明した場合

は、そのホログラフがホログラフより前に実行されたという推定が存在する。したがって、正式な遺言は日付のないホログラフと矛盾し、その矛盾の程度に応じて、正式な遺言は日付のないホログラフを取り消すことになる。その場合、オルガの子供たちはブラックエーカーを平等に所有し、ナンは何も取らないことになる。

つまり、Nan は Blackacre を所有している可能性が高く、それは証書が現在の所有権を彼女に渡すのに十分だったからであり、したがって Olga は彼女の死後 Blackacre を所有していなかった。したがって、Olgaは彼女の死後、Blackacreを所有していなかったので、彼女の遺言はBlackacreを子供たちに渡すことはできない。さらに、裁判所が、Olgaが有効な引渡しに必要な意図を欠いていたと判断しても、その証書は、Olgaが生前に撤回しなかった有効なホログラフィック遺言として適格である可能性が高い。

2003年7月カリフォルニア州司法試験エッセイ問題と選

択された答え

本書は、2003年7月のカリフォルニア州司法試験で出題された6つのエッセイ問題と、各問題に対する選択解答2つを収録しています。

答案は、合格した応募者が書いたもので、良い成績を収めました。解答は著者が作成し、読みやすくするためにスペルや句読点を若干修正した以外は、提出されたものをそのまま転記した。解答は著者の同意を得てここに転載するものであり、転載を禁ずる。

<u>質問番号</u>	<u>目次</u>	<u>ページ</u>
1.	企業情報	1
2.	レメディウム	10
3.	エビデンス	18
4.	トーツ	27
5.	プロフェッショナルの責任	42
6.	ウィルズ	50

質問6

1998年、トムは有効な遺言を実行した。遺言の処分規定は以下の通りであった

- 。 「1. 友人であるアルに10万ドルを贈る。
2. エルム街の私の住居を妹のベスに。
3. 私のオメガコーポの株は、弟のカールに。
4. 遺留分は州立大学(SU)に"

1999年、トムはアルと仲違いし、遺言の第1項を明示的に取り消すものの、それ以外の変更を加えない有効なコーディシルを実行した。

2000年、トムはアルと和解し、何人かの人に "アルは心配しなくていい、私が養っている "と言った。

2001年、ベスは遺言を残し、1人の子供ノームと、ベスの先立たれた子供の子供である2人の孫デブとイブだけが残された状態で死亡した。2001年、トムはオメガコーポの株式を売却し、その代金を再投資してアルファコーポの株式を購入しました。

トムは2002年に亡くなりました。遺言書とコーディシルが彼の貸金庫から発見された。遺言書は無傷だったが、コーディシルにはトムの筆跡でコーディシルの本文の横に「Null and Void」という言葉が書かれ、その後にトムの署名があった。

トムの遺族は、アル、カール、ノーム、デブ、イブである。トムの死後、遺産は現金10万ドル、エルム街の住居、アルファコーポの株で構成されていた。

トムの遺産について、アル、カール、ノーム、デブ、イブ、SUに権利があるとすれば、それはどのようなものか。議論してください。カリフォルニア州法に従って答えなさい

。

質問6に対する回答A

1. アル

AIは当初、有効な1998年の遺言により100,000ドルを支給された

。遺言書 (Codicil)

コーディシルとは、遺言の制定法に従って完全な手続きで執行される既存の遺言の補足で、前の遺言の矛盾する条項のみを取り消し、新しい条項を追加するものです。コーディシルと先行する遺言（一貫性）の両方が有効であり、コーディシルの日付で実行されたとみなされます。

したがって、1999年に有効な遺言書を作成することで、Tは矛盾する第1項を取り消した。コモンローでは、Tは追加も行う必要があったかもしれないが、カリフォルニアではそのような法律はない。

取り消し

遺言書や共済証書は、その後の遺言書や物理的な行為によって、明示的に取り消すことができます。明示的に

遺言は、その後のホログラムによる明示的な撤回によって撤回することができる。有効なホログラフィック遺言は、遺言者が署名し、重要な条項がTの筆跡でなければならない。

ここで、トムは自筆で「null and void」という言葉を書き、コーディシルに署名した。したがって、彼は明示的にコーディシルを取り消したも同然である。

物理的な行為によって

また、トムは物理的な行為によって取り消すことができます。これは、既存の遺言の文言を消すか、取り消した文書の文言に触れる限り、無効であると書くことによって行うことができます。

ここでは、Tは成文法の表面に触れて文字を書いたので、物理的な行為による取り消しと解釈することも可能であろう。

したがって、この遺言は有効に取り消されたこと

になる。..リバイバル

遺言の成式が取り消された場合、有効に執行された遺言は有効である。このように矛盾した条項が復活するかどうかは、遺言者の意図の証拠によります。

アルは、Tが "アルは心配しなくていい、俺が養ってやる "と言ったと、トムが複数の人に発言したことを指摘する。

しかし、SUは、これらの発言がTが遺言書を撤回した時期が近いかどうかは不明であると主張する可能性が高い。しかし、これらの発言は、TとAIが和解した後になされたものであり、AIは、これらの発言とその後の和解を利用して、遺言書の復活を意図していたことを示すことができると思われる。

扶養親族の失効

Tは、扶養親族取消し（Tが、前の贈与が有効であると誤解して遺言を取り消した場合、取り消された遺言は復活する）を利用できないでしょう。というのも、アルは、遺言書による贈与が復活することを望んでおらず、自分への贈与がないためです。

したがって、この遺言書が取り消された場合、既存の有効な遺言書に基づいてアルが勝訴し、100,000ドルを手にするようになる可能性が高いです。

2. カール/ザ・ストック

カールがアルファコープの株式を取得するかどうかは、トムの最初の贈与が特定贈与か顕示贈与かによって決まるが、一般に特定贈与はTが乾くときに存在しなければみなされてしまうからである。

特定と実証の比較

特定贈与は、不動産や時計など、具体的に特定された財産の贈与です。実証的贈与は、特定と一般のハイブリッドで、Tは一般的な贈与を意図しているが、その贈与元を特定するものである。

株式は特徴づけが難しいことが判明した。一般に「私のABC株100株」という贈与は具体的とみなされ、「ABC株100株」は実証的とみなされます。

ここで、Tはカールに「彼のオメガコーポの株」を渡している。これは、Tが特定の株式を与えるつもりであることを示唆する所有格の表現であるため、より特定の工夫に近いものです。

アドエンプション

贖罪の原則に基づき、Tが死亡したときに存在しない特定の贈与は消滅によって贖われる。この贖罪の法則は、顕示的贈与には適用されない。その代わりに、このような贈与は他の財産から充当される。

ここでは、オメガコーポの株式は売却されているため、Tが死亡したときには存在しない。したがって、これが特定贈与であれば、カールへの贈与はみなし贈与となる。

実質的な変化ではなく、形の変化

カールは、贈与はまだ存在しているのだから、みなしではない、と主張するかもしれない。トムが全財産でアルファコープの株を購入したのは、実質ではなく形の変化であると主張することもできる。

遺言者の意思

また、Carlは、カリフォルニアでは、Tがademptionを適用することを意図していなければ、適用されないと主張することもできる。ここで、CarlはTomの弟であり、Tの恩恵の自然な対象であり、兄弟間に悪縁があったとは考えられない。したがって、Tはadeemの試みがなかったと主張することができます[sic]。

独立した意義のある行為

カールはまた、独立した意義のある行為という原則が適用されると主張することもできる。これは、遺言の空白を、主として遺言的でない行為によって埋めることを認めるものである。株式の売却は生涯の動機があるため、一義的な遺言行為とはいえない。しかし、今回の遺言には空白がなく、「私の株」だけでなく、オメガコープの株を明示的に特定しているのである。したがって、この議論は失敗する。

ノーム、デブ&イブ/レジデンス

・ラプス

コモンローの消滅の原則によれば、遺言者に先立たれた受益者は、贈与を受けなかった。それは失効した。ここで、ベスはトムより1年前の2001年に死亡している。コモンローの下では、彼女の贈与は失効することになる。

アンチラプス法 (Anti-Lapse Statute)

カリフォルニア州では、次のような場合に、先立たれた受益者への贈与を保存する消滅防止法があります。

- 1) TまたはTの配偶者と親族である。
- 2) を発行しています。

ここで、ベスはTの妹であり、親族関係にある。さらに、彼女は、1人の子Normと、先立たれたもう1人の子の子である2人の孫DebとEveという問題を残している。したがって、カリフォルニア州の消滅防止法が適用される。

カリフォルニア州の消滅防止法の下では、贈与は遺言に基づく受遺者ではなく、被相続人受遺者の発行物に直接送られます。

ここで、Bethの号はNormとDebとEve（彼女の号の号）である。Modern Per Stirpes [sic]が適用されるカリフォルニア州の遺留分法では、贈与はBethのissueに行くこととなります。

そして、DebとEveは亡くなった親のために代理で相続することができます。したがって、Normは1/2を、DebとEveは1/2を、それぞれ1/4ずつ取得することとなります。

4. 残量/SU

SUは、管理費などを差し引いた残りの遺産をすべて取得します。ここで、アールの贈与がみなしされた場合、SUはアルプハコープの株式を取得します。遺言1でのアールの贈与が何らかの方法で復活しない場合は、SUがそれも取得する。

質問6の回答B

アル権

有効な共証書は、明示的または黙示的に、対立によって、前の遺言の贈与を取り消すことができる。今回のコーディシルは、アルへの贈与を明示的に取り消すものである。

遺言書の取り消し

カリフォルニア州では、取消しは、新たな証書によって明示されるか、取消しを意図した切断、引き裂き、燃焼などを含む遺言者による物理的的行為によって行われる（**sic**）。遺言書の本文に「**null and void**」と書くことは物理的な破壊行為であり、トムがその行為を行ったことを示す署名とセットになっている。おそらくトムがコーディシルの取り消しを意図したものであったため、コーディシルは取り消された。

アルへのプレゼント復活

一般に、後から作成された遺言の取り消しは、それ以前の遺言を復活させることはできません。しかし、カリフォルニア州では、物理的な行為による取り消しの場合、遺言者が前の遺言の全部または一部を復活させようとする意図を持っていた場合、前の遺言は復活する。この意思は、外在証拠によって示されることがある。

数名の方へのコメント

アルは、トムがアルに提供した他の人々へのコメントを利用して、トムがアルへの元の遺贈を復活させるつもりであったことを示したいと思うでしょう。伝聞とは、法廷外で行われた陳述で、主張された事柄の真実のために提供されるものである。ここでは、アルはこれらの発言を真実であるとして提供することになります。しかし、伝聞法則の例外として、申告者の心的状態に関するものが存在します。通常、この例外は申告者の現在の心境にのみ適用される。通常、この例外は現在の心境や将来の意図にのみ適用される。しかし、そして [中略] 証言の例外は、申告者の意志に関する事前の陳述に存在します。トムの発言は、トムが贈与を復活させる意図、トムの遺言の意図を示すために提供されているので、伝聞法則の例外（**sic**）に該当し、認められることになります。

このような意図の証拠があれば、カリフォルニア州の法律では、トムのアルへの遺贈は、おそらく復活によって復活することになります。

ホログラフィック・コーディル&リパブリケーション

カリフォルニア州では、遺言者が自筆で遺言条項を書き、署名することでホログラフィック・ウィルまたはコーディシルが作成されます。したがって、アルは、「**null and void**」と書いてから署名することで、元の遺言をアルの贈与で再発行する有効なホログ

ラフィック・コディシルを作成したと主張することもできる。

扶養親族の失効

また、AIは、扶養親族取消しの法理に基づき、自分の贈与が有効であると主張することもできる。この原則では、ある贈与が取り消されたとき、遺言者が、その人への有効な遺贈が新たな証書によってなされたと誤解して取り消したようにしか見えません。この原則は、一般に、より大きな新たな贈与が無効であると判断された場合に適用される。しかし、ここでは、新たな贈与は行われていないので、アルはこの理論に頼って贈与を有効化することはできない。

結論

アルの贈与はホログラフィックコーディシルの一部として復活または再発行されたため、トムのアルへの10万ドルの贈与は強制執行されることとなります。

2. ノーム、デブ、イブのエルム・ストリート・レジデンスへの権利について

遺言で、遺言者に先立たれた人に遺贈された場合、その遺贈は失効すると言われていません。コモンローでは、失効した贈与は失敗し、遺言の遺留分となる。しかし、カリフォルニア州の消滅防止法では、遺贈が近親者になされた場合、遺言者は、死亡した受遺者の嫡出子が死亡者の立場に立って贈与を受けることを意図していたと推定されます。したがって、BethはTomの妹であるため、遺贈はNorm、Deb、Eveに行われ、消滅防止法が適用されるはずですが。

なお、SUは、Tomのコーディシルの取り消しが、Bethの死後にホログラフィック文書（Tomが署名した「null and void」の書面、上記分析、re: AI参照）によって行われたので、消滅防止法は適用されないと主張するかもしれない。遺言が被相続人の死後に執行された場合、消滅防止法は適用されない。しかし、ここでは、推定されるホログラフィック・コーディシルは日付がなく、トムはベスの死亡前の2000年にアルのために提供する旨の発言をしている。したがって、この議論はおそらく失敗するだろう。

ノーム、デブ、ベスの号であるイブが、失効防止法に基づいてエルム・ストを受け取ると仮定すると、遺留分法に定められた代表権を持つ一人当たりの分配が行われることとなります。この場合、コモンローのper stirpes方式と同じになります。NormはElm St.の1/2未分割の持分、DebとEveは1/4未分割の持分、それぞれ共有の借主として持つこととなります。

3. カールへの株式贈与の償還

特定の財産の遺贈が、死亡時に遺言者が所有しなくなった場合、その遺贈はみなし遺贈となり、遺留分に該当する。ここで、遺留分権利者であるSUは、「My OmegaCorp」株式の贈与は特定の贈与であり、従って、みなし相続財産となるべきであると主張する

ことになる。

コモンローでは、新しい財産が遺言に記載された財産に取って代わることが明らかに意図されていた場合には、例外が存在します。しかし、この例外は、株式よりも自動車や家などの品目に適用される可能性が高いです。しかし、カールは、トム

はオメガコーポの株式をアルファコーポの株式に交換し、財産の価値は変化せず、トムはカールが依然として株式を受け取ることを意図していた。

さらに、コモンローの裁判所の中には、正義と衡平のために必要だと考えるならば、遺贈の分類を特定のなものから実証的なものに改ざんするところもある。したがって、そのような裁判所では、株式の遺贈は実証的贈与に分類される。そして、カールは、オメガコーポの株式が現在持っている市場価値（またはその金額で購入した株式）を受け取る権利を持つこととなります。

しかし、カリフォルニア州では、贈与が償還されるかどうかは、新しい資産が代替品となり遺贈が償還されないかどうかという、資産売却時の遺言者の意思のみによって判断される。カールは、トムがオメガコーポの株式の売却代金をアルファコーポの株式と直接交換したとき、その行為はより良い投資をするために行われたのであって、償還の意図はなかったと主張するでしょう。カールは、この主張を裏付ける内在的証拠を提出することができるだろう。

全体として、上述のように、カールはアルファコーポの株式、あるいは少なくともオメガコーポの株式の価値を受け取る妥当な可能性があると思われる。

4. SUの権利

遺留分権利者であるSUは、残されたすべてのものに対する権利を有する。上記の通り、アルファコーポの株式やその残骸を除いては、何も残らないようです。

減額

遺言に記載された財産しか利用できないため、遺産は、これらの遺贈のすべてと、債務や遺産の管理費用を支払うのに十分な資金がない場合があります。その場合、これらの債務は、まず一般的な遺贈から、そしてその中から、まず親族以外からの遺贈から支払われることとなります。したがって、カールへの贈与がどのように分類されるかにかかわらず、アルの贈与が先に減殺されることとなります。それが不十分であれば、裁判所が行ったカールの贈与の分類が関係してきます。実証的な贈与であると判断されれば、次に減免される。特定の贈与であれば、カールと「ベス」 [sic] の贈与の合計額に比例して減額されることとなります。

2004年7月カリフォルニア州司法試験論文式問題お

よび選択解答

本書は、2004年7月のカリフォルニア州司法試験で出題された6つのエッセイ問題と、各問題に対する選択解答2つを収録しています。

答案は、合格した応募者が書いたもので、良い成績を収めました。答案は著者が作成し、読みやすくするためにスペルや句読点を若干修正した以外は、提出されたものをそのまま転記した。ここに掲載するのは、著者の承諾を得たものである。

<u>質問番号</u>	<u>目次</u>	<u>ペー ジ</u>
1.	刑事法	1
2.	けんぽう	12
3.	遺言書・信託書	22
4.	エビデンス	33
5.	プロフェッショナルの責任	44
6.	タルト	51

質問3

熱心なスキーヤーであるハンクは、娘のアンと一緒に州Xに住んでいた。ハンクの最初の妻、アンの母親は数年前に亡くなっていた。

1996年、ハンクは2番目の妻であるワンダと結婚した。その後、X州に居住していたハンクは、信託を設定し、「私の財産の5%を受託者に渡し、私の死後10年間にわたり、私の死の直前の12ヶ月間に私と最も頻繁にスキーに行った人物にほぼ均等に分割して支払う」という遺言を作成した。遺言書には、受託者の名前はありませんでした。遺言では、ハンクの残りの財産は、ワンダが生存している場合、すべてワンダに残されました。遺言書には、アンのことは書かれていませんでした。ワンダは、遺言の2人の証人のうちの1人であった。X州の法律では、受益者が目撃した遺言は無効である。

1998年、ハンクとその家族はカリフォルニアに永住した。そして、ハンクは、ワンダの前の結婚による未成年の息子カールを合法的に養子にした。

2001年、ハンクは足の怪我のためにスキーを完全に諦め、代わりに釣りを始めました。その後2年間、彼は熱心な釣り仲間であるフレッドと何度も釣りに出かけた。

2003年、ハンクが亡くなりました。

検認手続きにおいて、ワンダは遺言によりハンクの全財産を請求し、アンとカールはそれぞれ遺産の遺留分を請求し、フレッドは裁判所がサイ・プレの原則を適用して自分を信託の受益者とすべきと主張する。

1. カリフォルニア州の法律では、裁判所はどのように裁定すべきなのか。
 - a. ワンダの主張？議論してください。
 - b. アンの主張？議論してください。
 - c. カールの主張？議論してください。
2. 裁判所はフレッドの主張に対してどのような裁定を下すべきでしょうか。議論してください。

質問3に対する回答A

3)

1. について、カリフォルニア州法に基づき、裁判所の判決を受ける。

A. WANDA'S CLAIM

ワンダは、遺言が有効であるため、遺言に記載されたハンクの財産の少なくとも95%を取得する権利があると主張する。

1. 遺言の有効性

a. 法律の選択

遺言が有効かどうかを判断するためには、まずどのような法律が適用されるかを決める必要があります。事実は、**Hank**がカリフォルニアに住んでいるときに死亡したというものです。遺言は、それが執行された州、執行時に遺言者が居住していた州、または遺言者が死亡した州において有効であれば、有効となるであろう。遺言は**X**州において、ハンクが**X**州に居住している間に執行された。事実上、遺言は**X**州では無効となるが、ハンクが死亡時に居住していたカリフォルニア州では必ずしも無効とはならない。以下、カリフォルニア州における遺言の有効性について考察する。

b. 認証された遺言の要件

カリフォルニア州法では、認証された遺言が有効であるためには、利害関係のない2人の証人の立会いのもと、遺言者が署名する必要があります。利害関係のある証人とは、遺言に基づく受益者である証人のことです。証人が「利害関係者」である場合、遺言書全体が無効になるわけではありませんが、利害関係者の証人が受け取った部分は無効であると推定されます[sic]。

このケースの事実の下では、**Wanda**は遺産の95%を受け取ることになっていました。また、彼女は遺言の2人の証人のうちの1人であった。したがって、彼女に残された部分は無効であると推定されます。もし**Wanda**がこの推定を覆せなかったとしても、何も残らないわけではなく、むしろ遺言に基づく遺留分の権利は残ります。

c. ワンダの遺留分

遺留分では、配偶者は、被相続人が遺族を残しているかどうかに応じて、すべての共有財産と、亡くなった配偶者の別居財産の少なくとも3分の1から最高ですべてを受け取る権利があります。今回のケースでは、**Hank**は**Ann**と**Carl**を残している。2人の子供が残された場合、遺言者の遺産は1/3の割合で配偶者と2人の子供に分割されます。し

たがって、WandaはHankの残りの財産の1/3を取得することになります。

B. ANN'S CLAIM

1. 省略された子供

アンは、自分は省略された子供であり、遺言が全体として有効と判断された場合、他の利害関係は消滅し、ハンクの遺産の遺留分を受け取るべきであると主張するだろう。しかし、アンは、ハンクが遺言を執行する前に生きていて、その存在を知っており、遺言に規定されていなかったのので、アンはこの主張で不成功に終わるだろう。

2. 遺留分

したがって、アンは、前述のワンダへの贈与は無効であり、このようにして残りの持分の遺留分を得る権利があると主張することになる。前述のように、アンは遺留分によってハンクの財産の1/3を得る権利を有することになる。

C. カール・クライム

1. 早産児

カールは、まず、遺言執行後に養子縁組をしたため、自分が先天性の子供であることを主張します。したがって、ワンダへの贈与が有効であれば、ワンダの利益は遺留分を考慮して減殺されるべきであると主張することになる。しかし、アンが遺言から除外されたことは、自分の遺産の一部を子供たちに贈与しない意思を示す証拠となるため、カールの利益を害することになる。

2. 遺留分と養子縁組

したがって、カールは、ワンダへの遺贈は無効であり、遺留分によって遺留分の一部を取得する権利があると主張することになります。カリフォルニア州法では、養子は血縁のある子供と同じように遺留分として扱われるため、カールがハンクの血縁のある子供ではなく養子であることは、カールの相続分に影響しない。

2. フレッドさんの主張に対する裁判所の判断

ハンクの遺言には、信託も含まれていました。これは、注連続遺言と呼ばれるものです。注ぎ足し遺言が有効であるためには、有効な信託の要件を満たしている必要があります。

A. 信託の有効性

1. 必要条件

信託が有効であるためには、1) 受益者が確定していること、2) 設定者、3) 受託者、4) 有効な信託目的、5) 信託を設定する意図、6) 信託財産があることが必要です。

(res) 、7) 配信される。

2. トラストの欠如

事実関係では、信託は受託者を欠いている。しかし、裁判所が信託を管理するために受託者を任命することができるので、受託者の欠如は致命的ではありません。

3. 信託財産

信託財産は、遺言で "私の財産の5%...私の死後10年間にわたりほぼ均等に分割して支払われる..."と明確に特定されています。したがって、この要件は満たされている。

4. 配送について

ハンクの遺言に信託を含めることで、引渡しの要件は満たされる。

5. 受益者不確定

受益者の名前がないことが、信託の最大の問題点です。信託が有効であるためには、受益者が確認できる必要があります。今回のケースでは、受益者の名前はなく、「私が亡くなる前の12ヶ月間、最も頻繁に私とスキーに行った人」と説明されています。裁判所は、遺言書に受益者の名前が明記されていない場合、受益者の身元を確認するために、以下のような様々な方法を用いることができます。例えば、「参照による取り込み」や「独立した意義のある事実」などです。本事例では、いずれも参考にならない。

参照による取り込みは、遺言者が、遺言の時点で存在し、明確な識別がなされ、取り込む意思がある場合に、その文書や文章を遺言に取り込むことができるものです。本事例では、受益者の同一性が現存していなかった。したがって、この方法は、受益者を確認するための支援にはならない。

独立した意義のある事実は、外部のものを遺言に取り込むためにも利用できます。ハンクと最も頻繁にスキーをしていた人物の身元は独立した意味を持つが、ハンクは足に重傷を負い、スキーを断念したため、ここではほとんど役に立たない。したがって、この方法も受益者の身元を確認するのに役立たない。

受益者が確定していない場合、結果信託が発生します。つまり、信託財産は設定者の財産に戻る。

5. Cy Pres

しかし、フレッドは、サイ・プレの原則に基づき、この財産は不要であると主張するでしょう。

は、設定者の遺産に戻されるのではなく、本人に渡されるべきものです。

Cy presとは、慈善信託が受益者の欠如やその他の非現実的な理由で破綻した場合、裁判所は**cy pres**を適用して信託財産を信託目的に合致する別の慈善団体に付与すべきとする教義である。

今回のケースでは、フレッドは信託の目的がレジャースポーツと仲間意識を高めることであったと主張するだろう。フレッドは釣りをスキーと比較し、この2つのアクティビティは友人たちが集まって楽しむ機会を提供するという点で類似していると主張することでしょう。したがって、この2つの目的は非常に似ており、フレッドはハンクと何度も釣りに出かけていたため、フレッドは信託財産を受け取る権利があるはずだと主張するでしょう。

しかし、**cy pres**が適用されるためには、信託の目的が慈善的でなければならぬ。エリザベス憲章やコモンローの下では、フレッドがどのように定義しようとも、この信託の目的は慈善的なものではありません。飢餓の緩和、病人の救済、教育の向上、健康増進などではない。したがって、サイプレの原則は適用されず、結果信託が発生することになります。したがって、5%はハンクの財産に残り、それに応じてワンダ、アン、カールに分配されることになります。

したがって、フレッドは何も得られず、ワンダ、アン、カールはそれぞれハンクの別個の財産の1/3を得、ワンダは彼女とハンクの共同財産のすべてを得ることになります。

質問3の回答B

3)

1. カリフォルニア州の法律では、裁判所はどのように裁定すべきなのか。

a. ワンダ

ワンダ (W) は、遺言によりハンク (H) の全財産を受け取る権利があると主張する。その主張をするためには、まず遺言が有効であることを証明する必要があります。

有効な遺言？

法律の選択

遺言はX州で執行され、X州の法律では、受益者が立ち会った遺言は無効となるため、この遺言は無効となる。Hの遺留分を受け取る受益者であるWは証人の一人であるため、X州の法律では遺言は無効となる。

しかし、当事者は引っ越しをしてカリフォルニアに居住するようになった。カリフォルニア州法では、遺言が執行された場所、遺言が執行されたときに被相続人が居住していた場所の法令に準拠しているか、被相続人が死亡したときに居住していた法域の法令に準拠していれば、遺言は有効である。

ここで、X州の法律では遺言は無効であるが、Hは死亡時にカリフォルニア州に居住していた。遺言がカリフォルニア州の法律で有効であれば、遺言は有効であり、検認を受けることとなります。カリフォルニア州で有効な正式な遺言は、遺言者またはその指示による第三者が、2人の証人の立会いのもとで署名し、証人が遺言者の署名が自分の遺言であることを理解している、書面である必要があります。

ここで、この遺言はカリフォルニア州法上有効である。また、2人の証人が遺言書に署名しており（ただし、後述の「利害関係のある証人」を参照）、その必要条件を満たしている。証人がHの署名が自分の意志であることを理解していたと仮定すると、カリフォルニア州の遺言の形式は遵守されていることになる。

インタレストウィットネス

カリフォルニア州では、証人の一人が遺言の受益者であることを理由に遺言が無効となることはないことに注意が必要である。証人が遺言から直接または間接的に利益を得る場合、利害関係者となります。必要な利害関係証人がいる場合、カリフォルニア州は遺言を有効にしますが、利害関係証人が贈与を得るために不適切な手段を用いたと推定されます。その証人がいなければ、他の証人が一人しかいない場合、その証人は必

要である。利害関係人がこの推定を覆した場合、その証人は遺言の効力を失うことになります。

を遺言書に記載します。しかし、その推定を覆すことができない場合、彼女は遺産の遺留分を得るだけで、それ以上は得られないこととなります。

ここで、Wは、遺言の下敷きになっているので、利害関係証人である。また、Wの署名がなければ、他の証人は1人しかいないため、Wは遺言を有効にするために必要であった。したがって、不適切な影響を受けたという推定が生じます。しかし、Wはこの推定を容易に覆すことができるはずである。WはHの妻であり、Hの恩恵の自然な対象である。常識的に考えて、WはHの遺産の相当な分け前を受け取るはずです。もしWが、二人が良好な関係であったこと、そしてHが彼女に遺産を相当分与すると言っていたことを示す証拠を提出できれば、それだけで推定を覆すことができるはずです。

遺留分

Wが推定を覆すことができなかつたとしても、Wには遺留分しか与えられない。しかし、Wの遺留分は相当なものであろう。Wは、Hの共有財産と準共有財産の1/2を受け取る権利があるのです。共同財産とは、婚姻中に当事者がカリフォルニアに居住していた間に取得した財産のことである。ここでは、当事者がカリフォルニアに居住していた1998年以降、2003年にHが死亡するまでの間、HとWの収入とその賃料、問題、利益によって取得したすべての財産が含まれます。

また、Wは準共同財産の1/2を取得する権利がある。準共同財産とは、当事者が他の場所に居住していたときに取得した財産で、当事者がカリフォルニアに居住していたならば共同財産となったであろうものをいう。従って、1996年から1998年の間に婚姻中に取得した財産は全て準共同財産となります。取得した配偶者が死亡すると、その財産は生存している配偶者に帰属することになる。Wはすでに共有財産と準共有財産の1/2を所有しているため、最終的にWは共有財産と準共有財産のすべてを手にするようになる。

Hの別財産 (sp) については、Hは別財産のすべてを自分の好きなように処分する権限を有している。しかし、Wは、Hの遺族として、推定を覆すことができなければ、Hの別個の財産の遺留分を得ることができる。カリフォルニアでは、被相続人が嗣子なしで死亡した場合、spはすべて遺族に入る。もし、被相続人が1人のissue、両親、両親のissueで死亡した場合、生存配偶者はHのspの1/2を取得する。もし、配偶者が2人以上のissue (または先立たれたissueのissue) で死亡した場合、生存配偶者はHのspの1/3を得る。

ここでは、Hがアンとカールの2人の遺児を残して死亡した。したがって、Hの配偶者であるWの遺留分は、すべての分離財産の3分の1となる。

したがって、Wが不適切な影響の推定を覆せなかつたとしても、遺留分の関係でかなりの財産を手に入れることができることとなります。

の法則があります。

その他のクレームでは

Fの主張については後述し、Cの主張、Aの主張も同様です。これは、これら3つの請求がすべて失敗した場合、WはHの遺産をsp、cpともにすべて取得することになる、ということだけを述べています。しかし、これらの請求権のいずれかが失敗しなかった場合、請求者は自分の請求権が持っていた賭け金をそのまま受け取ることができるため、Wは全財産を取得することはできません。

b. アンの主張

Aの請求は、カリフォルニア州のpretermitted childの法令に基づいて行われる。Hの子供であるAは、Hの遺言から取り残されていた。Pretermitted Child法令では、被相続人が遺言でPretermitted Childが相続しないことを明確にしたか、その子が遺言外で扶養されているか、被相続人に別の子がいてその子の親に遺産の全部または実質的に全部を残す場合を除き、遺言またはコーディシル締結後に出生または養子となり遺言に記載されていない子は、被相続人の遺産の遺留分を受けることができます。

ここで、Aの請求は、Hが遺言を執行したときに生きていたこと、Hが遺言にAを含めなかったことから、失当となる。このルールの例外は、被相続人が子供が死んだと思っていたか、子供の存在を知らなかった場合のみである。ここではそのどちらにも当てはまらない。HとAはX州で同居していたので、HがAの存在を知っていたこと、Aが死んでいるとは思っていなかったことは明らかである。Aは未熟児ではないので、Aの遺留分請求は不成立となる。

c. カールの主張

また、Cの主張は、前期高齢者の法令に基づくものとなります。この法令については、すぐ上をご覧ください。ここで、CはHの遺言が執行された後に養子縁組をしたため、前期高齢者である。養子の場合、生まれた時ではなく、養子になった時がその時です。したがって、3つの例外のいずれかが適用されない限り、Cは遺留分を受け取ることになる。

まず、事実上、Hの遺言に「取らない」と書かれていることを示すものはない。第二に、Cが遺言の外に用意されていることを示すものはない。

しかし、Hには1人の子(A)が生存しており、財産の全部または実質的な全部がCの親であるWに贈与されているため、第3の例外により、Cは遺留分を受け取ることができなくなります。Cは、AはWの子ではないと主張するかもしれませんが、法令では、被相続人に子が1人いて、請求する子の親に財産が贈与される場合は、例外が適用さ

れるとされています。ここでは、その2つの要件を満たしているため、Cは遺留分を得ることができません。なお、もし、生きているもう一人の子供が、資産を受け取る親の子供でなければならないと法令で定められていたら、例外は適用されず、Cは遺留分を受け取ることになります。

2. フレッドの主張

フレッド (F) の主張は、有効な私的明示信託があったかどうか、あったとしても、この信託にサイ・プレの原則が適用されるかどうかにかかっている。

ヴァリッドトラスト

信託は、信託財産、受託者、受益者、遺言者の意思表示、設定、法的目的などが必要です。

プロパティ

まず、信託財産があるのは、遺言で「Hの財産の5%を信託する」となっているからです。

トラスティ

第二に、受託者の名前がないことである。信託には受託者がいなければなりません、受託者がいないからといって信託が破綻するわけではありません。したがって、裁判所は、誰かを受託者に任命することになります。

受益者

第三に、受益者の確定と確認が可能かどうかの問題となる。私的明示信託では、明確かつ確実な受益者が存在しなければならない。遺言の表面からは、受益者は存在しないので、これはFにとって問題かもしれません。Fは、それが自分であることを証明するために、他の方法に頼ろうとします。

統合や参照による取り込みは、どちらも書面や文書が必要であり、ここには書面や文書が存在しないため、機能しない。

しかし、Fは、独立の意義のある事実の法理に基づき、自己を証明することができるかもしれない。ここで問題となるのはこの事実は、遺言に及ぼす影響以外に独立した意義を持つだろうか？ 答えがイエスであれば、仮証拠が提出され、その事実が遺言の一部となる可能性があります。ここで、Fは、Hの生前に誰が一番多くHと釣り（またはスキー）をしているかは、遺言の外で独立した意味を持つ事実であると正論を述べることができます。Hがこの人と釣り（またはスキー）をするのは、お互いが好きだからであり、遺言の外で意義のある事実である。したがって、Fは、この教義に基づく受益者であることを示す証拠の提出を許されるべきである。

ただし、Fがこの要件を満たさないため、本当に受益者でない場合は、この信託は受益者不存在のため不成立となります（後述する、受益者の方へ）。

end)である。

設定者の意思表示

設定者であるHは、遺言を執行した時点で、明らかに信託を設定する現意があった。遺言の条項には、受託者に受益者への支払いを指示する指示語が用いられている。したがって、十分な意思がある。

クリエーション

信託は、生前信託と遺言信託のいずれかを作成することができます。遺言信託は、遺言に含まれる信託です。遺言信託が有効であるためには、遺言が適切な手続きで執行されている必要があります。

ここで、Hは、Hの死亡時に効力を発揮するよう遺言に信託を記載することで、遺言信託を作成した。上述したように、遺言はカリフォルニア州の遺言法に基づいて適切に執行されたものである。したがって、十分な創造があった。

法的目的

信託は、合法的な目的を果たすものでなければならない。ここでは、受益者に10年間にわたる分割払いを与えるという合法的な目的がある。この信託には違法なものはない。

したがって、信託の要件はすべて満たされており、有効な信託を信頼することができます。

Cy Pre[s]ですか？

信託の条項には、Hの人生の最後の12カ月間に最も多くHと一緒にスキーをした人に支払いが行われる、と特別に書かれていました。Fは、Hの人生の最後の12カ月間にHと最も多く釣りをし、現在、サイプレの原則を適用することを求めている。

サイ・プレの原則は、慈善信託において、設定者が一般的な慈善的意図を持っていたが、その意図を表現するためのメカニズムが挫折してしまった場合に適用される。このような場合、裁判所は、設定者の慈善的な意図を表現するための新たな仕組みを作することを命じます。

チャリタブルトラスト？

慈善信託とは、教育や芸術など、社会のために作られる信託のことです。私的明

示信託（信託財産、受託者、受益者、意思表示、設定、合法的な目的が必要）と非常に似ていますが、2つの大きな違いがあります。1つ目は、受益者が不確定であること、つまり、大規模なクラスであることです。

なぜなら、「真の」受益者は一般市民と考えられるからである。第二に、cy presは慈善信託にのみ適用され、私的表現信託には適用されない。また、「永続性禁止規則」は慈善信託には適用されないことに留意されたい。

ここで、作成された信託は、いくつかの理由から慈善信託ではありません。

まず、一般的な慈善の意図がなかったことです。信託の中には、教育などのために役立つものはなかった。この慈善的意図の欠如は、受益者が大きなクラスでないという事実によって示されている。むしろ、受益者は一人である。したがって、これは慈善信託というにはあまりにも確実である。

これは慈善信託ではないので、サイプレの原則は私的表現信託には適用されない。Fは遺産を共有することができません。

受益者不足で信託が破綻する

この信託は今後、受益者不在のため破綻することになる。Fは信託の条件を満たしていないし、他の誰も満たしていない。したがって、受益者は存在しない。受益者不在で信託が破綻した場合、設定者または設定者の相続人に有利な結果信託が発生します。結果信託は、当事者の推定される意図に基づく事実上の黙示の信託である。従って、遺産の5%はHの相続人（遺言ではWのみ）に戻ることになります。したがって、本問で示された事実関係の下では、WはHの全財産を取得することになります。

2004年7月29日(木)朝

カリフォル ニア州弁護 士試験

3つの質問にすべて答えてく
ださい。時間配分：3時間

答案は、問題となっている事実を分析し、重要な事実とそうでない事実を区別し、事件の根幹となる法律と事実のポイントを見分ける能力を示すものでなければなりません。答案は、あなたが法律の適切な原則と理論、その資格と限界、および相互の関係を知り、理解していることを示すものであるべきです。

与えられた事実に法律を適用し、採用した前提条件から健全な結論に至るまで、弁護士らしい論理的な推論ができることを証明する答案であること。単に法律を覚えていることを示すだけではいけません。

の原則に従います。その代わりに、それらを使いこなし、応用することに熟練していることを示すようにしましょう。

結論を述べるだけの答案では、ほとんど評価されません。結論の根拠となる理由を十分に述べ、すべての点について徹底的に議論してください。回答は完全なものであるべきですが、そのために必要でない情報を提供したり、法理を論じたりしてはいけません。

を解決する。

設問でカリフォルニア州法の使用を明示的に求められていない限り、一般に適用される法理論や原則に従って回答する必要があります。

2006年2月カリフォルニア州司法試験エッセイ問題と選

択された答え

このWeb出版物は、2006年2月のカリフォルニア州司法試験で出題された6つのエッセイ問題と、各問題に対する2つの選択解答を収録しています。

答案は高い評価を受け、合格した応募者が書いたものです。読みやすさを考慮し、若干の修正を加えています。解答は、著者の了解を得てここに掲載する。

質問番号	目次	ページ
1.	トーツ	1
2.	遺言・承継	13
3.	リアルプロパティ	21
4.	民事訴訟法	28
5.	契約・報酬・業務上の責任	40
6.	刑事法・訴訟法	48

質問2

ティムとアンナは10年間結婚していた。2000年、二人の結婚は法的に解消された。解散後、数ヶ月間、TimとAnnaは和解を試みたが、結局、和解には至らなかった。

2001年、和解に失敗したティムは、"私の全財産を親友のアンナに残す"という有効な遺言を実行した。その年の暮れ、アンナとの間にフレッドが婚外子として誕生した。ティムはフレッドの父親であったが、アンナはティムにフレッドの存在を知らせなかった。

2002年、ティムとベスは結婚した。結婚式の2日前、ベスはティムの遺産に対するすべての権利を放棄する婚前契約を締結した。ベスは婚前契約を締結する際、弁護士を代理人に立てていなかった。

2003年、ティムとベスの間にサラが誕生した。

2004年、ティムが死亡した。彼の遺産は、ベスと共同財産として所有している40万ドルの家の彼の持ち分と、9万ドル相当の別個の財産からなる。

Timの2001年の遺言は検認された。ベス、サラ、フレッド、アンナはそれぞれティムの遺産の分配を請求しています。

遺産はどのように分配されるべきか？議論してく

ださい。カリフォルニア州法に従って答えなさい

。

質問2に対する回答A

質問2

I. 有効な遺言の存在

最初の問題は、Timが死亡したとき、検認可能な有効な遺言を残して遺言死したのかどうかである。事実によれば、2004年にティムは死亡した[sic]。2001年、Timは有効な遺言を行い、現在検認されている。そのため、この遺言はティムの有効な遺言意思表示であると推定され、ティムはこの遺言を作成した時点で遺言能力を有していたと推定され、その恩恵の対象や個人の所有物の状況を知っており、必要な法的手続きを遵守していたものと推定されるであろう。

そのため、次の問題は、実行された遺言の条件に基づき、ティムの遺産に利害関係を有する者（ベス、サラ、フレッド、アンナを含む）が相続を行うかどうかを判断することである。

II. 遺言に基づくティムの財産の分配

死後、遺言者は、共有財産の2分の1シェアと別居財産の全部を遺贈することができる。Timの2001年の遺言は、検認の結果、全財産をAnnaに遺贈している。問題は、これによってBeth、Sarah、FredがTimの財産の一部を取得することができなくなるかどうかである。各個人および遺言がティムの遺産を相続する能力に与える影響、および□相続する場合の相続分の範囲について、順に説明します。

A. ベス

遺言の表面上、ベスはティムの遺産から何も受け取らないが、ベスは分け前を請求している。遺言の内容にもかかわらず、BethがTimの遺産の一部を受け取る権利があるかどうかは、2つの重要な問題、すなわち、1) Bethが先妻の地位を主張できるかどうか、2) 結婚前に相続権を放棄したことがTimの遺産の一部を有効に放棄したことになるかどうかに影響します。

1) 早産した配偶者

カリフォルニア州法では、遺言者が有効な遺言を残して死亡した場合、遺言執行後に結婚した配偶者に対する規定がない場合、遺言者は配偶者を遺言から除外する意図はなく、単に最新の遺言を執行するのを忘れていたのだと推定されます。

この推定は、遺言がその表面上、遺言者が配偶者を養う意図がなかったことを明らかにすること、あるいは遺言者が配偶者のために生命保険や年金の購入、生前贈与などの別の非遺言的規定を行ったことを証明することで覆すことができます。Timの遺言の条件

はとてもシンプルです。

は、TimがBethを除外することを意図していたとは、その表面上、示すことができない。また、Timは、贈与や保険の提供によって、Bethのために代替策を講じたとは思われない。唯一の証拠は、TimとBethが共有していた家が共有財産であったという事実であり、おそらくTimはその家がBethに渡るものと考えており、それで十分であろうが、彼の遺言の条項はこれに反しており、彼はすべての財産をAnnaに渡すことを示唆している。

Bethがpretermitted spouseであるという推定を覆す最後の方法は、後述するTimの遺産から相続する権利の放棄をBethが有効に実行したことを示すことである。

2) 婚前交渉の放棄について

問題は、Timの遺産に対するBethの全権利放棄が有効かどうかである。有効であれば、BethはTimの遺産に対して何ら請求することができない。このような権利放棄が有効であるためには、いくつかの要件が満たされなければならない。まず、放棄は自発的なものであり、強制によるものでないことが必要である。事実によれば、BethはTimと結婚する2日前に放棄に署名しており、Bethには放棄を検討する十分な時間がなく、□その結果、真に自発的ではなかったという推論が成り立つかもしれません。

第二に、放棄は、ベスがティムの財産とその範囲について十分に知らされた後にのみ実行されたものでなければならない。Bethがそのような知識を持たなかった場合、権利放棄は無効となる。

第三に、Bethは独立した法律顧問に代理される必要があった。彼女は契約書に署名したとき、そのような代理人ではなかったので、放棄は無効であると推定されるでしょう。Timの遺産は、上記の要因によりBethの放棄が無効であるという推定を覆すことができない限り、彼女はpretermitted spouseとして扱われます。そのため、彼女は遺留分を取得し、ティムがサラとフレッドという2人以上の生計維持者を残したため、ティムの共有財産（家）の半分と、ティムの別居財産の3分の1を取得する権利があります。

B. フレッド

問題は、フレッドが遺言後に生まれたために早産児としての地位を主張できるかどうか、したがって、遺言の条件にもかかわらずティムの遺産の分配を受ける権利があるかどうかである。

フレッドは2001年に生まれたが、遺言が執行された後であるため、ティムの遺言規定から意図せず取り残され、早産になったと主張する。フレッドは、遺言の条項には自分が意図的に取り残されたとは書かれておらず、また、相続に代わる他の贈与や献身を受け取っていないため、自分は早世したと主張する予定です。

ティムの遺産は、ティムの遺言がフレッドの母親であるアンナにすべてを残したので、ティムはフレッドのために別個の準備をするつもりはなかったと主張するかもしれない。しかし、ティムはフレッドの存在を知らなかったため、アンナへの遺贈はフレッドの世話をするためでもなかったと考えられるので、この議論は失敗する。

CAの裁判所は、男性が子供のことを知らずに亡くなった場合、その男性が子供のことを知っていたら、子供を養育しただろうと推定しています。そのため、フレッドは先順位相続人とみなされるため、フレッドはティムの別居財産の3分の1、30,000ドルに相当する分け前を得る権利があります。

C. サラ

サラは、フレッドと実質的に同じ主張をして、自分も早産児であると主張することになる。もちろん、ティムはサラのことを知っていたが、フレッドと同様に早産に対する推定を覆すことができ、ティムはサラに対して他に何も用意していなかったようなので、サラも早産児とみなされ、ティムの別居財産30,000ドルの3分の1の分け前をもらうことになる。

D. アンナ

離婚の際、元配偶者にすべてを残すような遺言は無効とされます。しかし、この場合、ティムの遺言は、ティムとアンナの結婚が法的に解消された後、さらに和解を試みた後にも執行されている。したがって、Annaが元配偶者であることが、遺言の無効をもたらすことはない。

CAの裁判所は、遺言が有効な遺産分配を行うかどうかの鍵は、遺言者の意図であると考えます。遺言は有効に執行されたので、Annaはこの遺言に基づき相続する権利がある。しかし、Beth、Fred、Sarahの請求により、Annaには何も残らない。

III. 遺留分の承継

万が一、裁判所がティムの意思を示さないとして遺言書が無効とした場合、ティムの遺産は遺留分として相続されます。その場合、再びベスは家と3万ドル（SP）、フレッドはSP、サラはSP、アンナは何も得られないこととなります。

質問2の回答B

2)

In Re Estate Of Tim (T)

ティム (T) は2004年に亡くなり、様々な人がティムの遺産を相続する権利を主張するために残しました。

遺言の要件

遺言は、遺言者が2人の証人の立会いのもと、同時に現在の遺言の意思をもって署名し、かつ、両証人が遺言者の行為の意義を理解することが必要である。ここでは、事実上、遺言が有効であったとされているので、すべての形式が満たされていたものと推定される。

ベス

ベスはTの妻であった。したがって、彼女はTの共有財産のすべてについて1/2の持分を持つ権利がある。さらに、Bethは、省略された配偶者としてTの遺産を受け取る権利があると主張することができる。

省略された配偶者

遺言書に記載されていない配偶者は、遺言書の執行後に婚姻が開始された場合、(1) 有効な婚前契約書がある場合、(2) 配偶者が遺言者の遺言による処分に代えて遺言外の財産を与えられた場合、(3) 妻が遺言から特に除外されている場合を除き、遺言者の遺産の遺留分を受ける権利があります。TとBは、検認中の遺言が2001年に執行され、TとBの婚姻が2002年であることから、Tが遺言を執行した後に婚姻したことになります。加えて、遺言における遺贈に代わる遺言外の処分はなく、Tの遺言には特にBの配偶者を除外する旨の記載はなかった。ただし、婚前契約が有効であったかどうかは問題である。

婚前契約 (Prenuptial Agreement)

Aは、弁護士によって代理されていなかったもので、婚前契約は有効でないと主張する予定です。婚前契約は、遺言者が署名した書面があり、契約締結時に配偶者が弁護士を代理人としていた場合には有効です。しかし、配偶者が遺言書に署名した時点で遺言者の財産の範囲を知っており、書面で特に弁護士への権利を放棄していた[sic]場合は、別途弁護士を立てる必要はない。

ここでは、弁護士による代理はなかった。さらに、ベスが別の弁護士をつけるよ

う助言されたこと、別の弁護士をつける権利を放棄したことを示す事実もない。

弁護士、あるいはティムの財産の範囲さえも知っていた。また、ベスはティムの財産を知る権利を放棄したわけでもない。したがって、Bethが弁護士への権利を有効に放棄したとも、故意に自発的に婚前契約を締結したとも言えない。

Annaは、婚前契約書がTのBを相続放棄する意思を示す証拠となるべきであったと主張するだろうが、カリフォルニア州の遺留分法における省略配偶者規定の例外を証明するものではないので、そのような証拠は認められないはずである。

婚前契約は無効であったため、ベスは遺留分を得ることができる。

遺留分について

婚前契約が有効でなかったと裁判所が判断した場合、残された配偶者はティムの遺産の遺留分を受け取ることになります。カリフォルニア州の遺言検認法では、配偶者の遺留分は、すべての共有財産の1/2、遺言者が複数の子を抱えて死亡した場合は遺言者の個別財産の1/2とされています。ここで、Timは2人の子供と共に死亡する。TはFred（非嫡出子）のことを知らなかったが、もし彼の遺言が検認されていれば、FredはTの嫡出娘であるSarahとともに遺言に基づく自分の取り分を回収できたであろう。

結論

したがって、婚前契約が無効であると判断された場合、ベスは、以下のことを主張すべきです。

のTの別居財産と遺言者の1/2の共有財産、または、すべてのTの共有財産である家屋の持分40万ドルと、Tの個別財産である3万ドルである。そうであれば、遺言に基づく他のすべての贈与は、この金額で減額されることとなります。しかし、婚前契約が有効であると判断された場合、ベスには何も与えられないこととなります。

サラ

サラは遺言から取り残された子供であり、遺言の執行後に誕生した。したがって、Sarahは検認法に基づく懈怠子規則の発動を試みることになる。

省略された子供たち

遺言で子供が省略されている場合、また、最後に執行された遺言や共付遺言の後に子供が生まれた場合、子供は遺留分を主張することができる。遺贈の代わりに遺言の外に財産を残された場合、遺言に相続放棄の意図があった場合、または遺言執行時に少なくとも1人の子供が存在し、遺言者が実質的にすべての財産を先天性の子供の親に与えた場合を除き、遺留分を徴収することができます。

ここで、サラは2001年の遺言の実行後に生まれたため、遺言には含まれていない。さらに、彼女は遺言で相続放棄されたわけでもなく、遺言での遺贈に代えて遺言外で何かを与えられたわけでもない。最後に、ティムが遺言を執行した時点では、子供は存在しない。仮にAが、遺言執行時に子供は妊娠中であったからプロメテウスの子供であると主張したとしても、ティムは遺言によりサラの親に実質的な財産を残していないのだから、この主張には欠陥がある。

したがって、サラは遺言に基づく遺留分を徴収する必要がある。

遺留分

上記のように、遺言者が死亡した時点で2人以上の子供またはその子供がいる場合、配偶者は遺贈により遺贈者の個別財産の一部を請求することができます。検認法第240条では、遺贈されたすべての財産は、次の生存世代（サラとフレッドの世代）に引き継がれることになっています。その時点で、財産は当時生きていた、あるいは生きていなかったすべての子供に平等に分けられるはずですが、フレッドとサラの2人は生きているので、両者とも、遺留分により残された別個の財産の1/2を受け取るようになります。

結論

したがって、サラもティムの別個の財産である\$90,000のa、つまり\$30,000を受け取る必要があります。

フレッド

フレッドは、遺言から取り残され、事実によればティムの遺言執行と同じ年の後半に生まれたので、取り残された子供であると主張することもできる。フレッドは、ティムの「遺言」に含まれることも、その中で相続放棄されることもなく、また、遺言にある財産に代えて遺言外の財産を提供されることもなかった。

しかし、Aは、遺言の処分時にティムの財産の実質的な全部がフレッドの母アナに残されたものの、ティムには遺言の執行時に少なくとも1人の子が存在していなかったから、この省略子に関する例外規定が適用されないと主張するかもしれない。そうであるから、遺言者が遺言執行時に少なくとも1人の子を有し、その子の親に遺言の下での実質的な財産を残した場合、その子を省略された子として除外するという第3の例外は適用されない。

したがって、フレッドは、省略された子として、財産の遺留分を得る権利がある。

結論

もし、FredがTimの子供であることが示された場合、FredはTimの遺産から30,000ドルを省略された子供として回収する必要があります。

アンナ

アンナはティムの元妻で、Tの遺言に[利害関係がある]と主張している。アンナはTの遺産の遺贈を受けた。遺留分とは、遺言の下で他に遺贈されていない、あるいは検認法の省略された子供や配偶者の規定によって取得されていないすべての財産を遺贈することである。

遺言に基づくAnnaの取り分は、BethとFredへの分配に依存する。Bethとの婚前契約が有効であれば、AnnaはTの家の1/2持分と、遺留分法の下でBethに渡るはずだった3万ドルの別居財産を回収することになります。さらに、Fredが遺留分法で回収できない場合、AnnaはFredの\$30,000を回収することになる。

しかし、Annaの遺言に基づく分配は、Beth、Fred、Sarahが遺言に基づき回収した金額だけ減額されます。3人全員が遺言に基づいて回収すれば、検認に残された遺産は何もなくなり、[そして]Tの遺言の遺留分条項に基づくAnnaの分配はすべて無に帰する[...]。

離婚の際の遺言の条件解消について

通常、遺言書の条項は離婚時に解消されますが、配偶者への離婚成立後に作成された遺言書は解消されません（中略）。この遺言の条項は、離婚後に実行されたもので、アンナを配偶者ではなく友人として名乗っています。したがって、離婚時には存在しない条項であるため、解消されない。

コミュニティ・プロパティ

配偶者は、遺言者の共有財産の全部の1/2を取得する権利がある。しかし、AnnaはTの死後、Tの配偶者ではありませんでした。したがって、共同体は存在せず、したがって、共同財産も存在しない。

結論

Aが遺言で回収するかどうかは、フレッドに省略された子の法令が適用されるかどうか、ベスとの婚前契約により省略された配偶者の例外が適用されないかどうかによります。省略された配偶者または子のいずれかが遺言に基づいて回収しない場合、これらの人物に取られなかったすべての財産は、遺贈者としてアンナに行くべきである。



カリフォル
ニア州弁護
士試験

エッセイの質問と
セレクトेटドア

ンサー 2006年7

月

質問6

2003年、障害を持つ高齢者を専門にケアする慈善療養型病院「ハッピーホーム」の患者であるトムは、タイプライターで書いた遺言書の執行を、付き添いのリリーに依頼しました。トムはひどい震えに悩まされ、自分の名前にサインすることが困難でした。もう一人の付き添い人がいる中、トムはリリーに自分の名前と "my will "の日付をサインするように指示した。彼女はその通りにして、その書類に日付を入れた。トムの要請により、リリーともう一人の付添人は、互いの立会いのもと、証人として署名した。

2003年の文書には、「私は姪のナンに10万ドルを贈ります。そして、ハッピーホームは障害を持つ高齢者のために重要な仕事をしているので、私は、障害を持つ高齢者の継続的なケアのために、私の遺産の残りをハッピーホームに信託する。リリーが受託者として行動する。"

2004年、障害を持つ高齢者のためにもっと努力する必要があると考えたトムは、リリーに新しい遺言書の作成を依頼し、その執行を自分が行うことを告げた。彼女は、トムが指示した内容を含む遺言書を作成した。そして、トムはリリーに、証人として2人の付添人を自分の部屋に送るように頼んだ。最初の侍従が到着して立ち会った後、トムはこの文書の趣旨を説明し、文書の末尾に自分の名前をサインした。その後、1人目の係員は証人として署名し、部屋を出た。その直後、2人目の係員がトムの部屋にやってきて、すぐに証人として文書に署名した。リリーは、トムや係員がサインをしたときには、その場にいなかった。2004年の文書には、「私はこれまでの遺言をすべて取り消し、私の全財産を、障害を持つ高齢者の継続的なケアのために、ハッピーホームに信託する。リリーは受託者として行動する。"

2005年、トムは100万ドル相当の遺産を残して亡くなった。

トムが亡くなった当時、トムの住んでいた郡には、ハッピーホームとサニーサイドという2つの療養病院しかなかった。トムの死後数日して、ハッピーホームは廃業してしまった。サニーサイドも慈善療養病院として、あらゆる年齢の障害者をケアしている。

Sunnysideは、Tomの遺産の受取人をSunnysideに代えることを裁判所に申し立てました。

1. トムの遺産について、ナンに権利があるとすれば、どのような権利か。議論してください。カリフォルニア州法に従って答えなさい。

2. Tom の遺言の受益者として Sunnyside を Happy Home に代えるという Sunnyside の要求について、裁判所はどのように裁定すべきか。議論してください。

質問6に対する回答A

6)

質問6

1) ナン（以下「N」）はトム（以下「Ts」）の遺産に対してどのような権利を持つのでしょうか？

最初の問題は、NがTの遺産について何らかの権利を有するかどうかである。Nは、Tの最初の仮の遺言では受益者に指定されていたが、Tの2番目の仮の遺言では受益者に指定されていない。したがって、問題は、最初の遺言が第一審で有効であったかどうか、また、有効であった場合、第二の遺言が最初の遺言を有効に取り消したかどうかである。

ウィル1号

正式な認証付き遺言の形式について

遺言書1はタイプライターによる遺言書であった。したがって、遺言書1は、正式な証明付き遺言書として必要な要件に適合する必要がある。

カリフォルニア州法では、正式な証明付き遺言は以下の通りです。1) 遺言者、遺言者の指示により遺言者の立会いのもとで署名した者、または遺言者の保佐人が署名したものでなければならない。証人は遺言の内容を知る必要はありませんが、遺言者の遺言の執行に立ち会っていることを知らなければなりません。

シグネチャー

ここで、Tは、障害の結果として、リリー（以下、「L」）に遺言の執行を依頼した。Tは重度の振戦があり、自分の名前にサインすることが困難であったため、Lにサインを依頼した。LがTの立会いのもと、Tの指示により遺言書に署名したことから、上記の第一条件（遺言者が遺言書に署名すること、または遺言者の指示により他人に署名させること）を満たすと考えられる。

アテンション

次に、遺言が利害関係のない2人の証人によって有効に認証されたかどうかの問題となる。ここでは、遺言書に署名した際に、Lの他に1名の付添人が同席していた。問題は、Tの指示で遺言書に署名したLが、利害関係のない証人と言えるかどうかである。一方では、LはTの指示でTのために遺言書に署名したのだから、単にTの身代わりになっただけだと主張することもできる。その意味で、Lは遺言書の署名を適切に証明できる利害関係のない証人とは言えないと思われる。しかし一方で、Lは単にTのために遺言書に署名しただけなので、以下の2つの役割を果たすことができると主張することができる。

能力：証人として、Tの付添人として。ここで採用されているこの見解によれば、Lは適切な証人であった。したがって、遺言が署名されたときに共に出席していた利害関係のない2人の証人によって遺言が有効に目撃されたので、上記の第2要件も満たされることになる。さらに、Lともう一人の付添人は、Tの生前に遺言書に署名しているので、上記第4の要件を満たすことになる。したがって、これらの事実から、遺言書1は有効に執行された正式な遺言書であると思われる。

利害関係のない証人

上記のように、Lが適切な証人であったと仮定すると、次の問題は、遺言書1の条項に基づいて受託者に指名されたLが、本当に利害関係のない者とみなされるかどうかである。

一般的なルールとして、受益者は、遺言に証する目的で利害関係のない証人としてみなされることはありません。しかし、証人が利害関係者とみなされたとしても、遺言の有効性には影響しません。むしろ、これは単に、利害関係のある証人が、遺言がない場合に権利を有するであろう遺産の取り分（すなわち、遺留分）のみを取得することを意味します。

ここで、Lは、ハッピーホーム（以下、HH）への信託の受託者として名を連ねていた。したがって、Lは利害関係人であると主張することができる。したがって、この推論では、遺言は有効に認証されていないと主張されるかもしれない。しかし、カリフォルニア州法では、信託の受託者は、遺言の受益者とはみなされません。むしろ、受託者は受託者であり、個人的な立場で遺言に基づく贈与を受けることはない。したがって、Lは利害関係証人とはみなされず、Tの最初の遺言の執行に適切に立ち会うことができる。

Will 2がWill 1に与える影響

NがTの遺産に対して何らかの利益を有するかどうかを検討する前に、まず、Tの第2次仮意志（以下「遺言2」）が、上述のように有効な遺言であった可能性が高い遺言1に対する影響を検討しなければならない。

後発の楽器による失効

遺言者は、事後的な遺言やコーディシル（前の遺言を修正、取り消し、改訂する遺言文書）を実行することで、自分の遺言を取り消すことができます。前の遺言を撤回するためには、遺言者はその意思を示さなければなりません。さらに、有効な撤回を行うためには、2つ目の遺言書もカリフォルニア・プロベート・コードに基づき、上記のような手続きを踏んでいる必要があります。

ここで、遺言書2もタイプライターによる遺言書であった。Tは自分で遺言書をタイプしたわけではないが、Lに指示してタイプさせた。しかし、まず問題となるのは、Lが、むしろ、以下のように考えて、これが有効かどうかである。

遺言書を打ったのはTである。事実によれば、Lが遺言書をタイプし、その中にはTが指示した条項が含まれているので、LはTの立会いのもとで遺言書をタイプしたと考えるのが妥当であろう。これが妥当であろう。

アテンション

次に、遺言書2が利害関係のない2人の証人によって有効に認証されたかどうか問題となる。ここで、Lは、Tの部屋に2人の付添人を派遣し、証人となってもらった。最初の付添人が到着した後、Tは遺言書を執行することを説明し、最初の付添人のみの立会いで遺言書にサインをした。二人目の証人が部屋に入る前に、一人目の証人がサインをした。これは、証人が互いの立会いの下で署名する必要はないので、カリフォルニア州の法律では適切なことである。しかし、Tが遺言書に署名したとき、2番目の係員はその場にいなかったため、遺言者が遺言書に署名するときに両方の証人が立ち会う必要があるカリフォルニア州法では、遺言書は無効となる。また、2人目の係員はTの遺言書に署名した際、素早く署名しており、事実上、自分が何に署名しているのか分かっていなかった可能性が高いと考えられる。上記のとおり、証人は遺言者の遺言の内容を知っている必要はないが、遺言の執行に立ち会っている事実があることを知らなければならぬ。Tはこのことを二人目の係員に説明していないため、この要件も欠けると思われる。

まとめると、遺言2は以下の理由で有効に執行されなかった。1) Tが遺言に署名したとき、2人の証人はともにその場にいなかったこと、2) 2番目の証人は、自分が目撃しているものが実際にTの遺言であることを知らなかったと思われること。

効果

遺言2は有効に執行されていないため、有効に執行された遺言1を法的に取り消すことはできない。従って、Tは遺言書2において、以前のすべての遺言書を取り消すと明示したが、Tが明らかに反対の意思を持っていたにもかかわらず、この声明は効力を持たない。その結果、遺言書1は存在し続け、2005年のTの死亡時にその条項に従って検認されることになる。

N's Gift Under Will 1

遺言1では、TはNに100,000円を遺した。これは、単なる金銭であり、腐敗しやすいので、一般的な贈与とみなされるでしょう。つまり、この贈与は、Tの死亡時にTの遺産に残っているどの資金からも満たすことができる。Tの死亡時の遺産が100万ドルであったことから、Nは遺言1においてNに贈与された100,000ドルを受け取る権利がある。

2) サニーサイド (以下、S) がTの遺言の受益者をHHに代えてSにするよう求めたことについて、裁判所はどのように裁定すべきか。

遺言1により、Tは遺留分 (100万円の遺産からNへの10万円を除いたもの) を、障害を持つ高齢者の継続的な世話のためにHHに信託した。Lが行動することになった。

を信託の受託者とする。

トラストプリンシプル

信託とは、ある人（受託者）が、ある人またはあるグループの人（受益者）のために財産（信託財産）を保有する、財産に関する受託関係であり、法的目的のためにこれを創設するという意思表示から生じるものである。従って、信託には次のことが必要である。1) 有効な目的のために信託を設定する人（設定者）の意図、2) 財産（信託財産）、3) 受益者、4) 受託者、5) 受託者への信託財産の有効な引渡し。設定者は、信託の宣言または信託譲渡を行うことにより、生前信託を設定することができる。また、設定者は、遺言の規定によって信託を設定することもできる（遺言型信託）。

ここで、Tは遺言の規定によって信託を設定した。このように、Tは、自分の死後に効力を発揮する遺言信託を作成した。この信託は、Tの遺留分という財産を有していた。また、信託には受益者であるHHと障害者である高齢者がいた。信託には受託者であるLがいた。信託は、有効で法的な目的、すなわち高齢者をケアし助けるために作成された。そして、Tは信託を作成する意図を表明し、信託財産はTの死亡時に遺言によって有効に交付された。

チャリタブルトラスト

次の問題は、Tの遺言で作られた信託の性質に関するものである。

慈善信託とは、公衆の健康と福祉に役立つことを目的として設定される信託のことです。この信託は社会に利益をもたらすものであるため、受益者を容易に確認することはできません。つまり、私的な明示信託とは異なり、設定者は、信託の設定から利益を得る特定の個人を指名しません。むしろ、信託に記載されたクラスに属するすべての人が、その利益を受けることになる。

ここで、Tは遺言1において、遺留分を障害高齢者の継続的な介護のためにHHに贈与した。特定の受益者が指定されていないため、受益者は療養型介護の資格を有する障害高齢者全員であると主張することができる。したがって、HHへの信託は、特に高齢者のために提供することでより大きな公益に貢献することから、慈善信託と見なされる可能性があると思われる。

サイプレスト

次の問題は、HHの廃業が信託の有効性に及ぼす影響である。cy pres (as near as possibleの意)の原則に基づき、裁判所は、信託の受益者ではなく、信託の仕組みを変えるだけでよいのであれば、そうでなければ破綻するような慈善信託を有効にする権限を有しています。裁判所は、設定者が一般的な意思を表明している場合にも、慈善信託を有効にするサイ・プレの権限を有しています。

特定の慈善的な意図とは対照的に、慈善的な意図がある。

ここで、Sは、Tの最終目標は障害者である高齢者のケアを提供することであったため、Tには一般的な慈善的意図があったと主張するかもしれない。したがって、Sは、裁判所がサイ・プレスの権限を行使して、SをHHに代えるだけで、Tの意思を実現できると主張するだろう。しかし一方で、TはHHの居住者である高齢者にのみ信託の利益を与えるという特定の慈善的意図を持っていたと主張することもできる。この見解では、Tの意図は、HHに居住する高齢者のみに利益を与えることであり、Tの居住する郡の療養施設に居住するすべての高齢者に利益を与えることではないので、裁判所は信託を修正して効果を与えることはできないだろう。Tは、遺言書を作成した時点でSが存在することを知っていたと思われ、郡には2つの療養施設しかなかったため、裁判所は、TがHHに居住する者のみを利益とすることを意図したと判断する可能性が高い。従って、裁判所は、サイ・プリズの権限を行使してTの意図から逸脱することはないだろう。したがって、裁判所は、Tの遺言が検認された時点でHHはもはや存在しなかったため、HHへの慈善信託は失敗したと判断する可能性が高い。その結果、裁判所は、信託財産（Tの遺産の遺留分）をTの遺産に再譲渡し、彼女の相続人に分配する結果信託を宣言することになるでしょう。したがって、Tの姪であるNは、遺言1により既に受け取った100,000ドルの一般贈与に加え、Tの遺留分の遺留分も受け取ることになると思われる。

質問6の回答B

6)

質問6

後述するように、NanはTomの遺産から\$100,000を取得する可能性が高いです。2003年の遺言の有効性

トムは2003年の遺言は、タイプライターで書かれた正式なものでした。そのため、有効であるためには、認証された（または印刷された）遺言の要件を満たす必要があります。

遺言を作成する能力

カリフォルニア州法では、遺言を作成するためには、遺言者となる人が、①18歳以上であること、②自分の財産の範囲を理解できること、③誰に財産を譲るのかを理解できること、④遺言を作成する意思を持っていることが必要です。ここで、トムは療養型老人ホームに入所しているため、明らかに18歳以上である。また、贈与と受贈者を特定できたことから、(2)と(3)を満たしていることがわかります。最後に、トムには遺言を作成する意思もあったようです。したがって、トムは2003年に遺言を作成する能力を有していたことになる。

認証された遺言の要件

認証された遺言は、(1) 書面であること、(2) 遺言者または遺言者の指示により遺言者立会の者が署名したこと、(3) 少なくとも2人の証人の立会いのもとに署名または署名確認したこと、(4) 証人が遺言の執行または承認に立ち会っていることを理解していなければなりません。

書面であること。ここでは、遺言書はタイプライターで書かれていたので、この証明付き遺言の要件は満たされています。

遺言者または遺言者の指示により署名する。ここで、Tomは自分の名前に署名することが困難であったが、個人的な付き添い人であるLillyに遺言書の執行を手伝ってもらうよう頼んだ。TomはLillyに指示し、彼の立会いのもとで署名と日付を入れたので、遺言は有効に署名されたことになる。

少なくとも2人の証人の同時立会いの下での署名または署名の確認。認証された遺言が有効であるためには、少なくとも2人の利害関係のない証人の立会いのもとで署名されるか、または遺言者によって署名が承認されなければならない。ここでは、リリーともう一人の付添人の両方が、お互いの立会いのもと、トムの指示による署名の証人となったので、この要件は満たされている。

遺言執行の証人の理解。最後に、証人が理解しなければならないのは

トムが遺言を執行していたこと。ここでは、リリーともう一人の係員がともに、リリーがトムの名前に[中略]署名し、"my will"と日付を入れるのを聞いています。したがって、この要件も満たされている。

リリー社を利害関係人証とする可能性

遺言が有効に執行されるためには、少なくとも2人の利害関係のない証人、つまり遺言の下敷きにならない、あるいはその結果に利害関係を持たない証人の署名が必要です。ここで、2003年の文書では、トムの遺留分は、リリーを受託者とするハッピーホームに信託される。証人は、受託者の義務の役割で法的所有権のみを受け取る場合は、利害関係証人とはならない。ここでは、Lillyは信託の受託者としての役割を担っており、それゆえ受託者としての立場でのみ名前が挙げられています。しかし、Lillyがハッピーホームの従業員である限り、Lillyは受託者としての義務を超えて、信託に対して利害関係を持つ可能性があることは議論の余地がある。しかしながら、提示された事実からは、リリーが受託者としての役割を果たせず、利害関係のない証人であり続けることができないという疑いを抱かせるようなものはない。したがって、トムの2003年の遺言は、2人の利害関係のない証人を立てて有効に執行された。

2004年の遺言の有効性

2004年、トムは2003年の遺言を取り消し、10万ドルをナンに渡す代わりに、トムの全財産をハッピーホーム信託に渡すという、別の認証済み遺言を実行しようとした。この遺言は認証された遺言であったため、2003年の遺言と同じ要件に適合する必要があった。

証明付き遺言の要件に従わない場合

トムが遺言を作成する法的能力を失ったことを示すものはない。また、2004年の遺言は、トムの指示によりリリーがタイプし、トム自身が署名したものである。

少なくとも2人の証人の同時立会いのもとで署名しないこと

しかし、2004年の遺言は、同時にお互いの前にいた2人の証人の前で署名されていないため、有効に執行されていない。ここでは、最初の係員がトムの署名を目撃した後に証人として署名し、2番目の証人が署名するために入ってくる前に部屋を出て行っている。さらに、2人目の係員は、トムの署名やトムが署名したことを認めたことを目撃していない。また、リリーは、トムの署名や係員の署名に立ち会うことはなかった。したがって、遺言の執行は、2人の証人の同時立会いのもとで署名されるという要件を満たしていない。その結果、2004年の遺言は無効である。

認識不足 by 2nd 遺言の証人

また、2人目の証人は、トムが遺言を執行していることを理解していないようであった。トムはリリーに、証人として2人の付添人を自分の部屋に送るよう頼んだが、リリーが証人たちに、自分たちが遺言執行の証人であると説明したかどうかは不明である。ここで、最初の係員は、トムが遺言を執行していることを理解していたが、その理由は

トムは文書の趣旨を説明した。2番目の係員はその情報を受け取らず、「素早く」文書に署名して立ち去った。したがって、遺言の執行もこの理由で失敗し、2004年の遺言はこの理由でも無効である。

2004年遺言の不履行による影響について

トムは2004年の遺言を有効に執行できなかったため、2004年の遺言に含まれる撤回が有効でなかったため、2003年の遺言が有効となる。したがって、トムの2003年の遺言は検認手続きに入り、その結果、ナンは100,000ドルを相続することになる。

チャリタブルトラスト

信託。信託とは、受託者が有効かつ合法的な目的のために、信託の受益者である他人のために、財産（または信託財産）の法的所有権を保有する受託者関係である。ここでは、トムの遺言により、トムの死後、（生前信託、つまりトムが生きている間に作られた信託とは異なり）障害者の高齢者を継続的にケアするためのハッピーホームへの信託が作られました。

私的明示信託は、(1) 委託者、(2) 受益者、(3) レジ（信託財産）を必要とします。(4) 信託を設定する設定者の意図 (5) 法的目的。これに対し、慈善信託は、特定の誰かの個人的な利益になるのではなく、社会全体の利益になるという点で、私的明示信託とは異なる。ここで、トムの信託は、障害者の高齢者支援という法的目的のために、リリーを受託者とする信託で遺留分を遺贈することにより、上記を遵守している。

ここでは、トムの信託は、"障害を持つ高齢者の継続的なケアのために"ハッピーホームに託されます。一般に、社会は、その構成員の中で最も恵まれない人々（障害を持つ高齢者を含む）がケアされることによって利益を得る。したがって、この信託では、ハッピーホーム（およびハッピーホームがケアする高齢者）を特定の受益者として指定していますが、実際には社会全体に利益をもたらす慈善信託を作成することを意図しています。

サイプレスト

Cy presは、慈善信託の設定者の一般的な慈善の意図を実現するために、裁判所が発動できる衡平法上の救済措置である。サイ・プレとは「可能な限り近い」という意味で、裁判所は、設定者の当初の希望がもはや不可能な場合、慈善信託の直接の受益者や目標を変更し、当初の目標や受益者にできるだけ近い別のものに置き換えることができる。ここで、ハッピーホームはトムの死後数日で廃業し、サニーサイドはあらゆる年齢層の人々に恩恵を与えるが、別の慈善療養型病院である。したがって、Tomの信託は、信託を存続させるために裁判所がcy presを与えるという介入をしなければ、Happy Homeがもはや存在しないため、さもなければ破綻することになる。

一般的または特定のチャリティーの意図

サイ・プレを適用するためには、裁判所は、内在的証拠（信託証書など）と外在的証拠の両方を用いて、トムが信託を設定する際に一般的な慈善的意図を持っていたかどうか、あるいは特定の意図を持っていたかどうかを判断しなければなりません。もしトムがハッピーホームのためだけ、あるいは高齢の障害者のためだけという特定の慈善的意図を持っていた場合、裁判所はサニーサイドを受益者に代えることを認めず、結果信託が適用されることとなります。一方、Tomが一般的に障害者のためという一般的な慈善的意図を持っていた場合は、Sunnysideを代用することで信託の破綻を防ぐためにcy presが発動される可能性があります。

ここで、トムは "障害者高齢者の継続的なケアのためにハッピーホームに "という信託を設定した。トムは、この信託がハッピーホームの障害者である高齢者のみに利益をもたらすものであるとは明言していないため、これだけでは、障害者である高齢者の継続的なケアに利益をもたらすという一般的な慈善的意図を示唆しているといえるだろう。一方、Tomは、Sunnysideがあらゆる年齢の障害者を支援しているのに対し、信託が高齢者のためになることを明記している。しかし、サニーサイドはトムが住んでいた郡で唯一の療養型病院であり、たとえそれが障害者である高齢者のためであっても、一般的な慈善の意図を実現するために最も近い存在である可能性は大いにある。

もちろん、上記は、トムが他者に対して行った発言など、他の外在的な証拠に左右されるものである。しかし、Tomに一般的な慈善の意図があり、SunnysideがTomの意図を実現するための次善の選択肢であると仮定すると、裁判所はCy presを発動してSunnysideをHappy Homeに置き換えることとなります。

2007年2月カリフォルニア州司法試験エッセイ問題と選

択された答え

本書は、2007年2月のカリフォルニア州司法試験で出題された6つのエッセイ問題と、各問題に対する選択解答2つを収録しています。

掲載された答案は、合格者が書いたもので、良好な成績を収めたものです。ただし、読みやすくするため、書き写す際にスペルや句読点に若干の修正を加えています。ここに掲載するのは、著者の了解を得たものである。

質問番号	目次	ページ
1.	リアルプロパティ	1
2.	企業／プロフェッショナルとしての責任	9
3.	刑事法・訴訟法	18
4.	遺言・承継	29
5.	けんぽう	37
6.	エビデンス	46

質問4

2001年、カリフォルニア州に住むトムは、有効なタイプライターと立会いのある遺言を実行しました。当時、TomはWynnと結婚していた。また、トムには、亡くなった妹スーの子供である2人の甥、ノームとマットがいた。

トムの遺言では、次のような処分がなされた。

記事1：私は友人のフランクに1万ドルを遺す。

第2条：私はベータ社の株を友人のフランクに遺す。第3条：私は8万ドルを妹スーの問題に遺す。

第4条：私は、妻に遺留分を残す。

第1条の10,000という数字が消され、10,000という数字の上に12,000という数字がトムの手書きで書かれていました。12,000ドルの横にはトムが手書きで "Okay. 2/15/02." と書いていた。

2003年、トムとウインの間に子供、コールが誕生した。

2004年、マットは交通事故で亡くなりました。マットの遺族は、子供のリンとキムである。

トムは2005年に亡くなりました。トムには、ウイン、コール、ノーム、フランク、そして孫娘のリンとキムが残されました。トムが亡くなったとき、トムは別個の財産として、次のものを所有していた。

現金で500,000ドル。また、トムの名義で、ウインと結婚している間に稼いだお金で購入したベータ社の株100株も持っていた。ベータ社の株式は、トムの死後、1株あたり1ドルで評価されていた。

Wynn、Cole、Norm、Frank、そして孫のLynnとKimは、Tomの遺産に対してどのような権利を持っているか（もしあれば）。議論してください。

カリフォルニア州法に則って回答する。

質問4に対する回答A

4)

1. 分離型財産と共有型財産の比較

トムの相続人に対する分配は、少なくとも部分的には、死亡時の財産がトムの個別財産か共同財産かに分類されることによって支配されることになります。

a. ベータ版ストック

ベータ社の100株はトムの名前だけでタイトルが付けられており（中略）通常、その株は彼の個別の財産であると推定されます。しかし、この株はウィンと結婚している間に稼いだお金で購入したものであり、共同財産である。したがって、ベータ社の株式100株は、共同財産である。トムは共有財産の1/2部分しか遺贈できないので、ベータ株の1/2、つまり50株しかフランクに遺贈できない。

b. ザ・キャッシュ

Tomが死亡時に所有していた\$500,000は、この事実パターンでは彼の別個の財産と表示されている。500,000ドルを共有財産とみなすべきことを示すような事実は存在しない。したがって、Tomは自分の別個の財産を自分の好きなように自由に考案することができる。

2. フランク

遺言は、2002年に述べたように、その表面上、フランクに12,000ドルとベータ社の株式100株すべてを残す。前述の通り、ベータ社の株式100株は共有財産であり、トムは共有財産に対するウィンの1/2持分を贈与することはできないので、贈与できるのはせいぜい50株である。また、トムは100株すべてを贈与する意向を示したが、それはできないので、贈与はトムが株式に対する1/2の共有財産権のみを贈与したものとして扱われる。したがって、フランクはベータ社の株式50株を受け取ることになる。なお、ベータ社の株式は現金価値を持っていますが、特定遺贈であるため、その価値はありません。

つまり、特定の財産を特定することで、フランクは現金同等物ではなく、実際の株式を受け取ることになります。

フランクの遺言は、原形ではフランクへの現金遺贈が1万ドルとなっていたが、その後2002年に増額を試みている。通常、遺言者は遺言の一部を取り消すことができます。遺言者がこれを実現する方法の1つは、遺言の一部を抹消すること、つまり取り消そうとする部分を消すことです。しかし、遺言者は、必要な手続き、すなわち、利害関係のない2人の証人が同時に立ち会い、遺言書にも署名することで遺言者の署名を認めるという手続きを踏まなければ、遺言書の条項を増やすことはできません。また、カリフ

オルニア州では、証人を必要とせず、遺言者が遺言書に署名し、重要な条項を遺言者の自筆で書くことを要求するホログラフィック・ウィルを認めています。この試みでは

2002年の変更に対応するTomの署名がないため、増額はホログラム遺言として認められない。したがって、この増額分は無効である。

しかし、このような状況では、従属的関連撤回（DRR）の原則が適用されます。DRRは、遺言者が、その後の遺贈が有効であると誤解しながらも信じて、遺言書または遺言書の条項を取り消す場合に適用されます。ここでは、Tomが\$10,000から\$12,000への増額が有効であると信じていたことは明らかであり、Tomに\$10,000の遺贈を取り消す意図があったことを示すものはない。DRRを適用する場合、裁判所は遺言者の真の意図に目を向けるべきであり、この場合、Frankは上記の50株に加えて、Tomの遺産から10,000ドルを受け取るべきである。

3. スーさんの課題

トムは8万ドルの遺贈の処分は、それらの問題の代表性に基づいて決定される。Sueには、NormとMattという2人の子供がいた。2005年にTomが亡くなる前に、MattはLynnとKimという2人の子供を残して亡くなりました。Norm、Lynn、KimはすべてSueのissueである。しかし、\$80,000の分配は単純に3人で分けることはできません。Norm、Lynn、Kimの3人は、程度の異なる問題です。程度の異なる問題に直面した場合、遺贈は代理人によって分配されなければならない、代理人は遺贈の資格を有する被相続人に最も近いところで決定される。ここでは、NormとMattはLynnとKimより程度が近く、Normはまだ生きていますので、\$80,000の遺贈はそのレベルで分配されなければなりません。したがって、50%、つまり\$40,000がNormに分配されることとなります。残りの50%、つまり\$40,000は、マットの代理人に基づいてリンとキムに分配され、したがって彼らはそれぞれ全体の25%、つまり\$20,000を受け取ることとなります。

4. コール

コールはいわゆる「先順位相続人」で、トムがすべての遺言書を執行した後に生まれたことを意味します。一般的には、遺言者が相続放棄を意図していたという明確な表現がない限り、子供は、父親が遺言を残さずに死亡した場合に受け取るはずだった取り分を受け取る権利があるとされています。もしTomが遺体で死亡していた場合、ColeはTomの別個の財産を受け取る権利があったはずですが、しかし、遺言によって子供の親である配偶者に実質的にすべての遺産が残された場合、先順位相続人に関する一般的なルールに例外があります。ここでは、Tomは、妻でありColeの母親であるWynnに遺産の遺留分を残した。後述するように、Wynnは別個の財産である\$410,000を受け取る権利があるため、Coleは前期相続人としての取り分を受け取る権利はない。

5. ウィーン

トムの死亡時、ウィーンはトムの配偶者であったため、ウィーンはすべての共有財産の1/2を取得する権利があり、トムが「寡婦の選択」を行い、彼女が同意しない限り、彼女の

半分を遺贈することはできない。この場合、財産は2つだけで、100株のベータ社と50万ドルである。上述したように、100株あるベータ株は共有財産であり、トムは自分の持分1/2を遺贈する権限しか持っていませんでした。したがって、100株のうち1/2が

トムがフランクに贈与しようとした株式は実際にはウインのものであり、トムはその半分をフランクに贈与することができない。したがって、ウインはベータ社の株式50株を取得する権利がある。

50万ドルについては、トムの別個の財産であり、トムはそれを好きなようにdeviseすることができる。トムの遺言の遺留分条項では、トムの遺産の遺留分はウインに渡すと定められています。この場合、彼の遺留分は41万ドル（50万ドル-8万ドル-1万ドル）であり、すべてウインに渡る。

まとめ

フランク：10,000ドル+ベータ株50株 ノ

ーム：40,000ドル

リン 20,000

ドル キム

\$20,000

ウイン41万ドル+ベータ株50株 コール

\$0

質問4の回答B

ウィン

ウィンの最初の問題は、ベータ・コープの株式の性質を決定することである。

カリフォルニア州は共有財産の州であるため、当事者の資産の性質を決める必要がある。共有財産（CP）とは、婚姻中に配偶者のどちらかが労働によって得た財産のことである。分離財産（SP）とは、配偶者が結婚前に所有していた財産を、永久分離後に取得したもの、または贈与、遺贈、遺贈によって取得したものである。

財産の性質または特徴は、財産の出所、その特徴を変えるような当事者による行為、および法定の推定に依存します。

ここで、ベータ社の株式は、トムがウィンと結婚している間に得た収入で取得したものである。婚姻中に得た利益は配偶者の労働力であり、婚姻中の利益はCPであると推定されるからである。したがって、Tomが購入した株式はCPである。株式はCPであり、そのような状態であってはならないことを示す両当事者の行為がなかったことから、株式は1/2トムのもの、1/2ウィンのものとなる。

したがって、ウィンはベータ・コーポレーションの株式の1/2（50株）を取得

する権利を持つことになる。遺留分

遺留分とは、遺言者の財産のうち、遺言で他に処分されなかった残余の財産のことである。トムの遺言では、ウィンは遺留分を得る権利があり、トムの遺言のすべての贈与が有効であれば、ウィンの別財産の現金41万ドルとなる。

コール

Coleは遺言で何も残されていないので、**Pretermitted Child**として請求する必要があるま

す。早世した子供

早世した子供とは、すべての遺言書が執行された後に生まれたり養子になったりした子供のことで、早世した子供は、遺言がなかった場合に受け取るはずだった財産と同等の財産を受け取ることができます（遺留分）。ただし、遺言書の表面から意図的に除外された場合、遺言書の外で養育された場合、または遺言者の財産の大部分が未受胎児のもう一方の親に残された場合は、未受胎児の取り分を請求することができないことがあります。

ここで、コールは、トムが2001年に遺言を執行したため、予断を許さないものと考えられるが、コールは

が生まれたのは2003年である。他の文書についての言及がないため、遺言が最後の遺言文書であったと推定される。したがって、コールは生まれる前に実行されたので、コールはトムのSPの遺留分を得ることができることになる。

ただし、例外が適用されるかどうかを見る必要がある。トムが意図的に将来生まれる子供を省き、相続させないことを意図した証拠はない。したがって、コールはこの例外の下でブロックされることはない。さらに、子供が遺言書以外の方法で世話されているという証拠や言及もない。しかし、トムの遺言は遺留分をコールのもう一人の親であるウィンに残しているため、コールはpretermitted childの下で回収することはできない。なぜなら、トムの遺留分は財産の大部分に等しく、それをウィンに残したからである。ウィンはその財産をコールの世話に使うと推測されるため、遺留分は必要ない。

したがって、コールはトムの遺産につい

て何の権利も持たない。ノーム - リン -

キム

Tomの遺言では、妹Sueの問題に対して8万ドルの贈与が残されています。ここで問題となるのは、これらの問題が遺言の下でどのように受け取られるかということである。遺言書が争点間の分配について沈黙している場合、カリフォルニアでは一人当たりの分配が行われる。

一人当たりの分布

一人当たりとは、生前受益者がいる第一世代で資産を分割し、分割することです。資産は、そのレベルの生きている子孫の数と、発行している死亡した子孫の数で均等に分割されます。

この場合、遺言書にはスーの問題に対してとしか書かれていないので、一人当たりになることとなります。したがって、生きている受益者であるノームのいる第一世代で分割することとなります。ノームは生きているので、彼と、2人の子供を残した亡き弟のマットとで均等に分けることとなります。つまり、Normは\$80,000の半分の\$40,000を受け取り、残りの半分はMattの子供に贈られることとなります。

KimとLynnは一人当たりの代表権を取得します。つまり、父親の代わりに父親の取り分を取得し、そのレベルの子孫の間で平等に分割します。リンさんとキムさんしかいないので、それぞれ1/2、つまり20,000ドルを受け取ることとなります。

フランク

フランクはトムの友人で、トムの遺言により10,000ドルとトムのベータ・コーポレーションの株式を譲り受けることになった。

\$10,000

最初の遺言でトムはフランクに1万ドルを残したが、この金額は後に消され変更されたため、キャンセルが問題になった。

キャンセル - インターラインアップ

取り消しとは、遺言書の条項を消してしまうことです。行の上や間に書き込みがあり、キャンセルと同時に発生する場合は、インターライン (interlineation) となります。ここでは、Tomは\$10,000の金額を消し、その上に\$12,000と書いているため、\$10,000の贈与がキャンセルされ、\$12,000が行間に入っていることとなります。このように、10,000ドルの贈与が取り消され、12,000ドルの贈与が行われたこととなります。このように取り消しが行われたので、贈与がまだ有効かどうか問題となります。もしフランクが何かを得るのであれば、その変更が有効であるかどうかを判断する必要があります。

ホログラフィック・コーデイル

重要な条項が遺言者の筆跡であり、受益者名も同様であれば、ホログラフィックな変更が可能である。ここでは、Tomは\$10,000の金額を消し、自筆で\$12,000に変更した。しかし、トムはフランクの名前も自筆で書き出していない。トムは重要な条項と人の名前を書面にしなかったため、大丈夫と書いて日付を入れたことは無関係である。トムの意図を示すことはできても、有効なホログラムの要件を満たしていない。従って、12,000ドルへの変更は失敗となります。フランクは、**Dependent Relative Relocation**を利用して、贈与を維持しようとしています。

扶養親族移転(DRR)

ここで、遺言者は、別の遺言処分が有効であると誤信して、遺言または遺言に基づく贈与を取り消した。また、遺言者は、錯誤がなければ最初の処分を取り消すことはなかった。

ここで、トムは、10,000ドルの金額を消して12,000ドルと書くことで、フランクへの贈与額を有効に変更できると考えていた。このことは、トムがOKを書き、日付を入れるということまでしたことからもわかります。このように、トムは明らかにフランクが遺言に基づく贈与を受けることを意図しており、12,000ドルへの変更が有効であると思わなければ、10,000ドルを取り消すことはなかっただろう。さらに、この金額は減少ではなく増加であったため、DRRは遺言者の意図を実現するために適用することができます (中略)。ここでは、TomがFrankに少なくとも10,000ドルを受け取って欲しかったことは明らかであるため、DRRを適用して贈与を保存することとなります。

ベータ・コーポレーション株式

ウインの場合と同様に、フランクはトムに帰属する株式のみを受け取ることができる。株式はCPで、1/2がウインのもの、1/2がトムのもので判定されたので、フランクが回収できるのは50株、つまり全体の1/2になります。

フランクは、トムがその1/2CPをdeviseで誰にでも譲ることができるため、1/2CPの権利を持つ。

が欲しい。遺言書には「私のベータ・コーポレーションの株をフランクに」と書かれているので、フランクはそれを受け取ることとなります。つまり、トムはフランクに株式の1/2 CPの持分に対する請求権を与えただけであり、ウインの1/2 CPの持分を与えようとはしていない。(従って、未亡人の選択はない)。

結論として、ウインはベータ・コーポの株式の1/2をCPとして、410,000ドルを受け取る権利を持つ。ColeはWynnがその遺産の大部分を受け取ったので、何の権利もない。ノームは4万ドル、キムとリンはそれぞれ2万ドル、フランクは1万ドルとベータ社の株式1/2 (つまり50株) の権利を持つ。

2008年2月のエッセイ問題とその回答例
カリフォルニア州弁護士試験

本書は、2008年2月のカリフォルニア州司法試験で出題された6つのエッセイ問題と、各問題に対する選択解答2つを収録しています。

答えは、合格した応募者が書いたもので、良い成績を収めました。答えは著者が作成し、読みやすくするためにスペルや句読点を若干修正した以外は、提出されたものをそのまま転記した。ここに掲載するのは、著者の承諾を得たものである。

<u>質問番号</u>	<u>目次</u>	<u>ページ</u>
1	トーツ	4
2	プロフェッショナルの責任	16
3	刑事法・訴訟法／憲法	25
4	信託・遺言・承継	39
5	コミュニティ・プロパティ	51
6	企業／プロフェッショナルとしての責任	60

質問4

2001年、完全な精神能力を持つ高齢の未亡人であるウィルマは、100万ドルを信託（Trust）に預けました。信託証書には、ウィルマの教会（Church）が受益者として記されていた。信託証書は受託者を指定していなかったが、その条項には、受託者が受益者の利益のために幅広い管理権限を有すると記されていた。

2002年、ウィルマの姉であるシスは、ウィルマに多大な注意を払うようになり、他の友人や親戚がウィルマを訪ねることを妨げるようになった。2003年、ウィルマはしぶしぶ、自分の全財産をシスに残すという、適切な立会いのもとで遺言書を作成した。遺言の執行後、WilmaとSisは互いに好意を持ち始め、頻繁に社交行事に参加し、親しい友人となった。2005年、ウィルマは自分に宛てたメモを書いた。"シスが私の遺産で利益を得ることをうれしく思う"。

2007年、ウィルマはシスを信託の受託者に指名し、その時シスは初めて信託の\$1,000,000について知りました。シスはウィルマに内緒で、信託証書全体に「この信託は取り消される」と書き、受託者としての自分の名前にサインした。

その後まもなく、ウィルマは、20年間ウィルマと口をきいていなかった娘のドーラと、姉に先立たれ、亡くなりました。

Churchは、信託は有効であり、引き続き有効であると主張する。SisとDoraはそれぞれ、Wilmaの全財産を受け取る権利があると主張している。

1. チャーチはその主張を支持するためにどのような主張をすべきか、また、どのような結果が考えられるか。議論してください。
2. SisとDoraはそれぞれの主張を裏付けるためにどのような主張をすべきか、そしてどのような結果が考えられるか。議論してください。

カリフォルニア州の法律に従って、質問番号2に答えてください。

質問4に対する回答A

1. チャーチは、その主張を裏付けるためにどのような主張をすべきなのか。

A. 信託の創設を企図

私的明示信託は、以下の要素を満たした場合に成立する。(1) 能力のある設定者、(2) 信託を設定する意図、(3) 信託財産、(4) 信託財産を信託に引き渡す、(5) 受託者、(6) 確実な受益者、および(7) 法的信託目的。このケースでは、これらの要素がそれぞれ満たされており、Wilmaは有効な生前贈与型明示信託を作成することに成功した。

(1) 事実上、ウィルマは完全な精神能力を有していたことになる。

(2) 事実は、信託証書が作成されたことを示し、これはWilmaが他の種類の証書や譲渡ではなく、信託を作成することを意図した証拠である。

(3) ここでのレスは、ウィルマが信託に入れた100万ドルです。

(4) 事実によれば、Wilmaは100万ドルを信託に入れたので、引渡しの要素は満たされている。

(5) 今回の信託証書には、受託者が指定されていない。しかし、裁判所は、受託者がいないことを理由に、他の有効な信託が破綻することを認めません。むしろ、裁判所は受託者を任命する。つまり、受託者がいないにもかかわらず、信託は有効に設定されたのです。このケースでは、2007年にWilmaがSisを受託者として指名したことで、受託者の欠如が解消された。つまり、チャーチが「信託は有効であり、効力を有する」と主張した時点では、受託者が存在し、裁判所が受託者を選任する必要はないのです。(ただし、シスが信託を取り消そうとした行為は、受託者としての受託者義務に違反する可能性が高いことから、チャーチはシスを受託者として解任し、新たに受託者を選任するよう裁判所に働きかけることを検討すべきである)

(6) この場合の受益者は、Churchです。受益者は自然人、法人、その他の組織とすることができます。つまり、Churchは有効な受益者である。受益者はChurchであるため、Wilmaが設定した信託は慈善信託であると主張することができます。慈善信託は、その目的として、何らかの社会的目的のために利益をもたらすという特定または一般的な慈善的意図を持つものである。宗教は慈善信託の正当な目的と考えられている。したがって、この信託は有効な信託とみなすことができる。

(7) ウィルマの信託には違法またはその他の不適切な目的はないので、この要素は満たされている。

B. 信託の取り消しを企図した場合

生前信託は、別段の定めがない限り、取り消すことができる。事実上、信託証書には取り消し不能の規定があったかどうかは記載されていないため、信託は取り消し可能であると仮定される。

信託は、受託者が一方的に取り消すことはできません。通常、生前信託を取り消すことができるのは、設定者（生存しており、精神能力がある場合）のみです。状況によっては、受託者と受益者が裁判所に信託の終了（または変更）を申し立てることができるが、今回はそのような状況は存在しない。したがって、**Sis**が**Wilma**に内緒で、裁判所を介さずに、「この信託は取り消される」と証書上に書くことによって一方的に信託を取り消そうとしたことは、効果がなかった。したがって、信託は引き続き有効である。

ウィルマが信託証書全体に「この信託は取り消される」と書いていれば、物理的な行為による有効な取り消しとして機能したかもしれない。しかし、このような取り消しは、設定者または設定者の指示により、設定者の立ち会いの下で誰かが行う必要があり、今回のようなことは起こりませんでした。

C. ウィルマの死後、信託が存続すること

シスは、全財産を自分に残したウィルマの遺言により、信託は自分に渡されるべきだと主張するかもしれない。しかし、**Wilma**が信託を生涯継続させることを意図していたことを示唆する事実はない。むしろ、**Wilma**による慈善信託の設定は、検認の外で設定者の財産を処分する有効な遺言の代わりであると想定される。

2. シスとドラは、それぞれの主張を裏付けるために、どのような主張をすべきなのか。

A. お姉ちゃんの言い分

シスが遺言の条項に基づいてウィルマの遺産を受け取る権利があると主張することに成功するためには、遺言が有効であることを立証しなければならない。有効な遺言には、(1) 能力のある遺言者、(2) 遺言の意思、(3) 適用される形式への有効な準拠が必要である。

(1) 能力。遺言を執行するのに十分な能力があるためには、遺言者は、(1) 自分の財産の性質と範囲を知っており、(2) 自分の恵みの自然対象（すなわち、親族や友人）を理解しており、(3) 自分が遺言を作成していることを理解している必要があります。ここでの事実は、2001年当時、ウィルマは完全な精神能力を有していたことを示す。ウィルマが遺言を実行した2003年においても、ウィルマはそのような能力を有していたと推定される。

(2) 遺言の意思。ここでは、ウィルマが "不本意ながら" 遺言を実行したことが

事実として示されている。遺言者の単なる不本意は、遺言の意思の存在を覆すには不十分である。しかし、遺言者が

遺言者の意思が不当な影響力の産物であった場合、真の遺言の意思は認められず、不当な影響力の範囲内で遺言は無効とされる。この場合、ドーラは、姉がウィルマに不当な影響力を行使したため、遺言によりウィルマの遺産を取得することはできないと主張することになる。

不当な影響力。

不当な影響とは、遺言者が自由意志に従わないほど影響を受けていた場合に存在する。不当な影響力の一応の証明は、以下のことを示すことで成立する。(1)遺言者に影響を受けやすい何らかの弱点(身体的、精神的、金銭的など)があったこと、(2)影響を及ぼしたとされる人物が遺言者に接近し、影響を及ぼす機会があったこと、(3)影響を及ぼす人物が献身的に参加したこと(贈り物を得るための人の行為)、(4)不自然といえる結果が得られたこと(遺言に予想外の贈り物があったことなど)。

(1) この場合、ウィルマが姉の影響を受けやすいような特別な弱点に苦しんでいたという証拠はない。彼女には能力があった。社会的なイベントに頻繁に出席していたことから、彼女はおそらく身体的に健康であったと思われる。また、慈善信託に100万ドルを寄付することができたことから、彼女は余裕のある生活をしていただと思われる。

(2) ここで、姉はウィルマに影響を与えるためのアクセスや機会があった。彼女はウィルマに「多大な注意を払う」ようになり、他の友人や親族がウィルマを訪問するのを防いだ。したがって、疎明資料のこの要素は立証される。

(3) シスがウィルマの遺言書作成に積極的に参加したのか、あるいはウィルマが自分に遺産を残すことを何らかの形で示唆したのか、事実からは不明である。ドーラが不当な影響力を根拠に遺言に異議を唱えるには、この点に関する証拠を提示する必要がある。

(4) ここでの結果は、不自然なものではない。ウィルマはシスとその娘ドーラにのみ生かされている。しかし、ウィルマは20年もの間、ドーラと口をきいていなかった。ウィルマは未亡人であり、生存している配偶者や家庭内パートナーを残していない。この事実から、ウィルマに親しい非親族の友人がいて、その人たちに遺産の一部を自然に残すことができたとは考えられません。ウィルマはすでに信託でチャーチのために惜しみなく資金を提供していた。従って、彼女が妹に遺産を残すのは自然なことである。さらに、シスは、この結果の「自然さ」は、遺言の執行後の数年間、彼女とウィルマが純粹に親しい友人となったという事実によってさらに証明されると主張できる。この友情は、ウィルマが2005年に書いたメモに、"Sisが私の遺産から利益を得ることを喜んでいる"と書かれていることから明らかである。

(3) 形式：このケースでは、Wilmaが「適切に目撃された遺言を実行した」とい

う事実があるので、最後の要素は満たされています。

有効な遺言の要素がすべて揃っており、ウィルマの全財産をシスに贈与したことが不当な影響の産物であることをドーラが証明できる可能性は低いいため、シスは遺言に基づきウィルマの全財産を取得することになります。

B. ドーラの主張

1. 不当な影響力が認められた場合のドラの権利

ドーラがシスへの贈与が不当な影響によるものであることを証明できれば、その不当な影響の範囲内で遺言は無効とされる。遺言に遺留分の条項があれば、姉への贈与はその条項の中に組み込まれる。遺留分がない場合、姉への贈与（この場合は全財産）は、ウィルマが遺児として死亡した場合と同じように受け継がれます。ドーラはウィルマの唯一の生存親族であるため、遺産はドーラに相続されることになります。

2. 省略された子供としてのドラの権利

カリフォルニア州では、子供が早産である場合、親の遺産から取得する一定の権利を有しています。**Pretermitted**の子供とは、遺言書やその他の遺言書がすべて実行された後に生まれ、その遺言書に規定されていない子供のことである。しかし、このケースでは、ウィルマが**2003**年に遺言書を、**2001**年に信託を実行したとき、ドーラはすでに生まれていた。従って、ドーラは早産ではありません。（もし早産であったなら、**Dora**は遺言によって渡された遺産の法定相続分と、取り消し可能な生前信託の法定相続分を請求する権利があったであろう）。

カリフォルニア州では、省略された子供に対する保護はありません。省略された子供とは、遺言書が作成された時点で生まれていたが、その遺言書に規定されていない子供のことである。したがって、**Dora**は、**Wilma**の遺言から漏れたという理由だけで、**Wilma**の財産に対するいかなる権利も有しない。

質問4の回答B

1. 教会が主張を支持するための論拠

有効な信託が成立しているかどうか

信託とは、受益者のために受託者がその財産（コーパス）の法的所有権を保有する、財産に関する受託関係であり、有効な法的目的のために信託を設定するという設定者の明示された現在の意図から生じるものである。私的明示信託の場合、受益者は確認できる個人またはグループでなければならず、慈善信託の場合、受益者は社会全体でなければなりません。

コーパス

信託のコーパスは、有効な現存する種類の財産でなければならず、単なる将来の利益の[期待]やその他の幻想的な財産であってはならない。設定者の生存中に設定された信託（inter vivos）の場合、第三者を受託者とする信託は、信託による移転の下にあり、財産の引渡しは、現実的、象徴的（所有権を表す何らかのアイテム）または推定的（財産にアクセスする手段を提示する、あるいは現代では、詐欺や錯誤の疑いをかけずに受託者を所有させるために、合理的にできる限りのことをする）です。

この場合、コーパスは、ウィルマが実際に信託に入れた100万ドルのお金であるため、存在し、有効に引き渡された。

受益者

受益者が確認可能なグループまたは個人である場合、私的表現信託が形成される可能性があります。受益者が特定できない集団で、一部の個人が付随的に利益を得るとしても、社会一般の利益のためであれば、それは慈善信託となる。慈善信託の場合、永久禁止のルールは適用されず、信託を無効とすることができる。

この場合、教会は確認可能で明確な法人であり、その場合、ウィルマは私的な明示信託を形成したと主張することができる。また、真の利益は現在および将来の教会員にあり、宗教施設を持つことの社会的利益を促進するものであるとも言えます。その場合、慈善信託となる可能性があり、信託の下で、現在の生活から21年以上経ってから利益を得る人がいても、永続性の問題に対するルールはなく、信託は有効である。したがって、有効な受益者が存在することになる。

トラスティ

信託には、信託を管理するために任命されるトラスティが必要であるが、トラスティが指名されていないからといって、信託証書が無効になることはない。この場合、Wilmaが受託者を指名しなかったとしても、裁判所は受託者の義務を果たすために受託者を指名することができ、信託は無効とならない。

結果としての信頼感

結果信託とは、私的な明示信託や慈善信託が、設定者の不正行為以外の方法で破綻した場合に発生する、事実上の黙示の信託である。結果信託では、裁判所が任命した結果受託者の唯一の義務は、設定者または死亡している場合はその遺産に残余財産を戻すことである。

Wilmaが2001年に信託を設定し、2007年まで受託者を任命しなかったことから、おそらくこの信託には丸6年間、受託者がいなかったと教会に対して主張することができるかもしれない。したがって、その間に信託は結果信託に変わるべきであったと主張することができる。また、特定の州では、受託者が積極的な義務を負わない不動産物件の受動的な信託がある場合、結果的な信託を創設する使用法令があると主張することもできる。衡平法上、この原則は、コーパスが金銭である場合にも適用されるべきであり、6年間受託者がいないことは、受動的受託者がいることと同じであり、その金銭は結果的信託に移行すべきだったと主張されるかもしれません（中略）。

しかし、裁判所は、信託は受託者の不足で破綻しないと明言しているため、Wilmaによる信託は破綻しない可能性が高いと思われます。

意思表示

有効な信託が成立するためには、設定者が信託を作るという現在の意図をもって財産を引き渡すという明確な意思表示をしたことが必要です。このケースでは、Wilmaはその意思を明確に示した。彼女は受託者を指名しなかったが、受託者の広範な権限を指定することで受託者が存在することを規定し、実際に金銭を信託に引き渡した。最後に、Wilmaは高齢でありながら完全な精神能力を有していたため、信託を作成する意思を持つ能力が損なわれていたことに疑問の余地はない。したがって、Wilmaは明らかに信託を作成する意思表示をしたことになり、その信託は有効となる。

法的目的

違法でない目的であれば、どんなものでも許されます。この場合、ウィルマは、教会および/またはそのメンバーが継続的に活動を行うことで利益を得ることを明確に意図しており、それについて違法なことは何もありませんでした。したがって、彼女には有効な法的目的があったのです。

したがって、2001年に有効な信託が成立し

ている。信託の終了

信託は、それ自体の明示的な条件によって終了することができる。また、設定者がその権利を留保している場合、設定者の明示的な取消しによって終了することもある（大半の州で）。最後に、信託は、受益者全員が参加し同意すれば、受益者の主導で終了させることができる（生まれていない遺留分は、任命された訴訟代理人によって代理されなければならない）。設定者も参加する場合は、解約を進めることができる。設定者がいない、または死亡している場合、受益者は信託

の重要な目的がすべて達成された場合にのみ終了させることができます。

明示的な条件による取り消し

ここでは、ウィルマが信託をいつの間にか終了させたと規定した形跡はない。したがって、それは取り消されなかった。

セトラーによる取消

ここでは、Wilmaは取り消す権利を明示的に留保していない。黙示の権利がある少数派の州においてさえ、彼女はそのような権利を行使していない。シスは、ウィルマが後に、シスが利益を得ることを喜んでいると書き残したことは、シスが自分の遺産から利益を得るという意図を示すものであるため、信託を黙示的に取り消すことにつながると主張するかもしれないが、これはウィルマの取り消しの意図を示すことはできないだろう。したがって、彼女は信託を取り消しませんでした。

受益者による取消し

このように、ウィルマは信託を終了させるための行為に同意も参加もしていない。さらに、事実上、教会もそのメンバーも信託を取り消したいと示唆するようなことはしておらず、それどころか、教会は信託の有効性を示すために訴訟を起こしています。したがって、受益者は取り消しを行っていない。

したがって、失効は生じなかった

。受託者の権限

受託者は、信託証書で明示的に付与された権限に加え、その職務を遂行するために必要な黙示的な権限（不動産の売却、リース、債務の発生、現代では借入の権限など）を有しています。

ここでは、2007年時点で姉が信託の受託者に指名された。信託証書は、受託者が受益者の利益のために信託を管理する「広範な権限」を有すると規定していた。信託証書には、受託者が受益者のために信託を管理する「広範な権限」を有すると規定されていたが、受託者の権限や取り消す権限については何も述べられておらず、これは伝統的に受託者に黙示される権限ではない。したがって、シスには、信託を解約して取り消す権限はなかった。したがって、彼女の行為によって信託が取り消されることはなかった。

受託者の義務

さらに、受託者は、受益者に対する注意義務と忠実義務を負っています。それぞれの義務の下で、自らの業務を処理する合理的な慎重者として、また受益者の最善の利益のために常に行動しなければなりません。

シスが受益者を切り捨てるつもりで信託を取り消そうとしたことは、明らかに信託に反しており、注意義務に違反する。また、ウィルマの遺言により、彼女は受取人であったため、その行為は自分の利益となるため、忠実義務にも違反する。

したがって、シスの行為は不適切であり、その取り消し行為は無効である。

結論

したがって、信託は有効であり、取り消されることはなく、教会はその債権を有する。

2. シスとドラが主張すべき論拠

ドラの主張 I :

容量

II : 非常識な妄想 III

: 不当な影響 IV :

早産

容量

遺言者は、18歳以上で、自分の財産の範囲を理解でき、自分の財産の自然な対象（家族など）を知っていて、自分が遺言を執行していることを知っていれば、遺言能力を有します。遺言者に能力がない場合、以前の有効な遺言がない限り、遺言全体は検認されず、財産は遺留分として相続されます。

ドーラは、ウィルマは高齢で孤独な未亡人であるため、遺言を作成する真の能力がなく、ウィルマの唯一の子として、遺留分により全財産を取得すべきであると主張するかもしれない。しかし、ウィルマは18歳以上であった。彼女は完全な精神能力を有しており、自分の財産が何から構成されているかを知っていた。彼女は、シスやウィルマのことを知っていたはずだから、その財産が誰のものであるかも知っていた。そして最後に、彼女は自分のしていることを知らなかったという形跡のない、きちんとした立会いのもとで遺言を執行した。したがって、ドーラの議論は失敗する。

非常識な妄想

遺言書の条項は、1) 虚偽の信念に基づき、2) 病んだ心の産物であり、3) その信念を裏付ける証拠のかけらもなく、4) その信念が実際に遺言書に影響を与える（問題の条項によって示される）場合、検認を拒否することができます。

ここで、ドーラは、ウィルマが自分の遺産をすべて姉に譲り、ドーラを残すと考えたのは、ウィルマが何らかの病的な精神状態にあったからではないか、と主張するかもしれない。しかし、そのような考えを支持する証拠はない。ウィルマの遺言は、シスとの間に築かれた真の信念と事実上の親密な関係に基づくものであった。ウィルマの心が病んでいたことを示すものはない。最後に、誤った信念が遺言に影響したことはない。ウィルマとシスは仲が良く、一緒に社会的なイベントに参加し、親しい友人であった。したがって、ドーラの主張は失当であろう。

不当な影響

不当な影響力の根拠は、疎明、推定、CA法の3つがあります。

プリマファシーUI

ある者が遺言者に接近し、遺言者が感受性を有する形質であり、その者が遺言者を誘引する性質を有し、不自然な結果が生じた場合、不当な影響力があると疎明され、当該影響を受ける条項は検認されないことになる。

ここで、ドーラは、シスがウィルマにアクセスできた（実際、彼女自身が他人を阻止することによって、ウィルマに単独でアクセスできた）ことを示すことができる。ドーラは、シスが突然ウィルマに不自然なほどの注意を払い、他人がウィルマにアクセスできないようにしたことが不当な行為であることを強調することになる。しかし、シスは、二人の好意の高まりに見られるように、ウィルマへの関心は正当なものであることを示すだろう。しかし、ウィルマが特に影響を受けやすかったということは示せない。彼女は孤独だったのだろうが、遺言の意思を覆すような外見上の衰弱の兆候はなかったのだ。

シスはウィルマといつも一緒にいたので、ウィルマが自分に有利な遺言をするように誘導する気質はあったかもしれないが、ウィルマを操って遺言をさせるようなことをしたことを示すのは難しいだろうとも言える。さらに、ウィルマはシスが自分に関心を持ち始めてからすぐに遺言を作成し、その内容はたまたまシスにすべてを残すというものだった。ドーラはこれらの点を主張するだろう。しかし、シスが実際に遺言を誘導するようなことをしたとは示せず、2人は真の友人となった。さらに、**2005年**のメモには、ウィルマがシスのために用意したことを純粋に喜んでいたことが記されている。仮にシスが遺言を強要するような処分を行ったとしても、遺言者の意図を示す外形的なメモがあれば、それを暗示することは困難であろう。したがって、ドーラはこの要素を証明するのは難しいでしょう。彼女のベストケースは、メモが書かれたのは**2005年**であり、遺言執行時の**2003年**に処分が行われたことを主張することで、十分に満たすことができると思われる。

最後に、シスに全財産を渡したことは不自然な結果ではなかったが、ドーラは子供を切り取ることは不自然だと主張するだろう。ウィルマはシスの干渉を受けるずっと前の**20年間**、ドーラと口をきいていない。したがって、ドーラを切り捨てることは不自然ではなかった。

したがって、疎明は失敗する。プリ

サンクションUI

ある人が遺言者とある種の密接な関係にあり（CAでは、遺言者がその人に信頼を寄せるような立場）、かつ、逸失利益を生じさせるための処分があり、不自然な結果となった場合、不当な影響力があると推定され、その検認は行われない。

ここで、ドーラは、ウィルマがシスに信頼を寄せていたことを明確に示すことができる。彼らは親しい友人であり、ウィルマはシスを教会への信託の受託者に任命したほどである。しかし、前述のように、処分を示すことは困難であり、不自然な結果を示すことはより困難である。

したがって、不当な影響力のこの枝は失敗します。

CA法UI

CAでは、遺言書の起草者、起草者の関係者または取引先、遺言書を書き写した遺言者の受託者、またはケアカストディアンに対して行われた場合、寄付的譲渡は無効とみなされます。認められた場合、その部分は、その人が遺留分として受け取るはずだったものを上回る範囲で、検認されないこととなります。

このケースでは、シスが遺言書の起草や書き写しに手を貸した形跡はない。ドーラは、ウィルマが高齢で一人であったことから、シスがウィルマのケア・カストディアンであったと主張するかもしれない。しかし、彼女が介護を必要としていたことを示す兆候はない。実際、二人は公の場で一緒に社交行事に出席しており、ウィルマが自分の面倒を見ることができることを暗示している。したがって、不当な影響力の法的根拠はない。

誘引の不正

ある人が遺言者に対して行った虚偽の説明によって影響を受けた遺言の部分は、その人がその虚偽を知り、それを信頼させることを意図していた場合、遺言者がその部分を作成する際に正当かつ実際に信頼したものであれば、検認は拒否される。遺留分がある場合は遺留分権利者に、遺留分がある場合は共同遺留分権利者に、遺留分がある場合は遺留分権利者に相続されることとなります。また、裁判所は、詐欺がなければ遺言者の意図した受益者に財産を引き渡すために、仮説的信託を課すことができる。

このケースでは、ドーラやその他の人物が、ウィルマが自分の財産をシスに完全に残すような遺言をするよう誘導されるような虚偽の事実をウィルマに伝えたかどうかを判断するには十分な事実がない。ドーラは、ウィルマに接触できるのはシスだけであり、そのような不実告知があったかどうかを知る方法がないため、裁判所はそれを暗示するべきだと主張するだろう。もし虚偽の申告があった場合、遺言は検認を拒否される可能性があるが、ドーラはそれを証明できない可能性が高い。

早産児

すべての遺言証書（遺言、生前贈与、取消可能信託）の後に生まれ、または養子となった子供で、それらに規定されていないものは、不注意で【取り残された】とみなされ、遺言者にそのような証書がなかったかのように遺留分の法定相続分を取ることができます。ここでは、信託も遺言も、ドーラが生まれた後に作られたものである。したがって、彼女はこれを主張することはできない。

結論

ドーラは、ウィルマの遺産を自分が取得すべきであると主張するための確固たる根拠を持っていません。もし、シスがウィルマの遺言を強要するような処分を行ったことを示すことができれば、2005年のノートによる「追認」は遺言を救う

ものではなく、検認を拒否され、ドーラが取得できるようになります。しかし、それは困難であるため

ウィルマとシスの関係が花開いた時期、ドーラの言い分はダメなのだろう。

お姉ちゃんの言い分

有効な遺言書

遺言は、2人の証人が目撃し、遺言者がその同時立会いのもとで署名した場合に有効である。遺言の下敷きになるような利害関係のある証人は、不当な影響力を行使したものと推定されます。しかし、このケースでは、遺言は有効に執行されたと言われており、シスが証人であったという事実はない。

したがって、遺言は有効に執行されたので、シスは全財産を取得できることを主張できるはずである。ドーラの各請求に対しては、上記で説明したような抗弁を行うことができ、そのすべてについて成功するはずである。

エッセイの質問と回答（2008年7月
カリフォルニア州弁護士試験

本書は、2008年7月のカリフォルニア州司法試験で出題された6つのエッセイ問題と、各問題に対する選択解答2つを収録しています。

答案は、合格した応募者が書いたもので、良い成績を収めました。答案は著者が作成し、読みやすくするためにスペルや句読点を若干修正した以外は、提出されたものをそのまま転記した。ここに掲載するのは、著者の承諾を得たものである。

<u>質問番号</u>	<u>目次</u>	<u>ページ</u>
1	プロフェッショナルの責任	4
2	けんぽう	14
3	契約書	24
4	レメディウム	36
5	リアルプロパティ	47
6	遺言・承継	54

質問6

2000年、夫婦であるハルとウィルマは、非共同財産州であるニューヨークに住んでいた。そこに住んでいたとき、ウィルマはニューヨークのマンションを相続し、また給料の一部をXYZ株に投資した。ウィルマはコンドミニアムと株式を自分ひとりの名義で保有していた。

2001年、ハルとウィルマは引退し、カリフォルニアに移った。

2002年、ウィルマはXYZ株をいとこのカールに、コンドミニアムを妹のシスに、そして遺留分をミュージアムに残すという有効な遺言を実行しました。

2003年、ウィルマはXYZ株を有効な贈与として、自分と従兄弟のカールに、生存権を持つ共同借家人として譲渡した。ウィルマは、コンドミニアムを売却し、その代金を自分名義の銀行口座に単独で預けました。

2004年、ウィルマは、すべて自筆で、「私のXYZ株をミュージアムに譲る」と書かれた「Change to My will」と題する文書を書き、日付を入れ、署名した。この文書には、証人の署名はない。

2007年、ウィルマはハル、カール、シスの3人に見守られながら亡くなりました。

ハル、カール、シス、ミュージアムは、XYZの株式とコンドミニアムの売却代金について、権利があるとすれば、どのような権利を持っているか。議論してください。

カリフォルニア州法に則って回答する。

質問6に対する回答A

本問は、Wilmaの遺族が彼女のコンドミニアムの株式と売却益に対して持つ権利に関するものである。最終的な財産の帰属には、カリフォルニア州の共有財産法と遺言と遺贈に関するカリフォルニア州の法律という2つの分野が影響する。まず、Wilmaは、自分の別個の財産および/または共同財産の自分の取り分のみを遺贈することができるかとされている。したがって、Wilmaが遺贈しようとした財産に対するHalの所有権（もしあれば）を決定するために共同財産法の影響を調べ、次に財産の最終的な所有権を決定するために彼女の遺言行為の影響を調べる必要があります。

基本的な共有財産の推定

まず、カリフォルニア州に居住している間に結婚中に取得した全ての財産は、共同財産（CP）であると推定されます。この推定から除外されるのは、贈与、devise、またはdescentによって取得された全ての財産である。最後に、夫婦の行為によって婚姻中の財産の性格が変化し、その性格に影響を与える一定の法的推定が生じることがある。最後に、1975年以降の夫婦は、一定の制限のもとに、すべての共有財産に対して平等な管理・支配を認められています。

準コミュニティ物件

Quasi-community property (QCP)とは、CA州外に居住していた時に婚姻中に取得した財産で、CA州に居住していた時に取得すればCPになったであろう全ての財産です。この場合、夫婦は非CP州であるニューヨークに住んでおり、株式とコンドミニウムは共にニューヨークで取得したものであるため、これらはQCPとなる。QCPは死亡時にCPとして扱われるが、ただし、被相続人は生存配偶者の財産のうちQCPの持ち分を贈与する権利はない。今回贈与されたQCPはすべて被相続人Wilmaの財産であるため、これは適用されず、QCPはCPとして扱われます。

ザ・コンドミニウム／プロシーズ

地域財産分析

このコンドミニウムは結婚中に取得したもので、CAに居住中に取得した場合はCPとなり、QCPと推定されるが、事実によれば、deviseによって取得したものであり、したがってWilmaのSPである。従って、彼女の名義になっているという事実は何の影響もなく、他の事実がない限り、売却の収益も彼女のSPとなる。

従って、彼女はSPとして、その全貌を自由に遺贈することができ、ハルはコンドミニウムおよびその収益について所有権を有しない。

工夫の効果

有効な意志

そこで次に問題となるのは、姉への贈与の有効性である。まず、事実関係として、贈与が記載された2002年の遺言が有効であることが指摘されています。したがって

の場合、Sisへのコンドミニアムの最初の贈与は有効であり、Sisはコンドミニアムを取得することになります。しかし、このコンドミニアムは2003年に売却されたため、Wilmaが亡くなったときの遺産には含まれないという事実もある。

絶滅による贖罪

したがって、遺留分権利者である美術館は、マンションを売却することによって、姉への贈与が終了した、つまり、消滅したことを主張したいのです。贈与は、遺言者が特定の財産を贈与した後、遺言者の死亡前にその財産が破壊されるか売却された場合に、消滅によって償還されたとみなされます。まず、美術館側は、贈与はコンドミニアムそのものに対するものであり、シスが遺産から一般的な「現金」を贈与されることを示す文言は含まれていないため、特定のものであると主張するだろう。したがって、ウィルマはコンドミニアムを売却したため、この特定の贈与は売却によって消滅し、したがって美術館は遺留分受益者としてその代金を受け取るべきであろう。

しかし、カリフォルニア州では、遺言者がそのように意図していたことが示された場合にのみ、贈与は消滅によって死滅することになる。この場合、ミュージアムは、売却そのものと、ミュージアムを株式の受益者として指名したコディシルを、ミュージアムが全財産を取得するという意思表示として挙げるだろう。シスは、ウィルマが贈与を消滅させることを意図していたことを具体的に示すものは何もないと主張することでしょう。さらに、ウィルマは2004年にコディシルを公表しているので、その時点で博物館に資金を贈与することも可能であったが、そうしなかった。したがって、このことは、シスへの贈与を有効に維持する意図を示すものである。

彼女の意図について詳しい情報がなければ、シスは口座にある資金を奪うことになる。

CPルールの**XYZ**株効

果 出典

ここで、XYZ株は、婚姻中のWilmaの利益で取得されたものである。収益については、婚姻中に取得した財産と同様、CPである。NYで取得したとはいえ、CAに居住中に取得した場合はCPとなるため、死亡時にCPとして扱われるQCPとなる。このように、株式はQCPで取得されたため、QCPであることも推定されます。QCPと推定されるため、Halは株式に対して1/2の共同利益を有すると推定される。

タイトルの効果

このケースでは、Wilmaが単独で株式を保有していたため、美術館とカールは、株式をWilmaの単独名義にすることで、共同体が彼女のSPに贈与を行ったと主張したいのでしょう。しかし、1985年以降、CPからSPへの変換は書面を必要とする。この場合、共同体が株式の購入資金を妻に贈与するつもりであったという証拠はない。また、その資金をSPに変換することを裏付けるような書面もない。したがって、他の証拠がない限り、株式はCPのままであり、そのため、ハルは株式に対して1/2の共同持分を所有している。

共有財産の贈与

さらに、配偶者は共同財産の平等な支配と管理を維持しているため、一方の配偶者は他方の配偶者の同意なしに共同財産を他方に贈与することはできない。ここで、Wilmaは2003年に自分と従兄弟のCarlに株式を贈与している。この贈与がハルによって承認されたことを示す証拠はない。配偶者の一方が同意なしに共同財産を他方に贈与した場合、その配偶者は贈与者の生前に贈与を無効にすることができ、贈与者の死後は贈与の1/2を無効にできる。事実関係では、贈与は「有効」であったと記されている。これはCP法の下で有効であるという意味なのか、それとも有効に実行された贈与という意味なのか、明確ではありません。したがって、もし有効であるということが、ハルが贈与に同意したということであれば、ハルの1/2権は消滅することになる。

したがって、この株式はCPで取得されたものであるため、ハルは1/2の持分を有すると推定される。さらに、有効であると仮定しても、贈与に同意したことにはならないので、所有権を彼女の名義だけにすることも、株式を彼女とカールに与えることも、この持分を排除する効果はないため、ハルは株式に対する1/2の持分を維持する。

ストックの工夫

ハルの共同利益をひとまず無視すると、上記のように、ウィルマは2003年の遺言でカール（に）株式を有効に贈与した。そして、事実上、株式が彼女とカールの両方に「生存権のある共同借家人として」贈与されたことを述べている。したがって、彼女の死の前に、株式は彼女とカールの共同所有権にあった。この文言は、生存権を明示したものであり、ウィルマの死後、カールは自動的に全株式を取得することになる。

2004年版コーディル

そこで、2004年にWilmaが作成したコーディルの効果について問題となる。カリフォルニア州では、すべての重要な条項が遺言者の筆跡であり、その筆跡が遺言者によって署名されている限り、ホログラフィックなコーディルは有効である。認証された遺言の他の手続きは必要ない。したがって、この文書はすべて彼女の筆跡であり、署名されていることから、2002年の遺言の有効な共証言として機能します。したがって、美術館は株式を取得すると主張することになります。しかし、株式はカールとの共同借家として保有されていたため、ウィルマの株式に対する持分はすべてカールに即時移転することになる。さらに、遺言による譲渡の試みは、株式に対する彼女の持分の現存的な譲渡ではないので、共同借家権を切断する効果はない。従って、彼女が成案を実行したとき、彼女は株式に対するいかなる持分に対しても遺言権を有していなかった。従って、この遺言成就書は、彼女の死後、株式に対するいかなる権利も美術館に伝達する効力を有しないことになる。

したがって、カールは株式に対する持分を保持し、ミュージアムは、この遺言により株式を取得することはない。さらに、カールはハルの同意なく共有財産の贈与によって株式を受け取ったため、ハルの株式に対する1/2 CPの持分が適用されることになる。

したがって、シスはコンドミニアムの売却で得た口座の資金を、カールはハルの1/2共同持分を前提とした株式の共同借主としての持分を、美術館は2002年の遺言に基づく

遺留分受益者として残ったものを取りることになりそうです。

質問6の回答B

ハル、カール、シス、ミュージアムの権利について

資産の貢献度や誰が取ることが許されるかは、共同財産法と遺言法の両方によって決定されます。遺産の重要な資産は婚姻中に取得され、Wilmaはカリフォルニアに居住して死亡したため、婚姻中に取得されたすべての財産は推定的に共同財産となり、もしその財産が婚姻中に取得されたがカリフォルニア以外の場所にあった場合、死亡時には取得した配偶者による分配を目的として準共同財産となり、共同財産と同様に扱われる（すなわち、非取得生存配偶者は財産に対して1/2の利益を得ることができる）。さらに、カリフォルニア州法では、婚姻中に財産を取得した場合でも、贈与、遺贈、相続によって取得した場合は、配偶者の別個の財産として扱われます。

品物の性格（CP、QCP、SPのいずれか）を決定するためには、資金の出所、品物の性格を変えるために当事者が行った行為、品物に影響を与える推定に注目することが重要である。

コンドミニアムの手取額

収益金の性格について

WilmaはNYCに住んでいるときにNYCのコンドミニアムを相続した。したがって、このコンドミニアムは、Wilmaが婚姻中に取得したものであるにもかかわらず、WilmaのSPとみなされる。そして、コンドミニアムの売却代金は、彼女一人の名義の銀行口座に入れられたため、共有財産と混ざり合うことなく、完全に分離財産の性格を保っている。したがって、Wilma名義の銀行口座にある売却代金はWilmaのSPであり、Halはこの不動産に対して1/2 QCPの利益を有しない。

さらに、ハルとウィルマは、ウィルマの遺言書がすべて実行される前に結婚していたため、ハルが期限前配偶者の地位を主張して、SPの遺留分を主張することはできません。

収益金は誰が受け取るのか

2002年に執行された遺言により、Wilmaの妹であるSisは、特にコンドミニアムを付与されました。しかし、コンドミニアムは売却されたため、コンドミニアムはもはやWilmaの遺産ではなく、したがって消滅による償還の可能性がある。

絶滅による贖罪

ミュージアムは、シスへの贈与は特定贈与であり、その贈与は実際に売却されたので、その贈与はもはや相続財産にないとして、消滅時効を主張します。コモンローの下では、裁判所は消滅による償還について同一性理論を用い、ある贈与が特定の贈与であって、死亡時に被相続人の遺産に所在しない場合、その贈与は償還され、特定の受贈者は何も受け取らないというものであった。もしそうであれば、収益はウィルマの遺言の遺留分に渡されるので、[to]になります。

館を利用する。しかし、カリフォルニア州法では、消滅による償いが適用されるかどうかを判断するために、贈与が特定の「もの」であったかどうかを判断し、さらに、贈与を実際に償わせる意図があったかどうかを判断するために、同一性理論を用いる代わりに遺言者の意図に注目します。

ここで、Sisはまず、贈与が具体的ではなく、一般的であったことを主張することができる。遺言の文言は記載されていないが、おそらく「私のコンドミニウム」「私のNYCコンドミニウム」等の文言が使用されており、特定の贈与であることが分かる。さらに、コンドミニウムのような不動産の贈与は、事実上常に特定の贈与であるため、裁判所は贈与が一般的であるという彼女の主張を却下することになる。

第二に、Sisはadeemの意図はなかったと主張するでしょう。カリフォルニア州法では、一般的に遺言者の意思を見る以外に、非難販売、保険金、割賦契約、保佐人による売却の場合、残っている財産とまだ支払われていない代金のすべて（または一部）が自動的に特定受遺者に認められることになっています（特定受遺者は贈与のFMVを得る）。しかし、これらのいずれにも当てはまらないようです。一方、シスは、売却代金がウィルマ名義の別口座に単独に入れられたため、贈与の売却代金が一箇所に容易に追跡でき、使用や混同がなかったことから、ウィルマは贈与を贖う意図はなく（本質的に贈与の売却を口座に追跡することを主張）、したがってコンドミニウム売却代金を受け取る権利があるはずだと主張できる。裁判所がこの主張を受け入れるのは難しいでしょうが、主観的な判断であり、シスはウィルマの妹であることから、裁判所はこの主張を受け入れてトレースを認める可能性があります。この場合、実質ではなく形の変化など、他の追認の抗弁は通用しない。

従って、もし裁判所が姉の忌避論を認めたら、姉はマンション売却代金を受け取る権利を持つこととなります。しかし、裁判所がその主張を退けた場合、彼女には何の権利もなく、遺留分権利者として美術館が全代金を取得することとなります。

XYZ株

銘柄の特徴

Wilmaは、賃金の一部をXYZ株に投資して株式を購入した。この給料がハルと結婚している間に得たものであると仮定すると、給料、そしてその給料で購入した株式は、カリフォルニアに居住している間に購入したものであれば共有財産とみなされ、したがって、取得した配偶者が死亡した時点で準共有財産とみなされることとなります。しかし、Wilmaは、財産の性格を変える可能性のあるいくつかの行動をとった。

まず、ウィルマは株式を自分だけの名義にした。しかし、取得する配偶者が財産の購入に共同資金を使い、名義を自分一人にした場合、ウィルマが、ハルがその財産の持ち分の贈与を意図したことを証明できない限り、その資産は実際に共同財産であるという意味で、推定的に無題となる

であり、それぞれが（少なくともWilmaの死亡時には）1/2の持分を保有しています。Halが株式持分の贈与を意図していたことを示す事実はないため、この時点では、Halの株式は死亡時にQCPとみなされ、分配目的ではCPと同様に扱われることになる。

第二に、Wilmaは有効な贈与により（おそらく4つのユニティを作るためのストローを通じて）、XYZの株式を生存権付き共同借家人として自分とCarlに譲渡しました。この譲渡が有効であったなら、この不動産のQCPの側面は破壊されたはずである。しかし、これは不動産に対するHalの持分の有効な贈与ではなかった。カリフォルニア州法では、被相続人の配偶者がカリフォルニア州に居住していた場合、被相続人の配偶者が贈与の実質的対価を受け取っておらず、被相続人の配偶者がその不動産の所有権または使用権を保持していた場合、生存配偶者は死亡時の準共同体不動産の譲渡または贈与を2分の1の範囲で無効とすることができます。この場合、Wilmaが譲渡を行い、彼女の死後、ジョイント・テナンシーが彼女の持分を自動的にCarlに引き継いだとしても、Halは、それが贈与であり、彼女の死亡時に不動産の所有権を保持していたため、持分の1/2を限度として相殺することができる。

遺言の効果

当初の遺言では、カールはXYZ株の取得者となることができました。しかし、2004年にウィルマは、ミュージアムが代わりにXYZ株を取得することはないとする遺言のホログラムコーディシルを実行しました。ただし、ミュージアムはXYZ株の利権を取得することはない。

まず、カールは、コーディシルが正式に認証されていないため無効であると主張するかもしれませんが。しかし、カリフォルニア州法では、遺言の重要な条項が遺言者の筆跡であり、遺言者が署名している限り、これは有効なホログラフィック遺言、この場合はホログラフィック共付遺言となる。ここでは、Wilmaが署名、日付、自筆で、前の遺言の変更であること、ミュージアムがXYZの株式を取得しないことを書いています。したがって、重要な条項（誰が何を取るか）はWilmaの筆跡であり、カリフォルニア州の法律で要求される全てであるコーディシルに彼女が署名した。従って、これは有効な遺言補足書であり、2002年に執行された遺言（これはおそらく認証されていた）を変更するものであった。

次に、カールは、遺言は共同借地権を撤回する効果がないため、XYZの全株式（Halの強制持分を除いたもの）を取得する権利があると主張する。ミュージアム側は、コーディシルはジョイント・テナンシーが成立した後に作成され、ウィルマの持分を譲渡しているため、ジョイント・テナンシーを有効に切断していると主張するでしょう。しかし、裁判所はこの主張を却下する可能性が高い。なぜなら、遺言はその執行時に解釈されるが（あるいは共証書も）、実際に効力を発揮するのは遺言が検認された時（すなわち、遺言者の死後）である。したがって、実際の贈与、ひいては譲渡による分離は、ウィルマの死後まで発生しなかったことになる。ミュージアムにとって残念なことに、この時点では、不動産の全権利は、法律上、生存権を持つカールへと移っていたため、譲渡するものは何もなかった。したがって、Halが1/2を確保することはできても

を強制的に譲渡され、ミュージアムには同様の権利がなく、遺贈するものが何も残っていないなかったため、株式を取得することはありません。

結論から言うと

結局、裁判所はコンドミニアムの収益全額をシスに認め、ハルはカリフォルニア・プロバート・コードに基づいてXYZ株の1/2シェアを強制的に認め、カールは法の運用によりXYZ株の全額（ハルの強制シェアを除く）を取得し、美術館はいずれの資産も手にしないことになりそうです。



カリフォルニア州弁護士会アドミッション
ズ・オフィス

180 Howard Street - San Francisco California 94105 1639 - (415) 538 - 2303
1149 South Hill Street - Los Angeles California 90015-2299 - (213) 765 - 1500

2011年2月のエッセイの質問と回答例 カリフォルニア州弁護士試験

本書は、2011年2月のカリフォルニア州司法試験で出題された6つのエッセイ問題と、各問題に対する選択解答2つを収録しています。

答案は、合格した応募者が書いたもので、良い成績を収めました。解答は著者が作成し、読みやすくするためにスペルや句読点を若干修正した以外は、提出されたものをそのまま転記した。ここに掲載するのは、著者の承諾を得たものである。

<u>質問番号</u>	<u>目次</u>	<u>ページ</u>
1	遺言・承継	3
2	けんぽう	15
3	リアルプロパティ	25
4	トーツ	36
5	ビジネス・アソシエーション／プロフェッショナル ・レスポンシビリティ	52
6	救済措置/エビデンス	65

質問1

2004年、未亡人であるテスは、有効な遺言を行い、遺産を子供であるアベル、バーニス、キャシーの3人に鑑（あぶみ）ごと託しました。

2009年、Tess、Abel、Berniceの3人は口論になり、Tessは新しい遺言を作成することにしました。彼女は事務用品店に行き、印刷済みの遺言書を手に入れ、自筆で以下のように記入した。

息子アベルと娘バーニスは私に不親切であったため、私は特に相続を放棄する。私は、私の全財産を大学に与え、遺贈する。

Tessはフォームに署名し、日付を入れました。彼女が署名し日付を入れたとき、誰もその場にいなかったため、彼女の署名の証人として署名した人はいない。当時、彼女は処方された鎮痛剤に溺れ、アルコール依存症であった。

2010年、キャシーはデイヴィッドを息子として養子に迎えた。その直後、キャシーはデイビッドに先立たれ、死亡した。

2011年、テスは100万ドル相当の遺産を残して亡くなりました。

テスの2009年の遺言が検認に供された。

(1) アベルとバーニスは、テスの2009年の遺言の有効性に異議を唱えるにあたって、どのような主張を合理的に行うことができるか。論じてください。

(2) デイビッドはテスの遺産の分配を受ける権利があるか？議論してください。

カリフォルニア州法に則って回答する。

質問1に対する回答A

(1) アベルとバーニスは、テスの2009年の遺言の有効性に異議を唱えるにあたって、どのような主張をするのが妥当か。

A. 最初の遺言は撤回されたのか？

AbelとBerniceはまず、Tessの2004年の遺言が2009年に作成されたその後の遺言によって撤回されていないことに異議を唱えることができます。遺言は、明示的または黙示的に撤回することができます。明示的な取り消しには、遺言者が、元の遺言が後の遺言によって取り消されるという意図を明確にする言葉を使う必要があります。第二の遺言が第一の遺言と矛盾し、第二の遺言が遺言者の財産を実質的にすべて遺贈する場合、遺言は黙示的に撤回されることがあります。ここでは、テスがアベルとバーニスに財産の一部を残した最初の遺言と異なり、テスはアベルとバーニスを明確に相続放棄している。遺言者は、遺言の中で相続放棄の意思を明示することにより、遺言者が遺児として死亡した場合に相続することになる者（ここでは子供）を相続放棄することができます。第二の遺言は第一の遺言と矛盾し、テスの全財産を別人（大学）に遺贈しているので、遺言は黙示的に有効に撤回され、第二の遺言が有効であることが証明されれば検認が可能です。テスは、2009年に執行された第二の遺言で、2004年の遺言を撤回することを意図しており、共付書ではないことは明らかである。なぜなら、第一の遺言に記載された条項（Abel、Bernice、Cassie per stirpes）と明確に矛盾し、その後の遺言でテスは代わりにすべての財産を大学に遺贈している。

B. 2009年の遺言は有効な遺言ではないとの異議申し立て

(1) これは有効な証明付き遺言書だったのでしょうか？

カリフォルニア州では、口頭による遺言は認められていません。従って、有効

な遺言は、(1)書面、(2)遺言者による署名、(3)遺言者の生前に署名しなければならない
2人の証人の立会い、ただし必ずしも本人の立会いが必要ではありません。また、(も
し) 遺言者が

の署名は、証人2人の立ち会いのもとで、その時またはTの死亡前に署名した証人を立ち合わせて、後に遺言書の署名を自分のものと認めれば、有効となるのです。証人がいない場合でも、①と②（書いてあり、Tが署名している）を満たしていれば、Tが書面または口頭で、この書面を自分の遺言にするという意思表示をしたことを証明する外形証拠や証言を提出することができます。これは、明確かつ説得力のある証拠によって証明されなければならない。ここで、テスの遺言は、有効な証明付き遺言ではない可能性が高い。この遺言は書面であり、テスが署名しているにもかかわらず、彼女の署名の証人がいないのです。この遺言が有効とみなされるためには、テスがこれを自分の遺言と意図していたこと、あるいは後にテスとその署名を自分のものと認め、証人が署名したことを示す明確かつ説得力のある証拠が必要である。それらの事実がここに含まれていないため、テスの遺言は有効な認証遺言ではありません。

(2) 有効なホログラフィックウィル？

テスの遺言は、おそらく有効なホログラフィック遺言とみなされるでしょう。ホログラフィック遺言は、遺言者の完全な筆跡である必要はありませんが、すべての重要な条項がTの筆跡のみである必要があります。重要な条項には、受益者の名前を記載し、その受益者が受け取る贈与を指定する必要があります。また、ホログラフィック・ウィルもTの署名がなければ有効とはなりません。ここで、テスの2009年の遺言は、すべての重要な条項を含んでいる。テスはユニバーシティを受益者として具体的に指名し、彼らが受け取る贈与を「私の全財産」と具体的に指名している。テスは遺言書に署名しており、署名の要件を満たしている。これは必須ではないが、遺言書が検認に供される際に、裁判所が遺言書の執行順序を知るのに役立つものである。遺言書が印刷済みの遺言書用紙に印刷されていたとしても、このことは重要ではありません。したがって、テスは指定された受益者（大学）を指定し、彼らが取得する財産（すべて）を自筆で具体的に指定し、遺言書に署名したため、ホログラフィック遺言に求められるすべての重要な条項が存在し、テスの2009年の遺言はカリフォルニア州で有効なホログラフィック遺言とみなされるであろう。上記の理由から、テスの2004年の遺言は取り消され、

2009年の遺言は、テスが2009年の遺言の執行時に能力を有していたことが認められれば、検認されるべきである（後述）。

C. 2009年の遺言執行時、テスは能力不足だったのか？

遺言を執行する遺言者は、遺言が有効とみなされ、検認に供されるためには、遺言執行時に意思能力を有していなければなりません。能力とは、(1)Tが18歳以上であること、(2)Tが自分の恵まれた自然物を理解していること、(3)財産の性質と価値を理解していること、(4)Tが自分が遺言を作成していることを理解していること、を必要とします。ここで、テスは、遺言を執行した当時、処方箋鎮痛剤の中毒であり、かつアルコール依存症であったことから、その能力が疑われる可能性がある。普段は能力がなくても、意識がはっきりしているときがあると考えられます。その朦朧とした時期に遺言が執行されれば、Tは意思能力の要件を満たしたとみなされる。(1) ここで、能力要件として求められる第一の要素は、おそらく想定されるものである。テスは既に未亡人で3人の子供がおり、2004年の遺言からさほど年月を経ずに自然死したと思われることから、18歳以上であると思われる。(2) テスは、自分の恩恵の対象である子供たちを理解していたと思われる。その可能性は、2004年の遺言により、あるいは遺留分として相続されることが分かっていた子供たち、アベルとバーニスについて具体的に言及していることにある。彼女はこの2人を相続させないようにし、少なくとも自分の賞金の自然な対象は知っていた。しかし、テスはキャシー（彼女も賞金の対象である）を挙げていないので、彼女は賞金の対象をすべて理解していなかった可能性がある。(3) テスが自分の財産の性質と価値を理解していたかどうかは不明である。彼女は「私のすべての財産」としか述べていない。彼女は具体的にどの財産を挙げたわけでもなく、自分の財産全体を指す包括的な発言をただけである。彼女が自分の財産の処分について理解していたことは明らかではない。(4) テスが遺言を作成することを理解していたことは明らかである。彼女の文言は、具体的に2人の子供を「相続放棄」し、次に大学に財産を「遺贈」している。また、テスはこれらの文言を、事務用品店で購入した印刷済みの遺言書用紙に書き込んでいる。テスは特定の言葉を使い、遺言書に遺贈を書いたので、自分が遺言を作成していることを理解していたようです。テスはキャシーに言及しなかったし（このことは、テスが自分の財産の自然な対象を理解していたかどうか疑問を投げ

かける)、テスは特定の財産を列挙するのではなく「すべて」を遺贈しただけだからである。

の性質から、アベルとバーニスは、テスが**2009年**の遺言を作成する能力を欠いていたことを証明できる可能性があります。

(2) デイビッドはテスの遺産の分配を受ける権利があるのでしょうか？

A. 容量

デイビッドがテスの遺産を相続する可能性はある。養子は実子と同じように親から相続するので、母キャシーが生きていれば取れたはずの贈与を、デイビッドが取る事ができるのです。もし、テスに**2009年**の遺言を執行する能力がなく（上記の理由で）、**2004年**の遺言が有効に執行されなかったと判断された場合、**2004年**の遺言で贈与された母親の取り分をデイビッドが取ることができます。テスは自分の遺産をアベル、バーニス、キャシーに **per stirpes** で分配することを望んでいたため、遺産は問題が残っている最初の階層（その階層に誰かが住んでいるかどうか）で平等に分割されることを意味します。ここで、テスの遺産をスタープごとに分割した場合、アベル、バーニス、キャシーの子であるデイヴィッドの**3人**は、全員等しく遺産の**1/3**を相続することになります。

B. 早産児

2009年の遺言が有効であると判断された場合、**David**は**Cassie**が **pretermitted child** であると主張することができますが、この主張は失敗する可能性が高いです。早産児は、遺言が執行された後に生まれ・養子となり、遺言で規定されておらず、かつ、(1) 遺言外で規定されていない、(2) すべての遺産がもう一方の親に残されていない、(3) 明示的に相続放棄されていない場合に、養育されることとなります。ここでは、テスの遺言が実行されたとき、キャシーはすでに生きていたので、明示的に相続放棄されなかったとしても、先天性の子供として主張することはできない。**David**は、遺言後に養子になったとしても、**T**の子ではなく孫であることから、**Cassie**も**David**も **pretermitted child** には該当せず、**David**は **pretermitted child** として主張することはできない。

質問1の回答B

1. AbelとBerniceがTessの2009年の遺言の有効性に異議を唱えることができる主張

。2004年の遺言の取り消し

2004年、TessはAbel、Bernice、Cassieに遺産を残すという有効な遺言を実行した。問題は、Tessの2009年の遺言が2004年の遺言を取り消すかどうかである。遺言は、(1) 後続の遺言が有効に執行され、(2) 遺言者が同時に前の遺言を取り消す意思を持っていた場合、後続の遺言によって取り消すことができる。取り消しは、明示的なもの（例えば、「私は以前の全ての遺言と成案を取り消します」）、または暗示的なもの（a）遺言が矛盾している範囲、または（b）後の遺言が遺言者の全財産を完全に処分する場合、前の遺言はその全体が取り消される。

ここで、[Tess]は2009年の遺言で2004年の遺言を明確に撤回しなかったが、これは2009年の遺言が以前の遺言に触れていなかったからである。しかし、テスは2009年の遺言で、息子のアベルとバーニスに「特に相続放棄する」と述べた。この記述は、2004年の遺言でテスの全財産を子供のアベル、バーニス、キャシーに処分したことと矛盾するので、2004年の遺言は、それが有効に執行されるか、有効なホログラフィック遺言であれば、アベルとバーニスへの遺贈に関して暗黙のうちに取り消されることになるであろう。さらに、テスの2009年の遺言には、「私の全財産を大学に遺贈する」と書かれており、これは彼女の財産を完全に処分するものである。そのため、裁判所は、2009年の遺言が有効であれば、2004年の遺言は全面的に撤回されたと判断する可能性が高い。

したがって、問題は、2009年の遺言が有効に執行された認証遺言であるか、有効なホログラム遺言であるかということである。

有効な証言のある遺言書

AbelとBerniceは、2009年の遺言が有効に執行された認証付き遺言に必要な形式

を遵守していなかったと主張します。遺言が有効であるためには、以下の条件が必要です。1) 書面であること、2) 遺言者、または遺言者の立会いの下、遺言者の指示により他人が署名したこと、3) 遺言者が遺言書に署名または承認したのは、以下の場合であること。

少なくとも2人の証人の共同出席、4) 2人の証人は遺言者の生存中に遺言書に署名しなければならない（ただし、必ずしも遺言者の立会いやお互いの立会いが必要ではない）、5) 2人の証人は、遺言者が遺言書に署名するところを目撃しているとその時点で理解していなければならなかった。

ここで、テスの2009年の遺言は書面（プレプリントされた遺言書用紙）で、彼女はその書面に署名し、日付を記入した。しかし、テスが遺言書に署名した際の証人はおらず、証人が文書に署名したこともない。したがって、テスの2009年の遺言は、有効に証明された遺言に要求される形式を遵守していなかった。

2009年以降の明確かつ説得力のある証拠の例外について

2009年1月1日以降、署名と筆記の要件は満たしているが、立会いの要件は満たしていない遺言でも、遺言者がその文書を自分の遺言とすることを意図していたという明確かつ説得力のある証拠を遺言の提案者が提示できれば、検認を認めることができる。この場合、大学（2009年の遺言が有効であることによって利益を得る立場にある当事者）は、テスの2009年の遺言はこの新しいルールが施行された後に実行され、テスは遺言の一部に自筆で署名し書いたので、遺言を検認するのに十分な証拠があると主張するでしょう。

この主張はおそらく失敗するだろう。アベルとベルニスは、後述するように、テスが2009年の遺言書に署名した時点で鎮痛剤を服用し、アルコール依存症であったという事実は、彼女の意思について明確かつ説得力のある証拠があったと認めることに強く反対すると主張するでしょう。さらに、アベルとバーニスは、通常、遺言者が証人要件を遵守しようとしたが、2人の証人が同時に共同して出席しなかったり、遺言者の生存期間内に文書に署名しなかったりといった詭弁により失敗した場合にのみ、明確かつ説得力のある証拠の例外がうまく採用されると主張するだろう。ここでは、テスには証人が全く存在しない。さらに、テスは、弁護士にカスタマイズされた遺言書を作成してもらおうという、より正式な手続きを経ずに、あらかじめ印刷された遺

言書フォームで遺言書を作成しました。彼らはまた、この遺言が非論理的にキャッシュのことを書いていないことを指摘するでしょう。これらはすべて

の状況は、このケースで明確かつ説得力のある証拠の例外を適用しないよう、裁判所を説得する可能性が高い。そのため、**2009年**の遺言は、有効な認証遺言として検認されない。

ホログラフィックウィル

本学は、**2009年**の遺言が有効な認証を受けていないとしても、有効なホログラフィック遺言として適格であると主張する。ホログラフィック遺言は、(1) 重要な条項 (すべての受益者と遺贈を含む) が遺言者の自筆であり、(2) 遺言者が遺言書に署名している場合に有効です。ホログラフィック遺言は、タイプされた前の遺言書を取り消すことができます。

ここで、**2009年**の遺言の重要な条項はすべてテスの自筆であった。これには、特にアベルとバーニスの相続を放棄し、"私の全財産を大学に"と遺贈することが含まれている。テスはさらに、遺言書に署名と日付を入れた。(ホログラフィック遺言は日付を入れる必要はありませんが、日付が入っていないホログラフィック遺言は、他の遺言と矛盾する範囲では無効となります。この遺言は日付入りなので、問題はない)。

Abelと**Bernice**は、**Tess**が**2009年**の遺言で**Cassie**について言及しなかったため、すべての重要な条項が**Tess**の筆跡に含まれていないと主張するだろう。この主張はおそらく失敗するだろう。テスが自筆で「私は私の全財産を大学に与え、遺贈する」と述べたことは、彼女の財産を完全に処分するものである。キャシーについて具体的に言及する必要はない。そのため、裁判所は、遺言の意思を示す十分な証拠があると判断すれば、**2009年**の遺言を有効な自筆証書遺言として検認する可能性が高いです。

容量

Abelと**Bernice**は、**Tess**が**2009年**の遺言を実行した時点では意思能力がなかったと主張する。遺言を執行する能力があるためには、遺言者は以下の条件を満たす必要があります。1) 18歳以上であること、2) 自分の財産の範囲を知っていること、3) 自分の恵みの自然対象 (相続人など) を知っていること、4) 遺言を執行する行為の性質

を理解していること。

テスは、未亡人で3人の子供がいたことから、2009年には少なくとも18歳であったと推定される。AbelとBerniceは、Tessが処方箋鎮痛剤中毒でアルコール依存症であったため、意思能力がなかったと主張するだろう。しかし、このような証拠では不十分である可能性が高い。すべての遺言者は意思能力があると推定され、テスが2009年の遺言を実行した正確な時点で意思能力がなかったという証拠を提示する責任がアベルとバーニスにはあります。彼女が鎮痛剤中毒でアルコール依存症であったことを示すだけでは十分ではありません。彼らは、彼女がその文書を実行した時に、ハイになっていたか、酔っていたことを証明する必要があります。彼女が事務用品店に行き、印刷済みの遺言書を購入し、自分の字で読みやすく書く能力があったことを考えると、彼女は自分の財産の性質と範囲を知っていたと思われます。テスは、自分の財産であるアベルとバーニスについて具体的に言及したが、テスが当時完全に認識していなかった証拠として、キャシーを遺言から外したことを指摘する人もいます。しかし、テスはアベルとバーニスについて「私に不親切だった」と述べており、これは論理的には最近喧嘩をしたことを指しているのかもしれない。結局のところ、テスがキャシーを外したという事実は、彼女が遺言を実行した時点で能力を欠いていたことを証明するには十分ではないだろう。そうでなければ、彼女は遺言書の書式を購入し、助けを借りずにそれを実行することはできなかつただろうから。

従って、AbelとBerniceの能力防御は失敗することになる。

狂気の妄想

遺言者が遺言を執行した時点で意思能力があったとしても、(1)遺言者が誤った信念を持っていた、(2)それが病んだ心の産物だった、(3)その信念を裏付ける証拠がなかった、(4)それが遺言に影響を与えた、といった場合には遺言の影響部分は無効とされます。

ここで、テスがアベルとバーニスとの喧嘩について虚偽の信念を持っていたことを示す証拠はない。したがって、この抗弁は失敗する。

結論

Tessの2009年の遺言は有効に執行されたホログラフィック遺言であり、AbelとBerniceの能力および心神喪失の抗弁は失敗するため、AbelとBerniceは2009年の遺言の有効性に対する異議申し立てに失敗すると思われます。

扶養親族の失効に関する最終注意事項

扶養親族取消の原則によれば、遺言者が後の遺言が有効であることを予期して取り消した遺言は、前の遺言が無効であることが判明した場合、それでも検認を認めることができる。しかし、2004年の遺言は物理的な行為によって撤回されたわけではないので、この原則はいかなる場合にも適用されないだろう。もし2009年の遺言が無効であったなら、2004年の遺言は取り消されることはなかったはずである。このように、2004年の遺言はそもそも2009年の遺言によって取り消されることがなかったため、2004年の遺言を救うために従属的親族取消の原則を発動する必要はない。

2. デビッドの主張

養子縁組／遺留分

DavidはCassieの養子で、Tessの息子である。養子縁組をすると、血のつながった親から相続する権利がなくなり、養子は遺言や遺留分の関係で養親の血のつながった子供と同じ扱いになる。ここで、CassieはDavidに先立たれ、2010年に死亡しました。もしCassieが遺言を持たずに死亡し、Davidが一人息子であれば、DavidがCassieの全財産を相続することになります。したがって、問題は、Tessの遺産である\$1,000,000をCassieが相続できたかどうかである。

スタイルパスあたり

2004年の遺言でキャシーが相続する場合、1,000,000ドルのうち、3分の1（キャシーの子供3人で均等に分ける）の「per stirpes」分割で、約333,333ドルを受け取ることになります。【デイビッド】は、この金額を唯一の相続人として相続することになります。

がCassieの相続人となる。しかし、2009年の遺言の後、キャシーが何かを取るかどうかをまず判断する必要があります。

早世した相続人

Davidは、Cassieがpretermitted heirであると主張するかもしれない。遺言者がすべての遺言書（遺言書、遺言補足書、信託書）を作成した後に生まれた子供で、いずれの遺言書にも規定されていない場合、それでも遺留分を受け取ることができる。2004年と2009年の遺言がTessによって執行されたとき、Cassieはすでに生きていたため、この原則は適用されない。

2004年遺言の取り消し

Cassieは期限前相続人ではないので、Davidが相続できるかどうかは、2009年の遺言が有効かどうか、2004年の遺言が2009年の遺言によって取り消されたかどうかによって決まると思われます。上述の通り、2009年の遺言は有効なホログラフィック・ウィルである可能性が高く、2009年の遺言はテスの遺産を完全に処分した（「私のすべての財産を大学に」）ため、裁判所は2004年の遺言は暗黙のうちにその全体が取り消されたと判断する可能性が高いと思われます。裁判所がこの見解を採用した場合、キャシーは2009年および2004年の遺言により相続することはできず、それに応じてデビッドはテスの遺産を相続する権利を有さないことになる。

2009年の遺言が無効であると仮定した場合

仮に2009年の遺言が無効であると仮定すると、Davidは、(a)2004年の遺言によりCassieが1/3を相続することになり、(b)Cassieの唯一の相続人であることから、Tessの遺産の1/3を相続する権利があると主張するだろう。このような状況下では、CassieがTessに先立たれたことで、2004年の遺言によるCassieへの遺贈が失効するかどうか問題となるであろう。

ラプス

コモンローの消滅のルールでは、遺言者の遺言の受益者が遺言者に先立たれた

場合、受益者への遺贈は消滅し（すなわち、失敗）、遺言の遺留分（すべての特定の後に残る財産のブロック）に該当することになります。

一般的遺贈、および指示的遺贈)。ここで、**Cassie**は**Tess**に先立たれたため、彼女の遺贈はコモンローのルールで失効し、**David**は何も受け取らないことになる。

アンチラプス法

しかし、カリフォルニア州は、多くの州と同様に、失効防止法を採用している。この法令では、(1)遺言者の近親者、または元配偶者の近親者への遺贈である場合、(2)受遺者が問題を残している場合、遺贈は失効しないとしています。ここで、**Cassie**は**Tess**の娘であるため、**Tess**の近親者である。さらに、**Cassie**は**David**をissueとして残している。従って、彼女の遺贈は消滅防止法の下では消滅せず、**Cassie**の遺贈である**Tess**の遺産の1/3 (2004年の遺言による)は、彼女の甥である**David**に受け継がれることとなります。

結論

2009年の遺言は、2004年の遺言を全面的に取り消した有効な自筆証書遺言であると思われます。そのため、**Cassie**の遺産は2009年の遺言では何も受け取る権利がなく、**David**も何も受け取らないこととなります。しかし、2009年の遺言が無効であると裁判所が判断した場合、2004年の遺言に基づく**Tess**の遺産\$1,000,000の1/3を**Cassie**の遺産が取得し、遺留分により**David**に相続されることとなります。

2012年7月号「エッセイの質問と回答集」
カリフォルニア州弁護士試験

本書は、2012年7月のカリフォルニア州司法試験で出題された6つのエッセイ問題と、各問題に対して、実際に一読して合格した受験生が書いた2つの解答を掲載しています。

選ばれた答案には良い成績が付けられ、読みやすくするためにスペルや句読点に若干の修正を加えた以外は、提出されたまま掲載用書き起こされています。解答は、著者の承諾を得てここに掲載する。

<u>質問番号</u>	<u>目次</u>	<u>ページ</u>
1	民事訴訟法	4
2	共同体財産／職務上の責任	22
3	エビデンス	40
4	契約書	58
5	遺言・承継	71
6	刑事法・訴訟法	85

質問5

2004年、未亡人であるメイは有効な遺言を行い、娘のドットを意図的に省き、遺産の50パーセントを息子のサムに、50パーセントをチャーチに与えるというものでした。

2008年、サムとの深刻な意見の相違から、メイは遺言の撤回を宣言し、サムとドットの立ち会いのもと、遺書を真っ二つに引き裂いた。

2010年、サムからの再三の要請を受けたメイは、それによって遺言を復活させることを宣言する文書を手書きで作成し、署名した。彼女はその文書に、破れた遺言書のページをすべて添付した。この文書に署名した時点で、彼女は衣食住と交友を完全にサムに依存しており、数ヶ月間、サムから誰とも会ったり話したりすることを許されていなかった。この頃、チャーチは消滅していた。

2011年、メイが亡くなりました。遺族はドットとサムの2人だけである。

ドットとサムはメイの遺産に対してどのような権利を持っているか（もしあれば）。議論してください。カリフォルニア州法に基づく回答

問題5に対する答え

サムの権利

2004年、メイは有効な遺言を実行し、遺産の50%を息子のサムに、50%をチャーチに遺贈しました。

2004年遺言の取り消し

遺言は物理的な行為によって取り消すことができます。そのためには、遺言者が遺言書を取り消すという同時期の意思をもって、遺言書を破り、取り消し、抹消し、または破壊することが必要である。ここで、2008年、メイはサムと意見が合わず、サムとドットの立ち会いのもと、遺言書を真っ二つに破り、遺言の撤回を宣言しました。遺言書を撤回すると宣言したのですから、撤回する意思があったということになります。さらに、彼女はこの前にサムと喧嘩をして、その遺言でサムが遺産の50%を取ることになった。これは、彼女が遺言を撤回する意図があったことをさらに証明するものです。彼女は遺言書を半分に破り、これは十分な物理的行為である。このように、2008年の彼女の行動は、物理的行為による撤回として十分なものである。2008年の時点で、メイが唯一の遺言を撤回したため、彼女には遺言書がない。

2010年のリバイバル

ホログラフ

ホログラフィック遺言とは、遺言者が署名し、重要な条項がすべて遺言者の筆跡で書かれているものです。重要な条項とは、受益者と贈与のことです。2010年、Maeは自分の遺言を復活させるという内容の文書に手書きで署名した。これはメイが署名し、自筆で書かれていますが、重要な条項は参照されているため、メイの自筆ではありません。したがって、2004年の遺言書には重要な条項が含まれているため、2004年の遺言書を2010年の手書きメモに組み込むことができる場合のみ、これは有効なホログラフとなります。

2004年版遺言の取り込み

遺言が執行されたときに物理的に存在し、かつ、その文書を遺言の一部とする意思が同時に存在した場合、その文書は遺言の一部として組み込まれることとなります。ここで、**2004年**の遺言書の破れた部分は、メイがホログラフを書く際に物理的に存在していたと思われる。なぜなら、メイがホログラフを手に入れるためにどこかに行ったという事実はなく、むしろ事実は、メイがホログラフを書き、破れたページを一度に添付したと思われる。したがって、彼女がホログラフを書いたとき、前の遺言は物理的に存在していたと推定できる。

さらに、メイには、ホログラム文書に遺言書の破れたページを物理的に貼り付けていることから、先行する遺言書を取り込む意思があったといえる。これは、彼女の取り込みの意思を証明するのに十分である。

先行する遺言は物理的に存在し、ホログラフの一部となることを意図していたため、メイの意思に基づき復活することになります。

参照による組込み

(1)書き込みがあり、(2)遺言の執行時に存在し、(3)遺言の中で具体的に言及されている場合、書き込みを遺言に参考として取り込むことができます。
(4)遺言者がその書き込みを取り込む意思を有していたこと。

ここで、**2004年**の遺言は、執行された時点で有効であったので、有効であるためには書面であった必要があります。遺言執行時に存在したのは、メイが破れたページをまだ持っていたからです。物理的に存在する限り、その時点で有効な遺言書でなかったことは関係ない。**2010年**の遺言書では、メイが「遺言を復活させたい」と述べていたため、特に言及されており、メイには撤回された遺言が**1つ**しかなかった。さらに、彼女は**2010年**の遺言書に破れたページを添付しているので、彼女が**2004年**の遺言書について話していることは明らかである。最初の**3つ**の要素が満たされているので、メイには**2004年**の遺言を**2010年**のホログラフに取り込む意図があったと推定されるのです。

o

独立した意義のある事実

事実は、それが実行された遺言文書に関係なく存在したであろう場合、独立して重要である。ここで、**2004年**の遺言は**2010年**のホログラフより前に書かれたものであるため、**2010年**のホログラフに関係なく存在したであろう。仮にメイが**2010年**の遺書を書かなかったとしても、**2004年**の遺書はメイが遺書を取り消したという事実とは無関係に存在したことになる。破れた破片はまだ残っている。したがって、**2004年**の遺言は独立した意味を持つ。

2010年の遺言の有効性不当な影響

復活した遺言で何も受け取らないドットは、**2010年**の遺言は不当な影響から生まれたものであり、無効であるため、メイには遺言書がないことになると主張します。カリフォルニア州で認められている不当な影響には、一応の証拠、判例上の不当な影響、法定上の不当な影響の**3種類**がある。

プリマ・ファシー・ケース

疎明資料では、遺言者が不当な影響を受けやすかった場合、影響を与える機会があった場合、不当な影響を与えるために行われた行為があった場合、不当な影響を受けただのために不自然な遺産処分があった場合に、不当な影響を示すことができる。

ここでドットは、メイがサムによる不当な影響を受けやすかったのは、メイが食事、住居、交友を完全にサムに依存していたからだと主張します。したがって、彼女はサムの思い通りになりやすかったのである。ドットは、サムがメイに影響を与える機会があったのは、メイがサムに非常に依存していたからであり、メイはサムの望むことをしなければ、食料も住居も交友関係もなくなってしまうと感じていたからだと主張する。サムは、メイに**2004年**の〔遺言〕を復活させるよう何度も要求し、メイが何ヶ月も誰とも会ったり話したりすることを許さなかったので、サムの積極的な参加があったのです。最後に、ドットは、**2004年**の遺言による贈与は、メイの実の娘であるドットの

ためのものではないことから、不自然であると主張することになる。サムは、次のように主張する。

一方、2010年の遺言によって復活した贈与は、2004年に有効に執行された遺言であるため、不自然なものではないとした。2004年当時も今も、何ら不自然な点はない。さらに、メイは2004年に意図的にドットを遺言から外しているのだから、今更外されたところで不自然ではない。最後に、サムは、メイが自分から不当な影響を受けることはなく、むしろ老いた母親の世話をしていただけだと主張する。

最終的に裁判所は、2010年の証書は、メイが既に贈与した有効な贈与を、後に取り消したにもかかわらず、復活させたに過ぎないから、サムの財産に不自然な処分はなかったとする側に回るだろう。したがって、一応の不当な影響力を理由に遺言が無効とされることはないだろう。

判例紹介 アンデューインフルエンス

判例法では、遺言者と不当な影響を与えたとされる人との間に秘密関係があった場合、不当な影響を与えた人の積極的な参加があった場合、不当な影響を与えたために不自然な贈与があった場合には、贈与や遺言は無効とされています。ここで、サムとメイの間には、サムがメイの息子であり、メイの面倒を見るのはサムの独壇場であることから、秘密保持関係が存在する。メイはサムに全面的に依存しているので、秘密保持関係がある。

サムの積極的な参加や、贈与が不自然な財産処分でないことに関する議論は、上記をご参照ください。

2010年の遺言による2004年の遺言の復活は、上述の不自然な財産処分ではないので、不当な影響力はないでしょう。

法定不相応の影響力

カリフォルニア州遺言法の下では、遺言の起草者が遺言の受益者でもある場合、不当な影響力があると推定される。ここでは、メイが2010年のホログラフを手書きし、その遺言書に破れたページを自分で貼り付けています。したがって、他の誰も遺言書を起草していない。サム再三の要請により彼女が作成したという事実は、サムが自分への贈与を残す遺言書を作成しなかったという事実には変わりはない。仮にサムが作成したとしても、作成者が遺言者の親族である場合は、不当な影響を受けたと推定されないという例外規定がある。したがって、法律上の不当な影響力は存在しない。

サムに関する処分

裁判所が不当な影響力がないと判断した場合、裁判所は2004年の遺言を取り込んだ2010年の遺言に従ってメイの遺産を処分する。その文書に基づき、サムはメイの財産の50%を、チャーチは残りの50%を取得する権利があります。

教会贈与の経過

メイが遺言を執行した2010年には、チャーチはもう存在していない。したがって、チャーチは存在せず、その贈与を受けることもできないので、彼女の遺産の50%の贈与は失効します。

アンチラプス？

カリフォルニア州にはアンチラプス法というものがあり、同族受益者が遺言者に先立たれたとしても、その問題を解決することができるようになっています。しかしながら、ChurchはMaeと血縁関係がなく、また、Churchは事業体であるため、問題を残すことはできません。従って、Churchの50%の贈与には、アンチラプスが適用されません。

残り50%。遺留分

メイの財産の50%をチャーチに贈与することは失効するため、遺言ではその財産の分配は規定されていない。したがって、メイの財産の残り50%は遺留分によって渡

されることとなります。

メイは未亡人であったので、遺族はいない。彼女の遺族は、子供であるドットとサムだけであった。遺留分のルールでは、被相続人が遺言書なしで、あるいは遺言書による財産の完全な処分がないまま死亡した場合、財産は一人当たりで生存する子孫に行くこととなります。カリフォルニア・プロベート・コード第240条では、生きているissueがいる第一世代に行き、生きている人がいる血族に平等に遺産を分けることとなります。ここでは、SamとDotは共に生きており、彼らは第一世代にあたります。したがって、彼らはそれぞれ残りの遺産の50%、言い換えれば、メイの遺産の25%ずつを手にするようになります。

ドットの権利

ドットは2004年の遺言から意図的に除外され、その遺言は後に撤回され、2010年の遺言に組み込まれた。したがって、メイの遺言により、ドットは何も受け取らないことになる（ただし、チャーチの贈与が失効したため、25%の遺留分を除く）。

早産児

ドットは、自分が早産児であることを主張します。未熟児とは、遺言書が執行された時点で生まれていなかったり、知られていなかったりする子のことです。早産児は、遺産全体のうち、遺留分を得る権利があります。したがって、Dotが早産であった場合、Maeの遺産は遺留分として2人の子供で半々になるため、DotはMaeの遺産の50%を受け取る権利があります。

ここで、ドットは、メイが遺言を実行した2004年に生きていたので、早産児ではありません。さらに、メイが2004年の遺言からドットを意図的に除外し、その遺言を復活させ、その効力を発揮させる意図を持っていた。したがって、ドットは早産児と解釈されることはないだろう。

メイの遺産分配について

ドットがサムの不当な影響力があったことを裁判所に説得できれば、サムの贈与は不当な影響力を理由に無効となる。サムの贈与が無効となり、チャーチの贈与が失効

した場合、メイの全財産は、以下の方法で分配されることになります。

intestacyとなります。この場合、唯一の遺児であるDotとSamは、それぞれ50%の権利を持つこととなります。

しかし、上述したように、サムへの贈与は不自然なものではなかったため、裁判所は不当な影響力によって無効となるとは考えにくいと思われます。したがって、サムは遺言に基づき50%の権利を有することとなります。しかし、チャーチへの贈与は失効したため、残りの50%は遺留分として、サムとドットにそれぞれ25%ずつ分配されることになる。したがって、メイの遺産は、サムが75%、ドットが25%を取得するのが最も可能性の高い配分となる。

だいがかいとう

2004年 - 有効な意志

ここでいう事実とは、メイが2004年に有効な遺言を行い、その中で意図的にDを省き、遺産をSと教会に半々で分けたというものである。

2008年 - 失効

遺言は、物理的な行為またはその後の遺言書によって取り消すことができます。物理的な行為で取り消す場合、遺言者または遺言者の指示による人が、遺言書を燃やす、破る、破棄する、または取り消す必要があります。遺言者は同時に撤回する意思を持つ必要があります。ここで、Mは、2008年、Sと意見が対立した後、遺言を撤回すると宣言して撤回する意思を示し、遺言を真っ二つに破り、撤回に必要な物理的行為を果たした。Mは遺言書全体を真っ二つに破ったので、遺言書の一部ではなく全体を取り消す意思があったことがうかがわれる。

そのため、メイは2008年の遺言を事実上撤回した。

2010年 - 復活

遺言は、その後の遺言書によって取り消され、その後に物理的行為または別の遺言書によって取り消された場合にのみ、復活させることができます。復活は、それ以前の遺言を再び有効にする。ここで、Maeの2004年の遺言は、遺言書ではなく、物理的行為によって取り消されたので、文書によって復活させることはできない。もしこの遺言が後の文書によって取り消されたのであれば、Sは、母親が先の遺言を再び有効にすることを意図していることを明示したホログラフィックコーディキルを実行し、コーディキルの日付から有効になったので、最初の遺言は復活したと主張できる。

ただし、身体的行為によって取り消された遺言は、復活させることができません。

2010 - ホログラフィック・ウィル

Sは、2010年に母親がホログラフィック・ウィルを実行したことを主張できる。有効な自筆証書遺言は、遺言の重要な条項がすべて遺言者の自筆であり、かつ、遺言者が署名

したものであることが必要です。ここで、メイは、遺言を復活させる旨を書き、署名した

の文書を作成した。これは有効な復活ではないとしても、前述のように、以前の遺言を復活させたいという彼女の発言から遺言の意思が推察され、彼女はこの新しい遺言に署名し手書きしているの、これは新しい遺言であると主張することができます。したがって、サムは、これが新しく有効なホログラフィック・ウィルであったと主張することができるかもしれません。

遺言の条件を確定するために、彼は統合、そして編入に目を向けることができた。

統合

遺言の執行時に存在し、その遺言の一部となることを意図した書面は、遺言に組み込まれたものとみなされ、検認されます。遺言の一部とする意思是、遺言書に添付されることで成立します。ここで、Sは、前の遺言が撤回されていたとしても、その断片は母親が執行したホログラム遺言に添付されていたのだから、新しい遺言に組み込まれ、検認されるべきであると主張できる。添付された書類がそれ自体で有効であることは要求されていません。したがって、サムは、母親の旧遺言がホログラフィック・ウィルに統合されたことを主張することに成功する可能性があります。

参照による組み込み

また、有効か否かにかかわらず、遺言の執行時に存在し、遺言の中で特定され、取り込む意図がある場合には、参照により取り込むことができる。サムは、母親の遺言が統合されていなかったとしても、母親が新しい遺言の中で以前の遺言を復活させると述べていることから、それを取り入れる意図があり、新しい遺言の中で明確に参照されていることから、参照により取り込まれたと再度主張することができる。また、2枚に分かれていたとしても、本遺言の執行時点では存在していたと主張することもできる。したがって、参照によって組み込まれたのである。

不当な影響力

裁判所は、不当な影響力によって調達された遺言書や遺言の条件を検認することに消極的です。不当な影響とは、遺言者の自由意志が克服されることです。不当な影響には2

種類あり、**Mae**が遺言書を書いたときに、裁判所が不当な影響力が働いていたと判断する場合があります。

旧遺言を復活させようとする文書：判例に基づく一応の不当な影響と不当な影響。

プリマファシー

不当な影響力の疎明を立証するためには、遺言に異議を唱える当事者（この場合、母親の最初の遺言では何も受け取らないのでDとなる）が、母親が影響を受けやすいこと、兄がメイに影響を与える機会、Sの影響への積極的参加、不自然な結果を示す必要があります。

感受性の高さ

メイは、その自由意志が克服されうる脆弱な立場にあったに違いない。この場合、彼女は衣食住や交友といった生活に必要な基本的なものを完全にSに依存していたのである。したがって、彼女はサムによって自由意志を克服される可能性が非常に高かったのである。

オポチュニティ

Sはメイの自由意志に打ち勝つ機会もあったはずですが。この場合、サムは数ヶ月間メイに誰にも会わせず、話させず、母親は完全に彼を頼りにしていた。したがって、彼は彼女の唯一の交友関係であったため、彼女に影響を与える機会があったのである。

積極的な参加

Sは母親に積極的に影響を与えたのでしょう。ここで、彼は彼女に対して、かつての遺言を復活させるよう繰り返し要請し、彼女がそれを実行したのは、この繰り返し要請の後であった。したがって、彼は積極的に参加した。

不自然な体質

元の遺言ではメイの財産の半分をSに譲渡しており、新しい遺言でもそうなるため、不自然な処分の証明はDにとって難しいかもしれません。さらに、メイが遺贈された場合でも、Dはメイの財産の半分を受け取ることができます。

を2通残しただけである。しかし、メイが古い遺言を破棄するつもりであったことは明らかであり、この2号文書はSがメイに圧力をかけた結果に過ぎないことから、不当な影響力を認めることができる可能性があります。

判例

判例法上の不当な影響力の証明方法では、影響者と遺言者の間に特別な関係があり、積極的に参加し、不自然な結果が生じることが必要であるとされています。ここでは、Sはメイの息子であり、メイは自分の面倒を見るために完全に彼に依存していたため、家族的な絆によって特別な関係を立証することができます。他の2つの要素については、上記を参照。

その結果、仮に裁判所が不当な影響力があったと認定した場合、全体がそのような影響力によって得られたものであるとして、第2遺言の検認を拒否する可能性が高い。一方、処分が全く不自然でなかったため、不当な影響を認めない場合もあり、その場合は検認が可能な有効な遺言となります。

教会への贈り物

遺言に基づく贈与を受けるためには、遺言者の死亡時に存在することが必要です。今回の教会は、Maeが亡くなった時には、もう存在していなかった。カリフォルニア州の消滅条項の下では、教会への贈与は消滅し、遺言者の遺留分条項のいずれかに該当し、遺留分条項がない場合は、遺留分として引き継がれることとなります。この規定は、問題を残した親族だけが恩恵を受けることができるため、消滅防止規定によって贈与を保存することはできない。

そのため、有効な遺言があれば、教会への贈与は失効し、遺留分もないため、遺留分として承継することになります。

ドットの権利

省略の子

ドットは、メイの遺言のいずれにも規定されていないため、自分は省略された子供であると主張することができる。しかし、省略された子供であるためには、すべての遺言書に

は、子の出生前に執行されたものである。ここで、Dは、メイが2004年に遺言を行い、それが有効な遺言とみなされるなら2010年にも再度遺言を行ったときに生きていたことが事実上明らかであり、したがって、Dは遺漏子にはあたらない。さらに、メイは意図的にDを除外している。

遺族シェア

Dの遺留分は、Maeによるホログラム遺言が有効とされるか無効とされるかによって決まる。

遺言が有効であれば、彼女の財産の50%は遺言によりSに渡りますが、教会に行くはずだった残りの50%は、その財産の処分を規定する文書がないため、遺留分として失効しています。

遺留分に関する既定のルールでは、生存配偶者がいない場合、つまりメイが未亡人であったためいない場合、問題への分配は「per capita」ベースとなります。メイの子供たちは、それぞれ等しく遺贈された財産を受け取ることとなります。メイには2人の子供がおり、遺産の50%が遺留分として渡されるため、Dは遺産総額の25%を取得することとなります。

一方、遺言が無効であった場合、メイの遺産はすべて遺留分として相続されることとなります。上記と同様に、財産は2人の子供に平等に分配され、Dは財産の50%を取得することとなります。

サムの権利

サムの分配の権利は、遺言がサムの不当な影響力により無効とされるか、適切なホログラム遺言でなかったため無効とされるかによって異なります。

遺言が有効であれば、Sは遺言に基づきメイの財産の50%を受け取る権利がある。教会がもう存在しないため、教会に渡らない残りの50%は、遺留分の条項がないため、遺

留分によって渡すこととなります。遺留分では、Dについて前述したように、Samはこのように場合に渡される財産の50%を受け取るようになります。

の方法で、遺産総額の**25%**の取り分を得ることになります。全体として、遺言が有効とみなされれば、サムはメイの財産の**75%**を受け取ることになる。

もし遺言が無効であれば、メイの財産はすべて遺留分として渡され、**S**は上記**D**と同じように半分を受け取ることになります。したがって、**S**はメイの財産の**50%**を取得することになります。

全体

全体として、**D**と**S**の権利は、メイが死亡した時点で有効な遺言があったと裁判所が認めるかどうかにかかっています。有効な遺言があった場合、**S**は母親の財産の**75%**を、**D**は**25%**を受け取ることになります。有効な遺言がなかった場合は、**S**と**D**はそれぞれ**50%**の取り分を受け取ることになります。



カリフォルニア州弁護士会
司法試験委員会／入試事務局

180 Howard Street - San Francisco, CA 94105-1639 - (415) 538-2300
845 S. Figueroa Street - Los Angeles, CA 90017-2515 - (213) 765-1500

きじゅつもんだい

2013年7月 カリフォルニ

ア州司法試験

本書は、2013年7月に実施されたカリフォルニア州司法試験の論文問題6問と、各問題に対する選択解答2問を収録しています。

答案には高い評点が付けられ、一読して合格した志願者が書いたものである。解答は、読みやすくするためにスペルや句読点に若干の修正を加えた以外は、応募者が提出したものをそのまま作成しました。ここに掲載するのは、著者の承諾を得たものである。

<u>質問番号</u>	<u>主題</u>
1.	プロフェッショナルとしての責任
2.憲法	
3.	共同体財産
4.	契約内容
5.	遺言書・信託書
6.	レメデイ

質問5

2000年、テッドはウィルマと結婚し、その間にシンディという子供をもうけた。ウィルマには、以前の結婚でできた幼い息子、サムがいた。テッドは、「テッドの遺言」と題する文書をタイプし、日付とサインを入れた。テッドの遺言は次のように規定されていた。「私は1万ドルを義理の息子に贈る。私は、1万ドルを義理の息子に贈る。私は、私のすべての共有財産のうち、私の取り分を妻に遺す。私は、私の別個の財産からなる遺留分を、娘のシンディに遺す。私はここに、ジェーンをこの遺言の執行者に任命する。」

テッドはその書類に書かれた自分のサインをジェーンとドットに見せ、「これは私の遺言のサインです。お二人とも証人になっていただけますか？」ジェーンは自分の名前にサインをした。ドットがサインをしようとした時、携帯電話が鳴り、緊急事態を知らせたので、彼女はすぐにその場を離れた。翌日、テッドはドットに会った。彼は遺言書を持っていて、ドットにサインを求めた。彼女はそうした。

2010年、ウィルマは全財産をテッドに残して亡くな

りました。2011年、テッドはバーサと結婚した。

2012年、テッドは自らの手で「私はバーサと結婚しており、私の遺言の中で「私の妻」とあるのはすべてバーサを指している」と書いた。と日付とサインを入れた。

最近、Tedは、Berthaと所有していた60万ドルの自宅の2分の1の共有財産分与30万ドルと、分離財産の銀行口座の30万ドルからなる60万ドルの遺産で死亡しました。

バーサ、サム、ドット、シンディは、テッドの遺産に対してどのような権利を持っているか（もしあれば）。議論してください。カリフォルニア州法に従って答えなさい。

選択回答

問題は、バーサ、サム、ドット、シンディがテッドの遺産に対して権利を持つかどうかである（もしあれば）。これを決定するにあたっては、まず、テッドが実行した遺言文書の有効性を検討することが重要である。

テッドの2000年遺言

まず、2000年に執行されたテッドの遺言が有効であるかどうかを検討することが重要である。これを判断するためには、(i)遺言能力、(ii)遺言意思、(iii)形式が満たされているかどうかを検討する必要があります。

遺言能力

遺言者は、法的能力および精神的能力を有していなければなりません。

まず、法的能力は、遺言者が遺言執行時に18歳以上であることを必要とします。ここで、テッドは結婚しており、子供もいたことから、テッドは18歳以上であったと推定される。

第二に、精神能力は、最低限の精神能力テストを満たすことが必要である。すなわち、遺言者は、(i) 自分の恩恵（人間関係）の性質を理解し、(ii) 自分の資産の性質を理解し、(iii) 自分の行為の性質を理解していなければならない。

第一に、テッドは遺言書に継子、友人ドット、娘シンディ、妻について記述していることから、テッドは自分の関係の本質を理解していたと思われる。第二に、テッドは、継子と友人に1万ドルを与え、妻に共有財産の株式を残していることから、資産の性質を理解している可能性が高い。第三に、テッドは、自分がタイプした文書に "Will of Ted" と題したことから、自分の行動の本質を理解している可能性が高い。

要するに、最低限の精神能力テストは満たしている可能性が高いということです。

さらに、テッドが心神喪失の妄想に苦しんでいるかどうかを検討する。この教義では、遺言者が精神的欠陥によって心神喪失の状態に陥り、そのような心神喪失がなければ、その文書または遺言書の条項が作成されなかった場合、遺言者は能力を有しない。ここで、事実はテッドが精神的欠陥や心神喪失の妄想に苦しんでいたことを示すものではない。

つまり、テッドには遺言能力があるのです。遺言の

意思

遺言者は、重要な規定を有し、執行人を任命する文書から推測される、現在の遺言の意図を持たなければなりません。

ここで、テッドは「テッドの遺言」という文書を作成し、自分の財産を分配する規定と遺言執行者を任命する規定を設けた。つまり、テッドには遺言の意思がある。

詐欺、不当な影響、錯誤がないか、条件付遺言や偽装遺言がないか、に注意することが重要です。これらの事例のいずれかが発生した場合、遺言の意図が否定される可能性があります。本事実には、詐欺、不当な影響、ミス、あるいは遺言が条件付き遺言や偽遺言であることを示唆、反映していない。

したがって、テッドは、この文書を実行する際に遺言的な意

思を有する。形式的なもの

遺言には、自筆証書遺言と認証式遺言があります。

認証された遺言が有効であるためには、遺言者が署名した書面であり、かつ、少なくとも2人の証人が署名していることが必要です。なお、2人の証人は、遺言者が遺言書に署名したとき、または遺言書に署名したことを認めたときに、遺言者の面前にいないと認められません（面前には視覚、聴覚などを含みます）。なお、証人は、遺言書の証人

として署名する必要はありません。

遺言者の立会い、またはお互いの立会いのもとで行われます。証人は、遺言者が死亡する前に遺言書に署名すればよい。

ここで、テッドは遺言書をタイプし、日付と署名をした。次に、彼はジェーン、ドットの2人にその文書のサインを見せ、"これは私の遺言のサインです。お二人とも証人になっていただけますか?"

ジェーンがサインをし、ドットがサインをしようとしたところ、携帯電話が鳴り、緊急事態を知らせたので、ドットはその場を離れた。しかし、翌日、テッドはドットを見つけ、ドットに遺言書にサインするよう頼み、サインをした。

上記の事実を踏まえると、ここでは、遺言者が遺言書への署名を認めたとき、両証人が遺言者の前にいたこと、両証人がテッドの死亡前に遺言書に署名していたことがあげられます。

このように、遺言は書面であり、遺言者と少なくとも2人の証人が署名しているので、遺言は有効です。

利害関係者証人

遺言に署名し、遺言に基づく贈与を受けている証人は、利害関係証人です。利害関係人の証人による遺言書の署名は、遺言書を無効にするものではありません。その代わりに、利害関係のある証人には、不当な影響や詐欺の反証可能な推定が適用されます。証人がこの推定を反証できない場合、贈与は失敗し、証人は遺言者から遺留分のある金額だけを得ることになります。ただし、遺言の中で受託者名義や遺言執行者名義を与えられた者は、利害関係人とはならないことに注意してください。

ここでは、Jane と Dot が証人である。Janeは遺言執行者に任命されているため、前述の通り利害関係証人にはならない。ドットはテッドの友人であり、遺言で10,000ドルを付与されており、利害関係人証人である。そのため、ドットには不当な影響/詐欺の反証可能な推定が適用される。ドットがこの推定を覆すことができない場合、贈与は無

効となり、遺留分に入るので、ドットは以下のことだけを行うことになる。

ドットはテッドの友人であり、遺贈を受けることはないので、ドットは遺贈を受けることはない。ドットが推定を覆すことができた場合、ドットは贈与を受ける権利がある。

今回の事実は、ドットに不当な影響や詐欺があったかどうかを示していない。しかし、利害関係人の問題は、コーディシルによる再発行（下記参照）により解決される可能性があることに留意してください。有効なコーディシル（下記参照）があれば、コーディシルによる再発行が適用され、利害関係人の問題は解決され、ドットは10,000ドルを受け取ることができるようになります。

2000年の遺言が有効である以上、2012年のテッドによるメモが有効なコーディシルであるかどうかを検討することも重要である。

2012 ノート by テッド

問題は、テッドによる2012年のメモが有効なコーディシルであるかどうかである。コーディシルとは、遺言書に付随して書かれるもので、コーディシルが無効でも遺言書が無効になるわけではないことに注意する。ただし、無効な遺言書があっても、遺言書が無効になるわけではない。すなわち、(i)遺言者に意思能力があり、(ii)遺言者に意思があり、(iii)すべての形式が満たされている場合、コーディシルは有効であるとされています。

遺言能力

上記のルールを参照してください。

まず、法的能力についてですが、上記をご参照ください。

次に、精神的能力についてであるが、2012年にテッドは "私はバーサと結婚しており、私の遺言における妻への言及はすべてバーサに対するものである。"と書いている。このような書き出しは、テッドが自分の遺言に言及する行為、関係、資産の性質を理解していたことを反映しており、「私の妻に」という言葉が、ウィルマの2010年の死後に

結婚した女性、ベルサであることを明確にしています。

つまり、テッドに遺言能力があったことを裏付ける事実がある

。遺言の意思

上記のルールを参照してください。

ここでは、書面の記述に基づき、遺言の意思があると思われる。また、事実上、詐欺、不当な影響、錯誤は認められない。

手続きについて

ホログラフィックコーディシルは、書面で、遺言者が署名する必要があります。なお、書面はどのような紙や表面にも書くことができます。

ここにテッドは自筆で "私はバーサと結婚しており、私の遺言で「私の妻」とあるのはすべてバーサを指している "と書いている。

コーディシルが署名され、テッドの筆跡であることを考えると、コーディシ

ルは有効である。まとめると、**2000年の遺言と2012年のコーディシルは、ど**

ちらも有効である。

統合

統合とは、物理的・法的なつながりのあるすべての文書を、遺言者の死後、一緒に読むことを意味します。

ここで、**2000年の遺言書と2012年の遺言書 (Codicil)** は有効であり、互いに法的なつながりがある。したがって、両者を併読することになる。

テッドの遺産分配について

テッドの死後、彼の遺産は、彼の2分の1の共有財産である
バーサと所有していた60万ドルの家に30万ドル、さらに別の家に30万ドル。

財産の銀行口座です。テッドの遺産は、以下のように分配されるべきである。

義理の息子に10,000ドル

テッドの2000年の遺言には、"義理の息子に1万ドルを贈る"と書かれています。これは一般贈与である。一般贈与とは、一般財産で満たすことができる贈与のことである。

ここでは、テッドの連れ子はウィルマの幼い息子サムと推定される。なお、遺言に曖昧な点がある場合、裁判所は曖昧な点（潜在的な曖昧さか特許的な曖昧さかを問わない）を明確にする外在的証拠を考慮することになる。この場合、裁判所は、TedがWilmaと先に結婚しており、そのWilmaには先妻との間に幼い息子Samがいたことを考慮すると思われる。したがって、この解釈に対して反対意見があったとしても、裁判所は、サムがテッドの連れ子であると認定する可能性が高いと思われます（反対する証拠がないため）。

2000年の遺言が有効であり、2012年のコーディシルが継子への一般贈与に関して遺言を取り消したり修正したりしていないことを考えると、継子は30万ドルの別財産銀行口座から1万ドルを受け取る権利がある。

10,000ドルからドット

上述の通り、2000年の遺言執行時、ドットは利害関係人であった。しかし、上述したように、2012年のコーディシルは有効であったため、コーディシルによる再発行が効力を発揮した。つまり、裁判所は、2000年の遺言ではなく、2012年の遺言の実行時に利害関係人がいたかどうかだけを検討することになります。

その結果、コーディシルによる再発行により利害関係人の問題は解消され、ドットはテッドの遺言で贈られた1万ドルを受け取る権利が発生する。この1万ドルは、継子への贈与について述べたのと同じ理由で、一般贈与となる。従って、\$10,000は\$300,000の別財産銀行口座から充当されることになる。

共同財産を "私の妻" に

ここで、**2000年**の遺言は、テッドの「共同財産」をすべて妻に譲るというものである。さらに、**2012年**のコーディシルでは、テッドは "私はバーサと結婚しており、私の遺言における妻への言及はすべてバーサを指す。"と書いている。

なお、裁判所は、**2012年**の「私の遺言書」の参照を参照による取り込み行為とみなすと思われます。遺言者は、その文書が現存し、十分に説明されており、遺言者がそのように意図している限り、あらゆる文書を参照によって取り込むことができる。ここで、テッドは自分の「遺言書」に言及することで、自分の遺言書を参照により取り込んでいます。遺言書はコーディシルの時点で存在し、コーディシルは遺言書を具体的に参照しているため、裁判所はテッドが遺言書を取り込むことを意図したと推定する可能性が高い。

さらに、前述したように、裁判所は遺言文書に曖昧な点がある場合、外在的証拠を考慮する。したがって、裁判所は、**2010年**にウィルマが死亡した後、**2011年**にテッドがバーサと結婚したという事実とともに、コーディシルを考慮することになる。

要するに、参照による取り込みであれ、外在証拠を考慮することであれ、裁判所は "to my wife" という文が "Bertha" を特定するためのものであることを認めることになる。

その結果、コーディシルと遺言を合わせて、バーサはテッドがバーサと所有していた**60万ドル**の家について、テッドの**2分の1**である**30万ドル**の共有財産分を受け取る権利を得た。

シンディへの遺留分

遺留分とは、遺産の分配後に残ったものを贈与することです。

ここで、テッドの**2000年**の遺言は、"私の別個の財産からなる遺留分を娘のシンディに残す"というものである。

これは遺留分贈与であるため、シンディは遺留分として残っているものを取得します。
つまり、サムとドットに支払った2万ドルを差し引いた後、テッドの娘であるシンディは
以下の権利を得る。

別財産の銀行口座の**28万ドル**。

結論として、バーサ、サム、ドット、シンディは、上記のようにテッドの遺産について権利を有する。

選択回答B

便宜上。テッド=T、ウィルマ=W、サム=S、ドット=D、ジェーン=J、バーサ=B

a. Tの2000年遺言は有効か？

それぞれの当事者の権利は、Tの2000年の遺言が有効かどうかによって決まります。

容量について

有効な遺言をするためには、遺言者がその能力を有している必要があります。遺言者が意思能力を有するのは、18歳以上で、自分の財産の性質と範囲を理解し、自分の恵みの自然物（人間関係）を理解し、遺言行為の性質を理解しているときである。

ここで、Tは結婚しており、18歳以上であると推定される。また、Tは遺言書と称する文書を作成し、「Will of Ted」と題し、現金と共有財産に言及した財産処分を行った。そして、友人、連れ子、妻、娘に贈与を残している。したがって、Tは、自己の財産の範囲、他者との関係、遺言行為の内容を知っていたといえる。したがって、Tにはこの遺言を作成する能力があった。

現在の遺言の意思

また、遺言者は、自分の死後、遺言を有効にする意思を現在持っていなければならない。ここでは、上記の理由と、証人としてDotとJaneに署名させたことから、Tのこの遺言を有効にする意思を満たしている可能性が高い。したがって、現在の遺言の意思は満たされている。

証明された遺言の有効性

認証付き遺言とは、証人付き遺言のことです。遺言が有効であるためには、遺言者が署名し、その署名が2人以上の証人の共同立会いのもとで行われたか、その証人の共同立会いのもとで承認され、証人がともに遺言者の生存中に署名し、証人が遺言に立ち会っていることを理解していることが必要である。

ここで、Tは自分の遺言書と称する文書を作成し、日付と署名をした。さらに、JaneとDotと一緒にいるときに近づき、「これは私の遺言の署名です。お二人とも証人になってくれませんか?」と言った。したがって、彼は2人以上の証人の共同立会いのもとで書かれた遺言書に自分の署名を認めたことになる。

しかし、彼がサインを認めた後、すぐにサインしたのはジェーンだけでした。ドットは翌日までサインをしなかった。しかし、認証された遺言の場合、証人は互いの署名の際に2人とも同席する必要はなく、Tが遺言を承認した際に2人とも同席すればよい。したがって、この要件は満たされており、ドットは翌日、証人として有効に署名した。

両証人はTの生前に署名しているため、Tが署名を認めたときに両証人は立ち会い、Tの陳述と証書の確認により、両証人はTの遺言に立ち会っていることを理解していました。

したがって、これは有効な遺言書である。

った。利害関係人証の問題

証人は、遺言の証人であり、かつ、遺言の下取りをする場合には、利害関係人とみなされます。ただし、証人がいないことによる遺言の効力には影響しませんが、利害関係のある証人の贈与には影響が出ます。したがって、Dが遺言の下敷きになったとしても、証人になることは可能である。彼女の贈与については、後述する。

さらに、Jも証人として遺言に名を連ねていますが、遺言執行者の立場で名を連ねているだけなので、利害関係人とは言えません。

ホログラフィックウィル

遺言は、すべての重要な用語が遺言者の筆跡であり、遺言者が遺言書に署名している場合、ホログラフィック遺言として有効である。すべての重要な条項とは、贈与と受益者の命名のことをいう。ここで、この文章はすべてタイプされたもので、Tの自筆ではありません。したがって、これは有効な自筆証書遺言とはいえないだろう。

遺言の条件

2000年の遺言は有効なので、Tの財産の処分は、特に変更または取り消しができない限り、

これに従って行われることになる。その条件は次の通りである。

義理の息子に10,000ドル

10,000ドルからD

Tの「妻」に共有財産の私の持分全部を遺贈 Jに遺贈

。

b. ベルタの権利

遺言では、Tの共有財産に対する持分はすべて "妻 "に渡ることになっていました。Tは **Bertha**と所有していた家の共有財産権30万ドル。 **Bertha**は、これによって2つの理由で彼の共有財産の持ち分を取ることができると主張するだろう。

妻」への言及は独立した意味を持つ行為なのか

遺言では、将来起こるべき出来事に基づいて、贈与の完了を認めることができます。これを独立の意義のある行為といいます。独立意義行為が有効であるための要件は、その出来事が遺言の作成過程以外のところで独立した意義を持つことです。

ここで、Tは共有財産の取り分を "妻 "に渡すと述べている。したがって、この贈与は、Tが死亡時に妻がいることを条件とするものである。婚姻は遺言作成とは別個の意義があるので、これは独立した意義のある行為を条件とする有効な贈与であり、**B**が30万ドルの共有財産権を取得することができるようになる。

有効な遺言書

コーディシルとは、遺言書を修正、変更、または取り消すための文書です。有効であるためには、遺言に必要な手続きに準拠する必要があります。

ここで、**B**は、2000年の遺言で**B**をTの妻としたTの2012年の手書きのメモが、**B**が家の共有財産分を取得することを認める有効な共付書であると主張することになる。したがって、この文書の有効性は、その形式的な遵守に依存する。

認証された遺言書

上記の証明付き遺言のルールを参照してください。この証書は、立会いがないため、認証された遺言書としての資格はないでしょう。したがって、これを根拠に有効な遺言書とすることはできません。

ホログラフィックウィル

上記の自筆証書遺言に関するルールを参照してください。ここで、これはTが署名したもので、自筆である。そのため、すべての重要な条件が記載され、Tの自筆で書かれている。したがって、これは有効なホログラフィックコーディシルである。

参照による組み込み

遺言書は、文書に言及していることが明らかで、その文書が遺言書の執行時に存在し、その文書が遺言に組み込まれることが遺言者の意図であった場合には、贈与を完了するための文書を参照することが認められています。

ここで、2012年の証書において、Tは自分の前の遺言を明確に特定し、その遺言は既に存在しており、また、Tがこの証書を使用して、すべての言及はBにあることを説明しているように、この現在の証書に遺言を組み込む意図があった。したがって、彼の前の遺言は、2012年の証書における贈与を完了するために有効に組み込まれた。

したがって、BはTの住宅に対する30万ドルの共有財産権を取得することになります。

c. サムの権利

2000年の遺言では、Tの「継子」に対して10,000ドルの贈与が行われている。しかし、Tの連れ子は、この証書によって特定されていない。

アンビギュイティ

コモンローでは、パロール証拠（遺言書以外の証拠）は、遺言書の特許上の欠陥を修正することは認められていませんでした。仮証拠は潜在的な曖昧さを修正するためにのみ認められていた。受益者の身元が確認できない場合、遺言には明白な欠陥があるとされた。

ここで、贈与にはTの連れ子としか書かれておらず、Sと思われるが、TはWilmaの死後婚姻関係がなくなり、Bにも先妻との間に息子がいるようには見えないので、もはや連れ子がいるのかどうかは不明である。したがって、慣習法上、この贈与は受益者の特定ができないとして不成立となる。

しかし、CA州では、遺言者の意図をより忠実に実現するために、潜在的であれ特許的であれ、あらゆる曖昧さを解消するために、すべてのパロール証拠を認めています。

したがって、Sは、2000年の遺言が作成された当時、自分がTの連れ子であり、贈与がSに渡るとはTの意思であったという証拠を提出することができます。この証拠は、裁判所によって適切に認められ、贈与がSに渡ることを認める可能性が高いでしょう。

したがって、Sは10,000ドルを受け取る可能性が高い。

d. D権

2000年の遺言では、Dは10,000円の贈与を主張する

。利害関係人問題

提示された問題は、Dが2000年の遺言の証人であると同時に受益者であったことである。遺言の証人が受益者でもある場合、その証人が遺言の作成過程で不当な影響を及ぼしたという反証可能な推定が成り立ちます。証人が親族である場合、親族は自分の遺留分を上限として贈与を受けることができるが、遺留分を持たない非親族は全く受けることができない。

ここで、DはTの友人として具体的に記載されているため、非親族である。したがって、推定を覆すことができない場合、彼女は遺言により何も受け取らないこととなります。彼女は、不当な影響がなかったことを明確かつ説得力のある証拠で示すことによって、この推定を覆すことができる。ここでは、Dが贈与を不正に調達したことを示唆する事実はない。Tは自分で遺言書を作成し、その後、Dへの贈与を有効にすることなく、上述のようなコーディシルを実行し、Tからサインを求められたDは贈与について何も言っていない。したがって、推定は覆される可能性が高く、Dは、自分の贈与について利害関係人であっても1万円の贈与。遺言

書による復権

有効なコーディキルが実行されると、遺言の実行日が更新され、その日

が実行されたことである。ここでは、上述のように、Tは2012年に有効なコーディキルを実行していた。したがって、遺言書は、コーディキルによって再公布されたこととなります。さらに、遺言の再公表とみなされたため、利害関係人が共証の証人でもあり、共証に基づいて新たな贈与を行う場合を除き、遺言に関する事前の利害関係人の問題は治癒されます。

ここでは、上述のように、Tは2012年に有効な共付書を実行し、この共付書はホログラフィックであった。Dはこの証書を目撃しておらず、また、この証書には名前が記載されていない。したがって、これは、Dが2000年の遺言の証人であり、受益者であることによってもたらされた利害関係人の問題を解決する再公表となったものである。

したがって、仮にDが不当な影響力の推定を覆せなかったとしても、コーディキルによる再発行があるため、Dは1万ドルの贈与を受けることになります。

e. Cの権利

上述したように、Sは1万ドル、Dは1万ドル、BはTの30万ドルの共有財産権を取得する。したがって、Tの遺産には28万ドルが未処分として残ります。

遺言で処分された遺産の残りを遺留分といいます。処分の指示がない限り、遺留分は遺留分として分配されます。しかし、遺言者は、特定された受益者に遺産の残余を残す遺留分条項を含めることができます。

ここで、Tは遺留分を娘Cに渡すと定めたので、Cは遺留分権利者であり、遺言で特に処分されなかった28万ドルを受け取ることができることとなります。

したがって、CはTの30万ドルの分離財産のうち、28万ドルを取得する。



カリフォルニア州弁護士会
司法試験委員会／入試事務局

180 Howard Street - San Francisco, CA 94105-1639 - (415) 538-2300
845 S. Figueroa Street - Los Angeles, CA 90017-2515 - (213) 765-1500

きじゅつもんだい

2015年2月 カリフォルニア

州司法試験

本書は、2015年2月に実施されたカリフォルニア州司法試験の論文問題6問と、各問題に対する選択解答2問を収録しています。

答案には高い評点が付けられ、一読して合格した志願者が書いたものである。解答は、読みやすくするためにスペルや句読点に若干の修正を加えた以外は、応募者が提出したものをそのまま作成しました。ここに掲載するのは、著者の承諾を得たものである。

<u>質問番号</u>	<u>主題</u>
1.	契約内容
2.	不動産
3.	民事訴訟法
4.	レメディ
5.	ビジネスアソシエーションズ
6.	遺言書・信託書

QUESTION 6

2011年、85歳のTessは、孫のGregとSusieのために全財産を信託する有効な遺言を実行した。信託からの収入は、毎年、当時生きていた孫に分配されることになっていました。最後の孫が亡くなったとき、残った財産は象の世話のために動物園に寄付されることになっていました。

2012年、裁判所はテスの精神能力が低下しているとして、グレッグをテスの保佐人に任命しました。

2013年、裁判所はグレッグにテスのための新しい遺言を作成することを許可した。グレッグはテスのために新しい遺言を作成し、テスの全財産をスージーと自分にそっくり残すようにしました。グレッグはその後、テスに相談することなく、利害関係のない2人の証人の立会いのもと、遺言書に署名した。

2014年、テスはグレッグが作成した遺言書のコピーを発見し、激怒した。彼女はすぐに弁護士に電話し、自分の資産を詳しく説明し、グレッグを除いたスージーだけに遺産を信託する新しい遺言を作成するよう指示した。信託からの収入は、毎年スージーに分配されることになっていた。スージーの死後、残った財産は動物園の象の世話のために寄付されることになっていた。新しい遺言は、適切に執行され、証人にもなりました。

2015年、テスが死んだ。同じ年、動物園で唯一残っていたゾウが亡くなりました。

動物園は、その動物の世話を全般的に行うために信託を変更するよう裁判所に申し立てました。

1. Zooの嘆願は認められそうですか？議論してください。
2. グレッグ、スージー、ズーは、テスの遺産についてどのような権利を持っているか（もしあれば）。議論してください。カリフォルニア州法に従って答えなさい。

質問6：選択した回答A

1. Zooの信託変更申立書

トラストクリエーション

問題は、Tessの遺言が有効な慈善信託を作成したかどうかである。信託は、生前信託と遺言による信託のいずれでも作成することができる。信託は、信託を設定する現在の意図、信託受益者、受託者、信託財産、有効な信託目的が存在する場合に設定される。ここでは、テスは遺言により信託を設定する意思を持ち、テスの財産を信託財産としたようである。テスは受託者を指名しなかったが、裁判所は通常、受託者不在を理由に信託を破綻させるのではなく、適切な受託者を任命する。テスの孫のために意図された信託の部分には、識別可能で確認可能な受益者がおり、収益から孫を養うという有効な信託目的があるため、信託は適切な受益者を有する。

慈善信託とは、医療、教育、宗教などの公益的な目的のための信託である。慈善信託は永続的なものであってもよく、受益者を特定する必要はない。また、慈善信託にはサイプレの原則が適用されます。慈善目的が不可能または実行不可能になった場合、cy presの原則に基づき、裁判所は、設定者の慈善目的にできるだけ近い代替の慈善目的があるかどうか、または設定者が信託が失敗することを望んでいるかどうかを判断することになる。ここでは、孫の死亡後の信託の残余財産は、象の世話のために動物園に行くことになっているため、慈善信託となる。象はテスの死後に死亡したため、象の世話というテスの明示的な慈善目的はもはや不可能である。しかし、裁判所は、他の動物の世話のために動物園に信託する、あるいは象の世話のために象のいる他の動物園に信託するよう、サイプリズを適用する可能性があります。テスが生前、この動物園や特に象と特定の関係を持ち、動物園がその資金で象の世話をする場合にのみ信託が有効であることを意図していたことは明らかではありません。むしろ、彼女は一般的な慈善的意図を持っていたと思われ、裁判所は信託資金を彼女の意図にできるだけ近い慈善目的に向けられることになるでしょう。したがって、Zooはサイ・プレ・ドクトリンに基づいて信託を修正することができる可能性が高い。

(動物園への贈与は、信託の設定時に存在した生命から21年以内に動物園に帰属するため、永続性禁止規則の下では失敗しない)。永続性禁止規則では、現存する生命に21年を加えた期間内に帰属する必要がない場合、贈与は失敗する。孫は現存しており、信託は最後の孫の死亡と同時に動物園に引き継がれます。従って、動物園への贈与はRAPに違反しない。孫は慈善団体ではないので、慈善団体間の例外は適用されない)。

結論

裁判所は、*cy pres*の原則に基づき、一般的に動物の世話をするために信託を修正するZooの申立てを認めると思われます。

2. テスの遺品に関する権利

2013年の遺言の有効性

問題は、2013年の遺言がテスの2011年の遺言を有効に取り消すかどうかである。一般に、有効に執行された遺言は、物理的な取り消し行為、または先の遺言を明示的に取り消すか、先の遺言の条件と矛盾する後続の有効な遺言の執行によって取り消すことができる。遺言の内容が矛盾している場合、先の遺言はその矛盾の範囲でのみ取り消されます。後の遺言は、必要な手続きを全て踏んで有効に執行されなければなりません。遺言能力があり、現在の遺言意思があり、遺言が書面であり、遺言者が署名し（または遺言者の指示により遺言者の立会いのもとに署名し）、署名または署名の肯定を共同で目撃する2人の証人がいて、2人の証人が署名しているのが遺言であることを知って遺言者の死亡前に署名する場合に遺言は有効に成立する。立会いの形式が守られていない場合でも、遺言者がその文書を自分の遺言であると意図していたことを、遺言提案者が明確かつ説得力のある証拠を提出すれば、有効な遺言とみなされることがあります。カリフォルニア州では、すべての重要な条項が遺言者の筆跡である場合、ホログラフィック遺言が認められています。

ここでは、テスは2011年に有効な遺言を実行し、遺言の条項によって作成された信託に財産を注ぎ込んだ。2013年、グレッグは先の遺言を取り消そうと、次のような方法をとった。

は、全財産をそのまま贈与することで、先の遺言と矛盾する新しい遺言を作成した。したがって、**2013年**の遺言によって形式が守られた場合、**2011年**の遺言は適切に取り消された。裁判所はグレッグを保佐人に任命し、テスのために新しい遺言を作成する権限を与えたため、グレッグの能力および遺言を作成する現在の意思が問題になっている。グレッグに能力がなかったことや、**2013年**に遺言を作成する意思が現在なかったことを示す事実はない。遺言は書面で作成され、グレッグはテスの代理として署名した。テスは遺言書に署名するよう指示しなかったが（実際、彼女はそれに気づいていなかった）、グレッグは保佐人に任命されていたため、彼女に代わって署名する権限を有していた。遺言は、利害関係のない**2人**の証人の共同立会いのもとで署名され、**2人**もテスの生前に遺言に署名した。このように、すべての手続きが守られ、**2013年**の遺言はテスの有効な遺言となり、**2011年**の遺言は暗黙のうちに撤回された。

不当な影響力または関係の濫用

問題は、グレッグが不当な影響力を行使したり、保佐人を何らかの形で濫用したために、遺言書またはその一部が無効であったかどうかである。不当な影響力とは、遺言者の自由意志に打ち勝つ程度に、人が遺言者に影響力を行使する場合に発生します。その場合、不当な影響を受けて作成された遺言の部分は無効となります。その部分が遺留分のある人に対して行われた場合、その贈与は遺留分の範囲内においてのみ無効となります。不当な影響力は、ある人が遺言者と秘密関係にあり、遺言書の作成に関与し、不自然な贈与が行われた場合に推定される。ここで、グレッグはテスの遺言を変更するよう説得する必要がなかったため、テスに対して不当な影響を及ぼしていない。その代わり、彼は保佐人に任命され、自ら遺言を変更する権限を与えられている。したがって、不当な影響力を理由に贈与が無効となることはないだろう。

しかし、裁判所は、グレッグがテスの意思に相談することなく、テスの意図に反する形で遺言を変更し、保佐人としての立場を乱用したと判断する可能性があります。保佐人は一般に、代理人である個人に対して受託者的な義務を負っているため、忠実に、彼女の最善の利益のために行動しなければなりません。グレッグの遺言変更は、テスの明示的な意思に直接反する形で、彼に直接利益をもたらすものであった。

は、彼女が精神的能力を有していた時期である。したがって、裁判所は、グレッグの行為がテスの利益を忠実に代表する義務に違反していると判断する可能性がある。その場合、彼の贈与は遺留分として減額される可能性が高い。しかし、テスの財産が遺贈された場合、テスの唯一の生前相続人であるスージーとグレッグに平等に贈られることになります。これは、まさにグレッグが行った遺言である。したがって、グレッグは、彼が職権を乱用していたときに自分で与えた贈り物を受け取ることになる。その場合、裁判所はズーの利益のためにグレッグの財産に建設的信託を課すかもしれません。

(実質的には、テスが**2013年**の遺言を取り消す有効な遺言を執行できたので、グレッグの不義理は問題にならない、後述)。

2014年 ウィル

問題は、テスの**2014年**の遺言が、グレッグが作成した**2013年**の遺言を適切に取り消すかどうかである。上記の通り、遺言は、現在の遺言意思、遺言能力、書面による遺言、遺言者の署名、**2人**の共同証人の立会い、遺言者の死亡前に証人による署名がある場合に作成される。

遺言能力は、遺言者が自分の財産の性質と範囲を理解し、自分の恵みの自然物を知っているときに存在します。ここで、**2014年**にテスが弁護士に電話した際、彼女は自分の資産を詳細に説明することができ、自分の資産を全てスージーに残すことについて合理的な説明をすることができた。グレッグは、テスの精神能力の低下を考慮して保佐人に任命されたため、テスには能力がなかったと主張するだろうが、遺言者が自分の財政やその他の個人的な事柄を管理する能力を欠いている場合でも、遺言能力は存在しうる。このような状況から、テスには自分の資産や誰に遺したいかを理解する能力があったと思われ、裁判所はテスに能力があったと判断する可能性が高い。

また、テスは弁護士に新しい遺言書の作成を指示したことから、現在の遺言の意思があると思われ。また、事実上、その遺言は適切に執行され、立会いが行われたとしている。したがって、**2014年**の遺言は、**2013年**の遺言と全く矛盾するものであったため、**2013年**の遺言を有効に取り消すことができた。

したがって、2015年にテスが死亡した際、テスの全財産を信託し、収入はスージーに生前分配し、残りの資産はスージーの死亡時に動物園に分配するという2014年の遺言は、テスの有効な遺言だった。

省略された子供

グレッグは、自分が遺留分権利者としてテスの遺産の遺留分を主張しようとするかもしれない。遺言作成後に生まれた子（あるいは遺言者がその子が死んだと勘違いしたり、生まれたことを知らなかったりした）が意図せず遺言から漏れてしまった場合、その子は遺留分を取ることができ、他の贈与はすべて減殺されます。しかし、グレッグは子ではなく孫であり、遺言が作成された時点では生きており、テスが自分の遺言を変更しようとしたことに腹を立てたため、意図的に省略された。したがって、グレッグは、省略された子として遺留分を得ることはできない。

残りは動物園へ

上記の通り、スージーの死後、ズーへの贈与は、規則に違反しない。

Perpetuities に反対する。これは有効な慈善信託であり、裁判所は信託が破綻しないようにサイ・プレを適用すると思われます。

結論

グレッグはテスの遺産について何の権利も持たない。スージーは生前に信託から収入を得る権利を持ち、ズーはスージーの死亡時に信託財産を分配する権利を持つ。

質問6：選択した回答B

1. 動物園の嘆願書

ここで問題となるのは、TessがZooにTの財産に対する権利を残す有効な遺言と信託を作成したかどうかである。

2011年 - ウィル

有効な遺言は、書面でなければなりません。遺言者は、利害関係のない2人の証人の立ち会いのもと、同時に遺言書に署名しなければなりません。

事実によれば、Tは有効な遺言を作成したとされているので、遺言の要素をすべて満たしていたと考えることができる。したがって、有効な遺言書が作成されたことになる。

トラスト

Tは、孫のために全財産を信託した。信託が有効に成立するためには、遺言者、受益者、受託者、信託目的、信託財産が存在する必要があります。

テスター

ここで、Tは遺言者である。

受益者

Tの孫のGregとSusieは、信託から収入を得るため、収入受益者です。動物園も受益者であり、彼らはその不動産の将来の権利を保有しています。動物園は、最後の孫が亡くなった後、信託の残りを受け取ることになります。

トラスティ

指定された受託者がいないからといって、信託が無効になるわけではありません。信託を管理する受託者がいない場合、裁判所が受託者を選任します。

信託の目的

信託の目的は、孫に生涯にわたって収入を提供し、その後、残りは動物園に行くことです。

信託財産

Tは自分の全財産を信託に預けています。

したがって、有効な信託が作成された。2011年の遺言により、ZooはTの信託の持分を有していた。

2013 - 新ウィル

問題は、裁判所が任命した保佐人によって作成された新しい遺言が有効かどうかということです。

遺言書の形式 上

記ルールをご参照ください。

ここでは、グレッグがTの保佐人として、裁判所の認可のもと、テスのために新しい遺言を作成した。この遺言書には、利害関係のない2人の証人が署名した。しかし、Tは遺言書に署名していない。しかし、グレッグは、保佐人として、彼女に代わって署名することが許されていると主張するでしょう。つまり、厳密には、遺言書は適切に作成されたこととなります。しかし、なぜこの遺言が無効とされるべきなのか、以下に説明します。

保存修復師としてのグレッグ

裁判所は、精神的能力を欠く人に代わって行動する後見人または保佐人を任命することができます。後見人や保佐人には、新しい遺言書の作成など、法的な意思決定を行う権限があります。しかし、保佐人は依然として遺言者に注意と忠誠の受託者としての義務を負っています。保佐人は、遺言者の最善の利益のために行動し、利己的でTの利益に直接反するような決定をしてはなりません。

ここで、グレッグはTの「精神能力の低下」を理由に保佐人に任命された。彼はTのために新しい遺言を作成する権限を持つが、彼は受託者としての義務を守らなければならない。グレッグは、Tの新しい遺言を作成する際に、まず遺言についてTと話し、遺産をすべてグレッグとスージーに残すように遺言を変更することに彼女が納得するかどうかを判断せずに、受託者の義務に違反した。その代わりに、グレッグは彼女の以前の遺言を無視し、全財産を自分と妹のスージーに残し、ズーを完全に遺言から切り離しました。自分と妹にすべてを残すという行為は自己売買を示し、彼は忠誠の義務に違反したことになります。グレッグは新しい遺言を作成する権利があったと主張しようとしても、受託者としての義務に違反したため、失敗しました。Tの遺産は、この義務に違反したとしてグレッグを訴え、2013年の遺言を無効にするよう要求することができる。

不当な影響力

さらに、ZooとTの遺産は、遺言を書いた人物との間に信認関係があり、不自然な逸出があったことから、それ自体が不当な影響であると主張するでしょう。

ここで、グレッグは保佐人であり、Tと受託者関係にあります。また、この贈与は、元の遺言が遺産全体をスージーとグレッグに残すことを意図していなかったため、不自然なものです。したがって、ZooとTの遺産は、不当な影響に基づく遺言の無効化に成功するはずです。

DRR

あるいは、ZooとTの遺産は、DRRのもとで元の遺言を復活させようとすることもできます。

DRRでは、直近の遺言が詐欺や虚偽の説明で作成された場合、以前の遺言を復活させることができます。つまり、遺言者が何かについて誤解していたために新しい遺言を作成したということです（例えば、受益者が本当は生きているのに死亡していたなど）。このような場合、新しい遺言は無効となり、古い遺言は復活させることができます。

ここで、Tの遺産とズーウィルは、グレッグが作成した新しい遺言をTが作成することはなかったと主張します。グレッグは、Tの遺言に対する意思を詐称し、不自然な献身を作り出した。上述のように、Tは自分の全財産をグレッグとスージーに残すつもりはなかった。2011年以降、彼女が考えを改めたことを示唆する事実はない。したがって、2013年の遺言は無効とし、2011年の遺言を復活させるべきである。

2014年 弁護士が作成した遺言書

グレッグが2013年の遺言を作成したことを知ったTは、新たな遺言を作成した。ここで問題となるのは、能力不足のために有効な遺言書が作成されたかどうかである。

遺言の手続き

上記のルールを参照してください。ここでは、事実上、新しい遺言が適切に執行され、立ち会ったということになっています。つまり、遺言の形式は満たされていると仮定しましょう。

能力不足

一般的に、自分の財産の内容、家族や友人との関係の内容、遺言を作成する行為の内容などを理解できない場合、意思能力が欠如しているとされる。

ここで、最大の問題は、Tの精神能力が低下しているため、裁判所がTの保佐人を選任したことである。それ以外の点では、彼女が遺言を作成する能力についてよく分かっていません。また、「精神能力の低下」と「意思能力の欠如」がイコールであるかどうかもわかりません。ここで、能力に関する要素を見てみましょう。

行為の性質

この要素は、Tが遺言書作成という自分の行為・行動の本質を理解していることを意味します。

ここで、Tはグレッグが作成した遺言書を見て激怒し、新しい遺言書を作成するために弁護士に連絡したことから、遺言書を作成するという自分の行為の本質を理解しているように見える。Tは、グレッグの2013年の遺言が自分の意図するものではないことを知り、新しい遺言を作成するために弁護士に連絡する必要があることを知っていたので、自分の行為の本質を理解していたように思われます。したがって、この要素は満たされている。

エステートの性質

この要素は、遺言者が自分の財産の範囲を理解し、特定する必要があることを意味します。

ここで、Tは自分の財産を詳細に記述した遺言書を改訂し、全財産をスージーに残したので、彼女の財産と財産の性質を理解しています。したがって、この要素は満たされていると思われる。

家族・友人との関係性

この要素は、遺言者が資産を残す相手である家族や友人との関係を理解する必要があることを意味します。

Tは、グレッグがやったことに腹を立て、新しい遺言からグレッグを除外したことから、自分の人間関係の本質を理解しているようです。彼女は、全財産をスージーに信託し、残りを動物園に寄付しました。したがって、この要素は満たされていると思われ
ます。

したがって、Tは遺言を作成した時点で意思能力の要素をすべて満たしていたと思われるので、2014年の遺言が有効な執行力のある遺言であると思われ
ます。2014年の遺言は、それ以前のすべての遺言を自動的に取り消します。もし裁判所が、Tが遺言を作成した時点で能力を持っていたと認めるなら、Tの2014年の遺言はおそらく有効であり、ズーはTの遺産に対して利害関係を持つこととなります。

サイプレスト

次の問題は、信託財産が象の世話のために残されていたのに象がいないため、**Zoo**がその資産を使用できるかどうかです。サイプレス法では、信託の目的が挫折した場合、裁判所は慈善信託の目的を修正することができます。

ここで、**T**の信託は、信託に残ったものを、動物園の象の世話のために残しています。事実は、スージーがまだ死んでいないことを示しているので、動物園の利益はまだ将来のものであります。動物園は信託に対して現在の利益を持たないので、動物園は信託の目的を変更するために裁判所に請願しても、ほとんどの場合失敗するでしょう。現時点では動物園は象を飼っていませんが、スージーが死んだら象を飼うかもしれません。スージーが死んだ時に動物園が象を持っていなければ、動物園は信託目的の変更に成功する可能性が高くなるかもしれません。信託目的の変更に成功した場合、新しい目的も慈善事業でなければならず、裁判所はおそらく、慈善事業目的を元の受託者が意図した目的にできるだけ近づけることを望むと思われまます。したがって、**Zoo**の申し立ては時期尚早です。裁判所は、現時点では**Zoo**には現在の利益がなく、信託の目的も現在挫折していないため、この申し立てを却下すべきです。

2. グレッグ、スージー、ズーの権利。

受益者の権利については、上記の説明を参照してください。 処

分の内容

グレッグ

2014年の遺言に基づき、グレッグは**T**の資産に対して何の利害関係もない。もちろん、裁判所が**T**に2014年の遺言を作成する能力がなかったと判断すれば、グレッグは2011年の遺言による信託から収入を得ることができるかもしれない。2011年の遺言は、グレッグが不正に作成した2013年の遺言が無効となり、2011年の遺言が復活した場合のみ有効となります。

スージー

スージーは2014年の遺言により、生涯にわたり信託収入の権利を有する。上述のように、2013年の遺言は無効である可能性が高いので、スージーはTの全財産をグレッグと共有することはできない。2014年の遺言が無効であると裁判所が判断した場合、スージーは2011年の遺言に基づき終身信託収入を得ることになります。

動物園

Zooは、2014年の遺言に基づき、その象の世話のために信託の残余部分について将来の利益を有する。



カリフォルニア州弁護士会
司法試験委員会／入試事務局

180 Howard Street - San Francisco, CA 94105-1639 - (415) 538-2300
845 S. Figueroa Street - Los Angeles, CA 90017-2515 - (213) 765-1500

きじゅつもんだい

2015年2月 カリフォルニア

州司法試験

本書は、2015年2月に実施されたカリフォルニア州司法試験の論文問題6問と、各問題に対する選択解答2問を収録しています。

答案には高い評点が付けられ、一読して合格した志願者が書いたものである。解答は、読みやすくするためにスペルや句読点を若干修正した以外は、応募者が提出したものをそのまま作成しました。ここに掲載するのは、著者の承諾を得たものである。

<u>質問番号</u>	<u>主題</u>
1.	契約内容
2.	不動産
3.	民事訴訟法
4.	レメディ
5.	ビジネスアソシエーションズ
6.	遺言書・信託書

QUESTION 6

2011年、85歳のTessは、孫のGregとSusieのために全財産を信託する有効な遺言を実行した。信託からの収入は、毎年、当時生きていた孫に分配されることになっていました。最後の孫が亡くなったとき、残った財産は象の世話のために動物園に寄付されることになっていました。

2012年、裁判所はテスの精神能力が低下しているとして、グレッグをテスの保佐人に任命しました。

2013年、裁判所はグレッグにテスのための新しい遺言を作成することを許可した。グレッグはテスのために新しい遺言を作成し、テスの全財産をスージーと自分にそっくり残すようにしました。グレッグはその後、テスに相談することなく、利害関係のない2人の証人の立ち会いのもと、遺言書に署名しました。

2014年、テスはグレッグが作成した遺言書のコピーを発見し、激怒した。彼女はすぐに弁護士に電話し、自分の資産を詳しく説明し、グレッグを除いたスージーだけに遺産を信託する新しい遺言を作成するよう指示した。信託からの収入は、毎年スージーに分配されることになっていた。スージーの死後、残った財産は動物園の象の世話のために寄付されることになっていた。新しい遺言は、適切に執行され、証人にもなりました。

2015年、テスが死んだ。同じ年、動物園で唯一残っていたゾウが亡くなりました。

動物園は、その動物の世話を全般的に行うために信託を変更するよう裁判所に申し立てました。

1. Zooの嘆願は認められそうですか？議論してください。
2. グレッグ、スージー、ズーは、テスの遺産についてどのような権利を持っているか（もしあれば）。議論してください。カリフォルニア州法に従って答えなさい。

質問6：選択した回答A

1. Zooの信託変更申立書

トラストクリエーション

問題は、Tessの遺言が有効な慈善信託を作成したかどうかである。信託は、生前信託と遺言による信託のいずれでも作成することができる。信託は、信託を設定する現在の意図、信託受益者、受託者、信託財産、有効な信託目的が存在する場合に設定される。ここでは、テスは遺言により信託を設定する意思を持ち、テスの財産を信託財産としたようである。テスは受託者を指名しなかったが、裁判所は通常、受託者不在を理由に信託を破綻させるのではなく、適切な受託者を任命する。テスの孫のために意図された信託の部分には、識別可能で確認可能な受益者がおり、収益から孫を養うという有効な信託目的があるため、信託は適切な受益者を有する。

慈善信託とは、医療、教育、宗教などの公益的な目的のための信託である。慈善信託は永続的なものであってもよく、受益者を特定する必要はない。また、慈善信託にはサイプレの原則が適用されます。慈善目的が不可能または実行不可能になった場合、cy presの原則に基づき、裁判所は、設定者の慈善目的にできるだけ近い代替の慈善目的があるかどうか、または設定者が信託が失敗することを望むかどうかを判断することになる。ここでは、孫の死亡後の信託の残余財産は、象の世話のために動物園に行くことになっているため、慈善信託となる。象はテスの死後に死亡したため、象の世話というテスの明示的な慈善目的はもはや不可能である。しかし、裁判所は、他の動物の世話のために動物園に信託する、あるいは象の世話のために象のいる他の動物園に信託するよう、サイプリズを適用する可能性があります。テスが生前、この動物園や特に象と特定の関係を持ち、動物園がそのお金で象の世話をする場合にのみ信託が有効であることを意図していたことは明らかではありません。むしろ、彼女は一般的な慈善の意図を持っていたようで、裁判所は信託資金を彼女の意図にできるだけ近い慈善目的に向けることになるでしょう。したがって、Zooはサイ・プレ・ドクトリンに基づいて信託を修正することができる可能性が高い。

(動物園への贈与は、信託の設定時に存在した生命から21年以内に動物園に帰属するため、永続性禁止規則の下では失敗しない)。永続性禁止規則では、現存する生命に21年を加えた期間内に権利確定する必要がない場合、贈与は失敗する。孫は現存する生命であり、信託は最後の孫の死亡と同時に動物園に引き継がれます。従って、動物園への贈与はRAPに違反しない。孫は慈善団体ではないので、慈善団体間の例外は適用されない)。

結論

裁判所は、cy presの原則に基づき、一般的に動物の世話をするために信託を修正するZooの申立てを認めると思われます。

2. テスの遺品に関する権利

2013年の遺言の有効性

問題は、2013年の遺言がテスの2011年の遺言を有効に取り消すかどうかである。一般に、有効に執行された遺言は、物理的な取り消し行為、または先の遺言を明示的に取り消すか、先の遺言の条件と矛盾する後続の有効な遺言の執行によって取り消すことができる。遺言の内容が矛盾している場合、先の遺言はその矛盾の範囲でのみ取り消されません。後の遺言は、必要な手続きを全て踏んで有効に執行されなければなりません。遺言能力があり、現在の遺言意思があり、遺言が書面であり、遺言者が署名し（または遺言者の指示により遺言者の立会いのもとに署名し）、署名または署名の肯定を共同で目撃する2人の証人がいて、2人の証人が署名しているのが遺言であることを知って遺言者の死亡前に署名する場合に遺言は有効に成立する。立会いの形式が守られていない場合でも、遺言者がその文書を自分の遺言であると意図していたことを、遺言提案者が明確かつ説得力のある証拠を提出すれば、有効な遺言とみなされることがあります。カリフォルニア州では、すべての重要な条項が遺言者の筆跡である場合、ホログラフィック遺言が認められています。

ここでは、テスは2011年に有効な遺言を実行し、遺言の条項によって作成された信託に財産を注ぎ込んだ。2013年、グレッグは先の遺言を取り消そうと、次のような方法をとった。

は、全財産をそのまま贈与することで、先の遺言と矛盾する新しい遺言を作成した。したがって、**2013年**の遺言によって形式が守られた場合、**2011年**の遺言は適切に取り消された。裁判所はグレッグを保佐人に任命し、テスのために新しい遺言を作成する権限を与えたため、グレッグの能力および遺言を作成する現在の意思が問題になっている。グレッグに能力がなかったことや、**2013年**に遺言を作成する意思が現在なかったことを示す事実はない。遺言は書面で作成され、グレッグはテスの代理として署名した。テスは遺言書に署名するよう指示しなかったが（実際、彼女はそれに気づいていなかった）、グレッグは保佐人に任命されていたため、彼女に代わって署名する権限を有していた。遺言は、利害関係のない**2人**の証人の共同立会いのもとで署名され、**2人**もテスの生前に遺言に署名した。このように、すべての手続きが守られ、**2013年**の遺言はテスの有効な遺言となり、**2011年**の遺言は暗黙のうちに撤回された。

不当な影響力または関係の濫用

問題は、グレッグが不当な影響力を行使したり、保佐人を何らかの形で濫用したために、遺言書またはその一部が無効であったかどうかである。不当な影響力とは、遺言者の自由意志に打ち勝つ程度に、人が遺言者に影響力を行使する場合に発生します。その場合、不当な影響を受けて作成された遺言の部分は、無効となります。その部分が遺留分のある人に対して行われた場合、その贈与は遺留分の範囲内においてのみ無効となる。不当な影響力は、ある人が遺言者と秘密関係にあり、遺言書の作成に関与し、不自然な贈与が行われた場合に推定される。ここで、グレッグはテスの遺言を変更するよう説得する必要がなかったため、テスに対して不当な影響を及ぼしていない。その代わりに、彼は保佐人に任命され、自ら遺言を変更する権限を与えられている。したがって、不当な影響力を理由に贈与が無効となることはないだろう。

しかし、裁判所は、グレッグがテスの意思に相談することなく、テスの意図に反する形で遺言を変更し、保佐人としての立場を乱用したと判断する可能性があります。保佐人は一般に、代理人である個人に対して受託者的な義務を負っているため、忠実に、彼女の最善の利益のために行動しなければなりません。グレッグの遺言変更は、テスの明示的な意思に直接反する形で、彼に直接利益をもたらすものであった。

は、彼女が精神的能力を有していた時期である。したがって、裁判所は、グレッグの行為がテスの利益を忠実に代表する義務に違反していると判断する可能性がある。その場合、彼の贈与は遺留分として減額される可能性が高い。しかし、テスの財産が遺贈された場合、テスの唯一の生前相続人であるスージーとグレッグに平等に贈られることとなります。これは、まさにグレッグが行った遺言である。したがって、グレッグは、彼が職権を乱用していたときに自分で与えた贈り物を受け取ることになる。その場合、裁判所はズーの利益のためにグレッグの財産に建設的信託を課すかもしれません。

(実質的には、テスが**2013年**の遺言を取り消す有効な遺言を執行できたので、グレッグの不義理は問題にならない、後述)。

2014年 ウィル

問題は、テスの**2014年**の遺言が、グレッグが作成した**2013年**の遺言を適切に取り消すかどうかである。上記の通り、遺言は、現在の遺言意思、遺言能力、書面による遺言、遺言者の署名、**2人**の共同証人の立会い、遺言者の死亡前に証人による署名がある場合に作成される。

遺言能力は、遺言者が自分の財産の性質と範囲を理解し、自分の恵みの自然物を知っているときに存在します。ここで、**2014年**にテスが弁護士に電話した際、彼女は自分の資産を詳細に説明することができ、自分の資産をすべてスージーに残すことについて合理的な説明をすることができた。グレッグは、テスの精神能力の低下を考慮して保佐人に任命されたため、テスには能力がなかったと主張するだろうが、遺言者が自分の財政やその他の個人的な事柄を管理する能力を欠いている場合でも、遺言能力は存在しうる。このような状況から、テスには自分の資産や誰に残したいかを理解する能力があったと思われ、裁判所はテスに能力があったと判断する可能性が高いと思われ。

また、テスは弁護士に新しい遺言書の作成を指示したことから、現在の遺言の意思があると思われ。また、事実上、その遺言は適切に執行され、立会いが行われたとしている。したがって、**2014年**の遺言は、**2013年**の遺言と全く矛盾するものであったため、**2013年**の遺言を有効に取り消すことができた。

したがって、2015年にテスが死亡した際、テスの全財産を信託し、収入はスージーに生前分配し、残りの資産はスージーの死亡時に動物園に分配するという2014年の遺言は、テスの有効な遺言だった。

省略された子供

グレッグは、自分が遺留分権利者としてテスの遺産の遺留分を主張しようとするかもしれない。遺言作成後に生まれた子（あるいは遺言者がその子が死んだと勘違いしたり、生まれたことを知らなかったりした）が意図せず遺言から漏れてしまった場合、その子は遺留分を取ることができ、他の贈与はすべて減殺されます。しかし、グレッグは子ではなく孫であり、遺言が作成された時点では生きており、テスが自分の遺言を変更しようとしたことに腹を立てたため、意図的に省略された。したがって、グレッグは、省略された子として遺留分を得ることはできない。

残りは動物園へ

上記の通り、スージーの死後、ズーへの贈与は、規則に違反しない。

Perpetuities に反対する。これは有効な慈善信託であり、裁判所は信託が破綻しないようにサイ・プレを適用すると思われます。

結論

グレッグはテスの遺産について何の権利も持たない。スージーは生前に信託から収入を得る権利を持ち、ズーはスージーの死亡時に信託財産を分配する権利を持つ。

質問6：選択した回答B

1. 動物園の嘆願書

ここで問題となるのは、TessがZooにTの財産に対する権利を残す有効な遺言と信託を作成したかどうかである。

2011年 - ウィル

有効な遺言は、書面でなければなりません。遺言者は、利害関係のない2人の証人の立ち会いのもと、同時に遺言書に署名しなければなりません。

事実によれば、Tは有効な遺言を作成したとされているので、遺言の要素をすべて満たしていたと考えることができる。したがって、有効な遺言書が作成されたことになる。

トラスト

Tは、孫のために全財産を信託した。信託が有効に成立するためには、遺言者、受益者、受託者、信託目的、信託財産が存在する必要があります。

テスター

ここで、Tは遺言者である。

受益者

Tの孫のGregとSusieは、信託から収入を得るため、収入受益者です。動物園も受益者であり、彼らはこの不動産の将来の利権を保有しています。動物園は、最後の孫が亡くなった後、信託の残りを受け取ることになります。

トラスティ

指定された受託者がいないからといって、信託が無効になるわけではありません。信託を管理する受託者がいない場合、裁判所が受託者を選任します。

信託の目的

信託の目的は、孫に生涯にわたって収入を提供し、その後、残りは動物園に行くことです。

信託財産

Tは自分の全財産を信託に預けています。

したがって、有効な信託が作成された。2011年の遺言により、ZooはTの信託の持分を有していた。

2013 - 新ウィル

問題は、裁判所が任命した保佐人によって作成された新しい遺言が有効かどうかということです。

遺言書の形式 上

記ルールをご参照ください。

ここでは、グレッグがTの保佐人として、裁判所の認可のもと、テスのために新しい遺言を作成した。この遺言書には、利害関係のない2人の証人が署名した。しかし、Tは遺言書に署名していない。しかし、グレッグは、保佐人として、彼女に代わって署名することが許されていると主張するでしょう。つまり、厳密には、遺言書は適切に作成されたこととなります。しかし、なぜこの遺言が無効とされるべきなのか、以下に説明します。

保存修復師としてのグレッグ

裁判所は、精神的能力を欠く人に代わって行動する後見人または保佐人を任命することができます。後見人や保佐人には、新しい遺言書の作成など、法的な意思決定を行う権限があります。しかし、保佐人は依然として遺言者に注意と忠誠の受託者としての義務を負っています。保佐人は、遺言者の最善の利益のために行動し、利己的でTの利益に直接反するような決定をしてはなりません。

ここで、グレッグはTの「精神能力の低下」を理由に保佐人に任命された。彼はTのために新しい遺言を作成する権限を持つが、彼は受託者としての義務を守らなければならない。グレッグは、Tの新しい遺言を作成する際に、まず遺言についてTと話し、遺産をすべてグレッグとスージーに残すように遺言を変更することに彼女が納得するかどうかを判断せずに、受託者の義務に違反した。その代わりに、グレッグは彼女の以前の遺言を無視し、全財産を自分と妹のスージーに残し、ズーを完全に遺言から切り離しました。自分と妹にすべてを残すという行為は自己売買を示し、彼は忠誠の義務に違反したことになります。グレッグは新しい遺言を作成する権利があったと主張しようとしても、受託者としての義務に違反したため、失敗しました。Tの遺産は、この義務に違反したとしてグレッグを訴え、2013年の遺言を無効にするよう要求することができる。

不当な影響力

さらに、ZooとTの遺産は、遺言を書いた人物との間に信認関係があり、不自然な逸出があったことから、それ自体が不当な影響であると主張するでしょう。

ここで、グレッグは保佐人であり、Tと受託者関係にあります。また、この贈与は不自然であり、元の遺言はスージーとグレッグに全財産を残すことを意図していなかったからです。したがって、ZooとTの遺産は、不当な影響に基づく遺言の無効化に成功するはずでは

DRR

あるいは、ZooとTの遺産は、DRRのもとで元の遺言を復活させようとすることもできません。

DRRでは、直近の遺言が詐欺や虚偽の説明で作成された場合、以前の遺言を復活させることができます。つまり、遺言者が何かについて誤解していたために新しい遺言を作成したということです（例えば、受益者が本当は生きているのに死亡していたなど）。このような場合、新しい遺言は無効となり、古い遺言は復活させることができます。

ここで、Tの遺産とズーウィルは、グレッグが作成した新しい遺言をTが作成することはなかったと主張します。グレッグは、Tの遺言に対する意思を詐称し、不自然な献身を作り出した。上述のように、Tは自分の全財産をグレッグとスージーに残すつもりはなかった。2011年以降、彼女が考えを改めたことを示唆する事実は何もない。したがって、2013年の遺言は無効とし、2011年の遺言を復活させるべきである。

2014年 弁護士が作成した遺言書

Tは、グレッグが2013年の遺言を作成したことを知った後、新しい遺言を作成した。ここで問題となるのは、能力不足のために有効な遺言書が作成されたかどうかである。

遺言の手続き

上記のルールを参照してください。ここでは、新しい遺言が適切に執行され、立ち会ったという事実が記載されています。つまり、遺言の形式は満たされていると仮定しましょう。

能力不足

一般的に、自分の財産の内容、家族や友人との関係の内容、遺言を作成する行為の内容などを理解できない場合、意思能力が欠如しているとされる。

ここで、最大の問題は、Tの精神能力が低下しているため、裁判所がTの保佐人を選任したことである。それ以外の点では、彼女が遺言を作成する能力についてよく分かっていません。また、「精神能力の低下」と「意思能力の欠如」がイコールであるかどうかもわかりません。ここで、能力に関する要素を見てみましょう。

行為の性質

この要素は、Tが遺言書作成という自分の行為・行動の本質を理解していることを意味します。

ここで、Tはグレッグが作成した遺言書を見て激怒し、新しい遺言書を作成するために弁護士に連絡したことから、遺言書を作成するという自分の行為の本質を理解しているように見える。Tは、グレッグの2013年の遺言が自分の意図するものではないことを知り、新しい遺言を作成するために弁護士に連絡する必要があることを知っていたので、自分の行為の本質を理解していたように思われます。したがって、この要素は満たされている。

エステートの性質

この要素は、遺言者が自分の財産の範囲を理解し、特定する必要があることを意味します。

ここで、Tは自分の財産を詳細に記述した遺言書を改訂し、全財産をスージーに残したので、彼女の財産と財産の性質を理解しています。したがって、この要素は満たされていると思われる。

家族・友人との関係性

この要素は、遺言者が資産を残す相手である家族や友人との関係を理解する必要があることを意味します。

Tは、グレッグがやったことに腹を立て、新しい遺言からグレッグを除外したことから、自分の人間関係の本質を理解しているようです。彼女は、全財産をスージーに信託し、残りを動物園に寄付しました。したがって、この要素は満たされていると思われ
ます。

したがって、Tは遺言を作成した時点で意思能力の要素をすべて満たしていたと思われるので、2014年の遺言が有効な執行力のある遺言であると思われ
ます。2014年の遺言は、それ以前のすべての遺言を自動的に取り消します。もし裁判所が、Tが遺言を作成した時点で能力を持っていたと認めるなら、Tの2014年の遺言はおそらく有効であり、ズーはTの遺産に対して利害関係を持つこととなります。

サイプレスト

次の問題は、信託財産が象の世話のために残されたのに象がいないため、**Zoo**がその資産を使用できるかということです。サイプレス法では、信託の目的が挫折した場合、裁判所は慈善信託の目的を修正することができます。

ここで、**T**の信託は、信託に残ったものを、動物園の象の世話のために残しています。事実は、スージーがまだ死んでいないことを示しているので、動物園の利益はまだ将来のものであります。動物園は信託に対して現在の利益を持たないので、動物園は信託の目的を変更するために裁判所に請願しても、ほとんどの場合失敗するでしょう。現時点では動物園は象を飼っていませんが、スージーが死んだら象を飼うかもしれません。スージーが死んだ時に動物園が象を持っていなければ、動物園は信託目的の変更に成功する可能性が高くなるかもしれません。信託目的の変更に成功した場合、新しい目的も慈善事業でなければならず、裁判所はおそらく、慈善事業目的を元の受託者が意図した目的にできるだけ近づけることを望むと思われます。したがって、**Zoo**の申し立ては時期尚早です。裁判所は、現時点では**Zoo**に現在の利益はなく、信託の目的も現在挫折していないため、この申し立てを却下すべきです。

2. グレッグ、スージー、ズーの権利。

受益者の権利については、上記の説明を参照してください。 処

分の内容

グレッグ

2014年の遺言に基づき、グレッグは**T**の資産に対して何の利害関係もない。もちろん、裁判所が**T**に2014年の遺言を作成する能力がなかったと判断した場合、グレッグは2011年の遺言による信託から収入を得ることができるかもしれない。2011年の遺言は、グレッグが不正に作成した2013年の遺言が無効となり、2011年の遺言が復活した場合にのみ有効となります。

スージー

スージーは2014年の遺言により、生涯にわたり信託収入の権利を有する。上述のように、2013年の遺言は無効である可能性が高いので、スージーはTの全財産をグレッグと共有することはできない。2014年の遺言が無効であると裁判所が判断した場合、スージーは2011年の遺言に基づき終身信託収入を得ることになります。

動物園

Zooは、2014年の遺言に基づき、その象の世話のために信託の残余部分について将来の利益を有する。



カリフォルニア州弁護士会
司法試験委員会／入試事務局

180 Howard Street - San Francisco, CA 94105-1639 - (415) 538-2300
845 S. Figueroa Street - Los Angeles, CA 90017-2515 - (213) 765-1500

きじゅつもんだい

2017年2月 カリフォルニア

州司法試験

本書は、2017年2月に実施されたカリフォルニア州司法試験の論文問題6問と、各問題に対する選択解答2問を収録しています。

答案には高い評点が付けられ、一読して合格した志願者が書いたものである。解答は、読みやすくするためにスペルや句読点に若干の修正を加えた以外は、応募者が提出したものをそのまま作成しました。ここに掲載するのは、著者の承諾を得たものである。

<u>質問番号</u>	<u>主題</u>
1.	ウィルズ
2.	救済措置／不法行為
3.	エビデンス
4.	ビジネス・アソシエーション
5.	プロフェッショナルの責任
6.	刑事法・訴訟法

QUESTION 1

メアリーは未亡人で、エイミーとボブという2人の成人した子供がいました。

2010年、メアリーはガンマとデルタの株を購入しました。そして、彼女はコンピュータの前に座り、次のように入力した。

これは私の遺言です。家はエイミーに、株はボブに残す。残りは2人で分ける。

メアリーは、その書類を2部印刷した。彼女は親友のキャロルと隣人のネッドの立ち会いのもと、2部とも署名と日付を入れた。キャロルは内容を十分に理解した上で、2部ともサインをした。ネッドは遺贈の内容を知らなかったが、証人になることを光栄に思うと宣言し、2部ともメアリーとキャロルの署名の下に自分の名前をサインした。メアリーは1部を自分の貸金庫に入れた。

2014年、メアリーはジョンと結婚しました。彼女はすぐに新しい遺言書を作成することにしました。彼女は古い文書をコンピューターから削除し、1部のコピーを破り捨てた。しかし、貸金庫にあるもう一枚のコピーを忘れてしまった。

メアリーは、会社のロゴが入った便箋に、次のように書きました：私はジョンに

ガンマの株を残す。デルタの株はボブに譲る。
エイミーは家を手に入れること。

メアリーはその文書に署名した。彼女はその文書に日付を入れず、残された財産の受取人を指定しなかった。

2015年、メアリーはデルタの株を売却し、その代金でタンゴの株を購入した

。2016年、メアリーは、ジョン、エイミー、ボブの3人に見守られながら亡く

なった。

メアリーの遺産は、ガンマの株式、タンゴの株式、自宅、そして別財産ファンドの現金20万ドルである。

エイミー、ボブ、ジョンは、メアリーの遺産に対してどのような権利を持っているか（もしあれば）。議論してください。

カリフォルニア州法に則って回答する。

質問1：選択した回答A

メアリーの最初の遺言の有効性

問題は、Maryが2010年に署名した遺言が有効かどうかです。メアリーはこの遺言を自分のコンピュータで作成したため、この遺言は認証付き遺言の要件を満たす必要があります。有効であるためには、認証された遺言は以下の要件を満たす必要があります。

- 1) 遺言者または遺言者の指示による者が、書面、日付および署名をすること。
- 2) 利害関係のない2人の証人の前で、同時にメアリーが署名すること。これらの証人は、メアリーが遺言書を執行するのを視覚的に目撃するか、何らかの方法で執行を意識することができる。
- 3) 2人の証人は、メアリーの生存中のある時点で遺言書に連署する必要があり、必ずしもメアリーが遺言書に署名したときである必要はなく、また互いに同時である必要はない。
- 4) 各証人は、自分がメアリーの遺言に署名していることを理解する必要があります（非遺言証書とは異なります）。

ここでは、メアリー自身が最初の遺言書の2部ともタイプアウトし、署名と日付を入れたとされています。したがって、メアリーの最初の遺言の有効性については、メアリーの最初の遺言が許可された当事者によって書かれ、日付と署名がされているかどうかについては、何の問題もないのです。事実は、メアリーがキャロルとネッドの両名（両名ともメアリーの最初の遺言に記載された遺贈から利益を得ていないため、利害関係のない証人に該当します）の立会いのもと、最初の遺言の2部とも署名したことを立証し、さらに、キャロルとニーズの両名はメアリーが生きていたときに遺言に副署したことを立証します。各証人がメアリーの遺言に署名していることを理解していたかどうかについては、キャロルは遺言の内容について確かに認識しており、ネッドはメアリーの特定の遺贈については認識していなかったものの、証人になることを光栄に思うと宣言しているので、この要件を満たしていることは議論の余地があります。証言された遺言が有効であるために、証人が遺言の具体的な内容を知っている必要はない。

また、メアリーの最初の遺言が有効であるためには、メアリーは自分の遺産に含まれる

資産を知る必要があります、また、自分の遺産の自然な恵み（すなわち、配偶者、胤

など)。このファクト・パターンの最後に、メアリーの死亡時の遺産は、株式、家屋、現金の別財産ファンドで構成されていたことが語られています。メアリーは、家のある受贈者に、株式を別の受贈者に、そして遺留分を両方の受贈者に贈与することで、自分の遺産の自然の恵みと遺産を構成する資産の両方を知っていたことを証明しました。

メアリーが**2010年**の遺言を作成し署名するように仕向けた、メアリーの人生におけるいかなる人物による不当な影響や詐欺的行為もここには示されておらず、このためメアリーの最初の遺言は意図の欠如の結果として無効とはならない。同様に、メアリーが最初の遺言を作成した時点で成人しており、その時点で心神喪失に陥っていたということもないため、メアリーが最初の遺言を作成する能力を欠いていたことを示すものではありません。

メアリーの第一遺言の取り消し

問題は、メアリーの最初の遺言が、**2014年**のメアリーの行動によって事実上取り消されたかどうかである。遺言は、物理的行為または暗示によって取り消すことができる。遺言者の物理的行為によって遺言が取り消される場合、その行為は遺言書を効果的に破壊するものである必要がある（例えば、遺言書を半分に裂く、何も書かれていない角を引きちぎるのとは異なる）、遺言者としてのメアリーによって（またはメアリーの指示による誰かによって）、同時に遺言書を取り消す意図をもって行われる必要がある。ここで、メアリーは自分のコンピュータから古い文書を削除しており、これは、彼女が最初の遺言書の原本**1部**を追加で破り捨てたときに存在した必要な意思を示すものである。この行為は、彼女が「破り捨てた」ので、遺言を破棄したことになります。彼女が最初の遺言書の原本を破った行為が、実際にその文書を完全に破ったのかどうか疑われるような軽微なものであったことは、事実上、何ら示されていない。最後に、遺言書を破く行為はメアリー自身が行ったものであり、それが遺言者によって行われたかどうかについては問題はない。

セーフ・デポジット・ボックスのコピーの取り消し。

ここでの問題は、**Mary**が貸金庫にある**2010年**の遺言書のもう一通を忘れたという事実が、当該**2010年**の遺言書の取り消しの有効性に影響を与えるかどうかということです。1つの遺言書に2つの同一の原本がある場合、一方の遺言書の取り消しは他方の遺言

書の取り消しとなる、という推定があります。ここでは、上記で立証したように

遺言書の原本の一方の撤回が有効かつ完全である。そのため、もう一方の原本の撤回も有効であるとみなされます。貸金庫にあるコピーをそのままにしておいた意図は、ここには示されていないので、メアリーの2010年の遺言書のすべてのコピーが取り消されたという推定を覆す根拠はない。

メアリーの第二次（2014年）遺言の有効性。

ここでの争点は、2014年に署名されたメアリーの2番目の遺言が有効であるかどうかです。この遺言は、メアリーが会社のロゴが入った便箋に書いたものであることが、事実関係からわかります。このことは、メアリーがこの遺言をタイプしたのではなく、手書きの（ホログラフィック）遺言であることを意味していると思われます。ホログラフィック遺言は、遺言者の署名が必要であり（文書上の任意の場所）、遺言者の遺言の重要な条項も自筆である必要があります。認証された遺言書とは異なり、遺言書に証人が立ち会う必要はありません。ここでは、メアリーが文書に署名し、この第二の遺言の重要な条項もすべて手書きであったと推定されます（この第二の遺言を完成するためにメアリーがコンピューターを立ち上げた形跡がないため）。その内容は、ガンマの株をジョンに、デルタの株をボブに、そして家をエイミーに遺すというものです。

彼女の2014年の遺言が有効であるために日付が必要であるかどうかという関連した問題があります。そうではありません。ホログラフィック遺言は、有効であるために日付が必要ないという規則です。このルールには、日付のない遺言が2つ検討されているため、日付が重要になる場合に関する例外があります。しかし、これらの例外はここでは適用されません。

メアリーが残された財産（＝遺留分）の受取人を指定したかどうかについては、もう一つ関連する問題がある。ホログラフィック・ウィルによって遺言者の全財産を捧げる必要はありません。遺言者の全財産が遺言によって捧げられない場合、遺言者の遺産は遺留分によってメアリーの相続人に行きます。

メアリーの最初の遺言と同様に、ここでも不当な影響や、そのようなことを示すものはありません。

メアリーが2014年の遺言書を書いて署名したのは、メアリーの人生のいかなる人物による不正行為でもなく、このため、メアリーの第二の遺言書は意思の欠如の結果として無効になることはない。メアリーはジョンとの結婚後すぐに新しい遺言書を作成することを決めたとされていますが、これは結婚・再婚の際に行う当然のことです。同様に、メアリーが第二の遺言を作成した時点で成人しており、その時点で心神喪失に陥っていたということもないため、メアリーが第二の遺言を作成する能力を欠いていたということは、ここでは示されていない。

メアリーの遺産に含まれる資産に対するエイミーの権利

ここで問題となるのは、エイミーがどのような資産を得ることができるかということです。上記により有効であることが確定したメアリーの2014年の遺言では、「家」をエイミーに遺贈することが指示されています。メアリーは家の住所を明記していないなど、メアリーがどの家を指しているのかを明確にする内容がないため、この指示が有効かどうかに関連する問題です。このような場合、遺言に含まれる言葉の意味が曖昧であったり、その言葉が2つ以上の異なるものを意味する可能性がある場合（例えば、2つの異なる家）には、検認において、メアリーの意図に関する意味を解決するための仮証拠を認めることができます。ここでは、メアリーが住んでいた家が複数あることを示すものはないので、メアリーのエイミーへの家の贈与は有効であり、メアリーの唯一の家を指していることを示すために、仮証拠を認めることができます。

の一部に対するエイミーの権利についての私の分析については、以下の最後の段落をご覧ください。

メアリーが残した別財産で、遺言で特に誰にも渡していない20万ドルの資金がある。

メアリーの遺産の資産に対するボブの権利。

メアリーの2014年の遺言は、彼女のデルタ株をボブに遺贈するものである。事実は、2015年にメアリーが自分のデルタ株を売却し、その代金でタンゴ株を購入したと言うものです。問題は、消滅による償還と呼ばれるもので、メアリーの「私のデルタ株」という特定贈与が消滅による償還で失敗するか、消滅による償還のカリフォルニア州の例外のいずれかが適用されるかです。特定贈与（一般的な贈与ではなく、特定の贈与）は、遺言者が死亡した時点で、その贈与物がもはや遺言者の手元にない場合、消滅による

償還に失敗するという規則があります。カリフォルニア州では、このルールに対して**3**つの例外が認められている：1) 株式が他の形態の株式に変更された場合 (by

合併など)、2) 遺産執行者が不動産を売却する場合、3) 遺言者が非難手続きを受け、追跡可能性に問題がない場合、などです。ここでは、1番目の例外が適用されます。事実によれば、メアリーはデルタ株の売却代金でタンゴ株を購入した。タンゴの株式は、デルタの株式の売却代金と明確に追跡することができます。このため、メアリーがデルタ株(および/またはデルタ株の代わりに購入した代替株(つまりタンゴ株))をボブに贈るつもりだったことは明らかなので、デルタ株のボブへの贈与は消滅による償還を理由に失敗すべきではない。メアリーはタンゴ株を購入した後、すぐに死ぬわけではなかったため、別の結果を意図していたのであれば、遺言を修正する機会があったため、意図の欠如を示すものはないのです。

の一部に対するボブの権利に関する私の分析については、以下の最後の段落を参照してください。

メアリーが残した別財産で、遺言で特に誰にも渡していない**20万ドル**の資金がある。

メアリーの遺産の資産に対するジョンの権利。

最後に、メアリーは**2014年**の遺言でガンマの株式をジョンに遺しました。これはBobへの贈与と同じで、消滅による償還という複雑な手続きはありません。メアリーの**2014年**の遺言は有効であり、したがってジョンへのガンマ株の贈与は有効であることが証明されました。

の一部に対するジョンの権利に関する私の分析については、以下の最後の段落を参照してください。

メアリーが残した別財産で、遺言で特に誰にも渡していない**20万ドル**の資金がある。

別財産ファンドの現金**20万ドル**。

メアリーの株と家に対するジョン、エイミー、ボブの権利に加え、メアリーの現金**20万ドル**を誰が別財産として受け取る権利があるかという問題があります。遺言者が遺言で全財産を譲り渡さず、残りの財産についても受益者を指定しなかった場合、残りの財産は遺留分によって相続人に渡るというルールになっています。遺言者の配偶者は、遺言者が親や胤を残さなかった場合は遺言者の全財産を、遺言者が胤を残した場合は遺言者の全財産の**2分の1**を、遺言者の配偶者が胤を残した場合は遺言者の全財産を、遺言者の配偶者は遺言者の胤を残す権利があるとされています。

遺言者が1人の子供を残した場合は遺言者の個別財産の1/3、2人以上の子供を残した場合は遺言者の個別財産の1/3が相続されます。ここでは、受遺者Maryは2人の子供を残しており、これは1人以上であるため、配偶者JohnはMaryの独立財産の1/3を受け取る権利があり、残りの2/3はAmyとBobが均等に分ける（つまり、John, Amy, Bobはそれぞれ20万ドルの1/3を、上記のように自分たちに贈られた特別な贈り物に加えて受け取る）ことになります。

質問1：選択した回答B

Amy、Bob、JohnがMaryの遺産に対して持つ権利を決定するための閾値問題として、Maryが有効な遺言で死亡したかどうか、もしそうなら検認される遺言が2010年の証書か2014年の証書かを判断しなければなりません。

2010年楽器

最初の論点は、2010年の証書が有効な遺言であったかどうか、また、有効であったとしても、2014年にメアリーが1部だけ破り捨てたことによって、その遺言が取り消されたのかどうかです。

有効な遺言書

カリフォルニア州法上、ある文書が有効な遺言となるためには、(i) 遺言者がその文書を通じて遺言を形成する能力と意思を持ち、(ii) 遺言が形成要件を満たしていなければならない。遺言者は、(i)18歳以上であり、(ii)自分の財産の範囲を理解しており（すなわち、自分が所有している財産を知っている）、(iii)「自分の恵みの性質」を知っており（すなわち、他の親族の中で自分の問題や配偶者が誰かを理解している）、(iv) その文書を遺言にする意思を持っていれば、遺言を形成する十分な能力があると言える。

2010年版では、キャパシティの各要素を満たしています。明示されてはいませんが、Maryには2人の成人の子供がいることから、Maryが18歳以上であることは明らかである。また、彼女が自分の財産の範囲を理解していないことを示す証拠もない。エイミーとボブのそれぞれに特定の品物を残しているという事実は、二人の子供を明確に認識していることから、彼女が自分の財産の性質を知っていることを強く示唆している。最後に、文書の最初の行に "This is my will." と書かれているように、遺言を作成する明確な意思がある。そのため、メアリーには遺言を作成する能力があった。

続いて、成立要件に移ります。非ホログラフィック（手書きでない）遺言の場合

、成立要件は5つあります。まず、遺言は書面でなければなりません。

第二に、遺言は、遺言者または遺言者の指示の下、遺言者の立会いのもと、第三者が署名しなければならない。第三に、遺言者が遺言書に署名する際には、二人の証人の立ち会いが必要です。各証人は、署名の様子を見るために同時に立ち会う必要があります。第四に、証人は遺言者が生きている間に遺言書に署名しなければならない。第五に、最後に、証人は、遺言の執行に立ち会っていることを知らなければならない。

ここでは、Mary は 2010 年の遺言書を手書きではなく、タイプしているので、上記の形成要件を満たしている必要があります。遺言書は明らかに書面であり、メアリーは2部とも署名と日付を入れ、最初の2つの要件を満たしています。彼女は2人の証人の立会いのもと、2部とも署名し日付を入れました。キャロルとネッド（キャロルもネッドも2010年の遺言で贈与を受けていないので、利害関係のある証人については問題がないことに注意）。キャロルは、その内容を十分に理解した上で、その直後に遺言書に署名しているので、少なくとも1人の証人が4番目と5番目の要件を満たしていることになる。遺贈の内容を理解せずに署名したNedについては、第5の要件を満たすかどうかの問題になるかもしれない。しかし、ネッドは具体的な遺贈の内容を知らなかっただけで、遺言が署名されていることは理解していたようです。成立要件は、証人がその文書が実際に遺言書であることを認識することを要求するだけであり、遺言書の各特定遺贈の内容については要求しないので、ネッドの知識不足は問題にならないはずです。しかし、仮に裁判所が問題視したとしても、カリフォルニア州の裁判所は、遺言者がその文書を自分の遺言であると意図したことを示す明確かつ説得力のある証拠がある限り、遺言の証人要件に軽い違反があったとしても、遺言を検認することが認められている。文書中の明確な文言と成立要件が実質的に遵守されていることから、メアリーの遺産はそれを証明することができるはずです。

したがって、Maryは2人とも意思能力があり、有効な非ホログラフィック遺言を持つために必要な形成要件を満たしているとみなされるべきです。そのため、2010年の遺言は、適切に取り消されない限り、検認されるべきです。

2010年遺言の取り消し

2010年の証書が有効な遺言であることがわかったので、次の問題は、2010年の遺言が取り消されたかどうかということです。

遺言は、(i)物理的な取り消し、または(ii)後の遺言書によって取り消すことができる。物理的な取り消しは、特に、物理的な遺言書の文書に焼き付け、破り、切り取り、または抹消（すなわち、条項の消去）があり、遺言者がそのような行為を通じて遺言を取り消すことを意図した場合に発生します。遺言書のコピーが複数ある場合、1つのコピーが物理的に撤回されると、他のコピーが物理的に撤回されていなくても、遺言書の撤回があったという推定がなされます。

ここで、メアリーはコンピューターから古い文書を削除し、2010年の遺言書のコピー1部を破り捨てた。コンピューターからの削除は、電子文書には抹消が適用されないため、文書の抹消には当たらず、その行為は物理的な取り消しには当たらない。しかし、メアリーが2010年の遺言書のコピーを破り捨てることは、遺言書の破り捨てに該当し、上記の規則により、遺言書の物理的撤回に該当する。この行為は、彼女がコンピューターからも遺言書を削除し（それがミスでないことを示す）、その後新しい遺言書を考案したという状況証拠によって証明できるように、遺言書を取り消すことを意図していました。さらに、メアリーが貸金庫にある遺言書のコピーを物理的に取り消すのを忘れたとしても、他のコピーが保存されているにもかかわらず、1つのコピーを物理的に取り消すと、遺言書の取り消しが生じるという推定がある。ここでは、その推定が存在し、それを覆すことは困難であろう。証拠によると、メアリーは結婚後に遺言書をコンピューターから削除し、新しい遺言書を作成したことから、取り消すという明確な意図があり、メアリーの当事者が取り消すことに躊躇したことを示す証拠はない。

したがって、2010年版の楽器は、物理的な取り消しによって適切に取り消されたこととなります。

その代わりに、2010年の遺言は、後に撤回される可能性があります。

testamentary instrument（遺言証書）。後の遺言が前の遺言を取り消すのは、(i)後の遺言が前の遺言を取り消すことを明示的に述べているか、(ii)後の遺言が前の遺言を取り消すことを暗黙の前提にしている場合である。(ii)については、遺言者の全財産を処理し、従って前の遺言が分配するものを何も残さない後の遺言は、取消の十分な暗黙の証拠となる。

ここで、2014年の証書は2010年の遺言を取り消したと主張することができる。明示的な取り消しの記述はないので、暗黙のうちに2010年の遺言を取り消すかどうかを確認する必要があります。2014年の証書はメアリーの遺産のほとんどを扱っており、メアリーが2010年の遺言を取り消すつもりであったと思われる2014年の遺言にまつわる状況（上記の通り）があるため、黙示の取り消しについては議論の余地がありますが、遺留分条項がないため、2010年の遺言が分配するための何かを残しているとして、黙示の取り消しを否定することもできます。

後の遺言書による取り消しについては、どちらのケースでも良いのですが、2010年の遺言書の物理的な取り消しが適切に行われているため、最終的には重要ではありません。したがって、2010年の遺言は、Amy、Bob、Johnの権利を支配するものではない。

2014年楽器

次の問題は、2014年の証書が有効な遺言であり、したがってメアリーの遺産に関するエイミー、ボブ、ジョンの権利を支配しているかどうかです。2010年の遺言が物理的に撤回されると、その遺言は復活がない限り永久に撤回されることに注意してください。このような事実の下では、2010年の遺言が復活した形跡はない。従って、2014年の証書が有効な遺言でない場合、遺産は遺留分に移行し、分配は遺留分の規則に従うこととなります。

2014年の文書は手書きであるため、遺言書であればホログラフィック遺言書と判断します。有効な自筆証書遺言であるためには、①書面であること、②遺言者の署名があること、③遺言の重要な条項がすべて遺言者の自筆であることが必要です。ま

た、遺言者は、遺言を執行する能力を有していなければならない。重要な条項とは、(i) 遺言に基づいて行われる各贈与、(ii)各贈与を誰に渡すか、である。

になります。日付がなくても、遺言者の能力に問題がある場合や、2つ以上の遺言を検証すべき可能性がある場合を除き、ホログラム遺言が無効となることはありません。

ここで、メアリーは会社の便箋にジョン、ボブ、エイミーのそれぞれへの遺贈を書き、その書類にサインをしました。まず、能力的な問題がないことを確認する必要があります。年齢や財産の範囲に問題がないことは明らかです。この分析は、上記の2010年の文書について説明したのと同じです。また、贈与の内容についても、彼女は自分の子供と配偶者を知っているため、問題はない。この文書が遺言書であることを明確に示すものがないため、遺言書を作成する意図はなかったと主張することができるが、周囲の状況は意図を証明するのに十分である。彼女はこの文書を書く直前に古い遺言書を削除して破り捨てており、一般的に遺言書として書かれている（例えば、遺言書として期待されるような贈与を行っている）。したがって、能力的な問題はない。

この文書は、ホログラフィック・ウィルの要件も満たしています。メアリーの署名があり、贈与の内容、贈与先が会社の便箋に手書きで書かれています。能力的な問題や、複数の遺言がそれぞれ有効である可能性があるという問題がないことを考えると、日付がないことは、ここでは問題ないでしょう。

したがって、2014年の証書は有効な自筆証書遺言であり、エイミー、ボブ、ジョンの権利を支配すべきです。

2014年の遺言に基づくエイミー、ボブ、ジョンの権利について

メアリーの遺産分配を支配すべき遺言が決まったので、2014年の遺言に基づくエイミー、ボブ、ジョンの各権利を順番に取り上げていくことにします。最後に、遺言の対象外である現金\$200,000の問題を取り上げることにします。

エイミー

2014年の遺言で、エイミーはメアリーの家を贈与されました。この贈与は、以下のように行われます。

エイミー 2014年の遺言に基づき、家を共有財産とすることに問題がなければ。

カリフォルニアは共同財産制の州である。従って、婚姻中に夫婦が得た財産は全て共有財産であると推定されます。配偶者の一方が死亡した場合、生きている配偶者はすべての共有財産の2分の1の権利を保持する。遺言者の配偶者の遺言が共有財産の2分の1以上を贈与する場合（したがって、生きている配偶者の2分の1の持分を侵害する場合）、生きている配偶者は、遺言に基づく贈与を受け取るか、適切な共有財産分を受け取るかを選択することができます。結婚前に取得した財産、および結婚中に別財産の支出や別財産から生じる利益、賃料、問題によって取得した財産は、別財産とみなされ、上記の共有財産に関する規則の対象とはなりません。

エイミーの贈り物である家は、メアリーがジョンと結婚する前に購入されたものである。正確な購入日は分かりませんが、2010年のMaryの遺言に記載されていることから、結婚前に購入されたことが分かります。結婚前に購入されたものであるため、別個の財産とみなされ、したがってジョンはそれに対する権利を主張することはできません。従って、Amyは遺言に基づく贈与を受け、家を取得することになるはずですが。

ボブ

2014年の遺言では、ボブはメアリーのデルタ株を受け取ることになっています。メアリーは「私の」デルタ株という言葉を使ったので、これは遺言による特定の贈与とみなされます。特定の贈与は、遺言者が死亡時に贈与される特定の財産を所有していない場合、遺言により消滅させることができます。しかし、カリフォルニア州法では、遺言者が贈与を受けようとする意図していなかったことが証明されれば、特定の贈与は遺言者の財産の一部でなくなるため、自動的に消滅することはない。

ここでは、メアリーはデルタ株を売却したので、デルタ株はもはや彼女の遺産には含まれません。しかし、Bobは、Maryは贈与を取り除くつもりはなかったのだから、この消滅は贈与を取り消すべきでないとして主張するかもしれません。ボブはこのことを証明するために、デルタ株の売却代金が、メアリーから贈与されたものであることを示すことができます。

デルタ株の売却は、すぐにタンゴ株の購入に使われた。さらに、メアリーがボブの贈与を排除しようとして売却が行われたという証拠もない。したがって、収益が直接追跡できること、メアリーがボブを遺言から締め出そうと考えていた証拠がないことから、ボブは自分の贈与がみなし相続されるべきではなく、デルタ株の収益から直接追跡できるタンゴ株を受け取るべきであることを示すのに十分な事例があると言える。

同様に、Tango株は別財産の収益から購入されたので、共同財産の問題はない（Delta株は結婚前に取得したものなので）。

ジョン

2014年の遺言では、ジョンはガンマの株式を受け取ることになっています。この **devise** に問題はないので、彼はこの贈り物を受け取ることになる。

現金200,000ドル

最後の問題は、現金20万ドルをどうするかです。2014年の遺言には遺留分条項がないため、これは遺留分で渡すことになります。

カリフォルニア州の遺留分規定では、生存配偶者がいる場合、生存配偶者がすべての共有財産と準共有財産の1/2を取得します。また、遺言者が生きていた子供を残しているかどうかによって、生存配偶者は別個の財産の分け前を得ることになります。遺言者に生存配偶者と複数の生存している子供がいる場合、生存配偶者は遺留分によって渡される別個の財産の1/3を受け取り、子供は残りの2/3を受け取り、それらの間で等しく分割されることになります。

ここでは、生存している配偶者（John）と2人の生きていた子供（AmyとBob）がいます。したがって、\$200,000は、遺留分の規定により1/3がJohnに、2/3がAmyとBobに渡ることになります。したがって、それぞれが\$200,000の1/3を受け取るようになります。



カリフォルニア州弁護士会
司法試験委員会／入試事務局

180 Howard Street - San Francisco, CA 94105-1639 - (415) 538-2300
845 S. Figueroa Street - Los Angeles, CA 90017-2515 - (213) 765-1500

きじゅつもんだい

2018年2月 カリフォルニア

州司法試験

本書は、2018年2月のカリフォルニア州司法試験の論文問題5題と、各問題の選択解答2題を収録しています。

答案には高い評点が付けられ、一読して合格した志願者が書いたものである。解答は、読みやすくするためにスペルや句読点に若干の修正を加えた以外は、応募者が提出したものをそのまま作成しました。ここに掲載するのは、著者の承諾を得たものである。

<u>質問番号</u>	<u>主題</u>
1.	プロフェッショナル責任／契約
2.	けんぽう
3.	リアルプロパティ
4.	刑事法・訴訟法
5.	遺言 / 共有財産

QUESTION 5

2001年、ウェンディと結婚していたテッドは、有効な遺言に署名し、以下のように全財産を遺贈した。"私の別財産のうち1万ドルを娘のアンに、次に私の別財産のうち2000ドルを私の死亡時に私の会社STARTの従業員である各人に、そして残りの別財産のすべてと私たちの共有財産のすべての取り分を、20年来の愛する妻が私に生存している場合、私に"。遺言書には、それ以外の贈与は明記されていない。

2003年、ウェンディが亡くなりました。

2005年、テッドはボブという子供を養子に迎えました。

2006年、テッドは2001年の遺言に「私はここに遺贈する」と記した有効な共付書に署名した。

私の別個の財産のうち1万ドルを最愛の息子、ボブに贈る。残りの2001年の遺言はすべてそのままです。"

2011年、テッドはネルと結婚した。

2012年、テッドとネルの間にキャロルという子供が生まれた。

2016年、テッドは2001年の遺言と2006年のコーディシルを唯一の遺言書として残し、死亡した。すべての負債、税金、経費を支払った後、テッドの別個の財産は\$90,000の価値があり、共同財産の彼の取り分は以下の価値があった。

\$100,000.死亡時、テッドはまだSTART社を所有しており、その頃には10人の従業員がいたが、その中に2001年にSTART社の従業員であった者はいない。

ネル、アン、ボブ、キャロル、およびSTARTの従業員は、テッドの遺産に対してどのような権利（もしあれば）を持っているか。議論してください。カリフォルニア州法に従って答えなさい。

質問5. 選択した回答A

事実は、2001年の遺言書と2006年の遺言書の双方が有効であったことを物語っているので、その有効性については検討しないことにする。

ネル

テッドの2001年の遺言では、「20年来の最愛の妻」が、彼の共有財産（CP）をすべて受け取り、残りの別居財産（SP）を受け取ることが定められていた。この計算では、妻はSPの5万ドルとCPのテッド(T's)の持分を受け取ることになる。ネル

(N)は、この遺産を結婚して20年になる妻ウエンディ(W)に贈与することを遺言で具体的に定めていたと主張するでしょう。この贈与は、WがTを生存させることを特別に条件としていたため、失効防止法の適用を受けることはない。この点に関して沈黙していたならば、我々は失効と失効防止のルールを評価することになる。消滅防止法は、遺言者の近親者（遺言者の配偶者ではない）が生存する子を残して死亡した場合の贈与を救うものであるため、適用されない。この場合、贈与は配偶者へのものであり、親族ではないので、特定の条件がなかったとしても、贈与は消滅防止ルールによって救われることはなかっただろう。

その代わりに、Nは、自分は遺留分権利者であるから、遺留分があると主張するでしょう。TがNと結婚し、結婚後に一度も遺言書を更新せず、遺言書に妻への贈与の定めがなく、また妻への贈与を行わないという具体的な意思を証明し、妻が遺言外の贈与（年金など）を受けなかった場合、妻は遺留分権利者とみなされ、配偶者が遺留分で亡くなった場合に得られるのと同じ財産分を取得します。

ここで、Tは2001年に原遺言を作成した。2006年に遺言書（Codicil）を作成し、その内容を再公表した。Nと結婚したのは2011年である。Tは、Nと結婚した後、Nのために遺言書を更新しなかった。

彼女です。彼が意図的にNを遺言から除外しようとしたことを示唆するものはなく、彼が遺言の外でNのために用意したことを示唆するものもない。したがって、唯一の

は、遺言によりNがWの取り分を受け取ることが意図していたか、あるいはNを省略された配偶者として扱うべきかどうかという問題です。

裁判所は、曖昧さの解消を助けるために、仮証拠の提出を認めるだろうが、参考になるような証拠を示唆する事実はない。したがって、裁判所は遺言書を額面通りに受け取り、贈与はW（彼女はTの20年来の妻であり、NはTの5年来の妻に過ぎないため）のために行われたもので、彼は死亡したので、贈与はその条件に従って失敗し、Nは遺留分を取ることになると判断するでしょう。遺留分とは、夫が嫡出子や父母を持たずに死亡した場合、配偶者が夫の全財産を受け取るという規定です。夫が1人の子・issueまたは両親とともに死亡した場合、配偶者は夫のSPの半分とCPのすべてを取得する。夫が2人以上の子や嫡出子、親と一緒に亡くなった場合、配偶者は夫のSPの3分の1とCPのすべてを取得することになります。Tは3人の生きている子供と共に死亡したので、省略された配偶者は彼のSPの1/3とCPのすべての持分を得る。

この計算では、Nは30kドル（TのSPの1/3である）とCPのすべてを得ることになる。

アン

Aは2001年の遺言で、Tの別居財産10kドルを与えられた。2006年、Tは最愛の息子Bobに10kドルの別個の財産を残し、残りの遺言は変更しないとするコーディシルを実行した。裁判所は、この遺言書が2001年の遺言書から何かを取り除くものであったのか、それとも2001年の遺言書に別の贈与を追加するだけのものであったのかを判断しなければなりません。

遺言は、後の証書によって明示的に撤回されることもあれば、抹消（文字を裏打ちすること）、破ったり燃やしたりするなどの物理的行為によって撤回されることもあります。ここでは、Aがこれらの行為をしたことを示唆する事実はない。したがって、裁判所は、2001年の遺言は全く撤回されておらず、2006年の共謀書は、2001年の遺言に別の贈与を追加したに過ぎないと判断することになる。

AはTのSPのうち10kドルを取得する。

ボブ

Bは、養子縁組された後、Tが遺言書を成案で再発行したことを除けば、省略された子（前述の省略された配偶者と同様）として扱われていたかもしれません。

は、BがTのSPの10kドルを贈与するために特別に用意されたものです。(養子は実子と同じ扱いになります)

BはTのSPのうち10kドルを取得する。

キャロル

Cは、省略された子として扱われます。彼女はTが最後に遺言を更新した後に生まれました。Tは、彼女を遺言から除外する意図を全く示していない。Tは、Cの母親に対して、Cを養育するための具体的な贈与を行わず、母親も遺言から漏れてしまった。Cは遺言外の贈与を受けなかった。Tは遺言を更新し、子供が生まれたが、彼女を含めるために再度遺言を更新するのを忘れていたようだ。Cは遺言に基づき、遺留分を取得する。

上述したように、Tは1人以上の子 (issue) と配偶者を抱えて死亡したため、配偶者はTのSPの1/3を、子たちはSPの2/3を取得する。2/3は均等に分割され、子供たちには一人当たり、子供たちの中に父に先立たれissueを残した者がいる場合は代表者付きで一人当たりとなります。

ここで、Tの遺産はSPの\$90kで構成されています。9万ドルの3分の2は6万ドルです。

Cは\$60kの1/3 (3人の子供のうちの1人なので) 、\$20kの権利を持つこととなります。

他の2人の子どもは遺言で養われていたので、遺留分は取らない。彼らは遺言で用意された贈与を受けるだけです。

START社員

において、従業員が十分に特定されているか否かを判断する。

という遺言があります。遺言は、"私の死亡時に私の会社STARTの従業員である各人"を指している。裁判所は、これらが独立した法的意義を持つ事実であると判断する。Tは、自分の遺言のもとで彼らに相続させるかどうかにかかわらず、これらの人々を雇用したのであろう。彼は、彼らが自分のビジネスを成功させるから、彼らを雇用したのである。彼は、自分の意志を有効にする以外の理由で彼らを雇用するために行動した。したがって、裁判所は、遺言がこれらの独立した法的意義のある事実と言及することを認め、贈与を成立させることにする。

各従業員には**2k**ドルが支給されます。従業員は**10**人です。**START**の従業員は合計**20k**ドルを手にする事になり、**T**の**SP**を使い果たすことになる。

質問5. 選択した回答B

1. カリフォルニアは共同財産の州である

カリフォルニア州は、共同財産 ("CP") の州です。従って、婚姻中に取得した財産は共同財産であると推定されます。分離財産とは、結婚前または結婚後に取得した財産、結婚中に分離財産 ("SP") 資金で取得した財産、結婚中に遺贈、譲与、贈与で取得した財産、SPからの賃料、問題、利益からなる。裁判所は、資産を追跡して、その資産を取得するために使用された資金のソースを決定し、その資産がSPかCPかを判断します。また、裁判所は、有効な契約や配偶者の行為が資産の性格を変えていないかどうかを確認します。有効な遺言により、各配偶者は、自分のSPのすべてとCPの半分を、自分の望む受益者に贈与することができます。

注：ウェンディーズシェア

当初の遺言では、テッドからウェンディへの贈与は、CPの全持分と遺言で贈与されないSP ("遺留分"とも呼ばれる) で構成されていた。テッドはウェンディの贈与に遺留分の要件を盛り込んだが、ウェンディはテッドから生き延びなかったため、これらの贈与は有効ではない。さらに、この条項がなければ、この贈与はいずれにせよ失敗していただろう。カリフォルニア州法では、遺言による贈与の受益者は、遺言者が生存していなければならない、さもなければ贈与は「失効」する（失敗することを意味する）。贈与が失効した場合、贈与は遺言者の遺留分権利者がいる場合はそちらに、いない場合は遺留分によって分配されます。遺言者の「遺留分」とは、遺言で特定の受益者に具体的に贈与されていないものを贈与することである。カリフォルニア州には、消滅防止法があります。しかし、この法律は、受贈者が遺言者の近親者（血縁者）であり、その近親者が遺贈する場合にのみ適用されます。

の問題です。WendyはTedの配偶者であり、Tedの近親者ではない。したがって、2001年のテッドの遺言によるウェンディの贈与は、失効防止法によって保存されず、テッドの遺言によってウェンディに贈与された分離財産と共有財産は失効し、遺留分によって分配されることになる（ウェンディが遺留分受益者であるため、彼は自分のSPの残りのすべてをウェンディに譲与したので、代わりに分配しなければならない。

intestate)である。したがって、遺言に基づくウェンディの贈与は、テッドのSPを他人が相続することを妨げるものではありません。

2. NELL-早産した配偶者

カリフォルニア州には、配偶者が誤って遺言から漏れてしまうことを防ぐための法律があります。全ての遺言書（遺言書、コディシル、生前信託を含む）の執行後に、遺言者が結婚した場合、その配偶者は「pretermitted spouse」とみなされ、遺産の遺留分を取る権利があります。ただし、遺言書の表面で、この贈与をpretermitted spouseに与える意図はなかったと述べられている場合、pretermitted spouseが遺言以外の取引で提供されている場合（例えば、遺言者が配偶者のために年金を出している場合）、配偶者がpretermitted spouseとしての請求権を放棄した場合などは例外です。

ここで、Tedが実行した最後の遺言書は2006年（彼のコーディシル）である。テッドは2011年にネルと結婚し、その後の遺言書は作成されなかった。

を実行した。Nellがpretermitted spouseとして主張する能力に対するこれらの例外が存在することを示す証拠はない。カリフォルニアの遺留分分配法では、今回のように生存配偶者が1人、生存扶養家族が2人以上いる場合（ここではテッドに3人の生存子供がいる）、生存配偶者は受遺者の共有財産の2分の1（つまり共有財産の100%を取得）、受遺者のSPの3分の1を取得する権利がある。したがって、NellはCPの全額（\$100,000）とSPの3分の1（\$30,000）を取得する権利を有することになる。

TedのビジネスであるSTARTの価値が、事実で議論された彼のSPとCPに含まれるかどうかは不明である。もしそうでなければ、NellはTedのビジネス所有権のSPとCPの価値の遺留分を得る権利もある。

3. CAROL - The Pretermitted Child

予期せぬ配偶者と同様に、カリフォルニア州では、子供が生まれたときに、遺言者の遺言による分配から意図せず漏れてしまった子供を保護します

またはすべての遺言書の執行後に養子となる。ただし、遺言書の表面でそうしない意図が示されている場合、遺言によらない譲渡によってその子が養われる場合、または遺言者に他の子供がいる場合に、遺言者の全財産を早産児の母親に渡し、母親がすべての世話をすることを示唆する場合を除く。

の子供です。ここでキャロルは**2012年**に生まれました テッドが最後の遺言書（**2006年**のコディシル）を実行した後なので 早産児になります

ここで、キャロルが **pretermitted child** として主張することを妨げるような事実が存在することを証明するものはない。また、キャロルに対する遺言代わりの非遺言的譲渡も明らかでなく、当初の遺言では、テッドは遺産の相当部分を当時の妻ウエンディに残したものの、他の子供であるアンとボブにも贈り物を残している。したがって、キャロルはテッドの遺産の遺留分を得る権利があり、前述のカリフォルニア州の遺留分法の下では、キャロルはテッドの遺産の**2/3**の取り分を得ることになる（ネルは**1/3**、子供たち全員が残りの**2/3**を**SP**として分け合うことになる）。したがって、キャロルはテッドの**SP**のうち**\$20,000**を得ることになる。

ここでも、**Ted**のビジネスである**START**の価値が、事実で議論されている**SP**と**CP**に含まれるかどうかは不明である。もしそうでなければ、キャロルは**Ted**のビジネス所有権の**SP**値の遺留分を得る権利もあることになる。

4. ANNとBOB

アンもボブも早産児ではありません。**Ann**は**2001年**の遺言執行前に生まれ、**Bob**は**2006年**のコディシル前に養子となった。なお、カリフォルニア州では、養子は分配の目的上、実子と同じ扱いになります。

Annと**Bob**は共に遺言により有効な贈与を受ける。アンはテッドの**SP**から**1万ドル**を、ボブはテッドの**SP**から**1万ドル**を贈与された。ネルとキャロルに贈与された遺産の分け前に対応するために、彼らの贈与が減額されなければならない場合（そのようなことはないようですが）、彼らはこのお金を受け取る権利があるでしょう。

5. 従業員の開始 - 独立した意義のある行為または事実

遺言に基づき取得するためには、受益者が確認可能でなければならない。通常、遺言書の重要な条項はすべて遺言書自体に記載されていなければならない。遺言書の条項を補足するための外在証拠は認められていない。テッドの遺言で問題になりそうなのは、テッドが、自分の会社で働く各従業員に対して、自分の死後、2,000ドルを与えたいと考えていることである。

を死亡させた。これらの従業員は、遺言の時点では個々に知られておらず、その名前も遺言に含まれていません。一般的に、裁判所は詐欺の恐れがあるため、遺言書の検認に外在証拠を認めない。しかし、遺言者の死亡時に決定される個人グループへの贈与は、有効な贈与となり得ます。**独立の意義を有する行為または事実**の理論に基づき、裁判所は、遺言に関係なく外形的事実が存在する場合、遺言の隙間を埋めるために外形的事実を使用することができる。つまり、外形的証拠の存在は遺言的なものではないので、詐欺の心配はないのである。ここでは、テッドの会社が誰を雇っているかは、遺言とは別に存在する。したがって、裁判所は、テッドの遺言による処分を有効にするために、テッドの死亡時に従業員が誰であったかを判断するために、外在証拠を認めることになる。**START**の死亡時、従業員は10名であった。2001年に遺言が作成されたとき、あるいは2006年に成案によって再公開されたときに、彼らの誰も雇用されていなかったことは問題ではなく、遺言の規定はテッドの死亡時に**START**の従業員に対して適用されるからである。したがって、各従業員には**\$2,000**の権利がある。



カリフォルニア州弁護士会
司法試験委員会／入試事務局

180 Howard Street - San Francisco, CA 94105-1639 - (415) 538-2300
845 S. Figueroa Street - Los Angeles, CA 90017-2515 - (213) 765-1500

きじゅつもんだい

2019年2月 カリフォルニア州司

法試験

本書は、2019年2月のカリフォルニア州司法試験の論文問題5題と、各問題の選択解答2題を収録しています。

答案には高い評点が付けられ、一読して合格した志願者が書いたものである。解答は、読みやすくするためにスペルや句読点に若干の修正を加えた以外は、応募者が提出したものをそのまま作成しました。ここに掲載するのは、著者の承諾を得たものである。

<u>質問番号</u>	<u>主題</u>
1.	遺言と信託 / 共有財産
2.	トーツ
3.	リアルプロパティ
4.	証拠/民事訴訟
5.	プロフェッショナルの責任

QUESTION 1

2006年、ハンクとウェンディが結婚し、非共同財産州であるX州に住んでいたとき、ハンクの給与から得たお金でX州の家とカリフォルニア州のコンドミニアムを購入した。ハンクは、家とコンドミニアムの両方の所有権を自分一人の名義で取得した。

2008年、ハンクは、死後に所有する可能性のあるものをすべてウェンディに残すという遺言を実行した。州法Xで認められているように、1人の証人だけが遺言に署名した。

2016年、HankとWendyは退職し、カリフォルニアに引っ越した。Hankは、コンドミニアムを自分と、前の結婚相手との息子であるSidに、生存権付き共同借家人として譲渡し、Sidへの贈与とした。Hankはその後、相続で得た10万ドルを有効な取消可能信託に入れ、その収入は終身Hankに、次に終身Wendyに、残余はSidに支払われることにした。

2017年、スキーでの怪我が原因で、ハンクは精神能力を失い、死の淵に立たされた。ハンクの事前の希望により、シドがハンクの保佐人に選任されました。シドはハンクの遺言書の共謀書を作成し、ステートXの家の2分の1の権利をハンクの親友のビルに与えることにしました。シドは、保佐人としてこの遺言書に署名し、適切な立会いをさせました。

2018年、Hankが死亡した。シドは、ハンクがさまざまな債権者に、州Xの家とカリフォルニアのコンドミニアムを合わせた価値よりも多くの借金があることを発見した。

1. WendyとSidは、カリフォルニアのコンドミニアムにおいて、もしあればどのような権利を有するか？議論してください。カリフォルニア州法に従って答えなさい。
2. ウェンディとビルは、ステートXの家の中でどんな権利を持っているのか、あるとすれば？議論してください。カリフォルニア州法に従って答えなさい。
3. ハンクの債権者は、信託の資産に手を出することができるのか？議論してください。

質問1：選択した回答A

共同財産の基礎知識／概要

一般的な共有財産のルール、準共有財産の概念

カリフォルニア州は共有財産の州であり、夫婦は夫婦経済共同体（MEC）を形成しているとみなされ、カリフォルニア州に居住している間、MEC（婚姻成立時から永久分離（永久分離の意思表示とその意思に沿った行動により配偶者が一方的に影響を受けることがある）または死亡の前者まで存在する）中に夫婦またはどちらかの配偶者が取得した財産は、いわゆる「分離財産」の特定のカテゴリーに当てはまらない限り、推定的に共有財産となります。別個の財産とは、MECの前（あるいは後）に、あるいはMECの間に、どちらかの配偶者が以下の場合に取得した財産を指す。(1) 贈与、相続、遺贈、(2) SPの収入、発行、賃料、または(3) SP資金の支出（すなわち、SPに追跡可能な財産）。

また、カリフォルニア州の制度は、いわゆる「準共同財産」と呼ばれる、取得時に夫婦がカリフォルニア州に居住していればCPとなったであろう財産を対象とします。QCPは、MECが死亡（または解散）するまではSPと同様に扱われ、CPと同様に扱われることになる。

配偶者の死亡に伴うデフォルト分割、被相続人の配偶者の遺言作成権、遺言に反する生存配偶者の権利

死亡時、有効な遺言がない場合（すなわち、被相続人配偶者が遺贈された場合）、被相続人配偶者が所有していたCPとQCPは、通常、すべて生存配偶者に相続される（被相続人配偶者のSPも1/3からすべてが生存配偶者に相続される。被相続人配偶者に子供がない場合、両親または両親の子供が生存する場合は100%となるが、今回のように被相続人に子供が1人の場合は生存配偶者にSPが半分相続される）。

しかし、配偶者は有効な遺言を作成することができ、被相続人である配偶者の遺言者が当時居住していた他の司法管轄区の法律に従って有効に作成された遺言は、カリフォルニア州の法律では有効でないとしても、検認を行うことができます。ただし、その遺言が以下のような贈与を目的としたものである場合

生存配偶者が所有するCP / QCPを放棄した場合、生存配偶者は（遺言に基づくすべての贈与を拒否する代償として）、「遺言に反して」、そのCP / QCPをすべて請求することができます（すなわち、被相続人である遺言者の配偶者は生存配偶者の同意/承諾なしに、自分のSPとCP / QCPの1/2をすべて遺贈できます）。

ハンク&ウェンディへの応募

ここで、HankとWendyは2006年に有効な結婚をし、2016年にCAに引っ越すまでX州（非共同財産州）に住んでいました-その後、Hankは夫婦がCAに居住している間に死亡しました。つまり、2006年から2016年までに夫婦が取得したすべての財産は、一般的にQCPとなります（ただし、SPとして適格である場合を除く-SPを証明する責任はSP提案者にあります））。

さらに、Hankの2008年の遺言（州X法の下で有効に作成された）は、CA法の下で検認できる（2017年のコーディシルの効果は後述する）

この基本を踏まえた上で、次に各質問に移ります。

1. カリフォルニア・コンドミニアム

コンドミニアムのオリジナルキャラクター化

配偶者の死亡またはMECの解散時に夫婦が最終的にCAに居住している場合、CA以外に居住している間に取得した財産は、その財産を取得した時点で夫婦がCAに居住していればCPであった場合、QCPとなります。これは、QCPとされる財産がCAにある不動産であっても同様です。MEC期間中の各配偶者の賃金・給与はCPであり、そのようなCP資金を使用して取得した財産も、その財産の所有権が一方の配偶者の名義で取得されているかどうかにかかわらず、CPである。

ここでは、Hankが自分の名義でコンドミニアムの所有権を取得したとしても、購入にはCP資金（婚姻中の給与）を使用したため、コンドミニアムはCPとなるはずですが、当時夫婦の居住地はX州であり、Hankは現在死亡しているため、QCPとして扱われます。

生前贈与の効果

QCPは、一般的に取得配偶者の死亡時（ここでは関係ありませんが、婚姻の解消時）までは、取得配偶者のSPとして扱われます。ただし、だからといって

取得配偶者が所得権、譲渡取消権、生存権を保持したままQCPを公正価値未満で生前譲渡した場合、他の配偶者は譲渡したQCPの価値の1/2を譲受人から買い戻す権利を有する。

ここでは、Hankは生存権を保持したままQCPマンションを譲渡したため、Wendyはこのクローバックルールの下でマンションの1/2を所有する権利を有します。シドにはコンドミニアム全体を所有する権利はありません（ただし、遺留分の関係で、QCP制度がなければ、ハンクの死によってコンドミニアムの所有権は消滅し、遺言によってウェンディに渡るものではなく、シドがコンドミニアムを100%所有することになっていたでしょう）。なお、これはQCPの生前贈与とは別のものであるため、「遺言に対する取得」ではない。したがって、ウェンディは、CAマンションに対するこの権利を主張するために、遺言に基づくいかなる権利も否認する必要はない。

2. ステートXハウス

ステートXハウスのオリジナルキャラクター化

ルールは上記をご参照ください。

ここで、ハンクもCP資金（給料）を使ってX州の家を購入したので、X州の家もQCPとなります。

2017年版コーディルの有効性・効果

カリフォルニア州法では、遺言は、有効に執行されれば、その後のコーディルによって、その全部または一部を修正、取り消し、その他の変更をすることができます。有効に任命されたコンサベーターは、障害者／無能力者のために遺言書やコーディルを作成することができます。

ここでは、Sidは（Hankがスキー事故で無能力になった時に）適切に保佐人に任命され、コーディルに署名し、それを適切に目撃させた（すなわち、2人の証人が同時に遺言書に署名するのを目撃し、その後署名する）ので、Hankが精神的に有能ではなかったにもかかわらず、これは、Hankの2008年の遺言を変更する適切な遺言書である。

さらに、シドが保佐人としての権限を濫用して不当に自分の利益を得たとウェンディが主張できるような事実もない。その代わりに、彼はハンクの親しい友人に贈り物をした。

と、**Hank**は**Sid**を自分の保佐人に明示的に指定したので、**Wendy**が攻撃できる「悪い事実」はない。

ウェンディーズライツ

上記ルール参照

遺言とコディシルを合わせても、ステートXの家の1/2を処分し、残りの1/2をウェンディが受け取れることを規定しているだけなので、ウェンディにはここで遺言に「対抗」する根拠（理由）がないのです。

3. 信託財産に関する債権者の権利

信託の基礎知識；信託Resの特徴

信託は、財産に関する受託関係であり、一方の当事者（受託者）が、他方の当事者（設定者／委託者）から特定の財産に対する法的所有権を与えられ、受託者は、財産に対する衡平法を有する特定の受益者の利益のために、受託者の義務に従って財産を保有します。

信託には、信託財産と受益者が確認できること、信託を設定する意図を持った設定者による設定行為（受託者への生前譲渡を含む）、義務を負う受託者（設定者と受託者の合意により選択できる、設定者が受託者を指名しないか意図した人物が辞退した場合は裁判所が受託者を指名できる）などが必要です。また、信託には有効な目的が必要です。

設定者は自己を受益者として指定することができ、信託を取り消す権利を留保することができる。生前、個人（設定者を含む）に収入を提供することは、有効な信託目的である。

ここで、**Hank**は、自身と**Wendy**を連続する生涯所得受益者とし、**Sid**を残余受益者とする有効な信託を作成した。**Hank**は信託の資金を相続財産でまかなったので、これは**SP**であり、**Wendy**の同意なしに**Hank**がお金を信託に入れる（または**Sid**を残余受益者に指定する）ことに**CP**の問題はない。

取消可能な信託の資産に手を付ける債権者の権利、取消不能となった後の信託の資産に手を付ける債権者の権利

設定者が金銭やその他の資産を信託し、取り消す権利を留保している場合、設定者の債権者は一般的にこれらの資産に手を出すことができます。ただし、生前取消可能な信託は、死亡時に取消不能となる。

ここで、**Hank**の債権者は、**Hank**の生前に信託財産に手をつけることができた。もし、**Hank**に対して判決を得れば、**Hank**の様々な資産（その中には、**State X House**や**CA Condo**の持分も含まれる）に対して動くことができたはずである。しかし、ここでは債権者は速やかに行動していません。**Hank**の遺産は信託の持分を持たず、**Wendy**が終身所得持分を持ち、その後**Sid**が残余の持分を持ちます。したがって、**Hank**の債権者は信託財産に手を出すことはできない。

しかし、上述のように、**State X**の家は**Hank**の遺産が所有しており、**Wendy**と**Bill**に1/2ずつ渡る予定である。債権者はその資産に対して動くことができると思われる。

質問1：選択した回答B

1. カリフォルニアのコンドミニアム-Wendy & Sid

の権利 有効な遺言書

遺言は、次のいずれかの法律に準拠している場合、カリフォルニア州において有効とみなされます： (i) カリフォルニア州。

(ii) 遺言が執行された州、または (iii) 被相続人の死亡時の本籍地がある州である。Hの遺言はX州で執行され、遺言に署名する証人が一人しかいないX州の法律では、遺言は有効であった。したがって、ハンク (H) の2008年の遺言は、2人の証人を必要とするカリフォルニア州の法律では無効であっても、遺言が執行された州 (X州) の法律に準拠しているため、カリフォルニア州で有効である。

共同財産法

カリフォルニア州は、共同財産法 (community property state) である。共同財産法の下では、婚姻経済共同体 (MEC) は有効な婚姻によって始まり、配偶者の死亡、離婚、または永久別居によって終了します。婚姻中に得た財産、および婚姻中の配偶者の労働と賃金は、共同財産 (CP) である。結婚前、または永久的な別居後に得た財産は、分離財産 (SP) とみなされます。結婚前または結婚中に贈与、相続、deviseによって得た財産もSPとみなされます。形が変わっても性格が変わるわけではないので、SPのみで取得した財産もSPとみなされます。準共同体財産 (QCP) とは、婚姻中に配偶者が非CP州に住んでいた時に取得した財産で、配偶者がカリフォルニアに住んでいたならばCPとみなされたはずのものです。QCPは、権利のある配偶者の死亡時または離婚時にその分類を受けますが、それ以前の財産は非CP州の法律が適用されることになります。QCPは、CPと同様に離婚時に分割されます。

ハンク (H) とウェンディ (W) は、非CP州であるX州で2006年に結婚した。カリフォルニアのコンドミニアムは、HとWが結婚した後、つまり結婚中に購入された。しかし

HとWはカリフォルニアのコンドミニアムを購入したとき、非CP州に住んでいたが、この財産は婚姻中に取得したものであるため、配偶者がカリフォルニアに住んでいればCPとみなされたであろう。したがって、2018年のHの死亡により、コンドミニアムはQCPとなった。しかし、Hの死亡前、コンドミニアムに対するHとWの権利は、X州法に準拠したままでした。

Hは、家とコンドミニアムの両方の所有権を自分一人の名義で取得した。これが州Xで有効であったと仮定すると、その後、Hは、その不動産がまだQCPに分類されていなかったため、生前、その不動産の持分を自分とSidに譲渡することができました。しかし、Hが死亡すると、その不動産はQCPに分類されるようになり、Wが遺言の条件に基づいて取得するのではなく、CP法のシェアを取ることを選択した場合、Wの権利のために共同財産として扱われることになる。

a) SID

ジョイントテナンシー

共同借地権は、所有の単一性、移転の単一性、利益の単一性、時間の単一性という4つの単一性を持つという特徴がある。つまり、有効な共同借地権が存在するためには、借地人がすべての財産を一緒に所有する権利を有し、それらの権利を同じ譲渡証書で、同じ時期に等分に受けなければならない。遺留分の権利は、証書中の明示的な文言によってのみ創出される。不動産の持分を譲渡するために対価は必要ない。生存権は、他者が死亡した後、生存する借主に不動産の全権利を帰属させるものである。

Hは、コンドミニアムを自分とSid (S) に生存権付き共同借家人として譲渡した。Hは、同じ譲渡で同時にこれらの権益を設定した。したがって、HがSidに半分、自分には残りの半分の持分を与えたと仮定すると、HとSは、Hが生存権付きジョイント・テナントであることを明示する文言を含む限り、生存権付きジョイント・テナントとして有効であったと言える。

Wが遺言の内容に基づいて、遺留分の代わりに取得することを決定した場合、遺留分の権利はSが全持分を取得することになるので

は、遺言で贈与することはできません。Hの死亡によりHの持分はSに帰属するため、Sは遺族共同借家人として condominium を単純絶対的に所有することになります。SはMECの一員ではなく、Hの債務に対するその他の責任もないため、この場合、債権者は不動産を奪うことはできない。

しかし、WがCP法に基づいて強制的に遺留分を取ることにした場合、マンションを取ることができますが、CPが責任を負い、マンションはQCPとなり、分配や債権者の満足のために事実上CPとして扱われるため、後述のようにHの債権者の請求の対象となる可能性が高いと考えられます。

b) ウェンディ

配偶者の持分

配偶者が死亡した場合、配偶者は死亡した配偶者の遺言の内容で取るか、遺留分を取るかのどちらかを選択することができます。カリフォルニア州では、遺言による選択的相続分はありません。むしろ、共同財産法が分配を定めています。

共同財産法での選択

カリフォルニア州の遺留分法では、配偶者は、亡くなった配偶者の共有財産に対する1/2の権利に加え、生き残った配偶者のCPに対する1/2の権利、合計でCPのすべてを含む遺留分を取得します。さらに、死亡した配偶者に偶数人、親、親の偶数人が生存している場合、生存配偶者は死亡した配偶者の別居財産の半分を取得します。

Hの遺族は息子Sの1人のみであるため、Wがこのオプションを選択した場合、WはCPの全てとHのSPの半分を受け取る権利がある。上述および後述するように、 condominium と州Xの家の両方は、Hの死亡時にQCPとみなされます。したがって、Wは、州Xの家屋と condominium の両方を含むCPの全てと、信託の持分の1/2（\$50,000相当）をHのSPとして取得することを決定できる。

遺言のもと

Wが遺言の条件で取得することにした場合、遺留分によりマンションはすべてSに帰属するため、Wはマンションに対する持分を受け取らない。

配偶者のホームステッド権

遺言書の検認において、配偶者は、遺された配偶者のためにホームステッドを認めるよう裁判所に申し立てることができ、実質的に配偶者が実家に住み続けることができるようになります。

カリフォルニアのコンドミニアムがHとWの実家であった場合、Wはそれをホームステッドとして認めるよう裁判所に申し立てることができます。しかし、WがCPの取り分を取らない場合、Sはコンドミニアムに対する有効な利益と請求権を持つことになり、裁判所はその申し立てを認めないだろう。

2. ステートXハウス - ウェンディ&ビルの権利

a) 別個の財産としての分類

(i) 共同財産の推定

上記のルールを参照してください。

HとWは結婚中、非CP州に住んでいるときに家を購入した。したがって、タイトル配偶者であるHが死亡したため、Hの死亡時にX州の家屋はQCPと推定される。Hの遺産が、家の購入に使われた資金をHの結婚前の収入と突き合わせることによって、証拠の優劣によってこの推定を覆すことができない限り、結婚中の配偶者の収入はCPであるため、州Xの家はQCPと正しく推定されることになるでしょう。また、CPの資金で得た財産もCPとみなされる。

しかし、一般的な共同財産推定のような一般的な推定は、以下に挙げるような特別な推定の適用によって覆されることがあります。

Hの遺産、またはビル、あるいはその両方は、裁判所がその不動産をHのSPと推定すべきであると、特別名義推定を適用すべきであると主張する可能性があります。

(ii) 特別な共同財産の推定

Wは、特別な共同財産の推定に基づき、離婚または配偶者の死亡時に共同で保有されている財産はCPであると推定される、と実りのない反論をするかもしれません。この

推定は、明確かつ説得力のある証拠によって反証することができます。しかし

というのも、HとWはHの死亡時にX州の家もカリフォルニアのマンションも共同で所有していなかったため、この推定は適用されないからである。

(iii) 特別なタイトルの推定

離婚または配偶者の死亡により、財産はタイトルに記載されたとおりに保有されると推定されます。この推定は、明確かつ説得力のある証拠によってのみ反証することができます。カリフォルニア州では、CPのように、タイトルに記載されていない財産を保有する配偶者の意図を示す証書やその他の文書の明確な文言によって反証されなければならない。

不動産がHの名義だけで所有されていたため、裁判所は、明確な文言がない限り、夫婦がこのように不動産を所有することを意図していたと推定する。証書やその他の文書に、HとWが不動産を両名で、あるいはCPとして保有する意図を示す明確な文言がないため、Wはこの推定を覆すことができず、その不動産はHのSPとみなされることになります。

したがって、裁判所は、州Xの家はHのSPであり、したがって、Wの同意や知識がなくても、遺言によって適切に遺贈することができるかと推定すべきです。しかし、Wがカリフォルニア州共同財産法に基づいて強制的に取り分を取ることを選択した場合、WはHのSPの1/2を受け取る権利がある。

b) 遺言により別個の財産として贈与される

2017年 コーディック

先行する遺言は、コーディキルなどの後続の証書によって、その全部または一部を取り消すことができます。

コンサバターによる

遺言者に遺言能力がない場合、裁判所から命じられれば、保佐人は遺言を作成することができます。保佐人は、無能力者に対して受託者としての義務を負っています。無能力者は、無能力になる前に、自分の保佐人として機能する人を指名することができます。

Hは、事前の希望として、Sを指名した。したがって、Sの指名は有効であった。Sは保佐人として、Hの財産の処分と管理について、Hの最善の利益のために行動することが要求された。この役割に従って、SはHの事前の遺言の成案を実行した。Hの2008年の遺言に対する2017年のコーディシルは、ステートXハウスの1/2の持分をビルに譲渡した。

しかし、Sは裁判所からそのように命じられたわけではない。ビルはHが無能力になる前の親友でもあったようなので、Hの前の遺言を変更するSの行為が、Hの可能性の高い意思によって支持されていると示唆する事実はない。この遺言は、Hの全財産をWに残し、ビルはステートXの家の1/2の持分を与えられているので、矛盾によってHの前の遺言を暗に取り消すものである。

Wが遺言ではなくCP法に基づいて遺留分を取ることにした場合、前述のように州Xの家はQCPとみなされるため、Billには1/2の持分が認められません。

しかし、Wが遺言の内容で取ることにした場合、Bは州X家の持分1/2を受け取ることになる。

不当な影響力 - 秘密保持関係

遺言者と秘密関係にある者が遺言作成に参加し、不自然な逸出が生じた場合、不当な影響力の推定が生じる。Wは、Hが無能力になったとき、SはHに受託者としての義務を負っていたため、SはHと秘密関係にあったと主張できる。しかし、Sは、ビルがHの親友であったことから、ステートXの家の持分の1/2をビルに贈与することは自然であり、不自然な贈与は生じないと正しく反論することができるだろう。

したがって、Wは、このような理由で、裁判所を説得して成約を却下させることに成功する可能性は低いでしょう。

代わりに - 遺言によるWの権利

遺贈受益者は、他のすべての贈与が満たされた後、遺言者の遺産に残っているものを受け取ります。

Wが共有財産法の下で自分の取り分を強制することを選択しない場合、彼女はカリフォルニアのコンドミニアムを所有しませんが、ビルに譲渡されなかったステートXハウスの残りの1/2の持分を受け取ることができます。もし、裁判所が遺言書の強制執行ができないと判断した場合、Wは遺言書の遺留分受益者であるため、ステートXハウスを単純絶対で受け取ることになります。しかし、コンドミニアムと家は、Hの債務を満たすためにHの債権者に取られる可能性の方が高いです。従って、債務が満たされた後に信託の一部が残らない限り、Hは実際には何も得られない可能性が高い。

3. ハンクの債権者 - 信託内の資産に手を伸ばす能力 信託の源

泉。分離された財産

上記のルールを参照してください。Hは相続により\$100,000を取得したため、婚姻中に取得したとはいえ、\$100,000はHのSPとみなされることになります。したがって、信託で与えられる利益は、配偶者は共同財産の管理・支配において誠実かつ公正な取引という最高の義務を負うが、配偶者の別個の財産については同じではないため、Hの裁量に委ねられた。

債務に対する責任

MECは、婚姻前および婚姻中に発生した配偶者の債務について責任を負います。ただし、配偶者のSPは、他方の配偶者が婚姻前に負った債務について責任を負いません。

事実によれば、Hは様々な債権者に、州Xの家とカリフォルニアのコンドミニアムの価値を合わせた以上の債務を負っている。MEC、ひいては共有財産の全てがこれらの債務を支払う義務を負うことになる。さらに、遺産を清算する際には、債権者が最初に支払われ、それに応じて遺言者の債務を満たすために、あらゆる贈与が比例的に減額されることになります。したがって、債権者は、州Xとカリフォルニア州Condoの両方を取得することができることになります。この場合、Billへの贈与は、債務のために減殺されるか消滅するので、発生しないことになります。

Hの1/2の持分がSに自動的に帰属するため、Sの持分に到達することはできず、したがって、カリフォルニアのコンドミニアムは債権者に到達することはできない。

を死亡させる。住宅ローンなどマンションそのものに関連する債務があれば、Sがその債務を引き受けることになる。

信頼に応える力

債権者は、信託に属する人の持分を、その持分が自由に譲渡できる場合、設定者が信託を取り消す権利を保持していた場合、または信託の財産が現在の受益者の要求に従う場合、その持分を取得することができます。

Hは信託を取り消す権利を保持していたため、Hの死後、債権者が到達できる信託の権益を有していた。しかし、上述のように、MECはHankが負担した債務についても責任を負うため、債権者はCPに手を伸ばすことができる。Wが遺言の条件ではなく、CP法に基づいて遺留分を取ることを選択した場合、彼女は信託にある\$100,000のうち\$50,000をHのSPの1/2として受け取る権利を持つこととなります。債務の一部が生活必需品や共同体の利益のために発生した場合など、彼女のSPにも債務がある場合、終身賃借人として信託から支払いを受ける権利があるため、債権者は彼女の持分に手を付けることができます。



2021年7月の論文問題と解答例

カリフォルニア州弁護士試験

本書は、2021年7月のカリフォルニア州司法試験で出題された5つの論文問題と、各問題に対する選択解答2つを収録しています。

選択された解答は、「模範解答」や「完璧な解答」と見なされるものではありません。これらの答えは、高い評定が与えられ、一読後に試験に合格した応募者によって書かれたものである。読みやすくするためにスペルや句読点を若干修正した以外は、応募者が提出したものをそのまま再現しています。これらの答えは、実際の応募者が、外部資料を利用することなく、時間の制約の中で書いたものです。そのため、必ずしも設問で提起されたすべての問題を正しく認識し、回答しているわけではなく、また、余計な情報や誤った情報が含まれている可能性があります。回答は、著者の同意を得てここに掲載します。

<u>質問番号</u>	<u>主題</u>
1.	民事訴訟法
2.	プロフェッショナルの責任
3.	トーツ
4.	刑事法・訴訟法
5.	遺言と相続 / 共有財産

ロサンゼルス事務所
845 S. Figueroa Street
ロサンゼルス (CA)
90017

QUESTION 5

2016年、独身でX州に住んでいたハンクは、遺言書の書式をダウンロードし、"私には子供がいないので、すべての財産をシスに遺す"と記入した。ハンクは、利害関係のない2人の証人だけの立会いのもと、遺言書に署名した。ハンクは、X州での有効な遺言には3人の証人が必要であることを知りませんでした。

2017年、まだ州Xに住んでいたハンクは、ウェンディと結婚した。結婚後、Hankは母親から相続した土地の名義を自分一人にした。Hankは建設業の仕事を始め、その仕事で受け取った賃金をすべて自分名義で開設した銀行口座に保管した。ハンクとウェンディが州Xに住んでいる間に、娘が生まれた。

州Xは共同財産州ではありません。

2021年、ハンクとウェンディはカリフォルニアに移住した。ハンクはカリフォルニアでの新しい仕事の初日に致命的な怪我を負った。ハンクは、ステートXの遺言書以降、一切遺言を書いていない。

ハンクの死亡時、彼の銀行口座には給料から10万ドルがあり、母親から相続した土地もまだ所有していた。2021年のハンクの遺産の検認では、シス、ウェンディ、娘、そして、ハンクはソンの存在を知らなかったが、DNA検査でハンクの息子であることを証明した10歳の子供、ソンによって主張がなされている。

1. ハンクの遺言は有効か？議論してください。
2. ハンクの遺産について、姉、ウェンディ、娘、息子に権利があるとすれば、どのようなものでしょうか。議論してください。

カリフォルニア州法に則って回答する。

質問5. 選択した回答A

1. ハンクの遺言は有効か？

カリフォルニア州の裁判所は、1) カリフォルニア州の法律に従って有効に執行された遺言、2) 遺言が執行された時に被相続人が存在していた州の法律に従って有効に執行された遺言、3) 遺言の執行時または死亡時に被相続人が居住していた州の法律に従って有効に執行された遺言を検認することになります。

ここで、この遺言の反対者は、遺言が執行された時点でハンクが住んでいた州であるX州の法律に従って有効に執行されていないため、この遺言は検認されるべきではないと主張するかもしれない。なお、遺言が執行された2016年にハンクが住んでいた州に本籍がなかったことを示す事実はないので、2016年にハンクが住んでいた州は本籍地でもあったと考えることができる。

しかし、遺言がX州の法律に従って有効に執行されなかったとしても、カリフォルニア州の裁判所は、遺言がカリフォルニア州の法律に従って有効に執行された場合には、検認を行います。

遺言はカリフォルニア州法に則って有効に執行されたか

遺言は、カリフォルニア州法に基づき、以下の場合に有効に執行される。1) 遺言者に遺言能力があること、2) 遺言者に現在の遺言意思があること、3) 遺言が適用される形式を遵守していること。

遺言能力？

遺言者が遺言能力を有するのは、(1) 遺言者が18歳以上であった場合です。

2) 遺言者が自分の財産の性質と状況を理解していること、3) 遺言者が自分の恵みの自然物を理解していること、4) 遺言者が遺言行為の意味を理解していること。

- 1) 遺言者が18歳以上であること-ここでは、ハンクが18歳以上であることを想定しています。

2016年に18歳になったのは、そうでないと言われていないからで、通常、人は、自分自身が子どもであれば、子どもがいないからと妹に財産を残したりしません。18歳未満の人が持つ推定は、人生の後半に子供を持つかもしれないということです。また、18歳未満の人は、財産があると仮定して遺言的な処分をするほど自分の死後を気にすることはほとんどありません。

したがって、ハンクは18歳以上である可能性が高い。

- 2) 遺言者は、自分の財産の性質や状況を理解している-ここ。

この遺言に反対する人は、ハンクは自分の財産について一切触れていないので、自分がどのような財産を持っているのか理解していたとは到底思えないと反論するかもしれません。しかし、遺言能力のハードルはそれほど高くなく、子供のいない誰かが、自分の財産をすべて妹に遺したいと思ったかもしれないという事実は、彼が財産を持っていることを知っていて、それを兄弟に遺したいと思っていることを示唆しています。

したがって、この要件は満たされる可能性が高い。

3) 遺言者は、彼女の恵みの自然物を理解する - ここに、ハンクが表示されます。

というのも、一般的に私たちは、自分の死後に何かを残したい相手は家族、特に子供であると考えからです。ハンクは、遺言を実行する時点では子供がいないと述べているので、兄弟に財産を残すのはごく自然なことである。

したがって、この要件は満たされる可能性が高い。

4) 遺言者は、遺言行為の意義を理解している。 ここでは、ハンク

をダウンロードして記入したのですから、それが遺言書作成用の用紙であったと仮定すれば、事実パターンが教えてくれるような馬鹿げたものではなく、彼は自分が遺言書を作成していることを理解していたと推定するのが公正でしょう。さらに、ハンクは遺言書に署名する際に、利害関係のない2人の人間に立ち会ってもらったことから、ただ面白半分になんかを書き出すのではなく、厳粛な遺言行為を行っていることを理解していたと考えられる。

したがって、この要件も満たされる可能性が高い。

以上のことから、私はハンクに遺言能力があったと判断します。

現在の遺言の意思。

遺言者が、自分の死亡時に有効となるような財産の処分を現在行うつもりである場合、現在遺言の意思が存在する。

ここで、ハンクは遺言書の書式をダウンロードし、利害関係のない2人の証人の立会いのもと、それに署名しました。その用紙には、自分には子供がいないので、すべての財産を姉に遺すとも書かれている。このことから、彼には

ハンクは、自分の死後、自分の財産を姉に遺すという遺言を作成する意思を有していた。したがって、ハンクには現在の遺言の意思があった。

適用される遺言書の形式を遵守すること

カリフォルニア州では、**Attested Will**または**Holographic Will**を持つことができます。カリフォルニア州では、口頭による遺言はできません。

証明された遺言？

認証遺言とは、私たちが考える正式な遺言、または立会遺言のことで、**1**) 遺言者または遺言者の指示と立会いを受けた者が署名し、**3**) **2**人の同時立会いが必要な書面であること。

利害関係のない証人、**4**) 行為の遺言的性質を理解している人、**5**) 証人が遺言者の生前に文書に署名していること。

遺言者が署名した書面をいいます。

ここでは、ハンクが用紙をダウンロードし、記入し、署名したことが語られています。このように、遺言者が署名した書面があるのです。なお、カリフォルニア州では署名欄がないため、遺言者は遺言書のどこにでも署名することができます。

したがって、これらの要件はいずれも満たされています。

人の証人の同時立会いのもとで。

遺言者は、**2**人の証人の同時立会いのもとで署名するか、**2**人の証人の同時立会いのもとで遺言者が署名を認めることができる、というルールです。

ここでは、**Hank**は**2**人の利害関係のない証人の立会いのもとで署名しています。したがって、この要件は満たされている。

行為の遺言的意義を理解している証人。

証人は、自分たちが目撃しているのが遺言の執行であることを理解しなければなりません。証人が遺言書の内容を正確に知っている必要はなく、それが遺言書であることが分かればよい。

ここでは、ハンクは遺言書の書式をダウンロードし、それに記入し、利害関係のない2人の証人の前で署名しました。証人が遺言書の執行を目撃していることを知っていたとは明示されていないとしても、ハンクは自分がしようとしていることはそういうことだと伝えたいと思います。目の前に2人の人が立っていて、あなたが書類に署名するのを見るということは、その2人に、あなたはいったい何を引用しているのか、なぜ私たちはそれを見るためにそこにいるのか、と尋ねられる可能性が高い。その答えは、おそらくハンクが教えてくれるでしょう。

したがって、この要件は満たされる可能性が高い。

利害関係のない2人の証人が、遺言者の生前に署名する。

利害関係のない2人の証人は、文書の直後に署名する必要はありません。

ただし、遺言者が生きている間に署名する必要があります。

このようなことがあったという記述はなく、実際にどの事実も、利害関係のない2人の証人が何かサインをしたと推定させるものではありませんでした。何かが署名されるのを目撃したからといって、自分も当然署名したいと思うようになるとは限らない。

したがって、この要件は満たされないとされる。

カリフォルニア州の明確かつ説得力のある証拠基準。

2009年1月1日以降に死亡した場合、カリフォルニア州では、遺言者がその文書を自分の意志として意図していたことを、提案者が明確かつ説得力のある証拠によって証明できる場合、完全に執行されていない遺言書を検認することを認めています。それ以前の死亡については、カリフォルニア州は、証明された遺言が検認されるための実質的な遵守基準を設けていました。

利害関係のない証人が文書に署名しなかったという事実は、これが本当にハンクの遺言書でないという重大なリスクを生み出すと主張するかもしれない。しかし、ここでは、ハンクが**2016年**に実行した文書を自分の遺言とするつもりだったというかなり強い証拠がある。彼はわざわざ書式をダウンロードして記入し、シスに財産を残す理由を述べただけでなく、署名する際に利害関係のない**2人**の証人に立ち会ってもらおうという手間をかけたのです。

提案者は、遺言書の署名を目撃した**2人**の証人にその事実を証言してもらうか、宣誓供述書を提出してもらえば、自分の主張をさらに強化でき、明確かつ説得力のある証拠基準を満たす可能性が高い。従って、その文書が遺言書であることの明確かつ説得力のある証拠が得られる可能性が高い。

したがって、遺言はカリフォルニアで作成される可能性があります。

ホログラフィックウィル？

カリフォルニア州では、ホログラフィック・ウィルとは、**2人**の証人の立会いはないが、**1)** 書面であり、**2)** 遺言者が手書きした重要な用語（贈与や受取人など）があり、**3)** 遺言者が署名し、**4)** 遺言者の現在の遺言意思が明示されている遺言のことです。

もし、その遺言が認証付き遺言の形式を満たしていることを立証できなかったのであれば、ホログラム遺言の形式を満たすかどうかを検討したほうがよかったかもしれません。

しかし、ハンクが受益者の名前と自分の全財産を受け取ることになることを手書きで書き出したのか、タイプしたのかはわかりません。したがって、ホログラフィック・ウィルの要件を満たすとは考えにくい。

全体的な結論としては、カリフォルニアの裁判所で、アテストされた遺言書として検認される可能性が高いということです。

2. ハンクの遺産について、シス、ウェンディ、そして彼と彼の娘とサムは、権利があるとすれば、どのような権利を持っているのでしょうか。

カリフォルニア州は共同財産州であるため、共同財産法が適用されます。共同財産とは、カリフォルニア州に居住している間に、別居財産を除く婚姻中に取得した全ての財産を指します。分離財産とは、結婚前または婚姻経済共同体の終了後に取得したすべての財産を指します。

また、別居財産には、婚姻中に贈与、**devise**、遺贈、または**descent**によって取得したすべての財産が含まれます。分離財産のすべての利益、賃料、問題も分離財産として残ります。カリフォルニアに居住している間、婚姻中に得た賃金はすべて共有財産となります。

準共同財産とは、有効な婚姻期間中にカリフォルニア州に居住していない状態で取得した全ての財産で、取得した配偶者が取得時にカリフォルニア州に居住していれば、共同財産となったはずのものです。取得した配偶者が生きている間は、準共同財産は別個の財産と同様に扱われます。しかし、取得配偶者が死亡した場合、準共同財産は別個の財産と同様に扱われます。

の財産は、共同財産と同様に扱われます。

ハンクの遺産

ハンクの方はというと、給料から10万ドルを銀行口座に入れ、母親から相続した土地も所有していることが語られています。

10万円のキャラクター

共同財産と別財産に関するルールは上記を参照。ここでは、Hankがカリフォルニアに引っ越してきて、新しい仕事の初日に死亡した。

つまり、彼が稼いだ賃金はすべて、共同財産でない州に住んでいたときに稼いだものです。もし、Hankがカリフォルニアに居住していたならば、すべての賃金は共有財産となるはずですから、上記の規則に従って、これは準共有財産となります。Hankがすべての賃金を自分名義の銀行口座に保管していたことは、彼の賃金収入の共有財産としての性格を失わせるものではありません。

したがって、10万円は準共有財産となります。

母から受け継いだ土地の性格

共同財産と別財産に関するルールは上記をご参照ください。

ここでは、土地は相続財産であり、これはHankの別個の財産であることを意味し、非共同財産の状態から共同財産の状態に移行してもこれは変わりません。

さらに、この土地は常にHankの名義で所有されていたので、Hankがこの不動産を共同体に贈与したかどうか、あるいは、共同財産から分離財産へ、あるいはその逆へと財産の性質が変化する転成につながるような行動をとったかどうかは問題ではありません。

したがって、この土地はハンクの別個の財産である。

ウェンディは省略された配偶者なのでしょうか？

省略された配偶者とは、遺言者による最後の遺言書の実行後に結婚し、その配偶者がそれらの遺言書に記載または規定されていない配偶者を指します。省略された配偶者は、被相続人の遺産の遺留分-共有財産の半分と、50%を超えない別個の財産の州間分与-を受け取ることになります。ただし、1) 省略が意図的であり、遺言書の表面に記載されている場合、2) その配偶者が遺言書の外で規定されている場合、3) 配偶者による自発的かつ故意の放棄がない場合、省略された配偶者は、州内シェアを受けることはできません。

ここで、**Hank**は**2016**年に遺言を実行し、**2017**年に**Wendy**と結婚した。遺言書のどこにもウェンディに関する記述はなく、遺言書以外でウェンディのために用意したことを物語るものは何もない。また、その省略が意図的なものであったことを物語るものも、遺言書にはありません。実際、遺言書にはウェンディに関する記述は一切ない。ウェンディによる自発的かつ故意の放棄があったかどうかについては、何もわかりません。事実から見えるのは、ハンクは**2016**年に遺言を作成し、そのことをすっかり忘れていたので、遺言を更新することはなかったということです。

したがって、ウェンディは省略された配偶者であり、上記のように遺留分を受け取ることになります。

ドーターは早産児なのか？

予期せぬ子供とは、最後の遺言書の実行後に生まれた子供で、遺言書に記載または規定されていない子供のことである。ただし、1)意図的な省略であり、遺言書の表面に記載されている場合。

2) その子が遺言書の外で規定されている、または 3) 遺言者が遺言執行時に他の子を持ち、実質的にすべての財産を子のもう一方の親に譲渡している。

ここでは、Hankは2016年に遺言を執行し、DaughterはHankとWendyが結婚した年であり、Daughterはその子供であることから、2017年以降に登場したと推測される。Wendyの場合と同様に、遺言書にはDaughterに関する記述はなく、省略は意図的なものではなく、Hankが遺言書の更新を忘れたことによるものと思われる。多くの方は、自分の寿命が実際よりも長いと考え、本当に悪い事故が起こることを想定して計画を立てないものだからだ。また、Daughterが遺言以外で養われるという話はなく、前述のように、遺言はすべてをSisに譲渡し、Daughterのもう一人の親には譲渡しない。

したがって、Daughterは上記のような早産児である可能性が高い。

ソンは早産児なのでしょうか？

早産児に関する規定は、上記をご参照ください。また、遺言者が子供の存在を知らなかった場合、遺言書の執行前に生まれた子供も早産児に該当する可能性があることに留意してください。

ここで、**Son**は**2011**年に生まれ、**Hank**は**2016**年に遺言を執行しているため、**Son**は早産児ではないと主張する人もいるでしょう。しかし、上記のルールでは、ハンクがソンの存在を知らなかったため、ソンは許可された子に分類される可能性が高いです。裁判所が、**DNA**証拠によってソンがハンクの子であることを立証し、そう宣言することに納得すれば、ソンは許可された子に該当し、早産児の取り分を取ることができる可能性が高いです。

したがって、ソンは早産児である可能性が高い。

以下の個人を対象としたシェア。

ウェンディ

配偶者の遺留分は、共有財産の**2分の1**に加え、別居財産の遺留分を含み、別居財産の**50%**を超えない。被相続人が複数の問題を残した場合、配偶者は別個の財産の**3分の1**を取得します。

ここで、準共同財産は死亡時に共同財産として扱われるため、ウェンディはすでに共同財産の取り分として**5万ドル**を所有しており、残りの半分も手に入れることになるため、結局**10万ドル**すべてを手に入れることとなります。としています。

をハンクの別個の財産として、ウェンディは土地の**3分の1**を手にするようになります。

娘と息子

子供が2人いて、配偶者が生存している場合、子供の遺留分は、配偶者が1人を引き取った後に残された別個の財産の半分になります。

被相続人の別個の財産の3分の1の分与。

したがって、ここでは、娘が3分の1の土地を取得し、息子が残りの3分の1の土地を取得することになります。

お姉さん

この場合、残念ながら姉は減殺のために何も手に入らないことになります。配偶者と子供二人の遺留分は、姉の取り分から出るので、姉は何も残りません。

質問5. 選択した回答B

1. ハンクの遺言は有効か？

問題は、ハンク（H）の遺言が有効かどうかである。カリフォルニア州は、全信頼信用条項により、遺言が執行された州または遺言者が遺言を作成したときに居住していた州において有効に執行された遺言を承認することになっている。遺言が実行された州法または遺言者が居住していた州で有効でない場合でも、遺言者が死亡した時に居住しており、遺言がカリフォルニア州の要件に適合していれば、カリフォルニア州はその遺言を有効なものとして承認します。

ここで、HはX州で遺言を執行し、当時はX州に居住していた。遺言がX州の法律で有効であれば、Hの遺言はCAの検認で有効として扱われる。

しかし、事実は、Hが2人の利害関係のない証人の立会いのもとで遺言書に署名したこと、X州の法律では3人の証人が必要であることを明確に物語っています。しかし、Hはカリフォルニア州に居住し、カリフォルニア州で死亡したため、カリフォルニア州は、遺言がカリフォルニア州の要件に適合していれば、遺言が有効であると認識することになる。

有効な遺言のためのCA要件。

カリフォルニア州で遺言が有効であるためには、遺言者（T）が書き、署名する必要があります。また、利害関係のない2人の証人が立ち会う必要があります。最後に、遺言者は、その文書を実行する際に、有効な遺言の意思を有していなければなりません。

Tさんの直筆サイン入り

遺言は、意思能力のある遺言者が署名した書面でなければなりません。事実がそう物語っているので、Hが遺言書に署名したことに疑問の余地はない。また、Hが意思能力を有していたことは、18歳以上で健全な精神状態であることを意味するようです。Hが18歳であることは事実上明らかではないが、Hが遺言を作成したという状況や、翌年に結婚したという事実から、おそらく18歳であったと考えられるので、この分析ではそれを前提とする。

また、健全な精神状態でなかったことを示す事実もなく、能力があることを示唆しています。

この要件の主な問題は、Hが書式遺言書をダウンロードして記入した事実が、書面要件を満たすかどうかです。手書きやタイピングでも書面としてカウントされるが、フォームウィルの方がより近いと言える。しかし、たとえ書面要件を満たしていないとしても、CA州は実質的遵守の原則を守っています。つまり、遺言者が遺言の形式を実質的に遵守していても、完全に遵守していない場合、裁判所は実質的に遵守していれば、遺言の検認を許可する。

を、遺言の形式的なものであるとしています。その結果、裁判所は、これだけでは書面要件とまではいかななくても、少なくとも実質的な遵守を満たしていると認める可能性が高いと思われます

利害関係のない2人の目撃者

CAの遺言は、適切に認証されるためには、利害関係のない2人の証人の署名が必要である。証人は、どの人がどの機器を手に入れるかなど、遺言の実際の内容を知っている必要はありませんが、署名している文書が遺言書であること、Tが署名したことを一般的に認識している必要があります。これは意識的存在テストと呼ばれ、証人が署名

しているものが遺言書であることを一般的に認識していることを意味します。

ここで、Hは証人の前で遺言書に署名しているので、証人がHが署名したことを知っていたかどうかは問題にならない（もし、以前から署名していたのであれば、証人に署名を認める必要があっただろう）。証人が遺言書であることを知っていたかどうかは、事実関係から全く分からないが、Hが署名したときに彼らがHの前にいたこと、彼ら自身が署名したことは、彼らとその証書が遺言書であること、自分が署名していることを意識して存在していたことの十分な証拠になると考えられる。

遺言の意思表示

カリフォルニア州での遺言に必要な最後の要素は、遺言の意思を持ってTが署名したものであることです。Hが遺言書をダウンロードして記入し、わざわざ利害関係のない2人の証人に署名してもらったという事実は、彼が遺言書に署名することを知っていたことを示す極めて明確な証拠である。また、彼は自分の財産を妹に譲ると書いていますが、これは彼が遺言書に署名していることを知っていたことのさらなる証拠です。

上記の分析によれば、この遺言はカリフォルニア州の要件をすべて満たしているようです。X州では有効でなかったとしても、CA州の裁判所は、CA州の要件を満たしており、CA州に居住している間にCA州で死亡したため、有効であると認めるでしょう。

ホログラフィックウィル

万が一、カリフォルニア州の裁判所が、遺言が有効でなく（形式的な遺言では書面要件を満たしていない可能性があるため）、実質的な遵守の原則では救えないと判断した場合、その遺言はホログラフィック遺言とみなされることがあります。ホログラフィック遺言は、重要な条項が遺言者の筆跡で書かれており、遺言者によって署名されている必要があります。証人や日付の要件はありません。ただし、遺言者が以下のことを意図していることが要件となります。

本書は遺言に該当する。

Hは遺言書の書式をダウンロードしたが、財産の処分方法など重要な条項は手書きで書いたようである。また、その遺言書に署名もした。以上のように、彼の遺言の意味も明らかである。その結果、仮に裁判所が有効な遺言ではないと判断しても（ただし、上記で説明したように、その可能性は極めて低い）、ホログラフィック・ウィルとして検認される可能性があります。

結論

遺言はカリフォルニア州の基準に適合している可能性が高く、Hは死亡時にカリフォルニア州に居住していたため、遺言は有効である。万が一、有効でないと判断された場合でも、裁判所はホログラフィック・ウィルとして検認することができます。

2. 姉 (S)、ウェンディ (W)、娘 (D)、息子 (S) は、Hの遺産についてどのような権利を有するか。

カリフォルニア州は、共同財産 (CP) 州である。夫婦間の経済共同体は結婚時に始まり、離婚、配偶者の死亡、または永久的な別居（一方の配偶者が結婚を永久に終わらせることを示し、その意思に沿った行動をとることで成立する）により終了します。婚姻中に得た収入、財産、負債はCPと推定される。結婚前、結婚中の贈与または相続、あるいは離婚、死亡、永久別居後に得た収入は、分離財産 (SP) とみなされます。取得時に夫婦がカリフォルニア州に居住していれば共有財産として分類されたであろう財産は、準共有財産 (QCP) とみなされる。

CAへの移住がH's Landの財産分類に与える影響

推定とトレース事実関係は、Hが結婚前にすでに母親から相続で土地を受け取っていたようなので、その土地はHのSPであることが推定される。また、死亡時の特別名義の推定がある。土地の名義が配偶者の1人だけの場合、その土地はその配偶者のSPになることを意図していたことが特別に推定されるのです。Wは、その財産をQCP、あるいはHが受け取ったときにCAに居住していればCPとみなされたはずの財産であると主張しようとするかもしれません。しかし、その土地は相続されたものであるため、SPに分類されるはずである。転生や共同名義にする行為がなければ、その土地はHのSPのままである。不利な影響を受けた配偶者であるHが署名した、CPまたはWのSPに変換する書面がないため、トランスミューテーションが行われた形跡はない。

その結果、Hの土地はSPとなる。後述するように、W、息子、娘に等分して贈与されます。共同借地権は既定の共有形態であるため、共同借地人としてそれぞれ1/3ずつの取り分を受け取ることになる。

Hの賃金

推定とトレースHが仕事を始めたのはWと結婚してからなので、この間に得た賃金はすべてQCPと推定される。Hの遺産は、その賃金を自分名義の銀行口座に入れたのだから、SPとみなすべきだと主張しようとするかもしれない。しかし、銀行口座の名義がHだけであったという事実だけでは、財産の性質をQCPからSPに変更することはできません。また、HとWが婚前契約を締結して、その内容を変更した形跡はない。

の性質を持っており、その稼ぎはその結果、彼が婚姻中に得た賃金は、CAに住んでいればCPであったはずなので、すべてQCPとみなされる。口座の名義が彼のみであったことは、ソースを変更するのに十分ではなく、トレースすると、このお金はすべて婚姻期間中の賃金であるため、QCPであることが明確にわかります。

結論

Hの10万円からなる銀行口座全体がQCPである。

遺言が有効であると仮定した場合。

お姉さん

遺言が有効であると仮定すると、明らかに姉（S）に全財産を残すこととなります。しかし、後述するように、W、Son、Daughterは、配偶者と子の省略扱いとなるため、Sisは何も受け取らないことになる。その結果、彼らは全員、遺留分を受け取ることになり、姉には何も残らないこととなります。

ウェンディ

省略された配偶者（Omitted Spouse）。遺言で取得しない配偶者は、その省略が故意であったか、遺言者が配偶者を遺言外で実質的に定めていた場合を除き、省略された配偶者とみなされます。Hは2016年の遺言以降、別の遺言書を作成することはなかったため、当時は結婚していなかったため、省略は意図的なものではありません。また、Hは遺言外でWを養育していなかった。その結果、Wは省略された配偶者として扱われることとなります。遺漏配偶者は、遺言者が遺言を残して死亡した場合に受け取るはずだったものを受け取る権利があります。CA州で被相続人が遺贈された場合、配偶者は被相続人の1/2のCPとQCPを受け取る権利があります（つまり、配偶者が受け取

るのは

CP/QCPの全てを受け取る)、被相続人の直系卑属が1人の場合は被相続人のSPの1/2、被相続人の直系卑属が2人以上いる場合は被相続人の1/3を受け取ります。後述するように、SonとDaughterはそれぞれ省略子として扱われるため、WはHのSPの1/3を受け取り、SonとDaughterはHのSPの残りの2/3を分けることになります。

結論

賃金はQCPなので、Wはすでにその半分をQCPの自分の取り分として所有しています。彼女は遺留分を受け取るので、100,000ドルすべてを手に入れることになります。また、彼女はHのSPの1/3を受け取るので、母親から相続したHの財産の1/3を受け取り、SonとDaughterと共同借地権者として取得することになります。

娘さん

省略された子供遺言で省略された子は、省略が故意であった場合、被相続人に遺言作成時に他の子がいてその遺族に実質的に全ての財産を残した場合、遺言外でその子のために用意した場合、その子の存在を知らなかった場合を除き、遺留分を得る権利があります。ここでは、2つの理由から、省略は意図的なものではなかった：第1に、Hは2016年の遺言で、"私には子供がいないから"という事実に基づいて、妹への遺贈を前置きしている。第二に、彼はDが生まれた後、別の遺言書を作成することはなかった。もし、作成した上でDを省略したのであれば、故意と考えられるかもしれないが、当時はDは生きていなかったもので、省略が故意でないことは明らかである。また、Hには知っている子供が1人しかいなかったもので、被相続人が遺言書を作成した時点で他に子供がいた場合に発生する例外が適用されます。

遺言を作成し、実質的に全財産を遺された親には適用されない。(さらに、彼は遺言でWに何も残していない)。最後に、彼は遺言以外でDを養育していない。

どの例外も適用されないので、Dは省略された子供として扱われ、遺留分を受け取ることになる。上述したように、CA州の被相続人が遺贈された場合、被相続人のCP/QCPの1/2は生存している配偶者に贈られる。被相続人の直系卑属が複数いる場合、配偶者は被相続人のSPの1/3を受け取り、直系卑属は残りのSPの2/3を分割する。後述するように、Sonも省略子として扱われるため、Hは死亡時に2人の直系卑属がいたことになる。したがって、DはHのSPの2/3をSonと分割し、HのSPの1/3をそれぞれ保有することになる。

結論

娘はHのSPの1/3、つまり母親から相続した財産の1/3を受け取ることになります。娘は1/3の持分で共同借地人としてその土地を取得する。

息子

省略された子。上記のルールを参照。W、D、Sisは、SonはX州で遺言が書かれる前に生まれたと思われるので、省略された子と考えるべきではないと主張し、故意に除外されたと主張するだろう。しかし、事実は、Hがソンの存在を知らなかったことを明らかにしている。また、事実は、ソンが父子関係検査によってHが父親であることを立証していることを明らかにしているので、ソンはHの子として扱われることになる。Hはソンの存在を知らなかったため、ソンは省略された子として扱われることになる。また、Hが父親であることを証明したため、他の例外のいずれにも該当する気配はない。

は、唯一の遺言で姉にすべてを残したため、息子の母親が誰であれ、実質的な資産を残すことはできませんでした。したがって、**Son**は遺留分権利者とみなされ、遺留分を受け取ることができます。以上のように、被相続人には2人の直系卑属（息子と娘）がいるので、**W**は**H**の**SP**の**1/3**を取得し、息子と娘は**H**の**SP**の残りの**2/3**を分割し、**H**の**SP**の合計の**1/3**を残すこととなります。

DRR: Dependent Relative Revocation--あるいは、**Son**は、**H**が遺言書を作成した際に、実際には子供がいるにもかかわらず、「私には子供がいないから」と書いたことで事実誤認があり、この事実誤認がなければ**H**は自分の財産を別の形で工夫していただろうと主張できる。しかし、彼はこの主張をする必要はないでしょう。

結論

息子は**H**の**SP**の**1/3**、つまり母親から相続した財産の**1/3**を受け取ることとなります。

息子は、**1/3**の持分で共同借地人として土地を取得する。

遺言が有効でないと判断された場合。

仮に遺言が有効とみなされなかったとしても、財産の処分は変わりません。**W**、**Son**、**Daughter**はいずれも省略された配偶者または子として扱われるため、遺留分を受け取る。この状況では、上記のように、配偶者は**QCP/CP**のすべてと、直系卑属が複数いる場合は**H**の**SP**の**1/3**を受け取ることができます。そして、**Son**と**Daughter**は残りの**SP**を分割する権利があります。その結果、遺言が有効であっても処分は同じであり、どちらの場合も姉は何も取らない。



2022年7月の論文問題と解答例

カリフォルニア州弁護士試験

本書は、2022年7月のカリフォルニア州司法試験で出題された5つの論文問題と、各問題に対する選択解答2つを収録しています。

選択された解答は、「模範解答」や「完璧な解答」と見なされるものではありません。これらの答えは、高い評定が与えられ、一読後に試験に合格した応募者によって書かれたものである。読みやすくするためにスペルや句読点を若干修正した以外は、応募者が提出したものをそのまま再現しています。これらの答えは、実際の応募者が、外部資料を利用することなく、時間の制約の中で書いたものです。そのため、必ずしも設問で提起されたすべての問題を正しく認識し、回答しているわけではなく、また、余計な情報や誤った情報が含まれている可能性があります。回答は、著者の同意を得てここに掲載します。

<u>質問番号</u>	<u>主題</u>
1.	契約書
2.	けんぼう
3.	プロフェッショナルの責任
4.	ビジネス・アソシエーション
5.	遺言 / 共有財産

QUESTION 5

HariとWandaは20年間互いに結婚し、最初の15年間はX州（非共同財産州）に居住し、その後Hariが亡くなるまで5年間はカリフォルニア州に居住していた。

2020年にHariが亡くなった時、検認のために2つの書類が提出された。

1. 2018年6月1日にHariと証人1が署名し、2018年6月3日に証人2が署名した正式な遺言書です。証人はいずれも利害関係のない者であった。この文書は、Hariの共同財産をすべてWandaに遺したが、別居財産や準共同財産については言及していない。
2. 日付の入っていない印刷済みの遺言書の用紙で、上部に遺言書であることを宣言する印刷がされている。その用紙には、Hariが自筆で、"私の別個の財産のすべてと共同財産の25%を息子のサミールに贈る"と書いてあった。Hariは遺言書に署名したが、証人は署名しておらず、日付も記入されていなかった。

Hariは生涯を通じて完全な精神能力を有していた。

死亡時、Hariの財産は以下の通りである。

- A. 100,000ドル相当の別財産。
- B. 共有財産-Hariさんの半分が50,000円の価値がある。
- C. HariがWandaとまだ州Xに住んでいた時に稼いだお金で購入した10万ドル相当のカリフォルニアの土地は、2017年、Wandaの書面による同意なしに、Hariはこの土地を自分と娘のディーパの誕生日に共同借家人として贈りました。

Wanda、Samir、Deepaは、Hariの遺産に対してどのような権利を持っているか（もしあれば）。議論してください。カリフォルニア州法に従って答えなさい。

質問5. 選択した回答A

Wanda、Samir、Deepaは、Hariの遺産に対してどのような権利を有しているのでしょうか。

Wandaは、Hariの共有財産のすべてと、カリフォルニアの土地の2分の1の権利を持つ

。Samirは、Hariの共有財産とカリフォルニアの土地の2分の1に対する権利を有し、

Samirの共有財産とカリフォルニアの土地の2分の1に対する権利を有します。

\$100,000.そして最後に、ディーパはカリフォルニアの土地の2分の1の持分を持つこととなります。

2020年、Hariの死

Hariは死の間際に、正式な遺言とホログラムによる遺言を残している。それぞれの有効性について、順を追って説明します。

遺言書の立会いの条件

カリフォルニア州で有効な遺言となるには、一定の正式な証人要件を満たす必要があります。(1)遺言者または遺言者の指示による他の誰かによる署名、(2)目の前で、または以前に署名し、その後目の前で確認、(3)利害関係のない2人の証人、(4)遺言者の生存中に署名、(5)署名している文書が遺言であると理解していることです。

ここで、Hariさんの遺言は、ほぼすべての形式的な法定要件を満たしていると思われるかもしれませんが、証人の署名があるため、形式を完全に守っているかどうかについては、若干の疑問があるかもしれません。証人の一人が2018年6月1日に、もう一人が2018年6月3日に署名しているようです。これらの署名は、Hariが2020年に亡くなっているため、Hariの生存期間内である。しかし、証人が同時に署名するという要件はなく、証人が同時に実際の署名や承認に立ち会わなかったことを示す事実もない。もし、この2つの日付の理由が、Hariが同時に彼らの前で遺言書に署名しなかったか、または同時に

彼らの前で署名を認めなかったというものであれば、この2つの日付は、ハリが生きて
いる間のものである。

同時に、その遺言は正式な証人の要件を満たさない可能性があります。

実質的コンプライアンス法 (*Substantial Compliance Doctrine*)

立会要件が完全に満たされていない場合でも、遺言の提案者は、立会要件が実質的に満たされており、遺言者がその文書を自分の遺言とすることを意図していたことを示すことができれば、遺言を適切に検認してもらうことができる場合があります。

ここで、証人の署名に多少の疑義が生じたとしても、遺言の提案者は、ハリが厳格な要件に忠実に従ったこともあり、この文書を自分の遺言とする意図を示すことができるはずである。

したがって、この遺言は、立会要件に不備があると思われるにもかかわらず、有効であり、ワンダはこの遺言に利害関係を有することになります。

ホログラフィックウィル

ホログラフィック遺言は手書きの遺言であり、タイプされた遺言のような形式的な要件に必ずしも従う必要はありません。ホログラフィック遺言は、(1)遺言者の署名（遺言者が署名と意図したあらゆるマークで）、(2)遺言者自身の筆跡、(3)遺言に重要な条項が含まれていれば有効です。

重要な規定は、受益者と分配される贈与です。ホログラフ遺言の日付は、財産の処分を理解するのに非常に役立ちますが、決して有効な遺言を見つけるために必要なものではありません。

ここで、日付の入っていない印刷前の遺言書は、ハリが署名し、自筆で書かれているので、最初のいくつかの要件を満たしている。さらに、この遺言書は、受益者を「私の息子、サミール」とし、遺贈する贈与物を「私の別居しているすべての

と、私の共同財産の**25%**」というもので、重要な条項の要件にうまく対応しています。**Samir**は、財産を手に入れたいだろうから、この遺言の提案者となる可能性が高く、遺産請求に成功することになる。

しかし、サミールは、共同財産の贈与が**2018年**のもう一つの遺言と矛盾しているため、問題に直面することになります。ホログラフィック・ウィルが正式な遺言の後に来て、共同財産の条項を取り消したことを証明できない限り、彼は遺産のその部分に対する権利を主張することができなくなる。

取り消し

遺言やその条項は、物理的に、明示的に、または黙示的に撤回することができます。物理的な取り消しとは、引き裂く、消す、抹消する、破壊する、燃やすなど、何らかの物理的な行為です。明示的な取り消しは、後続の遺言が前の遺言を明確に否定する場合に行われます。黙示的撤回とは、後続の遺言が前の遺言と矛盾する条項や贈与を含んでおり、両者が同時に存在し得ないような場合です。このような場合、後者の遺言が優先されます。

ここでは、正式な遺言は共同財産のすべてを**Wanda**に残すが、ホログラフィック遺言は共同財産の**25%**を**Samir**に残す。ホログラフィック・ウィルには日付がないため、裁判所はおそらくこれを「第二の遺言」とはみなさず、日付のある遺言による紛争財産の処分が優位であるとみなすでしょう。そのため、正式な遺言の条項はおそらく「撤回」されなかったと思われます。

したがって、裁判所は共同財産をワンダにのみ分配する可能性が高いと思われます。

サミールに関する結論

結論として、**Samir**は**Hari**の死亡時に**Hari**の別居財産の全て、**\$100,000**の権利を持つこと

になります。

容量

遺言者は、遺言を作成する際、適切な精神能力を有していなければなりません。つまり、以下のことが必要です。(1) 18歳以上であること、(2) 健全な精神状態であること、(3) 自分の資産の性質と恩恵の範囲（遺言により受け取る可能性のある人）を理解していること、(4) 自分が遺言を作成していることを理解していること。

ここでは、ハリが生涯を通じて完全な精神能力を有していたことが事実として示されており、彼の財産処分を争うことは困難であると考えられる。彼が遺言に一貫性のない言葉を残したという事実は、彼の資産の性質と範囲を理解していなかったことを十分に証明するものではなく、したがって能力に対する異議申し立てとなる。

したがって、容量は問題ないでしょう。

カリフォルニア州共同財産

カリフォルニア州は、共同財産制の州です。つまり、婚姻中に得た全ての財産は、推定上、共有財産となります。結婚前に取得した財産はすべてであり、婚姻後は別個の財産となります。共同財産には、賃金が含まれます。は、配偶者の努力と労働の成果に加えて、配偶者の財産である。さらに、権原だけ、あるいは財産の性質の変化だけでは、資産の特性は決まりません。資産が不明確な場合、裁判所は、共同財産かどうかを判断するために、財産の購入に使われた資金を「追跡」します。準共同財産とは、非共同財産の州で取得した財産で、カリフォルニアで取得した場合は共同財産となるものを指します。

カリフォルニア州の共有財産法は、死亡または離婚のどちらかで効力を発揮します。

ここで、ハリとワンダは、非共同財産州である州Xに15年間住んでいた。

その後、5年間カリフォルニアに滞在し、その後Hariは死亡しました。Hariはカリフォルニアで死亡したため、特定の財産はカリフォルニアの共有財産法に基づき管理されることとなります。Hariは、カリフォルニア州で得た収入で10万ドル相当のカリフォルニアの土地を購入した。

X. Hariは、自分だけで稼いだ資金でこの土地を購入し、自分名義にしたようですが、これはX州では有効な別居財産の処分となります。しかし、Hariは死ぬまでその権利を保持し、彼はカリフォルニア州で死亡したので、この土地は準共同財産となります。

したがって、Hariさんの死後、この土地は準共同財産となる。

結婚中のプレゼント

一方の配偶者が婚姻外の者に共有財産を贈与しようとする場合、その配偶者は、そのような贈与を行うために他方の配偶者の書面による同意を得なければならない。同意を得られなかった場合、贈与しない配偶者は共同体への払い戻しを要求したり、贈与を完全に拒否したりすることができるようになる。

ここでは、Hariがカリフォルニアの土地の2分の1の権利を娘に贈与し、彼の死後は準共同財産となったが、贈与の時点では別個の財産であった。

の財産である。その資金は、X州での彼の分離財産の収益に遡ることができ、2017年には死亡も離婚もしていなかったため、その財産は依然として分離財産であった。

したがって、HariはDeepaへの贈与にWandaの同意は必要なかった。

生存権付共同借家権

生存権付き共同借地権は、2人以上の借地人が、(1)時間、(2)権利、(3)持分、(4)占有を同時に持つ場合に発生します。共同借家人の一人が死亡すると、もう一人が持っていた所有権を受け取る。この

の持分は、遺言で処分することはできません。共同借家権を切断する方法は、生前贈与、契約、権原論管轄の抵当権、合意の4つがある。

ストローマン・ルールの下では、自己譲渡は、誰かが第三者に土地を譲渡し、単にそれを自分に戻すという無用な複雑化を防ぐため、生前譲渡であっても、共同借家権を破壊することはない。

ここで、2017年にHariは娘との間に有効な生存権付き共同借地権を設定したが、これは婚姻共同体の期間内（2000年から2020年）である。生前贈与は共同借地権を切断することができるが、自己贈与はストローマン・ルールにより切断に該当するかは疑問である。

通常であれば、Hariの死亡により、財産権は遺族であるDeepaに完全に帰属します。しかし、クローバックルールにより、この状況はより詳細に検討する必要があります。

クローバックルール

死亡した配偶者が所有していた準共同財産を有償で譲渡した場合であっても、その財産に対して所有権や支配権を行使する能力をある程度保持している場合（信託や共同借地権の財産所有など）、配偶者の死亡時に生存配偶者が共同財産として自己の所有に「クローバック」できる。

ここで、Hariは、Deepaの誕生日に、カリフォルニアの土地の半分の所有権をプレゼントした。プレゼントとして渡したのだから、有償の対価は存在しない。さらに、Hariはカリフォルニアの土地の2分の1の所有権を維持していたため、最終的にカリフォルニアで死亡するまで、その土地の所有権と占有権を維持した。彼が亡くなると、カリフォルニアの共有財産規定が適用され、ワンダは彼の所有権を取り戻すことができる。

譲渡に際して対価が支払われていないため、準共有財産である不動産を自分のものとして所有することができます。

したがって、WandaはDeepaとの共有持分としてカリフォルニアの土地の2分の1の持分を所有しています。

ワンダに関する結論

したがって、Wandaは、Hariの半分の共有財産のすべてと、\$100,000相当のカリフォルニアの土地の2分の1（彼女の取り分は\$50,000）の持分を持つ。

ディーパに関する結論

早産児

意図せず遺言から取り残された子どもは、それでも遺言の中で権利を持ち、親の財産の一部を相続することができる。しかし、次のような場合には、予言された子どもは回復することができません。(1) 遺言者が意図的に子供を遺言から外した場合、(2) 遺言者が子供の親に多額の遺産を残した場合、(3) 子供が信託など遺言外で養育されている場合。

ここで、Deepaはどちらの遺言でも何も残されておらず、Hariの財産はすべて処分されているため、Deepaは予後不良であると主張して遺言に異議を唱えることができます。ディーパは5万ドル相当の土地で遺言外で養われており、母親はハリからかなりの遺産を受け取っているため、この主張はおそらく失敗するでしょう。また、前述のように、ハリは完全に精神能力を有していたので、おそらく意図せずに彼女を遺言から外したわけではないでしょう。

したがって、Deepaは前置子でない可能性が高く、遺産に対する利害関係はない。

質問5. 選択した回答B

カリフォルニアでは、共同財産はどのように扱われるのですか？

カリフォルニア州は、婚姻中に取得した財産は全て共有財産とみなされるという推定がある共有財産制の州です。死後、各配偶者は共有財産の2分の1だけを自由に譲渡したり、遺贈したりすることができます。別個の財産とは、結婚前、結婚後、または別個の財産の収益の結果として取得されたすべての財産を指します。配偶者は、自分の死後、この財産を完全に処分することができます。

ここでは、Hariは\$50,000相当の共同財産を持っており、その処分については後述する。

また、Hariは\$100,000の別財産を持っており、その処分については後述します。

2018年に有効な遺言があったのか？

有効な遺言書には、次のような要件があります。(1) 死亡時の財産処分に関する文書があること、(2) その文書に遺言者または遺言者の立会いの下、遺言者の指示により誰かが署名していること、(3) 遺言者が遺言書に署名した時に同時期に存在した利害関係のない証人が少なくとも2人いること、さらにその2人が遺言者の生存中のある時点で遺言書に署名すること、(5) 署名する時に署名している文書が遺言者の遺言だと理解していなければなりません。有効な遺言は、被相続人の財産をすべて処分する必要はなく、財産の残部があれば遺留分を行使することになるからです。さらに、有効な証人の要件が満たされていなかったとしても、2009年以降は、遺言の提案者が明確かつ

遺言者がその文書に署名した時点で、その文書を自分の遺言と意図していたことを示す説得力のある証拠があれば、その遺言は検認される可能性があります。

ここで、2018年6月1日に署名した財産の処分に関する書面があり、事実関係では、2020年にハリが亡くなる前に証人がともに署名しており、最後の署名は2018年6月3日であることから、ハリから有効な遺言がなされた可能性が高いと考えられます。さらに、事実は、ハリが財産を処分する際に、常に有能であったことを述べている。Samirは、遺言書が実際にHariによって署名された時に、利害関係のない証人の両方が同時期に存在していたことを示す事実がないと主張するかもしれないが、仮に両方が存在していなかったとしても、Hariが生涯を通じて完全な精神能力を有していたことから、提案者（Hariの妻）はHariが署名した時にその文書を自分の意志とする意図があったことを示すことができる可能性がある。

したがって、ここでは、ハリは2018年に有効な遺言書を作成していたことになる。

ホログラフィックウィルの有効性はあったのでしょうか？

カリフォルニア州では、遺言者がホログラフィック・ウィルを遺言書として、またコーディシルとして使用することができます。必要なのは、遺言の重要な条項が遺言者の自筆であること、遺言者が自筆で署名することだけです。重要な条件とは、通常、誰がどのような財産を得るか、どの程度の財産を得るかということだと考えられています。ホログラフィック遺言は、その証書で被相続人の財産をすべて処分する必要はなく、日付も記入する必要はない。しかし、ホログラフィック・ウィルの日付がなく、日付のないホログラフィック・ウィルと矛盾する他の遺言がある場合、他の遺言が後に作成されたという明確で説得力のある証拠がない限り、日付のある遺言が優先されると考えられます。

ここでは、ハリが自筆で「別居の財産をすべて息子に渡す」「共同財産の25%も息子に渡す」という重要な条件を書いているので、あらかじめ印刷された遺言用紙に書かれたハリの日付なしの遺言は有効な遺言であったと思われます。ホログラフィック遺言は、ハリが自筆で署名したものである。しかし、ホログラフィック・ウィルは日付がないため、日付のある2018年の遺言ではワンダがすべての共有財産を取得すると書かれているため、誰が共有財産を取得するかについてホログラフィック・ウィルと2018年の遺言で矛盾する用語があることが問題となる。

したがって、サミールが推定を覆し、日付の入っていないホログラム遺言が2018年の遺言の後に作成されたという明確かつ説得力のある証拠を示さない限り、サミールは有効なホログラム遺言に基づいてのみ、別財産の贈与を受けることとなります。

ホログラフィックウィルが、明確かつ説得力のある証拠によって、後に作成されたことが証明された場合。

2018年の遺言では、共同財産の25%は誰が取得するのでしょうか？

当事者は、撤回する意図があったことを示すことができ、適切な遺言の要件に従っている限り、後続の遺言、コーディキル、または有効なホログラフィック遺言によって、自分の遺言を撤回することができます。そして、その後に作成された遺言書、コーディキル、またはホログラフィック遺言書で、前の遺言書と直接矛盾するものは、前の矛盾する規定よりも効力を発揮します。

ここで、（万が一）サミールが、2018年の遺言の後にハリがホログラム遺言を作成したことを明確かつ説得力のある証拠によって証明できた場合、その後のホログラム遺言によって、母親への共有財産の25%の贈与が取り消される。

ハリさんの死後、準共有財産である不動産は誰が取得するのか？

準コミュニティ財産とは？

準共同財産とは、他の州に住んでいた時に取得した財産で、その財産の取得時に配偶者がカリフォルニア州に居住していれば、共同財産とみなされたであろう全ての財産を指します。配偶者が準共同財産を持ち、その後カリフォルニア州に居住している間に死亡した場合、配偶者の生前は準共同財産は別個の財産として扱われることになります。しかし、解散時には共有財産として扱われ、死亡時にはすべての動産が共有財産として扱われます。すべての不動産は、その不動産が存在する州によって管理されます。

ここで、この家は、上記のように共有財産と推定されるHariの収入で購入したものであるため、準共有財産として扱われることになった。Hariは婚姻中の収入で購入しただけでなく、結婚してX州に住んでいるときに購入したため、購入時にカリフォルニア州に住んでいれば共有財産とみなされ、死亡時には準共有財産、生前は別財産とみなされることとなります。

ハリの時に準共有財産である家屋の幻の譲渡があったのでしょうか。

ライフタイム？

一般的に、QCPは婚姻中は別個の財産として扱われ、所有者である配偶者が自由に売却や管理を行うことができる。しかし、錯誤譲渡があった場合は例外です。以下の場合、準共有財産の錯誤譲渡が発生します。(1) 被相続人が米国に居住している間に死亡した場合。

カリフォルニア州、(2)配偶者が不動産を公正または妥当な価値より低い価格で売却、または譲渡した、(3)他の配偶者の同意なしに行った、(4)被相続人の配偶者が、不動産への再入場権、不動産への共同所有権、またはその他の使用法を保持することにより「不動産への鉤を保持」することにより、準共同財産に対する何らかの支配権を保持していた、などがあげられます。準共有財産の錯誤譲渡があった場合、被相続人配偶者の死亡後、非譲渡人配偶者はQCPの2分の1を上限として返還請求できる。遺留分権利の付与により、両所有者に共同所有権が与えられ、検認が完全に回避される場合、裁判所は通常、これを財産に対する支配権を保持するための手段と見なす。

ここで、Deepaは、HariがDeepaの誕生日に自分とDeepaに遺留分を与えたので、カリフォルニアの不動産に対する権利は自分にあると主張しようとするのだろう。したがって、Deepaは、Hariの死後、不動産は検認を通過して、そのまま自分のものになると主張することになります。しかし、Wandaは、Hariがカリフォルニアに居住している間に死亡したこと、HariがDeepaに不動産を贈与したため、実質的な価値よりも低い価格で譲渡されたこと、Wandaが不動産の譲渡に同意や承諾をしていないことから、Hariの不動産の譲渡は幻の譲渡であると主張すると思われれます。したがって、Wandaは、錯誤譲渡の規定により、CAに所在する不動産の2分の1を取得する権利があり、したがって、5万ドル相当の土地を取得すべきであると主張することになる。この不動産がWandaの同意なしに無償で譲渡されたことを考えると、裁判所は、これが錯誤譲渡であるとWandaに同意する可能性が高いと思われる。

そのため、錯誤譲渡が行われ、Wandaとディーパはそれぞれ1つずつ取得することになります。

小屋の半分、どちらも5万ドルを得て、それぞれ共有の借主として所有することになります。

誰がどのような財産分与を受けるのか？

上記のルールに照らし合わせると、財産の処分は以下のようになりそうです。(A) 第一に、別財産の10万ドルについて、これはホログラフィック・ウィルを通じてすべてサミールに渡る、(B) 第二に、ハリの5万ドルの共同財産について、これは、ホログラフィック・ウィルが2018年の遺言の後に作られたことを明確かつ納得できる証拠によって示すことができない限り、すべてワンダに渡る、(C) 第三に、カリフォルニア財産について、2分の1（または5万ドル）分はワンダに、2分の1（または5万ドル）はディーパに渡る、。